

# 島鬪決限氣本

阿音

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

気付いた時には遊戯王の世界へ……

何が起こった？　そして何故俺はここに？

とりあえず社会に出るならデュエルモンスターズをした方が有利になりそうだな。

よし、将来の為にデュエル・アカデミアに通おう！

(主人公はこんな好青年ではありません)

初めて読む方は必ず0話の前書きをお読みください。

この作品の注意書きを書いています、読まずに自分を害されても責任は持てませんもう1度言います、必ず0話の前書きの注意書きをお読みください

注意書きを読まずに気分を害されても責任は持てません。

この作品はにじファンで投稿していた同作者のリメイク版です。

旧作、本気禁止制限決闘は……要望が多かったのでどこか別の場所に投稿する事になりました

作者としては恥曝しに近い感じなのでちよつと回覧などに制限させていただきましたが、ご了承ください。

# 目次

0 話【僅かにずれてしまった世界】

1

1 話【入学試験】

22

2 話【知る者と知られる者】

44

3 話【女子寮の事件】

95

4 話【四肢の底力】

168

5 話【イカサマは未然に防ぐもの】

194

6 話【操られた2人・前編】

228

7 話【操られた2人・後編】

273

8 話【チーム分け】

329

9 話【騙し合いコンビ】

392

1 0 話【SAL猿去る】

441

1 1 話【冬休み編1 ホワイトクリスマス

ス】

476

1 2 話【冬休み編2 玲の本気】

514

1 3 話【冬休み編3 結美と玲】

565

# 0話【僅かにずれてしまった世界】

視点  
???

「……………ふあ」

眠い……………朝か、朝飯作らないとな

そう思い、起ち上がると違和感を感じた。

とても大きな違和感……………そう、知らない部屋だ。

「……………夢か？」

夢の中で知らない場所に立って、色んな事をしたという経験はきつと誰にでも有る。

例えばお面に追われる夢とか、森で迷ったあげく化け物に食われる夢とか、見た事も

無い異性と結婚してるとか

予知夢を観てデジャヴーを感じたりなんて人も体験した人は少なく無いだろう。

夢の中で夢と自覚する人もきつと居る、俺だつてその経験は有るから理解できる。

だがしかし……………これは現実だ。

夢だと思いたかったが、これは現実だと俺の脳は判断した

理解が追いつかないが、現実だという事は理解したので冷静になろう……  
「つて、冷静になれるかよ」

自分にツツコミながらも頭はすぐに覚める。

俺は寝ぼけるといふ事ができないのでアツサリと覚醒してしまう

現実逃避をしたくなつた今、この体質が若干恨めしい。

とりあえず部屋を見わたす……子供の部屋ではない

かといつて大人の部屋かと問われると、そんな事は無い。

中学生から高校生の部屋だと思われる

そして部屋の物の置き方、種類、数から考えて……親元で暮らしているのだろう。

凄まじく気になつたのは……カードが落ちている事だつた。

今時珍しい光景とは言えないが、そう多くも無いだろう

なにより、この年齢になつてカードに熱中にしても、こんなに乱雑にはしないはず

まつたく……片付けぐらいちゃんとしてほしいものだ。

どうしても気になつてしまう俺はカードを整理し始める、しかし俺はここで違和感を  
感じた。

カードに会社のロゴやカードの名前が書かれていないのだ。

カードゲームに使用されているカードには基本的に、カードの名前が書かれているは

ず

だがそんな事は書かれておらず、更にはカードの種類ナンバーやイラストに関しても何も無い。

このカードゲームにはそれらが全て書かれていたはずなのだが……どういう事だ？  
違和感、そして疑惑、疑問が俺の頭を覆っている。

この部屋の全てが謎だ……仕方無い、漁るか。

部屋漁りを始める事にし、それはもう全てをひっくり返す勢いで漁る。

5分ほど部屋を漁った所で俺はある物を見つけた。

高校の受験票……つまりこの部屋の持ち主は中学生という事になる

受験生の名前は堅守瑞貴……俺の名前だな、顔は昔とほぼ同じに思える

日時は……ん？ おい待て、いつだこれ？ 俺の記憶と全く違う？

そして何より、高校の名前が……デュエル・アカデミア。

デュエル・アカデミア、俺の記憶が正しければ確か遊戯王GXの舞台だよな？

まさか……俺は遊戯王世界の自分になったとでもいうのか？

ははは、んな訳無いよな？ 無いはず……無いと思いたい思わせてほしい

とまあそんな現実逃避はさて置き、考える俺。

仮に本当に俺が遊戯王世界に入ってしまったと仮定して、何故俺が俺になっているん

だ？

しかも若返っているという事になる、実際の俺よりも10歳近くも若いそんな俺に高校生になれというのか？ なにそのギャグ、笑えねえよ。

仮にも就職した社会人だぞ？ 趣味で遊戯王はゲームでしてたからルールは把握してるが。

対人戦は嫌いなんだよなあ……みんな1ターンキルとかばつかしてくるしそれを防ぐ為にも、趣味というか好みでもあるロックデッキとかを使ったら嫌がられるし

1ターンキルは稀にするけど、正直楽しくないし趣味じゃないんだよなあ。

ある程度長い方が楽しいと思うんだが、みんな勝つ事しか見ないから対人戦は嫌いだ。

酷い時なんて、俺がロックデッキを使っている事を知っている奴と対戦した時

俺が勝ったらやる気が出なかっただの、つまらんだの、おもしろくないだの。

派手にしたいって奴なのは知っているが、いくらなんでも酷い言い草だ

対戦中に馬鹿にしてきて、嘗めた行為までして負けて、言う事が悪すぎる。

……思わず愚痴ってしまったが、とにかく俺は対人戦は嫌いだ。

しかし俺の手にはこの世界の俺が苦勞して手に入れたデュエル・アカデミアの受験票



これを捨て、自分勝手に生きるのも有りなんだろうが、さすがに俺に悪い、俺の事が俺に悪い。

それに別の学校で受験するのも骨が折れるだろうし、この世界はどこでもデュエルモンスターズをしている

おそらく、どこの学校に行ってもデュエルモンスターズはされているだろう。

結論、諦めろ俺……だよなあ。

別にこの世界の俺を気にする必要はあまり無いんだろうが、俺がいつ消えるか分からん

もしかしたら1日で元の世界に戻るかもしれない、そう考えたら俺の頑張りを無にする気にはなれない。

例えば、一生俺がこの体に入っていたとしても、デュエルモンスターズをしていけば社会的に有利になるはず

それはアニメや漫画で、様々な会社や国、挙げ句の果てには警察までデュエルモンスターズをしているからだ。

学歴にもデュエルモンスターズが有った方が良さそうだし、3年ほど我慢するしか無いから。

まあデュエル・アカデミアつても、まさか主人公の遊城十代と同じ年とは限らないし

それに賭けて、理想を夢観て諦める事にしよう。

さて、この世界の俺の實力はどれぐらいかな？

というかこの世界のカードプールも調べないといけないな

受験まで約半月……まあどうにかなるだろ、多分。

……

……

……

色々調べたが、これは酷い。

この世界のカードの種類少なさに、効果の酷さ、更に原作効果

OCGでの天よりの宝札の効果は、場と手札のカードを全て除外し、手札が2枚にな

るようにドローするだ

だがこの世界の天よりの宝札は、お互いに手札が6枚になるようにドローするカード

……原作効果、恐ろしい。

しかし同時に値段が凄まじく高い、それはもう……例えるならばバイト高校生などの

年収制限ぐらいの値段だ。

そしてこちらの俺のカードを調べた所……酷すぎるデツキだった。

どうやらこの家はそこまで裕福ではなく、どちらかと言えば普通だがやや貧乏。

母子家庭なのだから当然と言えば当然、まあそれは俺の世界でも同じ事だから同情はしない。

だが、それでもこのデッキは……最高攻撃力カードが暗黒騎士ガイア？ 弱すぎるだろおい！

初期の初期の、本当に初期のカードばかりだろこれ……ハネハネに人食い虫、ペンギンソルジャー

マスター・アン・エキスパートとかゼミアの神とか、今時知っている奴が居るだろうか？

エア・イーターとか密林の黒竜王、ロイヤルガードぐらいしかまだマシなモンスターが無い。

……そういえば現代ではどれも絶版ばかり、そういう意味では凄惨なカードを持っている……と、言えるのか？

よくもまあ、こんなデッキでデュエル・アカデミアに行こうとしてたなこっちの俺。もつと強いカードをと思ったが、財布を見てみれば悲しくなるような現状

どうやらカードを買う金も無いようだ、もう救いようが無い。

デッキ外のカードを見ても、ヒトデンチャク、レオ・ウィザード、グレード・ビルミ  
たいなカードばかり

もしかしてこの俺は絶版カードを集めるのが趣味なのだろうか？ まるで意味が分からんぞ！

冗談はさて置き、真面目にどうしようも無い。

こちらの俺の持ちカード最強攻撃力モンスター、何故か持っている究極完全態・グレート・モスを召喚する？

ロマン過ぎる上に無謀なのだが、それ以前にプチモスやラーバモス、進化の繭を持つていない宝の持ち腐れ。

磁石の戦士マグネット・バルキリオン、ハーピイ・レディ三姉妹、ウォール・シヤド  
ウ

どうしてこんなカードは持つてるのに、召喚に必要なキーカードを持ってないんだ！？  
色々と諦め、どうしようも無いと感じた。

どこかにキーカードが無いか、とにかく探しまくった

何か有る感じが全くしないポケットの中まで漁ったりして……何か手応えを感じた。  
そう、何も入っていないはずのポケットの中に手を入れたら、何かに触れたのだ。

最初、ポケットに入っていたゴミかと思った。

しかし取り出してみると、それは俺が欲しいと思ったカード……万華鏡―華麗なる分身―のカード。

何の冗談だろうか？ まさか四次元ポケットじゃあるまいし、欲しいカードを好きなだけ取り出せるだなんて……

そんな俺の思考を裏切るかのように、再びポケットに手を入れてカードを取り出す出てきたカードは、このアニメ世界では僅か4枚しか無い、ブルーアイズ・ホワイト・ドラゴン青眼の白龍のカード。

あれれ冷静になれ、K O O Lだ、K O O Lに……綴りが違う！ C O O Lになるんだ俺

深呼吸をしよう、吸って……吐いて……吸って……吐いて……よし、冷静になった。

自分が今持っているカードをよく見てみる……が、問題無いように見える

この世界の決闘盤デュエルディスクにこのカードをセットしたらどうなるのだろうか？

俺の元来強い好奇心が疼く……が、それをしては問題が発生する事は目に見えてい

る。  
こんな場所でそんな事をしては騒ぎになるなんてものじゃない

今後の生活の為に、自分の為に、俺の為に自重するしか無い。

それにしても、このカードは何枚ぐらい出てくるんだ？

……  
……  
……

……

ポケットから出てくるカードを試しまくった結果……これは酷い

何枚でも同じカードが出てくる、それはもう青眼フルフェイス・ホワイトドラゴンの白龍フルフェイス・ホワイトドラゴンが10枚でも50枚でも

この時代、この世界には無いシンクロモンスター、チューナー、エクシーズモンスターにサイキック族

三幻神、三邪神、三幻魔、地縛神、ナンバーズNo.、オレイカルコス、機皇帝、ダークネス、S  
in、極星、D—HERO、E—HEROなど

世界に1枚、または数枚、もしくは専用カードまで……しかもOCG効果も原作効果のカードまで有る。

いくらなんでもシンクロとエクシーズは拙いだろ、どう考えても

そもそもこっちの世界の決闘盤デュエルディスクに対応しないだろうし、そういう意味でも無理がある。

ちゃんと試すだけ試しておくべきなんだけど、まあそれは次の機会でいいだろう

今はカードの把握に努めるべきだな、現状の把握を最優先だ。

他に試した事は、目の前に有るカードを思い浮かべながらそのカードをポケットから出す事だ。

もしかしたらどこからかワープしてるとか、転送されているのかという予想をしてが、全く変化が無いのでただ俺が望むままにカードが出てくる……そう解釈して良さそうだ。

元の世界からカードが消えたという想像もしたが、こちら以上に確認できないのでどうしようも無い。

そしてポケットに入れたカードは問題無くポケットに入り

特になんの違和感も感じ無い状態で入れる事ができた。

他の物……例えばハンカチなどを入れてみたが

そういう物に対しては通常のポケットと同じ処理のようだ。

どうやらこのポケット、カードにのみ反応するらしい。

ある程度この異常が理解できた所で、とりあえずデツキを作ってみる事にした。

脳内でロツクカードをイメージしながらカードを取り出すと、ロツクに必要なカードが出てくる

便利なんてもんじゃない……探す時間や考える時間が大幅に短縮でき、更に必要なカードのみが出てくる。

例え使わなくとも、使う可能性が有りそうなカードのみ出てくる……楽できるという事でいいか。

やっぱり組むならロックデッキだよなあ

相手の思考を縛り、行動を誘導したり、苦々しい顔を見るのが最大の楽しみなんだし。やっぱり駆け引き引きつて楽しい、いつ崩されるか分からないスリルが楽しい、崩されても勝てた時が楽しい。

「ターンキルを好む奴は何が楽しいのだろうか？ ストレス発散か、自分が強いと言いたいのか

それとも勝つ事しか考えず、何も考えていないのだろうか？ 俺にはちよつと分からないな。

まあ俺の好みはさて置きつと……うん、若干適当だがこんな所かな？

誰かテスト決闘デュエルをしてくれそうな相手は……そういえばここは俺の部屋だったな  
年齢的にも親と住んでいるはずだし、1人暮らしには見えないから居るかな？

俺は部屋を出て、適当な部屋を訪ねる。

俺の予想が当たっていた場合……まあとにかくロックだロック。

「ブーザー」

無言で部屋に入る、その部屋に居たのは元の世界で昔の姿をした妹……堅守玲

「こいつは俺の世界の玲なのか、それともこちらの世界の玲なのか……どっちだ？」

「お兄ちゃんから私の部屋に来るなんて珍しいね、どうしたの？」



「玲はこっちの玲か?」

「こっちの玲? どういう意味?」

ふむ……別世界に来ているという自覚は無しと、という事はこっちの玲かな?

まあ確かめる方法は他にも有る、この世界ならではの手段がな。

「ちよつと決闘デュエルしないか?」

「デツキを組んでみて、テストをしたいと思つてたんだ」

「それはまた珍しいな……いいぞ、準備をするから少し待つてくれ」

口調が変わった? いや、それは後でいい。

それよりも、俺と決闘デュエルをアツサリ承諾した事からこの世界の玲だと判明したな

俺の世界の玲の場合、そもそもカードゲームに興味が無かったからな……母さんも後

で確認するか。

「面倒だから決闘盤デュエルディスクは無しでもいいだろ?」

「うん、いいよお兄ちゃん」

新しいデツキでも、今日も私が勝たせてもらうぞ」

うーむ……話し方に違和感が凄いが、まあ別に別世界だしいいか。

個性とでも思えば別に気にするような事でも無い。

「決闘!」デュエル

「決闘!」デュエル

「先攻は私が貰うね、ドロロー！」

カイザー・シーホースを召喚して、魔法カード、デュアルサモン二重召喚を発動！

このターン、もう1回通常召喚ができる！」

そういえばこの世界での先攻後攻は言った方が勝ちだったな

そして玲の動きからして……光属性中心の速攻デッキかな？

「カイザー・シーホースは光属性モンスターの生贄になる時、2体分の生贄にできる！

カイザー・シーホースを2体分の生贄にして、ザ・クリエーター創世神を守備表示で召喚！」

ふむ……表側守備表示にできたのか、やはりアニメ世界だな

漫画世界でも表側守備表示はできたと思うが、まあ今はどつちでも構わん。

「魔法カード、トレード・インを発動する！」

手札のLV8のモンスターを捨てて、デッキからカードを2枚ドロウする！

私は手札の光神機ライトニングギア——轟龍を捨て、2枚ドロロー！」

おいおい……

「ザ・クリエーター創世神の効果発動！」

墓地のモンスターを選択し、手札を1枚捨てる事で選択したモンスターを特殊召喚す

る！

私は轟龍を選択し、手札を1枚捨てて、轟龍を蘇生させる！」

なるほどな……最上級モンスターを速攻で揃える為のデッキか  
事故率が高そうだが、これはやや面倒だ。

「カードを1枚伏せて、ターンエンド!」

1ターンでこれだけの事をするとは……アニメではやられ役の仕事だぞ?  
ま、この程度なら問題無く相手にできるかな?

「俺のターン、ドロ」

「お兄ちゃんじゃどうやってこのモンスター達は倒せないぞ」

まあ……確かにあのデッキじゃどう足掻いてもこいつらは無理だな。

人食い虫とか、その辺りのモンスターをドロするまで我慢だし

リバーズ効果だから轟龍の貫通効果で大ダメージで負けるかもしれない。

「轟龍と創世神ザ・クリエーターを生贄に、溶岩魔人ラヴァ・ゴーレムを玲の場に特殊召喚」

「へ? え、ちよ、ラヴァ・ゴーレム!」

お兄ちゃんいつの間になんなカードを!」

「気にするな」

装備魔法、呪魂の仮面を発動し、ラヴァ・ゴーレムに装備する

このカードを装備しているモンスターは攻撃する事ができない

そして俺のスタンバイフェイズ時、相手に500ポイントのダメージを与える」

「……………」

玲は唾然としているが無視

割と良い手札だし、このまま続けるかな。

「永続魔法、悪夢の拷問部屋を発動

相手が効果ダメージを受けた時、相手に300ポイントのダメージを与える

カードを2枚伏せて、ターンエンドだ」

「……………え、エンドフェイズ時に速攻魔法、デーモンとの駆け引きを発動！

自分の場に存在するLV8以上のモンスターが墓地へ送られた時

手札がデッキから、バーサーク・デッド・ドラゴンを特殊召喚する！

このターン、LV8の轟龍ザ・クリエーターと創世神が墓地へ送られたから発動できる！

デッキより、バーサーク・デッド・ドラゴンを特殊召喚！」

ふむ……完全に最上級モンスターを多用した超パワーデッキだな。

ライフ4000世界のここではかなり凶悪なデッキだ

だが、俺のロックバーン（この時代に合わせたカードのみ使用）とは相性が凄まじく

悪い。

「いつの間にそんなカードを持つてるか気になるが

私のバーサーク・デッド・ドラゴンが出た限り、負ける事は無い！

私のターン、ドロー!」

「スタンバイフェイズ時、ラヴァ・ゴーレムの効果発動

ラヴァ・ゴーレムのコントローラーは1000ポイントのダメージを受ける

それと同時に、悪夢の拷問部屋の効果が発動

相手が効果ダメージを受けた事により、300ポイントのダメージを与える」

「う……ラヴァ・ゴーレムなんて……」

「永続罫、生贄封じの仮面を発動

お互いのプレイヤーはモンスターを生贄にする事はできない」

「い、生贄封じの仮面!」

くっ……（手札にはモザイク・マンティコアと冥界の宝札……どうしようも無い!）

なら、バーサーク・デッド・ドラゴンでダイレクトアタック直接攻撃!」

「永続罫、拷問車輪を発動

相手モンスターの攻撃、表示形式の変更を封じる

そして俺のターンのスタンバイフェイズ時、相手に500ポイントのダメージを与え

る」

「い、拷問車輪?!」

これで俺の勝ちは確定した。

玲の残りライフは2700、拷問車輪と呪魂の仮面、悪夢の拷問部屋の効果で合計1600のダメージ

残りライフは1100で、次のターンにラヴァ・ゴレムと悪夢の拷問部屋の効果で1300ダメージ

やっぱりライフ4000世界だとバーンカードは最強クラスのカードだな。

「お兄ちゃんが持つてないカードばかり……いつの間に

バーサーク・デッド・ドラゴンは自分ターンのエンドフェイズ時に攻撃力が500ポイントダウンする！

ターンエンドだ！」

「俺のターン、ドロー

スタンバイフェイズ時、拷問車輪の効果発動

相手に500ポイントのダメージを与え、更に悪夢の拷問部屋の効果で300ポイントのダメージ

呪魂の仮面の効果も発動し、500ポイントのダメージと悪夢の拷問部屋の効果で3

00ポイントのダメージ

合計1600ポイントのダメージを相手に与える」

「う……う……う……」

あ……ヤバイ、やり過ぎた、涙目になってる。

元の世界だとこれぐらい誰でも簡単に突破してくるからつい……エクシーズとかサイクロンとかで。

よし、この世界でロックやバーンは自重しよう、特にバーンはできるだけ使わない方向で

でないと一方的に終わってしまう上、ライフ4000では1ターンキルになってしまう。

「……何もしないでターンエンド」

「私のターン、ドロロー……ラヴァ・ゴーレムの効果で1000ポイントのダメージ

悪夢の拷問部屋の効果で300ポイントのダメージ……ライフが、0に……」

落ち込まれた、どうしよう？

……最上級メインのデッキだし、それに関するカードでも渡したら良いかな？

相性が悪かったものも有るとはいえ、俺はダメージ無しだからフォローできる。

「お兄ちゃん……いつの間にかそんなデッキを？」

「さっき適当に作った」

「て、適当……」

あ、追い打ちしてしまった。

更に落ち込まれた、この状態になった奴を相手にするのは若干面倒だし、逃げるか。無言で玲の部屋から去る、玲はそのまま凹んだままだったが置いておく。

部屋に戻ったが、今後どうするか真面目に決めないと。

とりあえず、ロツクはともかくバーン系デツキは自重は確定だ

前の世界はともかく、こっちは遊戯王が主体なんだ、あまり嫌われる行動はしない方がいいか。

となると苦手なビート系デツキを使う必要が有るのか……気が進まないな。

まあこの世界で変に絡まれない為の処置だし、諦めるか

元世界の知識でも生かして、かといって1ターンキルにならないようにデツキを組もう

……そういえばこの世界、特殊勝利とかそこまで嫌われていなかったな……

エクゾディアとかウイジャ盤とかヴェノミナーガとか、終焉のカウントダウンとか。

さすがにホルアクティやギミック・パペット―デステニー・レオは止めておくがな。

特殊勝利カードを見た時の相手の反応に期待だな。

どうせこれだけ大量のカードが有るんだ、色々活用させてもらおう

気は進まない世界だが、それはそれでおもしろそうだ。

自分がどうなるかなんて分からないんだし、精々好き勝手させてもらおうかな



みだ！  
こちらの俺には悪いが、俺が入った運の無さを諦めてもらう、これからの生活が楽し

# 1話【入学試験】

俺がこの世界に来て3日ほど過ぎた。

母さんや玲に俺の性格に違和感などと言われたが

高校に入る時に気分を一新してみるからその練習

そう言ったら一応納得された……真に受けるなよ。

それはともかく、よくよく調べてみたら試験は試験でも筆記試験だったらしい

つまり筆記試験が半月後、実技試験は更に半月後のようだ。

色々と学園の試験方法などを調べたが、筆記試験の順位で実技試験の番号が決まるら

しい

知識が多い奴は番号が小さい数字になり、頭が悪い奴は番号が大きくなるようだ。

こちらの俺のノートを見つけ、どれぐらいの学力か調べてみたのだが……まあ普通だ

な

精々趣味でできる程度の知識、深い知識は無いがそれなりという所だろう。

俺はどの問題も簡単に答えられるから1桁番号の自信は有るがな。

そして今、俺は……カードオークションを開催している、インターネット上でだがな。

我が家の貧乏具合はそこまで酷いとは言わんが、もう少し余裕が欲しい……別に今でも普通に暮らせるが

自分で使える金も欲しいしなあ……せっかく金になるモノが有るんだし、売って困る事も無い

寧ろ超限定カードでも言えば誰もが飛びつくだろうし、見ていて楽しそうだ。

今まで売ったカードはこの時代には無いカードであるスピード・ウォリアーとリミッター・ブレイク

コンボ用コンビカードであるこの2枚、セットで初期値段を1万でオークションを開始した。

知らないカード、超限定カードと書かれている、扱いやすそうなモンスターに簡易蘇生手段など

様々な理由からだろう……1時間程度で50万もの金に膨れ上がった。

この世界のカードの価値観を甘く見ていたな……元の世界でのカードの価値観は忘れた方が良さそうだ。

スピード・ウォリアーとリミッター・ブレイクの2枚は最終的に90万で売れた……お前らアホだろ？

だが俺は……更なる追い打ちを狙う！ 進化する人類のカードをオークションで販

売開始した。

スピード・ウオリアーに装備させれば——という事を書いたのでさつき買った奴はおそらくこのカードも買うだろう

そう思っていたらまさかの即決30万も投入された……だからお前アホだろ？

元々の攻撃力を変動させる進化する人類のカードはどうやら欲しがると人が多かった

これも値段がつり上がっていき、最終的に120万にまで……この世界のカードの価値観がおかしくないか？

この世界ではこれが普通なのかと、そう考えて他のオークションを確認したがそんな事は無かった。

普通のカードの場合、安くても数百、それなりでは数千、高ければ数万ぐらいのカード

それだけ希少カードが高く売れるという事か……金儲けに使って正解だが、若干怖いぞ。

しかしまあ……今後もこのままカードを売っていくかな

趣味は人それぞれだから様々なカードを売ってやれば高値で売れる。

カテゴリカードとかも売れるかなあ……きつと凄まじい値段で売れるだろう

ナチュルとかなんて元の世界でも数千とかするカード……この世界では数千万単位

になりそうだ。

今はこんな感じに強いが普通のカードしか売らないが

ある程度売れ行きが伸び、更なる高値で買う馬鹿が現れるまで待つ。

良い獲物が……金持ちが釣れたら高値で売れそうなカードをオークションで売り出す

この無限増殖カードを利用して億万長者にでもなるかな……別にそこまで金に興味は無いが。

1人暮らして金をあまり使わない癖が有るから贅沢に興味は無いし、金を稼いだら趣味にでも使おうかな？

……

……

それから更に数日、筆記テストの日は……既に終わり、実技テストの日  
筆記テストは書く事が全く無いぐらいに普通の問題だった。

強いて言うならば……青眼ブルーアイズ・ホワイトドラゴンの白龍のステータスを答えるとか

種族、属性を全て答えるとか、そんな程度の問題だった。

しかし……楽な問題だと適当にしていたのが失敗だったようだ

実技番号は2番……どうやら1問なり2問なり間違えたらしい。

これぐらいの成績ならば問題無くライイエローになれるだろうがな  
余程実技の成績が悪くない限り。

なお、デュエル・アカデミアでの制服は3色存在している。

中等部からの成績優秀者が入る青い制服、オベリスクブルー

高等部編入の成績優秀者、または中等部のブルーに入れなかった者が入る黄色の制服、ライイエロー

高等部編入、または中等部の成績が悪い者が入る赤い制服、オシリスレッド  
さすがにレッドに入りたくないし、実技試験は若干本気のデツキにしようかな？  
いや、やつぱりネタに走ったデツキにしよう、本気を出したらやり過ぎるし。

会場に来たんだが……気のせいか見覚えの有る姿が有るな？

気のせいだと思いたいね、アニメキャラがここに居るように見える。

……現実逃避は止めよう、どこからどう見ても原作キャラだ。

ああ……この試験、落ちようかな？ そんな事はしないけどさ。

目を着けられる気がするが、別に問題は無いか

こちらから変に刺激を与えなければ平和に学園生活を送れるだろう。

どうしても邪魔される場合は……精神的に追い詰めて近づかれないようにすればいい

いか

原作キャラだろうと、俺の邪魔をするなら容赦する必要は無いしな。

『受験番号2番、堅守瑞貴さん』

4番の決闘場デュエルフィールドに移動してください』

出番か……さて、楽しく嫌がらせをしますかねつと！

頼むぞ試験官、せめてダメージぐらいは与えてくれよ？

決闘場デュエルフィールド移動すると、試験官がそこに立っていた……サングラス？

KC社の社員は妙にサングラスの奴多いけど、社員制服の一部なのか？

「受験番号2番かな？」

「はい、受験番号2番の堅守瑞貴です」

「では早速始めよう」

本気で来なければ、すぐに終わらせてしまおうぞ！

いや、アンタが本気でしなければダメだろ

俺に1ポイントぐらいダメージを与えてくれないと困る。

主に、加減してもこの程度の相手なのかという意味で。

「決闘！」「……決闘」

「先攻は私からだ、ドロー！」

早いなあ……まあ別に先攻を取られてもあまり問題は無いんだがな

先制でも後攻でも、このデッキの動き方に影響は出ない。

「不屈闘志レイレイを召喚！」

更にカードを1枚伏せ、ターンエンドだ！」

獣戦士族か、それとも表形式変更デッキか……それとも単純なパワーデッキかな？

どれでも大差無い、最終突撃命令さえ無ければ何も問題は無い。

「俺のターン、ドロロー」

ジャイアントウィルスを守備表示で召喚し、カードを2枚伏せてターンエンド」

「私のターン、ドロロー！」

不屈闘志レイレイを生贄に、ミノケンサテュロスを召喚！」

ああ、確かオークションに出した1枚だったな。

獣戦士族はあまり人気が無いから5枚ぐらい売って、最大値段が18万だったカードか

内1枚はこいつが買ったのか……最低値段は7万だったが、いくら払ったんだ？

「ミノケンサテュロスの効果発動！」

このカード自身を生贄に捧げ、デッキから獣戦士族のLV4のモンスターを2体特殊

召喚する！



ミノケンサテユロスを生贄に、デツキからブラッドヴォルスを2体特殊召喚！」  
ふむ、攻撃力1900が2体ね

普通にモンスターを召喚しても数は同じだったが、守備表示になるデメリットは消滅したな。

「バトルだ！」

ブラッドヴォルスでジャイアントウィルスに攻撃！」

真つ二つに切られ、破壊されるジャイアントウィルス

効果ぐらいいは知ってるよな？ まあ説明はしておくが。

「ジャイアントウィルスの効果発動、戦闘で破壊されて墓地に送られた時

相手に500ポイントのダメージを与える」

「その程度のダメージは問題無い」

「そしてデツキからジャイアントウィルスを可能な限り、攻撃表示で特殊召喚できる

俺はジャイアントウィルス2体をデツキから特殊召喚」

「だが攻撃力は僅か1000！」

2体目のブラッドヴォルスでジャイアントウィルスに攻撃！」

誰が無策で攻撃表示で出るモンスターを晒すかよ

まあそれでも、誰でも攻撃するだろうがな。

「罨カード、ガード・ブロックを発動

この戦闘で自分が受ける戦闘ダメージを0にし、デッキからカードを1枚ドロウする  
そしてジャイアントウィルスが戦闘破壊されたので、500ポイントのダメージを与  
える」

「ぬ……ならば魔法カード、死者転生を発動！

手札を1枚捨て、墓地のモンスター1体を手札に加える！

私は墓地のミノケンサテュロスを手札に戻す！」

ふむ……そこまでしてミノケンサテュロスを手札に戻したかったのか？

それとも死者転生で手札を墓地へ送ったかったか……獣戦士族デッキ？

ああなるほど、この時代でたとあのカードが有ったな。

「エンドフェイズ時、このターンに墓地へ送った暗黒のマンティコアの効果発動！

このカードが墓地へ送られたターンのエンドフェイズ時

自分の場か手札の獣族、獣戦士族、鳥獣族モンスターいずれかのモンスター1体を墓  
地へ送る

そして墓地の、暗黒のマンティコアを特殊召喚する！

私は手札のミノタウルスを墓地へ送り、暗黒のマンティコアを特殊召喚！」

やはり墓地へ捨てたカードは暗黒のマンティコアか、なるほどなあ……そういうデッ

キか。

おそらく、生贄要員を暗黒のマンティコアにし、何度もミノケンサテュロスの効果を使うデツキなんだろう

そして大量展開を狙い、相手を物量で潰す……強引だが、パワーデツキとしてはまあ有りかな？

欠点は全体の攻撃力が低いという点だな、最上級モンスターを入れればなんとかなるだろうが。

「俺のターン、ドロー」

モンスターをセットし、ジャイアントウィルスを守備表示に変更

カードを1枚伏せ、ターンエンド」

「守ってばかりでは勝てないぞ！ 私のターン、ドロー！」

暗黒のマンティコアを生贄に、ミノケンサテュロスを召喚！

そして再びミノケンサテュロスの効果を発動する！

ミノケンサテュロスを生贄に、デツキより忍犬ワンダードッグを2体特殊召喚！

4体のモンスターねえ……その程度じゃ突破できないなあ

もう1体出されたら突破され……無いけどな。

「忍犬ワンダードッグでジャイアントウィルスに攻撃！」

「……戦闘で破壊され、墓地へ送られたので500ポイントのダメージを与える」  
「構わない！ 2体目の忍犬ワンダードッグで守備モンスターに攻撃！」

「メカウサガリバースした時、効果発動

場に存在するカードを1枚選択し、そのカードのコントローラーに500ポイントのダメージを与える

俺が選択するカードは、今攻撃してきた忍犬ワンダードッグ

そのカードのコントローラーに500ポイントのダメージだ」

「ぬ……面倒なモンスターめ！」

だが、これで君の場にモンスターは居なくなつた！」

「メカウサの効果発動、戦闘によって破壊され、墓地へ送られた時

デッキからメカウサー1体を裏側守備表示で特殊召喚できる

この効果により、デッキからメカウサを裏側守備表示で特殊召喚」

試験官の動きが止まる、まあ当然だがな。

既に受けているダメージは2000ポイントにもなる

更にメカウサを2体破壊すれば残りライフは1000……少々危険な状態だ。

だがしかし、あのデッキでは攻撃するしか無い……どうするのかな？

「このまま攻撃しては残りライフが1000まで減る

だが、このまま攻撃しなければ無駄に時間が過ぎてしまうならばここのは……モンスターを全滅させる！」

ブラッドヴォルスで裏側守備表示のメカウサーに攻撃！」

「メカウサーの効果、ブラッドヴォルスを選択

そして戦闘によって破壊されたので、デツキから最後のメカウサーを特殊召喚」  
さて、どうしようか悩むな……伏せカードは転生の予言

墓地のカードを2枚、デツキに戻すカードだ。

メカウサーを2体デツキに戻せば合計ダメージは4000になる

そうなれば攻撃ができなくなってしまうという、哀れな状況になるが……

「ブラッドヴォルスで最後のメカウサーに攻撃！」

「攻撃宣言時に罠カード、転生の予言を発動

お互いの墓地に存在するカードを合計2枚選択し、持ち主のデツキに戻す

俺は自分の墓地のメカウサーと前のターンに破壊されたジャイアントウィルスを選択し、デツキに戻す」

「……………な、なんだと？」

追い詰められる状況に更に追い打ちを掛けてやる。

ブラッドヴォルスの攻撃により、メカウサーが破壊される

だがこの瞬間、メカウサーの効果が発動される……

「メカウサーの効果発動」

ブラッドヴォルスを選択し、500ポイントのダメージを与える

そして戦闘によつて破壊された事により、デッキからメカウサーを裏側守備表示で特殊召喚」

これにより、俺のデッキからメカウサーが全て消える事となつた

まあその程度で終わらせてやるほど、俺は優しくないがな。

「く……永続魔法、生還の宝札を発動！

墓地からモンスターが特殊召喚された時、デッキからカードを1枚ドロウする！

そしてエンドフェイズ、手札のケンタウルスを墓地へ送る！ 墓地の暗黒のマンティ

コアを特殊召喚！

更に生還の宝札の効果により、デッキからカードを1枚ドロウ！ ターンエンドだ！

「罨カード、リターンソウルを発動

このカードはエンドフェイズ時にのみ発動できる

このターンに破壊され、墓地に存在するモンスターを3体までデッキに戻す

メカウサー2体、ジャイアントウイルスをデッキに戻す」

「……………」

唾然として言葉も出ないらしい、まあ当然だろうがな。

うーん……物量で来る相手だと助かるデッキだからなあ……これは

別に数が多くなくてもそこまで困らないし。

「俺のターン、ドロー」

ナチュル・ビーンズを守備表示で召喚して更に装備魔法、ヴィシヤス・クローをナチュル・ビーンズに装備

攻撃力を300ポイントアップするが……守備表示だから意味は無い

カードを1枚伏せ、ターンエンド」

「わ、私のターン、ドロー！」

暗黒のマンティコアでナチュル・ビーンズに攻撃！」

「ナチュル・ビーンズの効果発動

このモンスターが攻撃対象に選択された時、相手に500ポイントのダメージを与える

そしてこのモンスターは1ターンに1度、戦闘によって破壊されない」

「な、なんだと!?!」

これにより、更に500ポイントのダメージを与える

よって相手の残りライフは……500だ。

「速攻魔法、神秘の中華なべを発動！」

自分の場のモンスター1体を生贄にし、その攻撃力か守備力分のライフを回復する！  
暗黒のマンティコアを生贄に、その攻撃力分である2300のライフを回復！」

なるほどなるほど……暗黒のマンティコアを随分使い回すな

まあそれが当然なんだが、よくやる……試験官だからって少々嘗めていた。

「これで残りライフは2800……忍犬ワンダードッグでナチュル・ビーンズに攻撃！」  
「ナチュル・ビーンズの効果発動、攻撃対象に選択された事により、相手に500ポイントのダメージを与える

更に装備されているヴィシヤス・クロウの効果発動

装備モンスターが戦闘で破壊される場合、このカードを代わりに手札に戻す

更に戦闘を行った相手モンスター以外のモンスターを1体破壊し、相手に600ポイントのダメージを与える

もう1体の忍犬ワンダードッグを破壊し、600ポイントのダメージを与える」

「戦闘破壊耐性のカード……」

これで残りライフは1700、頑張れ試験官！

もう少しでナチュル・ビーンズを突破できる……かもしれないぞ！



「ヴィシヤス・クローの最後の効果

相手にダメージを与えた後、相手の場に攻撃力、守備力2500のイービル・トークンを特殊召喚する

守備表示で特殊召喚してもいいけど……攻撃表示で特殊召喚しよう」

「馬鹿にしているのか！」

ならば今特殊召喚されたイービル・トークンでナチュル・ビーンズに攻撃！」

「攻撃対象に選択された事により、相手に500ポイントのダメージを与える

そして罠カード、くず鉄のかかしを発動

1度だけ相手の攻撃を無効にし、このカードは墓地へ送られずに再びセットされる」

「何度も使える罠カードだと……ええい鬱陶しい！」

だがこれでもう何も防ぐカードは無い！」

ブラッドヴォルスでナチュル・ビーンズに攻撃！」

「ナチュル・ビーンズの効果により、相手に500ポイントのダメージを与える

手札からガード・ヘッジの効果発動

自分の場のモンスターが戦闘を行うダメージ計算時

このカードを手札から墓地へ送り、そのモンスターはこの戦闘では破壊されない

その代わりに攻撃力が半分になってしまうが……守備表示では関係無い」

「ば、ばかな……」

これで残りライフは700……だがもうちよつとだぞ、頑張れ試験官

次の攻撃を防ぐ手段は無い、ナチュル・ビーンズを倒せる最大のチャンスだ。

「(相手の手札のカードはさつき手札に戻ったヴィシヤス・クロー……」

伏せられているカードは改めて伏せられたから使えないはずのくず鉄のかかし

墓地からも何か発動しそうだが……墓地へ送られたカードは全て覚えているから問

題無い

場のモンスターは裏側守備表示のメカウサーと守備表示のナチュル・ビーンズ

何度も攻撃を防がれたが……これでやつと倒せる！」

ブラッドヴォルスでナチュル・ビーンズに攻撃！」

「攻撃対象に選択されたのでナチュル・ビーンズの効果で相手に500ポイントのダ

メージを与える」

そしてそれ以上の抵抗は無く、破壊されるナチュル・ビーンズ……

5回も効果を発動できれば上々だな、元の世界じゃすぐ効果破壊されるだろうから無

理だろうし。

「た……倒した？」

よし！ エンドフェイズ時に場の忍犬ワンダードッグを墓地へ送り

墓地の暗黒のマンティコアを蘇生させる！

生還の宝札の効果で1枚ドロローだ！」

あーあ……凄く嬉しそうな顔してる。

でも、メカウサーがリバーズした時に効果ダメージを与えるって忘れてるのかな？

俺のターンで反転召喚したら俺の勝ちなんだが……ま、そんな事はしないけど。

「俺のターン、ドロロー……あ」

ヤバイ、このカードをドロローするとか運が凄まじい

できたら程度に考えて、ドロローしたらとりあえず使おう程度の認識だったんだが……

まさかこのカードを、このタイミングでドロローするとは、相手も運が悪い。

「魔法カード、火の粉を発動

相手に200ポイントのダメージを与える」

「なに？ 火の粉？」

火の粉……な、なんだと!？」

「残りライフは200……つまり、このカード効果で俺の勝ち

試験、ありがとうございました」

「……………」

試験官は全く動かない……どうやら放心しているようだ。

そういえば遊戯王のゲームで火の粉ボーナスってのが有ったな……火の粉で勝つと出るボーナス

という事は……ゲームならこの試合で火の粉ボーナスが貰えたんだな、別に意味は無いが。

動きを止めた試験官を完全に無視し、決闘場デュエルフィールドを出る。

運が悪かったと思つて諦めてもらおうかな、あの試験官にはそのまま歩いてると、別の試験官がこちらに来る。

「えー……君の勝ちだね

合格通知は後日自宅へ送られるので、それまで待つていてくれ

あと、できればあのような戦い方は……」

無視する

何もルール違反をしていないデッキなのだから問題は無い。

別に1ターンキルしたわけでも無いのでまだマシだろう

寧ろ、この程度のデッキを元の世界で使つて勝てるはずが無い。

少しでもまともなデッキが相手なら効果破壊されるし

1ターンキルを防ぐ手段なんて殆ど無いし、完全なネタデッキだ。

何せ、このデッキで最大効果ダメージのカードはヴィシヤス・クロードだからな

攻撃力だつてヴォルカニック・エッジ、インターセプト・デーモン辺り程度が上位  
そしてこのデッキを使う時は一切の攻撃をしないとも決めていた。

このデッキに楽に勝つなら貫通効果、またはフルバーン、効果破壊を多用したデッキ  
かな？

展開力も苦手だが、今回は手札がそれなりに良かったので問題にはならなかった。

ちなみにこのデッキ、永続効果でのダメージも相手に依存している。

それ以外のカードは全て単発発動や起動効果……呪魂の仮面や魔界の足枷は入って  
いない

燃えさかる大地、ゴブリンの子役人、拷問車輪、魔力無力化の仮面、プロミネンス・ド  
ラゴンなど

存在しているだけでダメージを与えるカードは1枚も入っていない、悪夢の拷問部屋  
も入っていない。

ナチュル・ビーンズのように条件が有って初めてダメージを与える効果

またはヴォルカニック・エッジのように起動効果だけのデッキだ。

簡単に言うと、このデッキは嫌がらせにしか思えないようなネタデッキ

激昂のミノタウルスが出てきたら危険だったが、出てこなかったので結果オーライ  
どちらにせよ俺の勝ちだからな。

……そういえば主人公である遊城十代はまだ試合をしていないのかな？

確かあいつは遅刻してきて、クロノスと決闘して勝つんだつたな。

別に見ても大差無いだろうし、放置して帰っても問題無いか。

そう決めた俺は試験会場からさっさと出て行き、家へ帰った。

そして後日、俺の家に合格通知が来た。

筆記テスト2位、そしてノーダメージで試験官に勝利

これだけして落とされる可能性の方が低いだろう。

だが、合格して当然のはずの俺の下に来た合格通知にはこう書かれていた。

堅守瑞貴、オシリスレッド……待ておいこら

俺がオシリスレッド？ どう考えてもラィイエローだろ！

ラィイエローにならなかつた原因を考えてみる。

筆記試験で2位になった……おそらくミスは1問か2問程度

それだけのミスでオシリスレッドにされる可能性は先ず無い。

となれば実技試験……経過ターン数が問題だったのだろうか？

いや、お互いのターンを合わせても数ターン……別に長いと言われるほどではない。

ダメージを受けていない、効果ダメージだけだったのが問題だったのか？

そんな事は……待てよ？ まさかあの試験官が俺の戦い方が気に入らなかつたから

落とした？

職権乱用が多いこの世界だ、可能性としては十分に考えられる……ふざけるな！  
と怒っても結果は変わらない。

KC社に直談判してやろうかとも思ったが、目を着けられるのはさすがに遠慮したい  
よって俺は泣き寝入りする羽目になったと……なんとというか、やる気が削がれたな。  
こうなったら、学園に入ったら嫌がらせデツキばかり使ってやる

そつちがその気なら俺はそれを突き通し、その上で上位を目指してやる！

学園の生徒には悪いが、文句は試験官やKC社に言ってくれ  
俺の方向性を変えたのは向こうなのだからな。

## 2話【知る者と知られる者】

くそっ！ くそっ！ くそっ！ くそっ！ くそっ！！

なんで移動が船じゃなくてヘリなんだ！ 高いつての！

新入生のそれなりの人数なんだから大型ヘリじゃなくて船使えよ！

怖いんだよ！ 高い場所は！ お前ら高所恐怖症じゃないのかよ！

俺はずっと目を閉じて黙って座ってるだけだよ！ お前らも黙って座ってる！

はしやいで海なんて見てるなよ！ 鬱陶しいだろうが！

俺の事を知っている奴は何人か居るようで、何回か陰口が聞こえる。

悪いがそういう事は言われ慣れてるんだ、俺には通用しないな

鬱陶しいとは思うものの、別に興味は無い。

「受験生2番、堅守瑞貴君……だったかな？」

陰口ではなく、名前と呼ばれた……どうやらまともに呼ばれたようだ

片目を開け、声の方を見てみると、黒髪の……後ろ髪が妙に刎ねている男子生徒だった。

どこかで見た事が有るような気がしたが、影が薄いとネタで扱われていたキャラだ



な。

あまりネタ扱いとかされるキャラは好きじゃないんだが……確か名前は三沢大地だったか？

「何か？」

「いや、君とは少し話してみたかったんだ

なにせ実技試験であのような戦い方をしていたからね」

興味を持ったという事か……別に嬉しく無いけどな。

この世界で興味を持たれて嬉しい相手なんて……強いて言うなら精霊ぐらいか？

人外とかに興味有るし、なにより触ってみたい！

手触りとか抱き心地とか気になる、獣族とか獣戦士族とか鳥獣族とか機械族とか岩石族とか水族とか以下略。

原作主人公とかみたいなのに、俺も精霊が見れるのかな？ まあ、一般人の俺には無理だろうがな……希望は薄い。

「で？」

「え、いや……どうしてあんなデツキを作ったのか気になったんだ」

「暇潰し兼適当兼嫌がらせ兼遊び兼ネタ」

「……………」

あまりの切り捨て具合に驚いているらしい。

まあ試験官がやたら苦勞していたデッキが完全なオマケ程度のデッキだったんだこの反応も仕方無いと言えば仕方無いのかもしれない。

「そ、そういえば俺も知らないカードを使ってたな

どこであんなカードを手に入れたんだい？」

「お前、全カードを把握してるのか？」

それは凄いな、お前の記憶力と知識量には感服するよ

さすがさすが、拍手してやるよ」

凄まじいまでの嫌味っぷりに、さすがのこいつも顔を不機嫌にさせる。

俺としては気が紛れて僅かに助かるが、それでもやつぱり……高い場所は怖い！

「さすがに全カードを把握しているわけじゃ……」

「なんの話をしてるんだ2番？」

横から口を挟んで来たのは……遊戯王GX主人公、遊城十代。

しかし2番？ 三沢大地だよな？ 自己紹介とかしてないのか？

「やあ1番、実技試験の時に彼が見たことの無いカードを使っているな

それが気になった訊いてみていた所なんだ」

「へえー、見た事も無いカードかあ、おもしろそう！

なあなあ、デュエル・アカデミアに着いたら俺と決闘しないか？」

「断る、拒否する、嫌だ、遠慮する、却下だ」

5連続拒否、さすがに怯んだらしいが……

「えーなんでだよ？」

デュエリスト  
決闘者なんだつたら決闘は受けようぜ？」

「面倒、疲れる、怠い、気分じゃない、やる気が出ない」

再び5連続拒否、若干不機嫌になったようだ。

さすがにここまで嫌がられたら機嫌も悪くなるか。

「ちえ、つまんねえの」

じゃあさ、その見た事の無いカードってどんなカードか教えてくれよ！」

いい加減にしつこい……相手にするのが面倒になってきた

まあ元々面倒だと思っていたからそれは変わらんが。

「態々見せてやる義理は無い」

いい加減に諦めろ、そんなに見たいのなら俺が決闘デュエルをしてる時にでも勝手に見てろ」

「え、決闘デュエルしてくれんのか！」

「そういう意味じゃない……」

ダメだこいつ……俺とは性格の相性が悪すぎる。

俺は強引な奴は苦手なんだよなあ……相手にするのが疲れるし面倒だから。  
「とにかく、俺はお前の相手はしない」

カードを見せてやる気も無いし、諦めろ」

「むうー……」

残念そうな声を出しながら席に戻る遊城十代

「というか、態々自分の戦略が知られるような事をする必要も無いしな。  
俺は何種類ものデッキを使うから別に知られようが問題は殆ど無いが。」

「自分の実力は無駄に見せない……という事か」

OK、もし手合わせでできる機会があれば俺と決闘<sup>デュエル</sup>してくれ」

「無い事を願うね、面倒だし」

「ふふ、そう言うな」

ではまた学園で会おう」

嫌味とかがあまり通用しない奴だな。

ああいう奴の方が相手をするのが楽だ。

ま、だからといって付き合いを続けたりする気は全く無いがな。

三沢大地……：：：：：そういえば名前合ってるっけ？

こいつもさっさと席に戻るが、途端に俺への陰口が増えた。

どうやら俺の態度が気に入らなかつたらしい

別にこいつらに嫌われても殆ど問題は無いがな。

この世界で苛めが発生したとしても、どうせ最終的には決闘<sup>デュエル</sup>で始末される

というか、この世界の決闘<sup>デュエル</sup>脳<sup>デュエル</sup>つぷりを調べまくってみただが……相当酷い。

決闘<sup>デュエル</sup>で苛められてカードを取られたとか、何度も決闘<sup>デュエル</sup>に負けて苛められているとか

お前ら決闘<sup>デュエル</sup>以外で何か無いのかと問いたいぐらいに決闘<sup>デュエル</sup>ばかりの世界だ。

この世界は決闘<sup>デュエル</sup>で何でも話ができるから、有る意味元の世界よりも気楽だ……勝てば

いいだけだからな。

………

………

………

そしてやってきました、デュエル・アカデミア！

超帰りたいなあ……嫌な予感しかしないぞ、この学園生活は！

入学式も有ったが、校長の話は完全に無視してやった

どうせ大した事は言っていないだし、デツキ構成でも考えていた方がマシだ。

……それにしても、さつきから気になる事が有る。

誰かが妙に俺を見ている……いや、睨んでいると言つても過言では無い。

誰かは知らないが、俺に喧嘩を売っているのかな？

乗るかとは分からないが、人気の無い所にまで誘ってみるか。  
入学式が終わり、暫く自由行動。

視線が気になるが……さて、どこに行こうかな？

と思つたが、別に行く場所なんて殆ど限られている

探索するような感じの動きをしながら森の中に入る。

一応追ってきているようだ

森の中でやや広い場所に出てきた……所で立ち止まる。

「……………」

黙つて動くのを待つ事数分。

痺れを切らしたらしく、誰かが広間に出てきた……が、知らない顔だ。

制服は青色、だがそいつは女……女子生徒か。

女子生徒は全員青色制服のオベリススクブルー、実力がイマイチ分からないのが若干困る。

「……………気付いていたの？」

「あれだけ睨めば当然だ」

森に入る前に立ち止まった時も足音が無くなったりしたし

森に入って草木をかき分ける音も、自分以外の存在に気付ける理由だ。

気のせいだったら良かったが、実際に狙われているのが丸分かりだった。

「それで、何か用か？」

誰かに怒まれるような行動をした覚えは……多分無いはずだ」

「多分って時点で自覚は有るのね

やっぱり、貴方は堅守瑞貴……」

ふむ、妙だな……今の発言からして俺の事を知っている？

しかもやっぱりという言葉……知らないのに知っていると感じるか？

噂で聞いたという事だろうか？ それにしては確信を持っている気がする。

「私と決闘デュエルしなさい、堅守瑞貴

私が勝ったら、この学園から出て行ってもらうわ」

「それはまた随分な事を……高が1度負けた程度で出て行けと？」

お前、何様のつもりだ？」

「貴方が居れば何人もの人が悲しい想いをする

そしてこの世界が乱れる……貴方はこの学園に居て良い存在じゃない！」

酷い言い草だな、俺の存在全否定かよ。

確かに俺は邪魔をするなら叩き潰すつもりだが

世界が乱れるだの、居て良い存在じゃないだのと言われる筋合いは無い。

こいつは俺の何を知っているのか……

「俺の事を随分知っているように思えるが……」

お前は何者だ？ 何故俺の事を知っている？」

「答える義理は無い」

「ふう……会話はコミュニケーションの大事な一歩だぞ

もう少し会話を続ける努力つてのをしようぜ」

「すぐに人の言葉を切り捨てる貴方に言われたく無い」

「……」尤も」

どこまで俺の事を知られている？

困った、俺の決闘デュエルでの弱点も知られているんじゃないだろうな？

可能性は高いし、あまり相手にしたくない。

「何にせよ、俺がお前の決闘デュエルと受ける理由は無いな」

「こんな人気の無い場所に誘い込んで何をヌケヌケと……」

「自分のデッキを見られたくないからこんな場所まで来たんでしよう？」

「………チツ」

本当に俺の事をよく知ってるな、こいつ



やはり俺の事を知っていると思った方がいいだろう

元の世界の知り合いとも考えたが、俺の知り合いの女性は殆ど居ない

というか単純に男女問わず知り合いは仕事先とか学生時代ぐらいしか存在しない

……若干悲しいが無視。

どちらにせよ、こんな性格の女性の知り合いは居なかった

学生時代を思い出しても、全く記憶に無い。

本当にどうやって俺の事を調べたんだ？ 全く見当が付かん。

「絶対に……勝つ！」

「あーもう、めんどくさい！」

お互いに先ほど学園から配布された決闘盤デュエルディスクを構える。

DMの決闘盤に比べて角が取れて丸くなった決闘盤デュエルディスク、だから何だという程度だが。

問題が有るとすれば、こいつは俺の性格をよく知っているという点。

俺のデッキが読まれている可能性が高い……どのデッキにするかな？

対策はされている可能性が高く、あまり相手にしたくない……が、相手にするしか無

さそうだ。

どうせ、どちらにせよ俺を逃がすつもりは無いだろうしな。

「決闘！」

「先攻はくれてやる」

「あら、随分と余裕だけどいいのかしら？」

「レディファーストという奴だ」

「……女だから先攻を貰えて嬉しいだろう？」

レディだもんな？ とでも言うつもりかしら？」

どうやらとことん、俺の行動は読まれているらしい。

演技混じりとはいえ、実際に言おうと思っていた事を言われた

こいつ、何者なんだ？

「でもいいわ、先攻は貰う

私のターン、ドロー！」

チューナーモンスター、ヘル・セキュリティを守備表示で召喚！」

「チューナーモンスター？」

俺はチューナーはまだ売っていない、何故そのカードを持っているんだ？

まさかとは思うがこいつ……

「知らない……なんて言わないわよね？」

チューナーモンスター、貴方なら当然知っているはずよ」

「なんの事やら？」

チューナーモンスターなんて俺は知らんな」

惚けるが、信じる気は全く無いようだ

確信を持つて言っているから当然だろうが……真面目にこいつが分からないな。

そして出てきたモンスターはリクルーター、どうしようか若干悩む。

「私も貴方が相手なら本気のデッキで戦えるわ

貴方も本気で来なさい！ カードを2枚伏せて、ターンエンド！」

いや、本気でとかそんな事は決闘開始前に言えよ。

俺が既に遊びとかネタとか使っていた場合は手遅れだろうが。

「俺のターン、ドロロー」

とはいえ、厄介な相手という事には変わりはない。

相手は俺を知っているが、俺は相手を知らない……この情報アドバンテージはかなり

痛い

ま、知っているなら知っているでいくらでも騙せるのだが……

「モンスターをセット

カードを3枚伏せてターンエンド」

「3枚も……」

（伏せカードに警戒して攻撃してこなかった？）

それにモンスターをセツト……リバース効果モンスターかしら？

私が堅守瑞貴を知っているから警戒して裏を掛こうとしている？

どちらにせよ、場にモンスターが残ったのなら問題無い)

私のターン、ドロー！

ヘル・セキュリティを生贄に、超魔神イドを召喚！」

超魔神イド……やはり俺は売っていないカードだ。

こいつ、どこからこれらのカードを手に入れたんだ？

「永続魔法、漆黒の太陽を発動！

自分のモンスターが破壊された時、破壊されたモンスターの元々の攻撃力分だけ自分のライフを回復するわ

更に自分の墓地からモンスターが特殊召喚された時、そのモンスターの攻撃力を1000ポイントアップする！

そして超魔神イドで守備モンスターに攻撃！」

嫌な予感しかないが……

「罨カード、和睦の使者を発動

俺のモンスターは戦闘で破壊されず、戦闘ダメージも受けない

そして俺のモンスターはワーム・リンクス……リバース効果モンスターだ

リバース効果発動、お互いのエンドフェイズ時に俺は1枚ドロする」

これで俺は毎ターンドロできるが……

「ワーム……【ワーム】なら初使用デッキよね？ それとも単なるドロソース？

でも、堅守瑞貴がテーマ、ファン、ネタデッキ以外のカードなんて殆ど使わないわよね？

……なんでもいいわ、伏せカードの場所は残念だったけど……

和睦の使者にチエーンして罠カード、爆導索を発動！」

「……………ば、爆導索？」

なんてコアなカードを……だがそれがいい。

カード配置は俺はワーム・リンクスと和睦の使者、相手は超魔神イドと爆導索だからな

こいつのデッキは【超魔神イド】でほぼ確定かな？ 他にも何か隠してるだろうが。

「このカードと同じ縦列カードを全て破壊する！」

この場合は超魔神イド、ワーム・リンクス、和睦の使者よ！」

「チツ……」

面倒なデッキだが、なかなかおもしろいデッキだな。

俺もそんなデッキを使いたい所だが……それは後か。

「漆黒の太陽の効果発動よ

私のモンスターが破壊された事により、イドの元々の攻撃力分……2200のライフを回復！

更に永続魔法、生還の宝札を発動！

自分の墓地からモンスターが場に特殊召喚された時、デッキからカードを1枚ドロースする！

私はこれでターンエンドよ！」

ライフが6200まで増えたか……そして俺のスタンバイフェイズ時にイドは蘇生俺の場には伏せカードが2枚のみでモンスターは無し、若干厳しいかな？

少々相性も悪いし、これは困った。

「俺のターン、ドロウ」

「このスタンバイフェイズ時、超魔神イドの効果発動！

効果により破壊された次のターンのスタンバイフェイズ時、このモンスターを墓地より特殊召喚する！

そしてこのカード以外の自分のモンスターを全て破壊する……けど、今はイドしか居ないから関係無いわ

生還の宝札の効果、自分の墓地よりモンスターが特殊召喚されたのでドロウ

更に漆黒の太陽の効果、墓地より蘇生したモンスターの攻撃力が1000ポイントアップする！」

攻撃力3200の超魔神イド……これは厄介。

さて、このデッキでそいつを超えるモンスターは居るが、少々出すのは大変だぞ。

「モンスターをセット、これでターンエンドだ」

「それだけ？ でも私はどんどん行くわよ！

私のターン、ドロー！」

罨カード、デストラクト・ポジションを発動！

自分の場のモンスターを1体破壊し、その攻撃力分のライフを回復する！

回復値は場の数値を参照にするから、回復するライフは3200！

更に漆黒の太陽の効果により2200のライフを回復！」

………ライフが11600か、さすがに多いな。

あのライフを削るのは骨が折れそうだ。

「そして、自分の場のモンスターが効果によって破壊された時

手札からこのモンスター……機皇帝グランエル∞を特殊召喚！」

今度は機皇帝……シンクロが無いこの時代で機皇帝を出す意味は薄い

………ように見えるが、効果自体は強力だ。

「グランエルの攻撃力は私のライフの半分の数値となる

私のライフは11600、その半分である5800の攻撃力よ！」

さすがにこれは……

「装備魔法、早すぎた埋葬を発動！」

ライフを800ポイント支払い、自分の墓地のモンスターを特殊召喚するわ！

ヘル・セキュリティを特殊召喚！　そして生還の宝札の効果でドロー！

漆黒の太陽の効果で攻撃力を1000ポイントアップよ！」

あーあ……攻撃力が1100までアップしやがった。

ライフが減ったからグランエルの攻撃力が5400まで減ったが、大差無いな。

これ、下手すれば負けそうなんだが？

「(ワームは守備力が低いモンスターが多いし……)」

ヘル・セキュリティで守備モンスターに攻撃！」

「俺のモンスターはワーム・ミリデイス、守備力は1600なので破壊されない

そしてリバース効果が発動

このカードを装備カード扱いとして相手モンスターに装備し

お互いのスタンバイフェイズ時、コントローラーに400ポイントのダメージを与える

る



が、この効果は発動せず、このまま場に残す」

効果を使えば直接攻撃ダイレクトアタックで負ける。

伏せカードはダメージ軽減カードじゃないんだからな。

「(やつぱり【ワーム】デツキ!)

グランエルの攻撃力が更に250下がった……それでも攻撃力は5150!

グランエルでワーム・ミリデイスに攻撃!

グラランド・スローター・キャノン!」

チツ……これは素直に拙いかもしれん。

こんな奴、いつたいてどこから湧いてきたんだ?

アニメ世界にこんな奴が存在するとは考えられないんだが……

「次よ!」

グランエルとヘル・セキユリティを生贄に……The <sup>ザ</sup> s u p r e m a c y <sup>マ</sup> S A N <sup>ン</sup>  
を召喚!」

あ、これ、詰んだかも?

ライフ的な意味で。

「装備カードだった早過ぎた埋葬は対象を失った為、破壊されるわ

カードを1枚伏せ、私はこれでターンエンドよ!」

「俺のターン……ドロー」

「この瞬間、超魔神イドの効果発動よ」

効果で破壊された次のターンに蘇生、生還の宝札の効果でドロー、漆黒の太陽の効果で攻撃力アップ

そしてイドの効果で自分の場のモンスターを全て破壊する……The  
Supremacy SANを破壊

漆黒の太陽の効果により、私のライフはThe supremacy SANの元々の攻撃力分の3000を回復！」

ライフが13300……しかも凄まじく嫌なコンビだ。

こいつも、よくもまあこんなデッキを考えたもんだ。

「モンスターをセットし、ターンエンドだ」

【ワーム】ではあのライフを削るのは相当厳しいぞ

まあ攻略手段が無いとは言わんが。

「私のターン、ドロー！」

スタンバイフェイズ時に罠カード、オーバースペックを発動！

元々の攻撃力より高いモンスターを全て破壊する！

イドは漆黒の太陽の効果で元々の攻撃力より高い……イドを破壊し、漆黒の太陽の効

果でライフを回復！

更に前のターンに破壊されたThe <sup>ザ</sup>suprema <sup>ス</sup>マシー <sup>シ</sup> SAN <sup>サ</sup>の効果発動！

手札を1枚捨て、このモンスターを蘇生させるわ！ 戻りなさい、The <sup>ザ</sup>

Suprema <sup>ス</sup>マシー <sup>シ</sup> SAN <sup>サ</sup>！

生還の宝札の効果でドローし、漆黒の太陽の効果で攻撃力をアップよ！」

呆れた……ライフが15500かよ

よくもまあ何度も自分のモンスターを破壊できるな。

「魔法カード、強欲な壺を発動！ デッキからカードを2枚ドローする！」

魔法カード、エンシエント・リーフを発動！

ライフが9000以上の時、ライフを2000支払う事でデッキからカードを2枚ド

ローする！

ライフを2000ポイント支払い、2枚ドロー！」

ドローするなあ……で、まだ何かするのか？

「ミステイク・パイパーを召喚し、効果発動！

このモンスターを生贄にし、デッキからカードを1枚ドローするわ！

そしてお互いにドローカードを確認し、LVIのモンスターだった場合はもう1枚ド

ローする！

ドロー！ ドローしたカードはクリボー！ LV1のモンスターだからもう1枚ドローするわ！」

なんというか、ここまでできるものなのか？

しかもドローカードがクリボー……戦闘ダメージさえ与えられるか分らん状態じゃないか。

「The <sup>ザ</sup>sup<sup>ス</sup>pre<sup>プレ</sup>ma<sup>マ</sup>cy<sup>シー</sup> SA<sup>サ</sup>N<sup>ン</sup>でセットモンスターに攻撃！」

「ワーム・カルタロスのリバース効果発動

デッキからLV4以下のワームと名の付く爬虫類族モンスターを1枚手札に加える

俺はデッキより、ワーム・ゼクスを手札に加える」

手札があまり良くなかったからドローする為にワーム・リンクスを伏せたのに即破壊されたからな

もうドローフェイズでドローするかサーチ以外殆どできないんだよなあ……

さすがに爆導索なんて予想外過ぎるし、どうしようもできん。

「ワーム・ゼクス……カードを2枚伏せるわ！」

永続魔法、強欲なカケラを発動！

私はこれでターンエンドよ！」

完全に警戒されてるな、ワーム・ゼクスをサーチしたんだから当然と言えば当然だろ

うが。

しかし、真面目にこれぐらいしか手が無いのが現状

このデッキ、全ワーム投入&ワームモンスターのみハイランダーデッキだからどうしても手段が限られる。

もしこれを防がれたら……勝ち筋、無くなるんじゃないか？

「俺のターン、ドロロー」

「このスタンバイフェイズ、墓地の超魔神イドは自身の効果で蘇生する！」

生還の宝札でドロロー、漆黒の太陽の効果で強化、イドの効果で ス ブ レ マ シー サ ン ザ  
Supremacy SANを破壊

漆黒の太陽の効果でライフを回復し、私のライフは16500よー！」

今の一連の動作が相手ターン中つてのが信じられないよなあ……

そして嫌な予感しかししない、高確率でこいつは更なる何かをしてくるとしか思えない  
多分、また自爆カードを使用するだろう。

「ワーム・ゼクスを守備表示で召喚し、効果を発動

召喚に成功した時、デッキからワームと名の付いた爬虫類族モンスターを1体、墓地へ送る」

「効果発動を待っていたわ、罨カード……発動！ パニック・ウェーブ！

自分の場のモンスターを1体破壊して効果を発動する！

このターン、フィールド上に表側表示で存在する永続魔法、永続罫、モンスター効果を無効にする！

私は超魔神イドを破壊し、パニック・ウエーブの効果が発動よ！」

モンスター効果……ワーム・ゼクスの存在から対策をキツチリしてきたか。

漆黒の太陽のライフ回復効果はパニック・ウエーブの効果で無効になるから回復はされないもの

それでも状況は良くない。

「俺はこれでターンエンドだ」

「私のターン、ドロー！」

自分のドローフェイズ時に通常ドローした瞬間、場の強欲なカケラに強欲カウンターを1つ乗せるわ！

手札を1枚捨て、The supremacy SANを墓地より蘇生させる！

生還の宝札の効果でドロー！

超魔神イドを蘇生！ 生還の宝札の効果でドロー！ 漆黒の太陽の効果で攻撃力

アップ！

そしてイドの効果でThe supremacy SANを破壊してライフを回復

「！」

ライフが19500まで増えやがった……こいつ、どれだけやれば気が済むんだ？  
これ以上増やされたら尚更ライフを削りきる自信が無くなる。

「イドでワーム・ゼクスに攻撃！」

モンスターは破壊されるが、1体だけなら守るのはそこまで難しくない。

変に攻撃をしたり、中途半端に行動すると少々危険だが

ただただ守るだけなら危険でもなんでもない。

「魔法カード、サンダー・クラッシュを発動！」

自分の場のモンスターを全て破壊し、相手に破壊したモンスターの数×300ポイン

トのダメージを与える！

私場にはイドが1体、よって300ポイントのダメージよ！

そして私のモンスターは破壊された……漆黑の太陽の効果でライフを回復よ！」

「チッ……鬱陶しい」

ライフが21700、俺のライフは3700……差が開きすぎだろ。

「カードを1枚伏せて、ターンエンドよ」

「俺のターン、ドロー」

「手札を1枚捨ててThe<sup>ザ</sup>sup<sup>ス</sup>pre<sup>プレ</sup>ma<sup>マ</sup>cy<sup>シー</sup> S<sup>サ</sup>AN<sup>ン</sup>を蘇生！ 生還の宝札の効果

でドロロー！

超魔神イド復活！ 生還の宝札の効果でドロロー、漆黒の太陽の効果で強化

そしてThe <sup>ザ</sup>supremacy <sup>スプレマシー</sup>SAN <sup>サン</sup>を破壊し、ライフが回復よ！」

24700、もうまともに相手をしたら勝てる状態じゃないな

さすがにもう手段が相当限られたな……

「永続魔法、ワーム・コールを発動する

自分の場にモンスターが存在せず、相手の場にモンスターが存在している場合

1ターンに1度、手札のワームと名の付く爬虫類族モンスターを裏側守備表示で特殊召喚できる

ワーム・コールの効果を発動し、手札のワーム・ルクイエを裏側守備表示で特殊召喚  
そして今セットしたワーム・ルクイエを生贄に、ワーム・クイーンを召喚する

ワーム・クイーンはLV8のモンスターだが、ワームと名の付く爬虫類族モンスターを生贄にした場合

攻撃表示だが、生贄1体で召喚する事が可能だ

続いて魔法カード、貪欲な壺を発動する

自分の墓地のモンスターを5枚デッキに戻し、2枚ドロローする

墓地のワーム・ゼクス、リンクス、カルタロス、ミリデイス、ルクイエをデッキに戻



してシャッフル

そして2枚ドロ……」

「この状況を打破できるカードは引けたかしら？」

ふむ……

「永続魔法、未来融合―フューチャー・フュージョンを発動

融合に必要なモンスターをデッキから墓地へ送り、2ターン後の俺のスタンバイフェイズ時に融合を行う

俺が融合するモンスターは……ワーム・ゼロだ」

「ワーム・ゼロ……」

「墓地へ送るモンスターは、ワーム・アポカリプス、バルサス、カルタロス、デイミクレス、イーロキン

ファルコ、グルス、ホープ、イリダン、ジェートリクプス、キング、リンクス、ミリデイス、ノーブル

オペラ、プリンス、ルクイエ、ソリッド、テンタクルス、アグレイ、ウォーロード、ゼクス、ヤガン

以上の23体を墓地へ送り、2ターン後にワーム・ゼロを融合召喚する」

「そ、そんなに!？」

でも、2ターンも耐えられるかしら？」

「ワーム・クイーンの効果を発動

1ターンに1度、ワームと名の付く爬虫類族モンスターを生贄に捧げる

デツキから生贄にしたワームのLV以下のワームと名の付く爬虫類族モンスターを1体、特殊召喚する

さて、先ほどの未来融合で俺が墓地へ送らなかつたワームは誰でしょう？」

「え？ アポカリプスにバルサスにカルタロスに……誰だったかしら？」

えーつと……全種類1体だけ入っていると仮定して、クイーンとゼロを除くと……まさかー！」

「はい正解、俺はワーム・クイーンの効果でLV8のワーム・クイーン自身を生贄に捧げる

デツキより、LV7のワーム・ヴィクトリーを特殊召喚だ

ワーム・ヴィクトリーの攻撃力は墓地に存在するワームと名の付く爬虫類族の数×500ポイントアップする

俺の墓地には現在24体の爬虫類族のワームが存在している、よって攻撃力は……12000だ」

「攻撃力……12000ですって？」

数少ない、あの大量ライフを削る手段はこれぐらいだ

これを防がれたらさすがにそろそろ手が尽きてしまう。

ワーム・ゼロに賭けるしか無くなってしまふな。

「ワーム・ヴィクトリーで超魔神イドに攻撃」

「攻撃なんて、受けてあげないわよ！」

罫カード、ツイン・ボルテックスを発動！

相手モンスターの攻撃宣言時、自分と相手のモンスターを1体選択し、破壊する！

私が選択するのは当然、超魔神イドとワーム・ヴィクトリーよ！」

「罫カード、攻撃の無敵化を発動

バトルフェイズ中に2つの効果の内、1つを選択して発動する

このターン中、戦闘ダメージを0にするか

自分のモンスターを1体を選択し、このバトルフェイズ中に戦闘や効果で破壊されな

い

俺は破壊されない効果を選択する、よってこのターン中にワーム・ヴィクトリーは破

壊されない」

「な……最初からずつと伏せてたカード!？」

何度も発動機会は有ったのに……」

「不要だと判断しただけだ、ツイン・ボルテックスの効果処理をしてもらおうか？」

ワーム・ヴィクトリーは破壊されないので、破壊されるのは超魔神イドだけだな」

「……私のモンスターが破壊された事で漆黒の太陽の効果でライフを回復するわ」

ライフが26900……この攻撃力12000のワーム・ヴィクトリーでも倒し切れん。

この攻撃力を耐えるなんて本来なら相当厳しいぞ？

ま、削れそうだから削るだけ削ってやるがな。

「お前を守る超魔神イドは場から消え去った……ワーム・ヴィクトリーで直接攻撃」

「う、うううううう！」

さすがに12000のダメージは効いたようだ

残りライフは14900……それでもまだ多いな、おい。

あと、クリボーはどうした？ The supremacy S.A.N.のコストとして

捨てたのか？

今まで直接攻撃を受けていなかったから油断したようだな。

「カードを1枚伏せ、ターンエンドだ」

「くっ……私のターン、ドロロー！」

強欲なカケラに強欲カウンターを1つ乗せる！

スタンバイフェイズ時にThe ザ ス ブ レ マ シー サ ン を 手 札 を 1 枚 捨 て て  
蘇生！

生還の宝札の効果でドロー！　そして超魔神イドも蘇生……守備表示！　生還の宝札の効果で再ドロー！

自分の場のモンスターを全て破壊し、漆黒の太陽の効果でライフを回復！」

17900のライフ……毎ターンのようにライフを3000とか2200とかの回復か

さすがにその回復量は大きいし、まだ暫く時間が掛かりそうだ。

「罨カード、ダブル・トリビュートを発動！」

自分のモンスターの召喚、特殊召喚に成功した時に発動できる！

その特殊召喚したモンスターと相手のモンスターを1体破壊する！

超魔神イドとワーム・ヴィクトリーを破壊よ！」

「何度も何度も……」

さすがにそう何度も破壊耐性を持たせられるカードは無い。

ワーム・ヴィクトリーと超魔神イドは同時に破壊されてしまう。

「これで行くのか……漆黒の太陽の効果でライフを回復！」

ただその前に、自分の場のモンスターが効果で破壊された事により

手札から機皇帝ワイゼル∞を特殊召喚！」

ライフが20100に……ライフをあれだけ削ってもまだ増やすか。

こいつのデッキは本当に凄まじいな、ライフゲインカードもだが超魔神イドなどの自己再生モンスターの使用法

というか、よくもまあアレだけ自己破壊カードを集めたものだと感心する。

「強欲カウンターが2つ乗っている強欲なカケラを墓地へ送り、デッキからカードを2枚ドロー！」

バトルフェイズよ！

ワイゼルで堅守瑞貴に直接攻撃！」

ダイレクトアタック

「永続罫、リミット・リバースを発動

墓地の攻撃力1000以下のモンスター1体を攻撃表示で特殊召喚する

俺が蘇生させるモンスターはワーム・ヴィクトリー……元々の攻撃力は0だ」

「また、攻撃力12000……攻撃は中断！」

カードを3枚伏せて、ターンエンドよ！」

さすがに攻撃力12000をどうにかする事はなかなかできないようだ。

問題は、このまま耐えきられてターン数を稼がれる事

俺の残りデッキ枚数は9枚、さすがにデッキから墓地へ落とすすぎたか？

「俺のターン、ドロー」

「墓地のThe <sup>ザ</sup>suprema <sup>ス</sup>マシー SANの效果、手札を1枚捨てて蘇生！」

生還の宝札の效果でドローし、超魔神イドも自身の效果で復活！ 守備表示よ！

生還の宝札の效果でドロー、そして機皇帝ワイゼル∞とThe <sup>ザ</sup>suprema <sup>ス</sup>マシー SANをイドの效果で破壊！

合計攻撃力分である5500のライフを回復！」

……ライフが25600かよ。

お前、いったいどこまで回復するつもりだ？

ワーム・ヴィクトリーを特殊召喚した時は3回の直接攻撃が必要だったんだが

既に1回、直接攻撃ダイレクトアタックをしているのにまた3回必要とはどういう事だよ。

「ワーム・ヴィクトリーでイドに攻撃」

「罨カード、ヘイト・バスターを発動！」

自分の場の悪魔族モンスターが攻撃対象に選択された時

相手攻撃モンスターと自分の攻撃対象となったモンスターを破壊し

破壊した相手モンスターの元々の攻撃力分のダメージを与える！

この場合、破壊されるのはワーム・ヴィクトリーと超魔神イドよ！」

「だが、ワーム・ヴィクトリーの元々の攻撃力は0

よって俺はヘイト・バスターの効果ダメージは受けない」  
 「だけど、私は漆黒の太陽の効果でライフを回復！」

そしてその前に、自分の場のモンスターが効果で破壊された事により  
 手札の機皇帝スキエル∞を特殊召喚するわ！ 一応守備表示よ！」

蘇生カードの警戒かな？ でなければ今スキエルを出す意味は薄い。

俺も蘇生カードを使っても意味は無いから使わないがな。

「俺はこのままターンエンドだ」

「私のターン、ドロロー！」

手札を1枚捨てて、The ザ s u p r e m a c y マシー S A N サンを蘇生！ 生還の宝札の効

果でドロロー！

そして超魔神イドも蘇生！ 生還の宝札の効果でドロローと、自分の場のモンスターを

破壊！」

おいおい、ライフが33000にまで増えているんだが？

どうして攻撃力12000の直接攻撃を受けてそんなにライフが多いのか……

「漆黒の太陽の効果でイドの攻撃力は3200

イドで堅守瑞貴に直接攻撃よ！」

「永続罫、リビングゲデッドの呼び声を発動





の効果でドロ―!

イドの効果でThe <sup>ザ</sup>supremacy <sup>スプレマシー</sup>SANを破壊し、ライフを回復!」

38200……呆れてものも言えん

どれだけこいつはライフを回復すれば気が済むんだ?

そろそろ飽きてきたぞ、展開が同じだし。

「魔法カード、ヴァイパー・リボーンを発動

自分の墓地のモンスターが爬虫類族の場合、チューナー以外の墓地のモンスターを特殊召喚

ただし、エンドフェイズ時に特殊召喚したモンスターは破壊される

俺が蘇生させるモンスターはワーム・キングだ」

「な……ワーム・キング?」

「ワーム・ゼロの効果、融合に使用したモンスターの種類の数だけ効果が増える

最初に6種類以上の効果、デッキからカードを1枚ドロ―する効果を発動し、ドロ―

次に2種類以上の効果、1ターンに1度、自部の墓地の爬虫類族モンスターを裏側守

備表示で蘇生させる

俺はこの効果により、墓地のワーム・アポカリプスを裏側守備表示で特殊召喚

最後に4種類以上の効果、自分の墓地の爬虫類族を除外する事で発動

場のモンスター1体を墓地へ送る……墓地のワーム・ルクイエを除外し、超魔神イドを墓地へ送る」

「させて溜まるもんですか！

罠カード、破壊指輪<sup>リング</sup>を発動！

自分の場のモンスターを1体破壊し、お互いのプレイヤーに1000ポイントのダメージを与える！

超魔神イドを破壊して、お互いに1000ポイントのダメージよ！

私は漆黒の太陽の効果でライフを回復するけどね」

む……逃げられたか。

俺のライフは残り2700、相手は39200……ライフ差が凄まじいぞ  
そろそろ大量に削るつもりだが……どこまで減るかな？

「魔法カード、太陽の書を発動

場に存在する裏側守備表示モンスター1体を表側攻撃表示にする

この効果により、ワーム・アポカリプスをリバースし、リバース効果発動  
場に存在する魔法、罠カードを1枚破壊する

そちらの伏せカードを1枚破壊してもらおうか？」

破壊されたのは本陣強襲……確かにこのカードも自爆カードだったな

残っている伏せカードは1枚に、生還の宝札と漆黒の太陽の計3枚か……

「ワーム・キングの効果を発動

自分の場に存在するワームと名の付く爬虫類族を生贄にする事で、相手の場のカードを1枚破壊する

俺はワーム・アポカリプスを生贄に、残っている伏せカードを破壊する」

「くっ……最後の伏せカードまで！」

破壊したカードはセルフ・ボム……自分のモンスターを全て破壊する罠カードか

本来ならブラフにもならないカードだが、あのデッキではかなり面倒なカードになるんだな。

「これで心置きなく攻撃できるな

バトルフェイズ、ワーム・キングで直接攻撃ダイレクトアタック」

「きやあー！」

「ワーム・ゼロで直接攻撃ダイレクトアタック」

「あうー！」

「現在墓地の爬虫類族は22体、よってワーム・ヴィクトリーの攻撃力は11000

だが、罠カード発動、毒蛇の供物

自分の場の爬虫類族モンスター1体と、相手の場のカード2枚を選択し、破壊する

俺は自分の爬虫類族としてワーム・キングを、相手の場合は漆黒の太陽と生還の宝札を破壊する」

「漆黒の太陽と生還の宝札が……」

どうせヴァイパー・リボーンの効果でエンドフェイズ時にはワーム・キングは破壊されるんだ

さつさと破壊した方が無駄にならん、ワーム・ヴィクトリーの攻撃力上昇にも繋がるしな。

「墓地にワームと名の付く爬虫類族モンスターが増えた事により

ワーム・ヴィクトリーの攻撃力がアップ、攻撃力11500だ

ワーム・ヴィクトリーで直接攻撃」ダイレクトアタック

「くっとううー！」

合計ダメージは25700……残りライフは13500かまだそんなに多いのかよ。

本来ならオーバーキルなんてもんじゃないぐらいの大ダメージだぞ？

なんというか、俺もよく攻撃力を上げたが、向こうもよくライフを増やしたもんだと感心した。

「カードを1枚伏せ、ターンエンドだ」

「私は……負けない！ 私のターン、ドロー！」

墓地の超魔神イドを蘇生させ、速攻魔法、死者への供物を発動！

次のドローフエイズをスキップして、場の表側表示のモンスター1体を破壊する！

私はこの効果により、私は超魔神イドを破壊！」

このタイミングでイドを破壊する？

というか、スキップまでしてイドを破壊する理由がイマイチ分からん。

「手札を1枚捨て、The Supreme S.A.Nを蘇生！

これが私の、最終手段よ！ チューナーモンスター、ヴァイロン・スフィアを召喚！」

ヴァイロン？ 何故ヴァイロン？

いや、それよりもこの状況だと……まさか！

「LV8のThe Supreme S.A.Nに、LV1のヴァイロン・スフィアを

チューニング！

巨大なる機械仕掛けの神よ、我が下に降臨し、邪念を払え！

シンクロ召喚、機械神、ヴァイロン・アルファ！」

し、し、シンクロ……召喚？

お前、この時代でそんな事をするなよ、面倒になるだろうが。

「ヴァイロン・アルファの効果発動！

このモンスターのシンクロ召喚に成功した時、墓地の装備魔法1枚をこのカードに装

備する事ができる！

この効果により、ヴァイロン・アルファにヴィシヤス・クローを装備！ 攻撃力を300ポイントアップさせる！

更に、ヴァイロン・アルファは装備カードを装備している限り  
装備カード以外の魔法、罠カードの効果では破壊されない！」

「……………で？」

「馬鹿にして…………カードを一枚伏せて、ターンエンドよー！」

ヴァイロン・アルファは守備表示だが、まあ別に問題は無い。

どうせもう蘇生されるモンスターは超魔神イドのみ

蘇生されれば効果が発動し、モンスター効果からは破壊を回避できないヴァイロン・アルファだ。

放置しても何も問題は無いだろう…………多分。

「俺のターン、ドロー！」

「この瞬間、超魔神イドが蘇生される！」

そしてこの特殊召喚時に罠カード、激流葬を発動！

モンスターが召喚、特殊召喚、反転召喚された時、場のモンスターを全て破壊する！

この効果でワーム・ゼロ、ワーム・ヴィクトリー、超魔神イドを破壊するわ！

そしてヴァイロン・アルファは装備カード以外の効果では破壊されない！」

「……………超魔神イドの効果は無効にされてないから発動するし」

ヴァイロン・アルファの効果はモンスター効果の破壊からは回避できないぞ？」

「……………も、問題無いわ！」

私のライフはまだ多いし、次のターンには超魔神イドが戻ってくるもの！」

こいつ、絶対にノリと勢いでヴァイロン・アルファをシンクロ召喚したな。

そして効果も忘れていたと……自分の場のカードが全て消えたぞ？

「魔法カード、強欲な壺を発動、デッキからカードを2枚ドロウする

カードを2枚伏せ、ターンエンドだ」

デッキにモンスターが入っていないからどうしようもできんな。

まあ向こうも死者への供物でドロウができないからイドに頼るしかできん。

「私のターン、死者への供物の効果によってこのターンドロウできないわ

でもスタンバイフェイズ、墓地の超魔神イドが復活！ダイレクトアタックイドで直接攻撃！」

ぬう……2200のダメージで残りライフが500まで減ってしまったか。

さすがにこの状況はやや厳しい

負けるとは言わないし、勝つ気だがもう少しライフが無いと心許ない。

回復手段は無いから諦めるしか無いがな。



「罨カード、ダメージ・ゲートを発動

自分が戦闘ダメージを受けた時、受けたダメージ以下の攻撃力のモンスターを墓地から特殊召喚する」

「え……え？」

「俺が今受けたダメージは2200

よって攻撃力2200以下のモンスター、ワーム・ヴィクトリーを蘇生させる」

「うそ……うそ！」

「墓地のワームと名の付く爬虫類族は24体……よって攻撃力は12000だ」

これで俺の勝ちほぼ確定した

この状況で相手にできる事は無いに等しい。

「……まだ、まだ負けてない！」

私はこれでターンエンド！」

「エンドフェイズ時、罨カードを発動する、W星雲隕石

そしてもう1枚罨カード、転生の予言を発動

転生の予言はお互いの墓地に存在するカードを2枚選択し、持ち主のデッキに戻す

俺が選択するカードはワーム・キングとワーム・クイーン、この2枚を持ち主である

俺のデッキに戻す

ワームと名の付く爬虫類族が減った事により、ワーム・ヴィクトリーの攻撃力が11000まで下がる

続いてW星雲隕石の効果、裏側表示のモンスターを全て表側守備表示にする……が、今は関係無い

発動ターンのエンドフェイズ時に自分の場の光属性・爬虫類族モンスターを全て裏側守備表示にする

そして裏側守備表示にしたモンスターの数だけドロウする……ワーム・ヴィクトリー1体なので1枚ドロウ

その後、自分のデッキよりLV7以上の光属性・爬虫類族モンスター1体を特殊召喚する事ができる

俺はこの効果により先ほどデッキに戻したワーム・クイーンを特殊召喚する」

「いやよ、私は負けたくない、貴方なんかには負けたくない！」

現実是非情だよねえ……

「俺のターン、ドロウ」

ワーム・クイーンを生贄に、ワーム・キングを召喚する

ワーム・キングはワームと名の付くモンスターを生贄にする場合、生贄1体で攻撃表示で召喚する事ができる

そして裏側守備表示になっていたワーム・ヴィクトリーを反転召喚し、リバース効果を発動

場に存在するワームと名の付くモンスター以外を全て破壊する

この効果により、ワーム・ヴィクトリーとワーム・キングは生き残るが、超魔神イドは破壊される」

「……………」

もう言葉も出ないか？

「ワーム・ヴィクトリーの攻撃力は墓地のワームと名の付く爬虫類族モンスターの数×500ポイントアップする

俺の墓地に存在するワームと名の付く爬虫類族モンスターは23体……よって攻撃力は11500だ

バトルフェイズ、ワーム・キングで直接攻撃」  
ダイレクトアタック

13500のライフが10800まで減った

俺の場にはワーム・ヴィクトリー……攻撃力11500のモンスターだ。

「ワーム・ヴィクトリーで直接攻撃」  
ダイレクトアタック

「あ……………う……………ああ……………」

へなへなど、力が抜けたように座り込む女生徒……そういえばこいつの名前は何だ？

そんな事は後でもいいが、どちらにせよこいつからは話を聞き出さないとならない。  
「さて……」

「っ！」

近づき、声を掛けた瞬間に身を竦ませる女生徒

そんなに怯えられたら……苛めたくなくなってしまいうじやないか。

「問答無用で、俺の存在を否定してくれただんだ

覚悟は……できているよなあ？」

「ひっ！」

いや、怯えすぎだろお前、確かに脅してるのは俺だけどさ。

しかしまあ、この状況はキツチリと利用させてもらおうかな？

怯えてるなら素直に話してくれそうだし、その方が楽だ。

「色々と訊きたい事が有るが……」

俺が不便だ、まずは名前から教えてもらおうかな？」

「……………咲良……結美」

「漢字は？」

「……花が咲くの咲、良い悪いの良、美しく結ぶと書いて結美」

咲良結美……ね、知らん名前だな。

アニメにもゲームにも、こんな名前のキャラは居なかったはず

ま、あそこまで暴れてくれたんだ、大体の予想はできてる。

「お前、別世界から来た人間だな？」

「……………そうよ、遊戯王デュエルモンスターズ、OCGカード

シンクロモンスター、チューナー、エクシーズモンスター

これで十分証明になるでしょう？」

「ああ、十分だ」

さて、何よりも気になる事を訊かねばならないな。

「何故、お前は俺の事を知っている？」

俺も別世界から来たが、お前の事は知らない

どこかで知り合ったかもしれないと予想もしたが……………記憶に無い

言え、俺の事をどこで知った」

「言えないわ、これだけは絶対に言えない」

へえ……………もう少し脅迫するかな？

それでも口を割らないなら……………

「言え」

「言えない」

決闘盤にワーム・ヴィクトリーをセットし、召喚する。

ソリッドビジョンとはいえ、その姿はワーム特有の気持ち悪さを現している

更にこいつは今先ほど、咲良にトドメを差したモンスター……とても見たくない姿だろう。

「う……それでも、言えない！」

強情な奴だ……しかし、変に危害を加えたいとは思わない。

暴力は好かないから精神的に攻撃するしか無いのだが……今は手持ちに何も無い鞭とか持ってくればよかったかな？ 音を鳴らすだけでも大抵は怯える。

これ以上は無駄だろうと思うのでワーム・ヴィクトリーは消しておく。

「ふう……もういい、お前の相手は疲れた

これに懲りたら二度と俺の前に立たない事だな

気になる事は多いが、俺はただともに生活できればいいんだ

俺の平穏を邪魔するのなら……容赦はしない」

原作なんか知らん、興味が湧いた時にちよつかいを掛ける程度でいい。

だが、自分からではなく他から厄介事が来た場合は気に入らない……

巻き込まれるのはお断りだ、面倒だからな。

「貴方が……変な事をしなければ、私も何もしないわよ」

「俺の自由を阻害するのなら再び潰すだけだ」

「その自由で人様に迷惑を掛けるのよ、貴方は

だから私は止める……何回でも！」

俺がいったい何をした……さすがに腹が立ってくる。

一方的にこの扱い、ここまでされて怒りを感じ無いはずが無い

睨み付けると、咲良も睨んできた。

「……………」

「俺は帰らせてもらおう

できれば二度と決闘デュエルをしない事を願うね」

「それは無理よ、貴方がそんな態度をしている限り……」

俺は咲良を放置し、レッド寮に向かう事にした。

……………

……………

……………

レッド寮に戻ると歓迎会と称した晩飯……白米に味噌汁と小魚

懐かしいなあ……一人暮らし開始時はこんな貧相な食事をしてたっけ？

ある程度余裕が出てきた時から食生活は見直したが、本当に懐かしい。

寮長である大徳寺教員が何かを言ったり、遊城十代が騒いでいたり

レッド寮の境遇を感じ取り、何やら落ち込んでいる生徒を完全に無視。

ボロい建物だが、別に気にする問題じゃない

高級な建物や広い部屋に興味は無いし、寧ろ狭い部屋の方が気楽だ。

ただ、この寮では2人から3人で同室らしい。

同じ部屋に割り当てられた奴が居るが……追い出しておいた

3枚、レア度の高いカードを渡し、移動先で同室の奴にも3枚渡す。

これで俺はこの部屋を1人で使う事ができ、色々と自由に過ごす事ができるように  
なった。

さて……時間ができた時や余裕が有る時に考え事をしてしまふ、時間を無駄にしたくない俺の癖。

今考えられる内容は次に使うデッキ、この学園での生活、今後の動き方、元世界の原作知識、そして咲良の件

同室の奴を追い出したのは俺の持つカードを見られない為、他にもオークションの事を知られない為だ。

デッキを見られるのも嫌という理由も有るし、1人暮らしの方が慣れている。

学園での生活に関して、これはもう流れに任せるしか無いだろう。



俺の行動できる範囲はそこまで広くないし、権限や立場も無いからな

今後の動き方も同じで、今はおとなしく普通に学園生活をするしか無さそうだ。

原作知識……正直、あまり記憶に無い。

アニメを観たのは何年前か分からない、ゲームの知識も心許ない

重要人物ぐらいは覚えてるが、それ以上の事は大きな出来事しか覚えていない。

もうこの件に関してはどうしようも無いので諦める。

そして最重要、咲良結美の件だな。

何度考えても咲良が俺を知っている理由が全く分からない。

可能性として、俺がこの世界で過ごして来た内容がアニメでも放送されたとか？

そしてそのアニメで放送された事から俺を知り、未来を知っている？

それならばあの態度や、俺の事を知っているのも納得できない事も無いが……

どちらにせよ、あの女は気に入らない……俺の自由を邪魔するのなら叩き潰すのみ。

……なんだ、あの女の対応はもう決まっているじゃないか

邪魔しなければよし、邪魔をする場合は……潰す、これで終わりだ。

さて、悩みも解決した事だし……オークション状況でも見て楽しむかなつと。

この世界の奴は馬鹿ばかりだ、ちよつと珍しいカードをちらつかせれば金を湯水のよ

うに流してくれる

少し時間が経つだけで増えていく金額を眺める、それが楽しくて仕方がない。

ふふふ、そんなカード、俺は100枚以上持つてるよ……そう言つて高額で買った奴の目の前でカードを切り刻むとか楽しそうだ。

適当に時間を潰しながら、デツキも作る。

時々カードの値段を見て楽しむ、そしてまた作業に戻る。

趣味と遊びと実益の有る生活なんて懐かしすぎる。

若いつていいねえ……少しぐらいやんちゃしてもいいかな？

若いと色々と便利だし、今まででできなかった事でもしよう。

本来の人生では絶対に味わえない経験なんだ、精々楽しむとしようかね。

### 3話【女子寮の事件】

私は遊戯王には元々興味が無かった。

二次小説が好きで、次は何を読もうかと探していた時

偶然、本当に偶然あの小説を見つけた。

ルールはよく分からなかった、でも圧倒的な様子に何か反則をしているのだと思っ  
た。

気になってルールを調べた、特に反則はしていなかった事に気付いた。

それは凄い事だと、純粋に驚いた時もある……だけど、それだけ

序盤は気にする程でもなかった、だけど段々と酷い行動ばかりする事が気になってき  
た

もうダメだと、途中から見ていられなくなってしまった。

だけど、遊戯王という作品は好みになった。

アニメも観たし、カードも沢山集めるぐらいには好きになった。

大会には……人前に出るのが恥ずかしくて、出たかったけど出られなかった。

様々な事を考えている内に、あの酷い行動をする人に勝つにはどうすれば良いのか考

えた

嫌っているリセットカード、全体破壊、1ターンキル……いくらでも手段は浮かぶ。でも……それで勝っても意味が有るのか疑問が出てくる

納得させられる勝ち方をしなければ、多分意味が無いのだろう、そう思った。

あの世界で、ルールで、自分の持つカードで……

そして決めた、使うデッキは「超魔神イド」を中心としたデッキ。

どんなデッキが相手でも、このデッキならまともに戦えると思う

高い攻撃力が相手でも、破壊してしまえば怖くないから。

実際はどうなのか、対人戦は殆ど経験が無いから分からないけど。

デッキが完成し、寝ると……知らない場所で目が覚めた。

どういう事なのか訳が解らない、だけど部屋を色々と見て気付いた

机の上に置いてあった決闘盤<sup>デュエルディスク</sup>……遊戯王の世界に来たのだと。

体は私のまま、だけど僅かに若くなっていた……元の年齢と僅か数歳違いだろうか？

自分のデッキを確認してみる、すると昨夜作ったデッキだった。

だけど同時に、全く知らないカードが落ちていた……アニメや漫画だけのオリジナル

カード

他にも私が元々持っていないカード、元々持っていたカードも含めて沢山のカードが

有った。

私のデッキの為だけに用意されたと思えないカード達、私はすぐにデッキを編集し始めた。

シンクロモンスターカード、エクシーズモンスターカード、チューナーモンスターカード

時代を確認してみたけど、どれもこれらのカードは存在していなかった。

私だけが使えるカード、嬉しい誤算だけど、使っても騒ぎにしなければならない気がするから使えない

仕方無く、私はサイドデッキ用として、未来のカードをあまり使わない事に決めた。

この世界を調べている時、カードオークションを発見した。

有るはずの無い、この時代に無いカードがとて高額で取引されている

これを見た瞬間、誰か私以外に同じような状態になった人が存在している事に気付いた。

会えるのなら会って、お互いに状況を確認したいけど……なんとなく嫌な予感があったから止めた。

デュエル・アカデミア……私はそこまで知識は無いけど、入ってみたいと思った。

アニメでも知っている場所だし、この体の持ち主も入ろうと受験していたみたいだし

いつ元の体に戻るか分からないし、私が代わりに頑張ってみよう……そう決めた。筆記試験は……あまり良くない、31番

実技試験だけど、どんなデッキを使えばいいのか悩む。

一応、手加減したデッキを使えばいいのかしら？

【超魔神イド】のデッキは確定だけど、デッキを全体的に加減しておく

これぐらいいしないとこの世界では強すぎるから、まだまともなデッキに……

『受験番号2番、堅守瑞貴さん

4番の決闘場デュエルフィールドに移動してください』

……え？

聞き覚えの有る名前に釣られ、決闘場デュエルフィールドを見る。

姿は初めて見るけど、名前からしてほぼ確定……後は持っているカード。

使われたカードはジャイアントウィルス、ガード・ブロック

メカウサー、転生の予言、リターン・ソウル、ナチュル・ビーンズ、ヴィシヤス・ク

ロー

くず鉄のかかし、ガード・ヘッジ、火の粉……堅守瑞貴以外に有り得ない。

私が過去読んだ二次小説内に入り込んだ？

詳しく読んでないから記憶違いかもしれないけど、対戦内容が違う気がする。

だけど、彼は確実に堅守瑞貴……きっとみんなに酷い事をする！

使うデツキはあまり覚えていないけど、彼のした酷い行動はよく覚えている。

彼がここに居るのなら、ここは確実に遊戯王GXの世界。

またあんな酷い事をするのかと思うと……放置なんてできない！

アニメのキャラ達にあんな事させない為に、絶対に追い出さないと！

……

……

……

学園に向かう時に乗った大型ヘリ

その途中、堅守瑞貴は目を閉じて黙ったまま……何をしてるのかしら？

堅守瑞貴に話しかける男子……アニメキャラの三沢大地

だけど堅守瑞貴は彼の言葉を切り捨て、馬鹿にする。

次に話しかけたのは遊戯王GXの主人公である遊城十代

凄く適当にあしらう姿に、どうしても納得できない。

アニメキャラと会って感動とか、そういうのは無いのかしら？

実技試験の時、古代の機械巨人アンティーク・ギアゴレムを倒した十代の姿に凄く感激した

今も話しかけたかったけど、あまり機嫌が良く無さそうだし諦めた。

入学式、真面目に校長の話を聞いていたんだけど、それ以上に気になってしまふ堅守瑞貴の存在

ずっと睨んでいたんだけど、何故か森に入り出す。

暫く歩き、広い場所に出て動きを止める堅守瑞貴……何をしているのかしら？

少し待つけど動きが無い……もしかして、気付かれた？

諦めて出て行くと、やはり気付いていたような発言をされた。

気を取り直し、私は堅守瑞貴にこの学園から出て行くように言う

でも予想はしていたというか当然だけど、出て行く気は無いみたい。

そして決闘をしたんだけど……負けた。

脅迫をされ、名前を言わされ、別の世界から来たと当てられるのは……仕方無いわ。

でも私の事までは分からない、自分が二次小説のキャラクターだなんて想像もできな

いはず

私はこの記憶を利用して、絶対にアニメキャラ達を守ってみせる！

---

咲良結美に喧嘩を売られた数日後。

極々平凡に学生生活を送っていた……の、だが

とある日の夜、メールメッセージが送られてきた。



誰からかと思ったが知らないアドレス……何事？

『堅守瑞貴、女子寮まで来なさい』

来なければお前の秘密を晒す』

……はて、俺の秘密ってなんだ？

晒されて困るような秘密なんてカードを売りまくっている事ぐらい？

多少面倒事になるかもしれないが、別にそこまで困るかと問われればやや微妙だ。

それ以外での俺の秘密……別世界から来た事？

だとしても、咲良以外に俺の事を知っている奴なんて……なるほど。

このメールを送ってきたのが咲良結美か

俺に興味を持ち、女子寮に呼び出すという行動を起こすような奴は咲良以外居ない。

まあ、万が一……万が一咲良以外の場合

俺の気が済むまで嫌がらせをして泣かせるぐらいで済ませてやろう。

咲良の場合は当然、俺に面倒な事をさせたという事で叩き潰す。

しかし、あまり行く気にはなれんな……女子寮だろ？

男子である俺が入って、変な騒ぎになったら気分が悪いし

濡れ衣をかぶせられても困る……そんな事をした奴は潰すがな。

……ん？ 女子寮に濡れ衣？

何か引つかかるな……原作アニメに何かこんな感じの事が無かったっけ？

何か有った気がするんだが、なんだったかな？

アニメで起こった事なんてあまり覚えていないし、思い出せん。

思い出せないのは気分が悪いし、行ってみるかな。

行かないと何をされるか分からないし、俺も気分が悪いから丁度良い。

咲良は追い出す程度で済ませているんだ、大した事はできないだろう。

俺みたいに潰すとか、邪魔だから排除するなどという所までの気持ちは無い

程度の低い志だ……その程度だから先日は俺に負けたんじゃないだろうか？

ま、志だけで勝てるのなら誰も苦労はしないか……この世界では例外になりそうで若

干怖いかな。

なんだかんだで結局アニメ世界、気持ちや意思の強さで実力が変わっても不思議じゃないか。

凄まじく面倒な気持ちを持ちながら、レッド寮を出る。

すると、丁度同じように寮の部屋から出てきた遊城が……嫌な予感しかない。

「あ、お前は確か……」

「……………」

「ちよっと待ってくれよ！」

無視してそのまま歩いて行くが、呼び止められる。

深い不快な溜め息を吐き、不機嫌なように若干睨みながら遊城の顔を見る。

俺の不機嫌そうな顔を見て少し怯んだものの、勢いを殆ど劣らせずに叫ぶ。

「なあ、翔がどうなったか知ってるか？」

「……………」

意味が分からん。

そもそも翔って確かか……そう、遊城とよく一緒に居た水色の髪の背の低い奴じやな  
かったか？

何故俺がそいつを知っていると思うのか……というか、突然何故俺に訊いた。

「無視すんなよ！」

「はあ……俺は用事が有るんだよ」

「女子寮に行くのか？」

何故お前が知っている……こいつも呼び出された？

俺と遊城、関連性が薄い俺達を呼ぶ理由は何だ？

遊城の言う、翔が関係有るとしても、俺を呼ぶ理由にはならない。

「行くんだよな？」

なら一緒に行こうぜ、どうなってるのか分からないんだ」

「……………」

面倒だ、面倒だが……付き合ってやるか。

再び深い溜め息を吐き、女子寮に向かって歩きだす。

「ちよ、待つてくれよ!」

慌てて俺を追う遊城だが、気にせず歩き続ける。

道中、何度か話しかけられたが無視しておいた

相手にして妙に懐かれたら嫌だし、元々好かない性格だからな。

暫くしたらさすがに諦めたのか、遊城も黙ったが。

……………

……………

……………

ボートに乗って女子寮の裏まで移動する。

ただ、俺はオールを漕ぐのが面倒だったので遊城に押し付けた。

文句は言われたが、翔という奴が心配じゃないのかと言うと真剣な顔になってボートを漕ぎ出した。

なんというか、単純な奴だと思う。

女子寮の裏に着くと、4人の女生徒と1人の男子生徒が待っていた。

男子生徒は十中八九、遊城の言う翔……アニメの登場キャラの記憶は有るが、印象は薄い。

女生徒は咲良結美、金髪、赤茶髪、黒髪の4人……この咲良以外の3人、どこかで見た事有るような？

「アニキ〜……」

「翔、これはどういう事なんだよ？」

そして翔……：そういうえばこいつの名字なんだっけ？

とにかくこいつは何故かロープで手首を縛られて捕まっている。

はて、ロープなんてそこら辺に有るような物だろうか？

もしかしてあの4人の内の誰かの趣味か？ 俺はSMプレイ見る趣味は無いぞ。

「それが話せば長いような、長くないような……」

「こいつがね、女子寮のお風呂を覗いたのよ」

「なんだって？」

赤茶髪の一言で俺の行動は決定した。

直接目の前で言ったら何を言われるか分からないし、後ろを向いておくかな。

「覗いてないって！」

「それが学校にばれたら、きつと退学ですわ」

えっと、鮎川教員の電話番号はなんだったかな？

いや、この時間だし寝てるかもしれないな……クロノス教員なら起きてるか？  
それとも学園長にするべきか……でもあの学園長、なんだか緩そうだしなあ  
無いとは思いますが、万が一無罪にでもなったら連絡する意味が無いし。

「ねえ十代、私と決闘デュエルしない？

もし私に勝ったら、風呂場覗きの件は大目に見てあげるわ」

「だから覗いてないって言ってるのに！」

「なんだかよく分からないけど、まあいいや！」

その決闘デュエル、受けて立つぜ！」

お、その発言は戴いておこう。

例え無実だとしても、同室の奴がある意味翔の行動を肯定したんだ。

何せ、この決闘デュエルを受けるといふ事はあいつが風呂場を覗いたと認め、解放すると言っ  
たんだ。

本当に翔が覗いていないと信じるならば、翔は覗く奴じゃないと断言し、決闘デュエルを受け  
てはいけない。

まあ、別に遊城ではなくとも、この場で決闘デュエルを受けなければ本当に通報されていたか  
もしれないし

間違った行動かと問われればやや微妙か……それはさて置き、クロノス教員に電話電話……話つと……

「ん？」

ちよつと堅守瑞貴、何をしようとしているの？」

咲良の言葉を無視し、クロノス教員に電話を掛ける。

俺の行動に気付いた咲良は慌てて俺に向かって来る。

「ちよつと待ちなさい、堅守瑞貴！」

掴み掛かってくる咲良を回避し、電話を続けるが……出ないな。

外出中か？ こんな時間に……それとも既に寝ているのか？

「その電話を止めなさい！」

咲良から逃げ続け、仕方無く鮎川教員に電話してみる。

なんだかあの人は寝ているような気がするんだよなあ……健康生活とかしてるイメージが少し浮かぶ。

「~~~~~！」

止めなさいって、言ってるでしょ！」

「おお？」

「あ……」

咲良に押され、バランスを崩し……俺は湖に落ちた。

やはりまだ寒くなっていない季節とはいえ、水は水、やはり冷たい。

更に服を着ているので水を吸い、重くなっていく。

まあ、泳げるから溺れたりはいしないのだが……溺れておくかな？

1度だけ顔を上げた瞬間に大きく息を吸い、沈んでいく。

さて、潜水したまま移動するかなつと……

俺は水中を移動し、離れた場所まで向かう。

どの辺りがいいか……あいつらに見つからないように、とりあえず離れておくか。

「あ……」

堅守瑞貴が電話を止めないので、つい押ししてしまって……水に落としてしまった。

すぐに上がってくると思ったけど、1回だけ水面に出てそのまま上がってこない……

もしかして、泳げないとか？

「上がって来ませんわね」

「上がって来ないわね」

「上がって来ないな」

「上がって来ない……わね」



「上がって来ないツスね」

みんなの視線が私に刺さる。

ど、どうしよう？ 堅守瑞貴に居なくなつて欲しいとは思つていたけど、死んでほしいだなんて思つていない。

もしかして私、殺人？ 殺害者？ 犯罪？ 人殺し……え？ え？ あれ？ うそ？

「「「「「……………」」」」」

暫く沈黙が場を支配する。

「ど、どどどどどどうし、どう、どうすれ、どう、どれすれらす!？」

「おおお落ち着きなさいよ結美！」

謎の言語過ぎて意味が分からないわよ!」

「そ、そうですわ結美さん！」

落ち着いて、まずは深呼吸をしましょう!」

「う、うん！」

すー……はー……すー……はー……」

うん、落ち着いた。

「qあwせd r f t g yふじこーp?!?!？」

「全然落ち着けてない!？」

「寧ろパニックになつてますわ！」

「ど、どうすればいいのかしら？」

「いや、俺に訊かれても……」

「僕もどうすればいいのかわかんないツスー！」

「（この辺りで上がつてつと……息も続かないしな

それにしても騒がしいな……ん？」

なんだ、咲良が錯乱してるのか、誰か飛び込んだりしてくれないかなあつと

ま、例えば飛び込んでも俺は離れた場所に居るから見つかるはずが無いんだが！

「（あばばばばばばばばば……私の偽ラブレターで、生徒の1人イが！

急いで探して助け無いイーと、もし知られたら首どころじゃ済まないノーね！

という訳でぶくぶくぶくぶく……）」

どうすればどうすればどうすればどうすればどうすればどうすればどうすればどう

すればどうすればあー!?

というか貴方確か20代でしょ！泳げるぐらいしなさいよ！

運動は嫌いでもできるんじゃないの!?なんでそれで泳げないのよお！

このままじゃ私人殺しの犯罪者にー！そんなの絶対に嫌あー！

「そうだ！潜って探せばいいんじゃないか！」

十代はレッド制服と黒いシャツを脱ぎ、水に飛び込む。

だけど私はそんな事に気付かずに錯乱しているだけだった。

自分の保身しか考えず、堅守瑞貴の安全なんて全く考えてもいなかった。

もしかしたら、所詮は二次小説のキャラクターだと考え、軽く考えていたのかもしれない。

どちらにせよ、その事すら私は気付けもしなかったのだけ……

さてと……これぐらい離れば大丈夫かな？

結構離れたな……暗いから水中に顔だけしか出していない俺には気付かないだろう。

俺は大体50mほど離れた位置に顔だけを出して浮かんでいる。

俺はそこまで目は良くないんだが、人影ぐらいは分かる。

数は……4つ？ いや、5つかな？

赤茶髪と黒髪に挟まれた翔の存在がよく見えないからちよつと分からん。

どちらにせよ、数が足りないから誰かが移動、または飛び込んだか？

誰でもいいか、俺を巻き込んだんだし、苦労してもらおう。

飛び込んだ奴には運が悪かったと思つて諦めてもらう

咲良が飛び込んでいると高望みはしないが……高確率で遊城かな？

あいつの性格上、真っ先に飛び込んでいそうだ。

おっと、鮎川教員に電話をしておくかな

翔の覗きを報告して、キツチリ何か罰を受けてもらわないといけない。

まったく、風呂なんて覗いて何が楽しいんだか……俺には理解できないな。

電話電話つと……待てよ？

覗いた女生徒が連絡するならともかく、俺が電話しては不自然じゃないか？

何故知っていると問われたら、女子寮に呼び出されて教えられたと言う事となる

だとすれば何故呼ばれたと、お前も覗いたのではないのか？ とか言われる可能性も

無きに有らず。

困ったものだ、これは先ほど話に出ていた遊城と金髪の決闘デュエルで遊城が負けてくれるの

を期待するか。

さて、そろそろお遊びは終わるかな。

息を大きく吸い込み、水中に潜り、元の場所付近に向かう。

若干酸欠で危ないかと思ったが、遊城が水中に潜っているのを見つけた。

少しだけ離れ、見つからないように注意をしながら静かに水上に上がり、大きく息を

吸う。

そして再び水中に潜り、遊城の近くまで泳いで目を閉じて静かに待つ。

すぐに遊城は俺に気付き、持ち上げて水面まで移動

少し酸素が厳しかったがなんとか間に合った……自業自得だが、もう少し早く助けてほしかった。

「ゲホッ！ ゲホッ！ ゲホッ！」

「大丈夫か？」

「だいじょつゴホッ！ じょうぶと思うのつゲホッ！」

思うのなら眼科にでつゲホッ！ でも行つてこつゲホッ！」

少し水を飲んでしまったか？ 咳が本当に止まらない。

軽く周りを見てみると、心配そうにしている女生徒3人組

まだ慌てている翔、安心してホツとしている咲良……待てお前。

お前は何を考えている？ もし本当に溺れていれば下手すれば人殺しになっていた

かもしれないんだぞ？

まさかお前……俺よりも自分の心配をしていたのではないだろうか？

俺も同じ事を思うだろうが、せめて表に出さない程度にはしろ

同じ事を考える俺でも、最低限でも心配そうな顔ぐらいはするぞ。

俺以外に気付いている奴は居ないだろうから大丈夫だろうが。

「それだけ悪態ができるのなら大丈夫そうね」

「はふう……安心したら気が抜けました、立てませんわ」

「私も少し……ほらももえ、しつかりしなさい！」

黒髪の名前はももえね……一応、覚えておくか。

あまり望みたくはないのだが、会う機会はまだ有る気がする。

無意味な関係は作りたくないものだ……

「はあ、はあ、はあ……」

逆恨みの自覚は有る、だがこうなった原因を怨んでも……仕方無いよな？」

「それってどういう意味だ？」

自業自得の自覚も有るし、逆恨みの自覚も有る。

だがしかし、あいつが覗きなんてしなければこうはならなかった。

俺が来ると決めなければ良かった、俺の責任も当然有る。

興味も無かったが、あいつは俺の中では嫌いな奴と仮定しておく

後々の翔の行動により、今後の対応を決めていこう。

「ふう……さて、俺も来た目的を果たそうかな」

「そういえば私は貴方と呼んでないわね

十代だけしか……どうして来たの？」

「女子寮に来なければお前の秘密をばらしてやる

そんな脅迫メールが届いてな……誰が送ったのかは大体予想は付いているが  
でだ金髪、お前も知らないんだな？」

「金髪って……私の名前は天上院明日香よ！」

「自己紹介もしていないのだから仕方無いだろうが」

初対面の相手も多い気がするし、自己紹介でもするか？

俺は咲良以外誰も名前を知らん」

名乗られていないだけで知っている名前も数名居るがな。

間違っている可能性も有るし、自己紹介をしてくれると助かるのは事実。

「……そうね」

改めて、私の名前は天上院明日香、オペリスクブルーの1年生よ」

「俺は遊城十代！」

オシリスレッドだ！」

「僕は丸藤翔……オシリスレッドだよ」

「私は枕田ジュンコよ」

「私は浜口ももえですわ」

「………咲良結美よ」

「堅守瑞貴だ」

「クロノス・デ・メデイチなノーね

お呼びでない？ あらそうぶくぶくぶくぶくぶくぶくぶくぶくぶくぶく……」

よし、覚えた……が、呼ぶ機会が少ないと助かる。

やっぱりメインキャラ達だろこいつら……巻き込まれそうで嫌だ。

来なければ良かったかな？ だとすると困る事も有ったし、難しい所だ。

さて、いい加減にこの状況を動かすか。

なんだかんだで俺の沈没で動きが止まっているみたいだし

俺が進めなければ暫く動きそうにない。

「ところで、丸藤の奴は通報していいよな？」

「へ？ 僕？」

「覗きだろ？ 犯罪だよな？」

性犯罪、男だから覗きをしたい気持ちがあるのは仕方無いだろう

だがそれを理性で抑えられないのはやはりどうかと思う

ならばさっさと刑務所に入ってもらって、理性的行動というモノを覚えて貰いたい」

俺の言葉に全員が啞然となる……何故だ？

「だ、だから僕は覗いてないって！」

「証人が居る以上、男性のその主張が通る事は無い



女性が覗いたと判断し、現行犯で捕まったのならば弁解の余地は無い  
性犯罪の時点で9割以上の確率で有罪になるだろう

そしてお前が覗いていないという証人も居ないしアリバイも無い

ああ、そもそも現行犯にアリバイも何も無いな……さて、警察を呼ぶか」

「待つて、待つてつてばあ！」

「待ちなさい堅守君！」

「……被害者である天上院が何故止める？」

さつさと警察に通報してやるのが世の為人の為女性の為学園の為俺の為

学園に残しておいても何一つメリットも無いのに止める理由は無いはずだ」

「(なんだか私の想像以上ウーに、凄まじい事になつてるノーね

あれ？ これ私のせい？ いやいや、騙された丸藤翔が悪いノーね！

でも私が狙ったのはドロップアウトボーイであつて、彼じゃないノーね

このままで丸藤翔が逮捕さレーて、騒ぎになるかもしれないの！

それは拙いノーね！ カイザーの弟が覗きで捕まったとなつたら大騒ぎ所オーか

下手すれば彼の人生まで滅茶苦茶にしてしまうかもしれないの！

どどどどうすればいいノーね！ 私が出て行く事もできないイーし！ 困ったノーね

！・）」

さすがに酷すぎる……かもしれない俺の言葉に絶句される。これぐらいは普通だと思っただがな。

アニメ世界だからって適当に済ませて良い問題じゃないはずだ。えつと……メリットなら有るわ

私は十代と決闘デュエルしたいの」

「関係が理解できん」

「だから、私に勝ったら翔君を解放するという条件で決闘を……」

「別にそんな条件なんて付けなくても」

遊城ならどこでもいつでも、決闘デュエルしようと言えばするだろ

態々こんな無駄な事を起こさなくてもできるだろ？

それとも、こんな夜中のこんな場所、そして人質を解放するという条件が無ければならない理由でも？」

「そ、そんな事は……」

まったく、アニメ内では決闘デュエルする理由付けとかかなんというか

どうせ何かしら文句が無ければ盛り上がりがないとも思ったんだろう。

だがしかし、今の俺からすればアニメ世界でも現実だ。

ならばアニメ内での意味不明な所まで弄っておこう。

こうやって相手を言葉だけで攻めるのって、凄く楽しいしな。

やっぱり学生って立場はいいなあ……社会人ではできない事が沢山できる。

社会人になったらこんな態度をすれば批難されるのは俺の方の可能性も有るし

同い年だからといって立場というものが邪魔をする、学生は自由に本当に楽だ。

「堅守瑞貴、言い過ぎよ」

あ……天上院さんだって良い機会だと思っただけのはずよ

別にそんな難癖を付ける必要は無いんじゃない？」

「性犯罪者を無罪で解放する事が良い機会デユエルか？」

決闘だけでなんでも解決するのなら警察は必要無いな

被害者が無罪でも構わないと言うのなら話は別だが……

条件付きで無罪とする時点で許しているとは言えるかはやや微妙だ」

「それは……」

「うーん……」

枕田と浜口は消極的とはいえ、許すつもりは無いようだ。

この場合、条件付きとはいえ無罪にしようとしている天上院の方が珍しい。

咲良は……アニメと同じ展開にでもしたいのだろうか？

俺が流れを変えているから戻そうと思っていると思っただけだろう。

どうせ、俺が来る可能性が高いと予想して天上院達と一緒に居たんだろうしな。

「なら無罪放免じゃなければいいの？」

「そうは言っていないが……」

「ならしよ……丸藤君、天上院さんとじゅ……遊城君がこの後決闘するとして

遊城君が負けたら学園に突き出される

天上院さんが負けたら1週間の間、私達の使いつ走りつてのはどう？

丸藤君が冤罪と言うのなら納得できないかもしれないけど、殆ど無罪になるのだから

いいでしょ？」

安いなおい、お前らの裸の価値は1週間の使いつ走り程度なのか？

俺がその内容で期間を決めるのなら短くても1ヶ月は奴隷にさせるぞ。

最長では半年ぐらいか……俺としてはそれぐらいが妥当だと思いがな。

「ううう……断ると問答無用で警察に突き出される気がするッス」

賢明な判断だな、もし断っていたら俺は問答無用で警察を呼んでいたぞ？

俺としては妥協したくないが、被害者がそれで許すのなら良いだろうし

やや優しい処置な気もするが、美人の付き人になれるのなら幸運なんじゃないか？

多分、世間一般からの考えとしては……おそろくだがな、俺は絶対にお断りだが。

「なんだか変な方向に話が向かったけど」

十代、私との決闘デュエルは受けてくれるわね？」

「最初に言ったぜ、その決闘デュエルは受けて立つてな！」

うむ、話を無駄無意味不必要に拗らせるのはしても見ても楽しいものだ。

でも横槍を入れるのも楽しいんだよなあ……それはもう、真剣にしている奴に対してするのが。

しかし今回は変に手を出しても意味が有るとは思えないから止めておくか。

「(原作通りに……なった?)

大丈夫のはず、十代と明日香が決闘デュエルするのが原作だもの

堅守瑞貴と明日香の決闘《デュエル》なんて、本来は無い流れ……これで良い

凄く話が拗れたけど、実際に翔に覗かれたのは事実だし……

うううう……恥ずかしいよお」

俺はもう帰ってもいいよな？

既に話の決着は着いているし、後は遊城と天上院が決闘デュエルをするだけだし。

それにもう何が起こったのか理解したから気にする事はもう無いからな。

しかし帰るにしてもボートは2隻のみ

こんな場所で決闘デュエルに誘うんだし、まさかここですとは思えない。

ならば湖の上ですか、ボートで移動するかのどちらかだろう。

どちらにせよ、面倒だからボートを漕ぐような事はしないが。案の定、ボートに乗って湖の上で決闘デュエルをする事に決まったらしい。

丸藤にボートを漕がせ、俺はのんびりと決闘デュエルが終わるまで待つ。

内容は見てもいなければ話も聞いていない、別に問題が有ったかと問われれば無かった。

そして、なんだかんだで気付けば決闘デュエルは終わっていた。

どうやら半分寝ていたらしい、興味が無かったから仕方無いのだが……

「約束通り、翔は連れて帰るぜ」

「どうぞ、約束は守るわ」

今日の事は黙っていてあげる」

「ふぁ……茶番、終わったか？」

欠伸からの一言、だが言った内容はあまり良くない。

自覚はしているが、茶番以外にこの決闘デュエルを評する自信が無い。

他の言葉が有るのならば教えてほしいものだ。

「茶番ですって？」

あ、天上院が怒ってる？

というか女生徒全員が俺を睨んでいるが……嫌われたかな？

別に嫌われようとも問題は薄いから別に構わないのだが。

「明日香さんの決闘を茶番だなんて！」  
デュエル

「そうですわ！」

なんて失礼な殿方なんでしょう！」

「(やっぱりそう簡単に原作通りには進められないのかな……」

堅守瑞貴を止めないと、十代達まで明日香達に嫌われたらどうするの!」

「俺も明日香も全力で戦ったんだ

それを茶番なんて言うなよ！」

「そうツスよ！」

「原因である丸藤だけには言われたく無いがな

どう考えてもお前は謝る立場だろうが、巻き込まれた俺にも遊城にも

そしてお前が覗いたのが本当か嘘かどうかは別にしても

実際に迷惑を掛けたのは事実なんだからあの4人にもだ

俺はまだ謝られてもいないし、遊城に礼の1つでも言ったのか? あいつらに謝った

のか?

まったく……何もしていない言っていないでよく偉そうに言うな」

俺の言葉に怯む丸藤、そしてそういえばという顔をする遊城と女生徒の5人。

お前、まさか本当に何も言っていないかったのか？

もし本当に覗いていなくて、悪くなかったとしても

実際に紛らわしい事をして迷惑を掛けたのは事実なんだ。

その点に関しては謝るのは当然だろう、そして遊城が兄貴分だろうがなんだろうが礼を言うのも当たり前だ。

「ま、俺の事は気にすんな翔！

明日香と決闘デュエルできたんだ、俺が礼を言いたいぐらいだぜ！」

「はあ……そういう問題じゃないだろうが遊城

お前はそれで良いかもしれないが、向こうは納得できるはずが無いだろう

どうせ自分は悪くないとしか主張しなかったんだらう？

主張する前に迷惑を掛けて申し訳無いとぐらい言えなかったのかと、そう言っているんだよ」

「だ、だけど……」

「黙れ丸藤、最初から最後まで悪いのはお前だろうが

何をトチ狂って女子寮まで来たのか知らんが、男子禁制の女子寮に来た時点でお前が悪い

ま、それを言うなら俺も遊城も悪いのだが……女子寮の敷地には入っていないから



セーフなのかな？

やや微妙な所だが、そこはお互いの認識の問題か……俺としては裏門に入っていないから大丈夫だと思うが」

「え？ ええと……多分問題無いと思うわ

確かに女子寮の敷地内には入っていないし、目的は翔君を取り返しに来た事だし

実際に敷地内に入って騒ぎを起こした翔君はともかく、貴方と十代は何も言われないはずよ」

「……だ、そうだ」

「あううううう……」

丸藤が混乱しているが、自業自得として諦めてもらう。

こいつがこんな事を起こさなかつたら俺も咲良に呼び出されずに済んだんだからな。

おかげさまでビシヨ濡れだよ……明日に風邪をひかないか少々心配だ。

「ちよつとアンタ！」

「……何か用かな？ 枕田」

「そいつの事はそれで良いかもしれないけど

アンタが言った、明日香さんの決闘デュエルを茶番って言ったのは許せないわ！」

せつかく話題を逸らしたのに、また戻しやがって……面倒な奴だ。

実際に茶番としか思えなかったんだから仕方無いだろうが。ついでしてしまった本音だ、気にするなよ。

「で？」

「でつて……アンタねえ！」

「待つてジュンコ」

ねえ堅守君、何故私と十代の決闘デュエルを茶番だと言ったの？」

「どうせ本気で丸藤を突き出すつもりも無かったくせに……」

遊城と決闘デュエルをしたかっただけでこんな下らない呼び出しをしたんだ

それを茶番と言わず、何と言うのか教えてほしいぐらいだ」

「えつと……作戦？」

「世の中の幾多の作戦を考える人達に謝れ天上院

これは作戦じゃなくて茶番つて言うんだよ

はあ……思いつきだけで行動するからこうなるんだろうが」

自分の行動で周りにどんな影響が出るか一応は考えるよ。

俺だつて考えているんだぞ？ 考えた上で問題が無いと判断しているがな。

ただ文句を言つて弄つているだけだし、嫌われるぐらいいしか影響は出ない。

「いい加減にしなさい、堅守瑞貴

貴方と話すが無駄に長くなりそうだから黙って

みんなにも悪影響しか及ばさないわ」

「またお前はそういう言い方を……例えば事実だろうが、言い方というモノを考えるべきだ

俺には別に通用するような言い方ではないが、他にはある程度包んだ言い方をした方が良いぞ？」

「貴方以外にこんな言い方はしないわ

どうせ皮肉にしかならないし、通用しないのも理解してるもの」  
理解しているから困るんだけどなあ……相手にするのが面倒だ。

俺から何かを言ってもこいつに通用するかはイマイチ分からないし

変に言い過ぎるとまた煩くされそうだし、少し相手にして無視するのが最善か？

「……あの、咲良さん？」

「も……浜口さん？　どうかしたの？」

「いえ、随分あの方と親しいと思って……」

「なんだか知り合いのようでしたし」

「私が？　堅守瑞貴と？」

俺が？　咲良結美と？」

……ほう？　これはおもしろそうなネタだ。

これは引つ掻き回してやるべきだそうすべきだ。

「な、無いに決まつて「浜口は鋭いな」なあ!？」

「あら、本当でしたの？」

「そんなh「実は俺と咲良の関係だがな」何を言うつもり!？」

「ストーリーされる側とする側だ

ちなみに俺がされる側で咲良がする側」

沈黙が辺りを包み込む、当然っちや当然だな。

「す、すとかー?」

「ストーリーって……」

「ち、違う!　これは堅守瑞貴が勝手に言っているだけで!」

「さつき咲良が言っていただろう?　俺の事を理解しているって

ちなみに俺が咲良の名前や顔を知ったのは入学式直後だ

会ってから数日で、しかも今回俺が咲良と会うのが2回目なのにあんな発言だぞ?

ストーリー以外に思い浮かばないな」

「ち、ちがつ!」

「咲良さん、さすがにそれは……」

「うん……ちよつとね」

「ひ、引かないで枕田さん！ 浜口さん！」

「そんなのじゃないの！ 私と堅守瑞貴の関係はそんなのじゃなくて！」

「それに、名乗ってもいないのに俺の名前も知っていたし」

「入学式が終わった直後に俺の後ろと付けて来たし」

「俺の行動パターン、会話パターンも知っているみたいだったし」

「何回でも会いに来るとまで言われたしなあ……立派なストーカーじゃね？」

「……………」

「無言で離れないで天上院さん枕田さん浜口さん！」

「うわあ……」「本当にそんな人居るんスね」

「遊城君もそんな顔しないで！」

「丸藤君も！ そんな言い方酷い！」

「丸藤の場合は本当に存在する、目の前の現行犯の覗きだもんな。」

「そいつに言われるのはさすがの咲良も嫌だったらしい。」

「まあ咲良でなくとも誰でも嫌だろうがな。」

「どうしてくれるの！」

「貴方のせいで私に対する印象が滅茶苦茶じゃない！」

「嘘は言っていないぞ、嘘は何一つ」

「言い方に問題が有るの！」

なんでそんな本当にストーカーっぽいイメージになるような言い方をするのよ！

若干印象が悪くなる言い方もしてるし、やり方が卑怯よ！」

「その言い方だと自分で俺の言葉を認めているようなものだがな

それに、俺が今回ここに来たのだからお前に呼び出されたからだぞ？

しかも呼び出し文句が、お前の秘密を知っている……だしなあ」

「そんな事言つて無いわよ！」

「呼び出した事、秘密を知っている事は否定しないんだな

会つて間もない人間の秘密を知っていると、ストーカー以外無いな」

「ストーカーつて言わないで！」

こいつ、楽し過ぎるだろ。

半分冗談のつもりでストーカーと言つたんだが

実際にした事言つた事を並べてみると本当にストーカーという……

自分の行動を自覚したら、ストーカーというのも否定できない結美も間抜けだな。

そこは何を言われても否定しなければならぬだろうに、だから引かれるんだよ。

「えっと……ストーカーはダメよ？」

「天上院さん!？」

「ストーカーって相手の服とか盗んだりするのかしら?」

「枕田さん!？」

「んー……通報します?」

「止めて浜口さん! 違うの! 違うんだから!」

「よくわかんないけど、何が楽しいんだ?」

「純粹な疑問を持たないで遊城君!

私はストーカーとかじゃないの!」

「ストーカーは犯罪ツスよ?」

「丸藤君が言わないで!」 「お前が言うなよ丸藤」

「酷いツス! 僕のは冤罪ツス!」

ダメだこいつ、早くなんとかしないと……とは思ったが面倒だから放置でいいや。  
相変わらず自分が起こした事に対しての自覚が無さ過ぎる。

しかも咲良がストーカーと知って若干顔が緩んでいるという始末……

まさか、犯罪仲間を見つけたと安堵を持ったんじゃないだろうな?

「うううう……堅守瑞貴! 決闘よ!」

私の八つ当たりを受けなさい!」

「断る」「断らないで！」

先読みされ、同時発言だと？

さすが咲良、俺を理解していると言うだけの事は有る。

「さすが咲良だな

俺を理解していると言うだけの事は有る……

まさか俺の発言を予想し、同時に返事をするとはな」

「あ……」

周りの視線が咲良に集中するし、真つ赤な顔になっていく咲良。

恥ずかしかったのか、それとも怒っているのか……どっちでもいいか。

「まったく……仕方無いから決闘デュエルは受けてやる

だからストーカーは止めるんだぞ？

まだ若いんだから、犯罪とかをすれば将来大変だぞ？」

「ストーカーじゃないって言ってるでしょ！」

デッキをセットする咲良だが……周りの事、気付いているか？

一応言っておくか。

「咲良、今回は2人じゃないんだぞ？」

あんなカードを使ったりしないだろうな？



そのデツキ、ちゃんとそういうカードは入っていないデツキだろうか？」

「え……………あ」

入っていたのか、テンパっているとはいえ、もう少し冷静になれないのか？  
なれなくしているのは俺だけだな。

「ちよつと待ちなさい！」

このデツキが堅守瑞貴用裏で、このデツキが試験用で、このデツキがプライベート用で……………あれ？

違う、このデツキは……………あ、これね！ 堅守瑞貴用表デツキ！」

お前、俺用にデツキを何種類作って持ってきてるんだ？

この前のが裏デツキだと仮定して、今から使うのが表デツキか？

裏は未来のシンクロやエクシーズ、チューナーが入った【超魔神イド】だと仮定して。

こいつの表デツキはどんなデツキだろうか？

「(彼専用デツキ……………立派なストーカーじゃない)」

「(ストーカーって男だけだと思っただけど、女子にも居るものなのね)」

「(ストーカーは本当に存在するんですわね……………テレビの中だけかと思っていましたわ)」

「(大量のデツキ、どんなデツキか気になるぜ！」

それにしても、あんなカードとかそういうカードってどんなカードなんだ？」

「僕は悪くないのに……」

俺のデッキは何にしようかなと……あれだけ超魔神イド大量に使っていたんだ。

俺の予想では表デッキという奴も超魔神イドを利用したデッキだと思う。

普通のデッキとは思えないし、可能性としては……ならあのデッキを使うかな？

いや、普通の「超魔神イド」を使ってくるとは思えないし……どうするかな？

「貴方なんて私の「超再生」で倒してあげるんだからー」

なるほど、蘇生カードか自己再生モンスターを多用したデッキかな？

自分からデッキ内容を教えるとは不用心な……もしかしてルールを知っているだけ

で初心者に近い？

対人戦の経験が少ないか、単なる間抜けか、アホのどれかだろうな。

俺の予想としては、おそらく対人戦が少ないと予想する。

初心者なら自慢げにデッキを言うだろうし、間抜けかアホの可能性は対人戦の経験不

足と考えられるからな。

自己再生モンスターを多用したデッキだと仮定して。

そのモンスターを有効に使うカードを考えると……あのデッキかな？

だとすると使うデッキは何にするか悩むが、ここはあのデッキにでもするか。

「いくわよー！」

「来なくてもいいぞ」

デュエル  
「決闘！」

「……………はあ、決闘」  
デュエル

凄く嫌そうな態度を取ってみると、それだけで咲良の顔が怒りで歪む。

しかし、軽く深呼吸をしてなんとか落ち着く。

つまらん奴だ、また何か弄ってみるか？

「先攻は……………今回は譲るわ」

「ほう？ では遠慮無く貰おう、ドロ」

「え？」

何を驚いた顔をしている、まさかまた怒らせる為に先攻を譲るとでも思ったか？

それも有りかとは思ったが、今回はかなり特殊なデッキだから先攻は貰いたかったの  
でな。

悪いが、怒らせる弄るよりも、勝つ為に先攻は戴かせてもらった。

「モンスターをセットし、カードを一枚伏せてターンエンドだ」

ま、したい事なんてこれぐらいしか無いけどな。

あの蘇生を多用するデッキを相手にするにはこのデッキが好相性だし

負けるとは思わないが、予想外のデツキだったら少々困るな。

「私のターン、ドロ―！」

私の可愛い人形を見せてあげるわ」

「(可愛い人形?)」

可愛い人形に反応する天上院達女子3名だが、俺は完全に無視して該当モンスターを考える。

人形型のモンスターで蘇生効果モンスターといえば……

なるほど、という事はあのデツキの方向性と傾向は大体予想できた。

「怨念のキラードールを召喚！」

「(怖っ！ 全然可愛くない!)」

案の定、予想通り怨念のキラードールだった。

大きな斧を持つ人型の人形……何度見てもホラー映画とかに出てきそうな人形だな。

ホラー映画だと、何故かこういう人形が可愛いだとか言われる事が有るし

可愛いというのもあながち間違いではないか。

「とりあえず、怨念のキラードールで守備モンスターに攻撃！」

キラードールの持つ、自身の身の丈程も有る斧を守備モンスターに叩きつけようと振りかぶる。

狙われたモンスターは青服の僧、聖なる守り手。

手に持つ棒でキラードールを迎撃するも、殴られた体を無視してキラードールが聖なる守り手を破壊する。

「今のモンスターは……」

「聖なる守り手のリバーブス効果が発動する

場に存在する表側表示モンスター1体を持ち主のデッキトップ……つまり一番上に戻す

自分の場に戦士族モンスターが居る場合、更にもう1体のモンスターを手札に戻せる

が  
場に戦士族モンスターが居なければ、手札に戻せるモンスターの数も足りない

聖なる守り手のリバーブス効果により、怨念のキラードールをお前のデッキトップに戻す」

「くっ……ドローロック！

永続魔法、カードトレイダーを2枚発動！

私はこれでターンエンド！」

ドローロックを突破したか……しかし、カードトレイダー？

永続魔法に、カードトレイダーに、怨念のキラードール……ああなるほど。

となるとやや面倒な事になるが、まあいいだろう。

「俺のターン、ドロ―」

伝説の柔術家を守備表示で召喚」

何故か緑の肌をした髭が凄い空手服を着た男性……しかし、こいつは何故岩石族なんだ？

とにかく、こいつの効果は面倒だぞ？

頑張って倒すんだな、楽に倒せるとは思うが。

「このままターンエンドだ」

「私のターン、ドロ―！（手札のボルト・ヘッジホッグは……チューナーが場に居ない！）

このスタンバイフィズ時、カードトレーダーの効果を発動！

1ターンの1度、手札を1枚デッキに戻し、デッキからカードを1枚ドロ―する！（又ピアガード……まだ要らない！）

2枚のカードトレーダーの効果を発動し、手札をデッキに戻してドロ―！」

まったく、メインじゃないとはいえドロ―ロックのギミックを組んでこのデッキの趣旨を壊すなよ。

いくらでもドロ―ロックはできるが、まあいいだろう。

「怨念のキラードールを召喚！

更に永続魔法、ウィルスメールを発動！」

げ……そのカードも入れていたか。

まあそのデツキなら不思議でもないが……

「ウィルスメールの効果を発動！」

自分の場のLV4以下のモンスターを1体選択し、そのモンスターはこのターンに  
ダイレクトアタック  
 直接攻撃でできる！

ただし、バトルフェイズ終了時に墓地に送られる

私が選択するモンスターは怨念のキラードール！」

「そんな事したら場がガラ空きになってしまいますわよ？」

「ガラ空きになんてしない

自分の場に永続魔法が3枚以上存在している時

このモンスターは特殊召喚できる……バッド・エンド・クイーン・ドラゴンを特殊召喚！」

あー……やっぱり出てきたな、バッド・エンド・クイーン・ドラゴン。

しかし、黄色の翼に黄土色の肌、なかなか良い趣味の色合いだ。

一般受けはしないだろうが、俺としてはそれなりに好きだぞ？

「バトルフェイズ！」

とりあえず、ウイルスメールの効果を受けた怨念のキラードールで直接攻撃！」  
斧を叩きつけてくるキラードール。

所詮はソリッドビジョン、何も影響は……っ？ 若干、何かしら違和感？

ああ、そういうえばこれ、体感システムを実装してるんだつたな。

ある程度の衝撃は実際に受けるのか……アニメ上でアレだけダメージを受けたりするの当然か。

今までまともにダメージを受けた事は無かったからな……この前の咲良戦ぐらいか

？

あの時は若干の苛立ちとやや上がったテンションで気付かなかつたな。

冷静になって受けてみると実感できる……あの社長の頭脳指数はどれぐらいなんだ

？

この世界の技術力を応用すればどれだけの事ができるか、想像できる気もするがしたくないな。

話が反れたが問題は怨念のキラードールの攻撃で受けた1600のダメージ。

残りライフは2400、ライフ4000世界だと相当に痛いダメージだ。

少々油断したか……あのカードを放置したら負けるぞ、俺。

「バッド・エンド・クイーン・ドラゴンで伝説の柔術家に攻撃！」



腕を振りかぶり、叩きつけてくるバッド・エンド・クイーン・ドラゴン。

伝説の柔術家は強烈に叩きつけられ、潰される。

しかしその腕を掴んで……咲良に向かってバッド・エンド・クイーン・ドラゴンを投げた？

投げた直後、伝説の柔術家は破壊され、バッド・エンド・クイーン・ドラゴンは消えていった。

「守備表示で存在する伝説の柔術家と戦闘を行ったモンスターはバトルステップ終了時持ち主のデッキトップに戻る……バッド・エンド・クイーン・ドラゴンはデッキに戻ってもらう」

「……バトルフェイズ終了、怨念のキラードールはウイルスメールの効果で墓地へ送られる」

伝説の柔術家はバッド・エンド・クイーン・ドラゴンで倒せるのに

態々ウイルスメールの効果を使った理由、考えられる可能性は基本的に2つ。

1つは怨念のキラードールを戦闘破壊されない為、または再びデッキに戻されない為。

もう1つは守る為のカードを持っている時、攻撃されても問題は無いと判断したんだろう。

「私はこのままターンエンド」

「自分の場にモンスターが居ないのに伏せカードも出さないの？」

「出さない、無駄なもの」

枕田の疑問も即切り捨てて。

手札から捨ててる系のカードか、またはただ何も無いだけか……どちらでもいいか。

「俺のターン、ドロロー」

モンスターをセットし、カードを一枚伏せてターンエンドだ」

「堅守瑞貴、貴方は攻める気が無いの？」

「無い」

今はな。

ま、今の言葉で咲良は苛立ったみたいだけだな。

「……………私のターン、ドロロー！（手札の暗黒の扉は……………今は要らない！）」

カードトレーダーの効果で手札交換！（悪夢の拷問部屋はまだ！）手札交換！

更に前のターンに永続魔法の効果により場から墓地に送られた場合

怨念のキラードールは次のターンのスタンバイフェイズ……………つまり今、特殊召喚され

る！

更に手札からバッド・エンド・クイーン・ドラゴンを特殊召喚！

魔法カード、強欲な壺を発動し、このカードの効果でデッキからカードを2枚ドロ

!

そしてもう1体、怨念のキラードールを召喚!」

もう1体を召喚したか、嫌な予感しかしながまあ問題無い。

怨念のキラードールを出されても対処する手段は有る。

「ウイルススメールの効果発動!

今召喚した怨念のキラードールを対象に選択し、このターンは直接攻撃ができる!

バトルフェイズ! ウイルススメールの効果を受けた怨念のキラードールで直接攻撃

!

「罨カード、和睦の使者を発動

このターン、俺のモンスターは戦闘では破壊されず、戦闘ダメージを受けない」

このデッキはあまり防御対策をしていないデッキだからなあ……

和睦の使者1枚でも使うと凄まじく痛い。

できればもつと対策をしたかったんだが、デッキスペースの都合上で断念。

「和睦の使者……バトルフェイズを終了し、怨念のキラードールはウイルススメールの効

果で墓地へ

カードを1枚伏せて、ターンエンド!」

さて、できれば3体とも場に残っていてくれた方が助かったんだがな。

まあそこは仕方無い、ここは2体で我慢するか。

「俺のターン、ドロー」

セツトモンスターを反転召喚、ヴェルズ・アザトホースだ」

「きやああああああああああああああ!!!」

「う……気持ち悪い」

「おーでけえ」

「うわあ……気持ち悪いッス」

「わ、ワーム……」

反応はそれぞれ、枕田と浜口は大声での悲鳴。

天上院は吐き気を、遊城は何故か感心、丸藤はドン引き、咲良は先日のが若干トラウマになっているらしい。

10体以上もの気味の悪いと言われるワームの集合体だし、こう騒がれるのも不思議ではないか。

「ヴェルズ・アザトホースのリバース効果発動

場に存在する特殊召喚されたモンスター1体を、デッキに戻す

この効果により、怨念のキラードールをデッキに戻してもらおう」

ワームの集合体の体で怨念のキラードールにのし掛かり、離れた時には怨念のキラードールは消えていた。

パツと見た感じ、食ったようにしか見えないが、攻撃でもないのにあんな行動じやな

……

しかし、どうやってヴェルズ・アザトホースはデッキに戻したんだ？ やっぱり食ったのだろうか。

「ヴェルズ・アザトホースを生贄に、風帝ライザーを召喚

そして生贄召喚に成功した風帝ライザーの効果が発動する

場に存在するカードを1枚、デッキトップへ戻す

この効果により、バッド・エンド・クイーン・ドラゴンをデッキトップに戻す」

「また……何度も何度も！」

「モンスターが墓地へ送られず、デッキに戻っては蘇生はできないだろう

更に魔法カード、無欲な壺を発動

自分、または相手の墓地のカードを2枚選択し、持ち主のデッキに戻す

このカードは発動後、ゲームから除外されるが……」

「あ……くっ！」

ん？ 今のは効果を知ってでの反応じゃないな。

そして伏せカードに目を向け、更に失敗したかのような顔。

つまり、あの伏せカードは無欲な壺をどうにかできたカードだったという事だ。

カウンター系のカードなら今発動できる、ならばあのカードは別の目的のカードとなる。

ふむ……蘇生、自己再生効果、そして無欲な壺の効果で失敗……除外か？

なるほど、あの伏せカードは除外を封じるカード、王宮の鉄壁だと俺は予想する。

永続罫、王宮の鉄壁はこのカードが場に存在している限り、お互いにカードを除外する事はできない。

まあ、無欲な壺はそれでも問題無く発動できるんだけどな。

確かにチェーン発動した場合、このカードは除外されずに墓地へ送られるが

墓地へ送るよりも除外した方が良いだろう、魔法カードを除外から回収する手段は殆ど無い。

ならば伏せカードをしられる事は損でしか無い、そういう意味では賢明かな？

ともあれ、咲良の様子を見る限りはそれを知っているとは思えない。

多分、発動できないと思っっているのではないだろうか？

王宮の鉄壁はややこしいカードだし、処理の面倒なカードだから仕方無いか。

続けて考えると、除外関係で自己再生効果モンスターは……有名所ではポルト・ヘッ

ジホッグかな？

他にも除外される事により、自己再生効果を止められる事を防ぐ為のカードとも言えるか。

「無欲な壺の効果により、咲良の墓地の怨念のキラードール

そして俺の墓地からヴェルズ・アザトホースをデッキに戻す

無欲な壺はゲームから除外される、ついでに1ターンに1度しか発動できない

まあ、例え発動できても戻す必要が無いから発動しないがな」

ヴェルズ・アザトホースをデッキに戻したのは嫌がらせの為。

また出てきた時の嫌そうな顔を見る為だけにこのモンスターを選択した。

実際には伝説の柔術家の方が良いのだろうとは思うがな。

更に風帝ライザーの効果でデッキトップからバッド・エンド・クイーン・ドラゴンが消えた。

無欲な壺の効果でデッキにカードが戻ったからシャッフルされる。

故にデッキトップのカードは変わった事により、すぐにバッド・エンド・クイーン・ドラゴンが出てこないだろう。

また出るとすればデッキトップに来た、またはカードトレーダーの効果でドロした時か……別に怖くはないが。

「これでそちらの場には永続魔法が3枚と、伏せカードだけか……」

風帝ライザーで咲良に直接攻撃ダイレクトアタック

「う……くうう！」

攻撃力2400のダメージ、咲良の残りライフは1600か。

またデッキに戻せば勝てるが、どうなるかな？

「カードを1枚伏せ、ターンエンド」

「私のターン、ドロロー！（太陽の祭壇……蘇生モンスターが居ない！）」

墓地から怨念のキラードールがデッキに戻ったから場に特殊召喚されない

カードトレイダーの効果により手札をデッキに戻して、ドロロー！（エクトプラズマー、

射出モンスターが戻らない！）

もう1度カードトレイダーの効果で手札をデッキに戻してドロロー！

私はこのまま、ターンエンド！」

ふむ……困ったな、これではデッキバウンスカードが使えない。

仕方無い、素直に殴るしか無いか。

「俺のターン、ドロロー」

Xーセイバー ウルズを召喚」

二刀流の獣戦士族モンスターであるXーセイバー ウルズの攻撃力は1600のモ



ンスター。

さあ、1体の攻撃を防いでももう1体の攻撃で終わるぞ？

手札のカードがクリボーの場合は防げない、さあ頑張れ。

「ウルズで直接攻撃」  
ダイレクトアタック

「手札のバトルフェーダーの効果を発動！

相手の直接攻撃宣言時、このモンスターを特殊召喚し、バトルフェイズを終了する！

ただし、場から離れた時にこのモンスターはゲームから除外される！」

現れたのは悪魔の鐘………なんというか、振り子時計という感じだ。

バトルフェーダーか、確かに王宮の鉄壁が有るならそれも有りか。

「カードを1枚伏せ、ターンエンド」

「私のターン、ドロー！（王家の眠る谷―ネクロバレー………使わない）」

カードトレーダーの効果で手札をデッキに戻し、ドロー！（A・ジエネクス・バードマン………特殊召喚できない！）

2枚目のカードトレーダーの効果でもう1回………デッキに戻してドロー！ 魔法カード、天使の施しを発動！

デッキからカードを3枚ドローし、2枚を捨てる！」

何回手札交換するつもりだ？

事故率はそこそこかもしれないが、まあ今回は俺が大量にバウンスしてるしな。凄まじい事故を起こしていても当然と言えば当然の状況か。

「龍脈に棲む者を召喚！」

このモンスターの攻撃力は自分の場に存在する永続魔法の数×300ポイントアップする！

私の場に永続魔法は3枚、よって攻撃力は900ポイントアップし、攻撃力2400！

攻撃力2400、ウィルスメールの効果で直接攻撃ダイレクトアタックをされたら負けるな。

実際にするかは分からないが……まあされても問題は無いから別に構わんが。

「龍脈に棲む者に対して、ウィルスメールの効果を発動！」

龍脈に棲む者のLVは3、よってウィルスメールの効果を受けられる！

このターン、龍脈に棲む者は直接攻撃ダイレクトアタックができるようになった！

バトルフェイズ！ 龍脈に棲む者で直接攻撃ダイレクトアタック！

「罨カード、風霊術——「雅」を発動

自分の場に存在する風属性モンスター1体を生贄に捧げ

相手の場に存在しているカードを1枚選択し、持ち主のデッキボトム……つまり一番

下に戻す

風帝ライザーを生贄に、龍脈に棲む者をデッキボトムに戻す」

「ま………たっ！」

おーおー、怒ってる怒ってる。

さすがにこれだけ何度もデッキに戻されると苛立つかな？

これぞ嫌がらせデッキ、「デッキバウンス」は鬱陶しいだろうか？

「ターンエンド！」

「俺のターン、ドロロー」

有翼賢者ファルコスを召喚」

白いマントを羽織り、鳥の姿をした人型の賢者……なのだが、どういう生物なのだろうか？

まあどんな生物だろうが構わん、要はこいつもデッキバウンスモンスターという事だ。

この世界では裏側守備表示での召喚は殆どしない故、ミステイク・ソードマンLV6はほぼ機能しない。

裏側守備表示モンスターを効果で破壊し、効果で破壊したモンスターを墓地を経由せずにデッキトップに戻す効果だからな。

対して有翼賢者ファルコスは戦闘破壊した攻撃表示モンスターを墓地へ送った後

そのモンスターをデッキトップに戻す効果と、条件はやや厳しいが攻撃力1700なので問題無く扱える。

単純なアタッカーとして、元の世界では微妙だがこの世界では問題無く高めの攻撃力だ。

さあ咲良、手札は0枚、守備モンスターは1体、この状況をどうする？

「ウルズでバトルフェーダーに攻撃」

「くっ……永続罫、王宮の鉄壁を発動！

お互いのプレイヤーはカードをゲームから除外できない！」

予想的中、王宮の鉄壁だったな。

既に予想した内容のカードだ、何も怖い事は無い。

「バトルフェーダーは自身の効果で特殊召喚された場合、除外される！」

でもこのカードの効果により、バトルフェーダーは除外されず、墓地へ送られる！」

「だがそれだけだ

有翼賢者ファルコスで直接攻撃」

「墓地に存在する異次元エスパー・スター・ロビンの効果発動！」

相手の直接攻撃宣言時、このカードが墓地に存在している場合、守備表示で自分の場

に特殊召喚できる！

ただし、この効果で特殊召喚されたこのモンスターは場から離れた時に除外されるでも、王宮の鉄壁の効果によりこのモンスターは除外される事は無く墓地へ送られるわ！」

黒い仮面に黒いマント、パツと見悪役っぽいヒーローの小柄な少年が現れ……つて、そいつまで入ってるのかよ。

これは拙い、また面倒な事になってしまふ超ウザいコンボが出た。

咲良め、俺がしようとしていたコンボを先にしやがったな！

そのカードで嫌がらせしてやろうと思つてたのに先にしやがって……

まあ別にいいんだけど、このコンボはお蔵入りだな。

このコンボの問題は凄まじく多い、主に俺の問題だ。

エクトプラズマー、超次元エスパー・スター・ロビン、王宮の鉄壁

この3枚が揃うだけで毎ターン1500ものダメージを与え、直接攻撃を受け<sup>ダイレクトアタック</sup>ない

コンボが完成する。

エクトプラズマーはお互いのプレイヤーはエンドフェイズ時に自分の場のモンスターを1体選択する。

そのモンスターを生贄に捧げ、生贄にしたモンスターの元々の攻撃力の半分のダメージを相手に与える。

王宮の鉄壁で自己再生効果のデメリットである除外を封じ、ダイレクトアタック直接攻撃をされたら蘇生させ

更に生き残ればエクトプラズマーの弾にして撃ち出して大ダメージを与える……嫌すぎるコンボだ。

更に低LVモンスターはウイルスメールの効果でダイレクトアタック直接攻撃をする。

怨念のキラードールが主な効果対象だろう、他の自己再生効果モンスターでも良い。

ボルト・ヘッジホッグならチューナーさえ場に居ればエクトプラズマーの弾にもウイルスメールの効果でも可能。

攻撃表示で残しても殆どデメリットの無い凶悪な壁モンスター兼射出弾モンスターダイレクトアタック兼直接攻撃要員になる。

先ほどしたように、龍脈に棲む者も攻撃力が上がりやすいデツキだからエンドカードには良いかもしれん。

速攻には強くないが、時間が経てばかなり鬱陶しいデツキだろう。

更にシンクロ・エクシーズモンスターが有れば更に厄介な事になるのは間違い無いな。

問題が有るとすれば……

「畏カード発動、強制退出装置

お互いのプレイヤーは自分の場のモンスターを1体選択し、デッキに戻す」

「な……なあ!？」

「俺が選択するモンスターはX-セイバー ウルズだ」

「私は……超次元エスパー・スター・ロビン」

墓地や場のモンスターがデッキに戻った時だな。

これだけであのデッキは無効と化す、そうでなければ勝つのはかなり面倒だろう。

除外したくとも、王宮の鉄壁の効果でD・D・クロウなどの除外系カードは通用しな

い

よって超次元エスパー・スター・ロビンを除去する手段がバウンスぐらいしか無い。

後は貫通効果を持つ攻撃力1501以上のモンスターで殴り続けてライフを削るぐ

らいか？

ダイレクトアタック  
直接攻撃効果を持つエレキとかも有りかもしれないが

返しのターンに攻撃力3000の超次元エスパー・スター・ロビンの攻撃を受けるか

らやや厳しい。

本当にバウンスか貫通ダメージ以外に対処手段は無いんじゃないか？

または墓地や除外されているモンスターの効果の発動を無効にするソウルドレイン

ぐらい……かな？

王宮の鉄壁はマクロコスモスなどの常時除外効果よりも優先され、除外を封じるから除外は無理だし。

「では選択したモンスターをデッキに戻し、シャッフル

さて、有翼賢者ファルコスの攻撃を続行しようか

有翼賢者ファルコスで直接攻撃」

「う、うううううう……うううううううう！」

ファルコスは飛び上がり、咲良に突撃しての攻撃……お前賢者辞めろ。

それはさて置き、凄まじく悔しそうな顔をする咲良……イイ顔だ。

嫌がらせとしては上々、ダメージを受けたのは不覚だったが、まあ良いだろう。

前回の決闘デュエルと今回のデッキを考え、こいつのデッキ傾向はほぼ確定だな。

咲良のデッキは自己再生モンスターを中心としている。

何度破壊されても、墓地へ送られても、コストになっても

とにかく自身の効果で何度でも場に戻り、いつまでも戦う不屈の心……とでも言おう

か？

こいつ、元の世界では「インティ&クイラ」とか、「超魔神イド」とか、「黄泉帝」と

か使ってたんじゃないか？

他には「アマリリスバーン」、「ネフロード」、「ワイト」、「極神」、「バブーン」とかか



な？

今回のデツキはかなり風変わりだし、名付けるとすれば……【永続蘇生ドール】とか？ ややイマイチな名前だ。

「はい、俺の勝ち、何か文句は？」

「……よくも、堂々とアンチデツキなんて使えるわね

というか、なんで初対戦デツキでピンポイントにアンチデツキなんて使える？」

「アンチデツキ!!」

「アンチデツキって……」

「そんなデツキ使ったんですの？」

「勝って当然じゃないか！」

天上院達3人が批難するような顔を……そして言葉にしてくれた丸藤。

はて、俺は批難されるような事をしただろうか？

高がアンチデツキだろ？ 1ターンキルよりはずっとマシだと思っただが？

「はて？ 初対戦デツキを相手に、どんなデツキ内容かも分からないのにアンチデツキなんて使えるか？」

前回戦ったデツキと違うと知って、どうやってアンチデツキを組むんだ？

俺が偶々、相性が悪いデツキを使っただけでアンチデツキと言うとは……

やれやれ、もう少し考えて発言してほしいものだ

アンチデツキを使う場合、相手のデツキ情報を知らなければならぬ上更に相手の性格、癖、行動パターンなども知らなければまともに作れん俺にどうやってそれらを知れど？ 憶測だけで決めつけるのは感心しないな

ついでに言うなら勝つて当然？ 相性を覆せられないのは実力の問題だ

またはデツキの構築から相性の悪い相手を想定していない場合とかな？

どちらにせよ、今回の勝敗はデツキの相性と咲良の実力不足だ」

嘘は言っていないし、正論と言えば正論。

元々既に組まれていた嫌がらせデツキだから準備していたはずも無いし

咲良のデツキ自体、ヒントは有ったとはいえ知っていたと言えるはずも無い。

【超魔神イド】 だとしても相性が良いようにしたとはいえ

あのデツキは違うと知っている時点で、既にアンチデツキとして機能せん。

性格も完全に把握できる時間も無く、癖も知らないし、行動パターンも不明

どう考えてもアンチデツキを作るはずが無い。

そして勝つて当然というのもおかしい。

例えアンチデツキを使つたとしても負ける時は負ける。

というか、アニメ上でもアンチデツキを使われているシーンは何度か有る。

しかし主人公達は勝ち続けている、つまり相性を覆る実力が有るという事だ。

咲良が負けたのは原作主人公補正が有ったとはいえ、彼ら程の実力が無かった……  
ま、つまりそういう事だ、運も多少関係したとしてもな。

「言っている事は正論だけど、堅守瑞貴が言う屁理屈にしか聞こえない

でも負けたのは事実だし納得するしかない……く、悔しい！」

負けたら負け犬の遠吠えだしな、しかし俺の言葉は屁理屈だよ、実際にな。

言葉の文だったり、口車で納得させようとしているのも否定できん。

そもそも、実際にアンチデッキを選択したのも間違っていないしな。

それ以前に、俺はアンチデッキを使った事は否定していないぞ？

できると思うかと問うているだけで、できないとは言っていないからな。

「……ところで、貴方達2人のカードなんだけど

殆ど知らないカードばかり、どこで手に入れたの？」

「欲しければ売ってやるぞ？」

やや高いが、損はしない程度には使えるカードだ

「使い方を誤らなければという前提条件が有るが、まあ当然だな」

「(なんというか、咲良さんとの会話で分かっていた事だけけど

堅守君、凄く嫌味っぽい性格ね……ちよつと苦手かも)」

「アンタねえ、明日香さんに向かってその言い方は無いんじゃない？」

明日香さんはオベリスクブルー女子の中でもトップの実力なのよ！

それをオシリスレッドのアンタがそんな言い方……」

ふう……予想はしていたし知っていたが、相変わらず階級制度が煩い学園だ。

この色分け階級制度、どうにかして壊せないだろうか？

……手間暇と消費時間、それと見返りを考えると決まりだな。

面倒、疲れる、何故俺が学園全体を変える必要が有るか？

鬱陶しい奴らは黙らせればいいだけ、そいつら以外は無視でいいか。

「ふう……興味無いね」

「なんですつて？」

「興味無いんだよ、ブルートップだろうがレッドだろうが」

例え相手がこの学園最強の実力者だろうが、最底辺実力者だろうと

俺が言う事は変わらん、カードが欲しければ売ってやる

そう、例えば……遊城にはこんなカードとかな」

「おお！ 俺の知らないE・HEROだ！」

ポケットから一枚のカード、取り出したのはE・HERO キャプテン・ゴールド。

E・HEROと思った瞬間、遊城の食い付き具合は凄かった。

お前、本当にヒーローが好きなんだな……M・HEROを見せたらそれはそれで喜びそうだな。

「やらんぞ、欲しければ買え」

「ええー……」

「ケチツスねえ……一枚ぐらいいいじゃないツスカ」

こいつ、このカードの価値を知らんのか？

仕方無い、オークションで売れた値段を教えてやるか。

「先日、このカードをオークションで売った

3枚売り、1枚の最高額は……18万、3枚の合計金額は47万だ」

「じゅっ!？」

「18万!？」

俺の言葉に驚くレッドコンビ&ブルー女子トリオ+咲良。

って待て、咲良まで驚いているのか？

元の世界のカード価値観とこの世界の価値観を混ぜてないか？

俺は元の世界のカードの価値観は殆ど無視して考えてるぞ。

「さ、さすがにそんな大金は……」

「安くしても12万かね、1枚で（元の世界だと300でも高いけど）

大金なのは事実だが、それでも効果が強いカードだ

これより安くしてはオークションで買った人とは不公平だからな

欲しければ頑張れ、持っていないのなら諦めろ」

「さすがにその値段は……」

「なら諦めるか、そのオークションで買った奴が売りに出すのを待つとか？

ま、またオークションで売りに出したりするからその時にでも確認してみな

教える気は無いからちよくちよく自分で確認する事だ」

頭を唸らせ、遊城はどうしようかと悩んでいるようだ。

金は足りない、だがカードは欲しい、となるとどうすればいいのか。

それで悩んでいるんだろうが、抜け道を言つてやれば勝手に楽しくなりそうだ。

「……なんというか、色々と凄いわね、彼」

「言わないで天上院さん……分かつているから」

「さすがストーカーね」

「ですわね」

「ストーカーって言わないで！」

女子組は相変わらずストーカーネタで咲良を弄っているようだ。

自業自得だと諦めてくれ、言い方が悪かったとはいえ、否定しなかったのはお前だし

他の学生に知られないように頑張って口止めをするんだな。

「遊城」

「んー……ん？　なんだ？」

「咲良に決闘で引き分けたらさっきのカードをやるぞ」  
デュエル

「私!？」

「本当か!？」

「……ん？　引き分け？　勝ったらじゃなくて？」

「別に勝つのは難しくないだろ、もうデッキは見てるんだし

負けたらというのも態と負けたら終わりだし……つまらん

だから引き分け、引き分けをしたらE・HERO　キャプテン・ゴールドをプレゼン

トしよう」

「(引き分け用のカードなんて……この時代じゃ自爆スイッチとか破壊輪ぐらいじゃ  
?)」

再び悩み出す遊城、どうすればいいのか考えているようだ。

引き分けなんてそう簡単にできる事じゃないし、精々頑張ってもらおう。

「咲良」

「な、なに?？」

「お前が引き分け用カードを使うのは禁止だぞ？ 当然

お前が使ったなら当然、遊城にはカードは渡さん」

「それ以前に私を巻き込む……」

（私が持っていたら十代にあげたけど、持っていないし

未来のカードは持つてても、この時代の持ち主が居るカテゴリモンスターとかは無かった

E・HERO、D・HERO、アームド・ドラゴン、アルカナフォース、帝、ロイド、  
アンティーク・ギア  
 古代の機械

他にもヴオルカニック、クラウドエイアン雲魔物、おジャマ、サイバー等々

アニメキャラが使う系統のカードは持つてない……彼らとデッキが重ならないように？」

勝手に自分が巻き込まれるのが気に入らないようだが、そんな事は無視する。

今回の件は俺が巻き込まれたんだ、楽しめたのだがそれはそれ、仕返しはする。

なんだかんだで湖に落ちたのもこいつが押したせいだし……丸藤が最大の原因だが。

まあアレだ、原作キャラと仲良くなれる……かもしれないんだ、感謝しなくてもいいぞ。

「うーん……カードは欲しいけど、その為に決闘デュエルしたくないな



やっぱ決闘するなら楽しまないと!」

「だとしても、咲良とは決闘するんだろ?」

良い切欠ができたとしても思えばいいだろう、別にただ決闘するだけでも同じなんだ  
オマケの特典ができたとしても思えばいいだろう」

「そういう事、よし結美!

俺と決闘だ!」

「却下だ、俺はそろそろ帰りたい

咲良が煩いからさつきは決闘を受けてやったが

俺の服は濡れてるんだぞ? 風邪をひいたらどうしてくれる」

「う……き、気合でなんとか!」

「なるか、人を何だと思ってるんだお前は」

これだから熱血系馬鹿は……お前、今まで風邪になった事有るのか?

絶対に無いだろ、例え有っても気合だとか言って無視してただろ。

もし違うと言うのだったら永遠に黙ってる、煩いから。

「咲良さん、彼……実はおもしろい人?」

「おもしろくない、巻き込まれた私はおもしろくない……」

「先にアイツを巻き込んだのってアンタじゃない」

「きつと一緒に住たかったんですわ、ストーカーですもの」  
「……もうストーカーでいいから」

そのネタを引つ張るのはもう止めて」

苦労してるな咲良、相変わらず自業自得だが。

俺も自業自得と言えばそうだが、今回の一番の被害者は俺じゃないのか？

無関係なのに呼び出され、水に落とされ、八つ当たりで決闘デュエルをさせられ……

俺は呼び出した咲良を怨むべきか、最大の原因である丸藤を怨むべきか、どっちだろうか？

駄々を捏ねる遊城を黙らせ、レッド寮に帰るように言う。

渋々とだが諦め、名残惜しそうに咲良を見て一言。

「じゃ、今度会ったら決闘デュエルしようぜ結美！

明日香も強かったぜ、また決闘デュエルしような！」

「さっさと行け」

もうこんな下らない事で呼び出すなよ咲良」

「貴方次第よ」

お互いに憎まれ口を言い合い、空気が悪くなる前に遊城がボートを漕ぎ出す。

少し睨み合ったが、俺はすぐに咲良を無視して力を抜く。

なんというか、疲れた……楽しめたけど馬鹿馬鹿しい内容だった。もうこんな下らない理由で呼び出されたくない。

どちらにせよ種は蒔いた、食い付いてくれたらそれでよし。

もし失敗だとしても、いくらでも利用できる。

時偶相手をしてやれば勝手に動いてくれるだろう。

精々俺の隠れ場所として機能してくれよ？

俺からすればお前の利用価値はそれだけなんだ、頑張らないと使い捨てる。

俺に向かってアレだけの敵対発言をしたんだ、使い潰してやるよ……咲良結美。

## 4話【四肢の底力】

あー……頭痛い、気分も悪い、吐き気もするし……熱も有る、完全に風邪だよ。

女子寮のあの下らない茶番から数日、まあ予想通りとかかなんとか風邪だよ風邪。

理由は当然、濡れた服のまま決闘<sup>デュエル</sup>2回分十帰宅時間まで外に居たせいだな。

季節は暖かいとはいえ、風邪をひいても不思議ではない……

そして今日はテストの日……

時間に間に合うように起きたとはいえ、この体調では少々辛いかな？

無理とは言わんが、やる気は出ないし、すぐに終わらせて寝たい所だ。

力が入らないものの、ブーツとしながら着替えて寮を出る。

ダラダラと歩いていると、車を頑張つて押している……購買部のおばさん、名前は忘れた。

無視してもいいんだが……というかこの体調では辛い。

申し訳無いが無視させてもらい、歩いていると後ろから大声が……頭に響く！

何事かと思つて後ろを見てみると遊城が猛スピードで走つて来た。

「遅刻だ遅刻だー！！！！」

そのまま俺、そして車を追い越して走り抜けて……急ブレーキをする。

頭を抱えて車の方へ来て、車を押すのを手伝う遊城。

おばさんと会話をし、何故か途中で手を離してしまったものの、また手伝い始める。

あー……これ、俺が手伝わないで無視したら印象悪いよな？

購買部の人から嫌われる……今日はテストだからあまり気にしないでだろうが

どちらにせよ、あまり歓迎できる事じゃないのは確かだな。

学生に嫌われるのは別に構わんが、教師や大人に嫌われるのはあまり良くない。

病人だし貧弱なんだけどな……したくないが、手伝っておくか。

「……………」

無言で車を後ろから押し出す。

突然重さが変わり、違和感を感じた遊城が俺の方を見て……

「おお瑞貴じゃん！」

手伝ってくれるのか？」

「叫ぶな、頭に響く……そして名前前で呼ぶな」

「え？　なんでだよ？」

「名前と呼ばれるのは好きじゃない」

そして黙って押せ、時間の無駄は嫌いだ」

「ここからじゃ見えないけど、いいのかいボウヤ？」

今日はテストなんだよ？」

ボウヤって……

「筆記テストなんて10分も有れば終わるから問題無い

残り時間はどうせ無駄になる、こちらを手伝う方がまだマシだ」

「すまないねえ」

「なあに、苦しい時はお互いさまさあ！」

「……暇潰しだ」

しかし後悔した、俺の体力の無さと力の無さからかなり辛い。

更に体調不良……完全に失敗したな。

この調子でテストはだいじょうぶだろうか？

赤点は取らないだろうから問題無いだろうか。

……

……

……

「ぜえ、ぜえ、ぜえ……うえ、ゲホッ！」

「だ、大丈夫かい？」

「なんとか……」

「肩貸そうか？」

「要らん」

思つたより、想像以上に体力を消費した。

やはり普段しないような変な親切なんてするものじゃない。

見返りを求めるべきだったか？ いや、偶には素直に恩を売るべきか。

馬鹿正直に働くだけつてのは若干遠慮したいが、今回は諦めておこう。

「アンタ達、そろそろテストを受けに行かないと時間が無いんじゃないかい？」

「げえ！ ホントだ！ じゃあまたなおばさん！

ほら瑞貴、行こうぜ！」

「先に行け、俺は歩いて行く」

俺の事を気にしていたが、テストが有るのは事実なので先に向かう遊城。

やはり体調が悪いので俺はのんびりと歩いて教室に向かう。

テスト終了時間まで残り10分ぐらい……やつと教室に着いた。

無遠慮に堂々と教室の扉を開け、申し訳なさそうな顔を全くせず大徳寺教員の前へ

向かう。

「遅刻しました」

「そんな堂々と言わなくても……まあいいにや

もう時間があまり残ってないし、急ぐにやー」

テスト用紙を受け取り、問題を流し読む。

そしてすぐに答えを書き込んで……

「テストに40分も遅刻してくるだなんて……」

「アイツ、そんなに不真面目な生徒だったのね」

「テストを嘗めてるのでしょうか？」

それとも筆記テストなんて眼中に無い？」

「頭が良いからって遅刻していいものじゃないのに……」

なんとという簡単な問題……これでテスト？

まあ俺は他より実年齢が高いから当然かもしれない、そう思いたい。

そう思いたいのだが……別に国語とか数学ではなくただのカード問題

これでは年齢は殆ど関係無く、ただ勉強をしたかしてないかだけの問題だ。

よって俺には簡単過ぎる問題であり、どの問題も筆記時間のみの時間消費

思考時間なんて1問で5秒有るかどうか……面倒になってきたな、これ。

そんなこんなだったが、問題を書き終えてもなお時間が余った。



良いのか？ こんな簡単なのが筆記試験で……若干心配になってきたぞ。

まあ……爆睡している遊城や丸藤に比べたらまだマシか。

……

……

……

『これで筆記テストは終了』

なお、実技テストは午後2時から体育館で行いまーす』

テスト終了の放送が終わった直後、駆け出すほぼ全ての生徒。

そういえば新カードの販売が開始されるんだったかな？

俺には関係無いし、実技テストまで体力を回復させる為に昼寝でもするかな。

「テスト時間ギリギリに登校なんて、随分と余裕ね」

折角昼寝をしようと思った所に……誰だ？

「……………なんだ、咲良か」

俺は現在絶賛体調不良の病氣中だ、遅刻ぐらい許せ」

「え、大丈夫？」

「……………お前が俺を心配するとは、明日は豪雪だろうか？

傘程度で防げると助かるのだが、さすがに豪雪は無理か」

「貴方ね……そのまま大病にでもなつて入院の為に学園から出て行きなさい！」

咲良は怒つて教室を出て行つた、これで静かになるな。

やれやれ、やつと昼寝ができる。

午後2時から実技テストだし、1時半に起きれば間に合うかな？

それまでのんびりと休ませてもらおう。

どうせ堅守瑞貴は試験場に来るし、今度こそ……

私は月一試験の対戦相手の変更希望をする為、鮎川先生を捜している。

月一試験は同じ寮の人と対戦するんだけど、堅守瑞貴と対戦をする為！

……私はストーカーじゃない！ 絶対に違う！

「あ、鮎川先生！」

「あら、咲良さんじゃない

実技試験の為にデッキ調整とかしなくていいの？」

「構いません

それより、月一試験の対戦相手の希望をしたいのですけど」

「あらあら……」

少々困つたような顔をされたけど、それでも構わない。

堅守瑞貴は絶対……

「オシリスレッドの堅守瑞貴……彼と戦わせてください！」

「えっと……彼、売約済みよ？」

「へ？」

売約済み？ 彼女が居るとか？

……じゃなくて！ そうじゃなくて！

「どういう意味ですか!？」

「既に彼と戦いたいと言う生徒と対戦カードを組んでしまったのよ

残念だけど、今回は我慢してちようだい」

「そんな……」

いったい誰が堅守瑞貴との対戦を？

今まで彼が人前で誰かと決闘デュエルした事なんて数えるぐらいしか……まさか！

……

……

……

午後2時になり、体育館で試験が開始される。

私の予想が正しければきっとあの人が堅守瑞貴と決闘デュエルする。

なんだか十代と万丈目が決闘デュエルしてるけど、私の眼中には入らない。

私に気になるのはアニメメインキャラよりも……

「……………おい、何故俺の相手がお前なんだ？」

「貴方に興味が湧いたからよ」

堅守瑞貴VS天上院明日香！

この前、決闘デュエルをしなかったからなんとか回避できると思ったのに防ぎきれなかった。

でも、本来は明日香のデツキは強化されていたはず。

今回はそんな感じがしないし、明日香の元々のデツキ？

「頭が痛い……………二重の意味で」

「さあ、本気で相手をしてもらおうわよ！」

「断る、面倒」

「……………」

明日香の力が抜けるけど、仕方無い。

あんなに切り捨てられたらなんというか……………ねえ？

「真面目に相手をしなさい！」

「大声を出すなよ、風邪ひいてて頭が痛いんだから

この前の女子寮の事件のせいだぞ、少しは考えろ」

「え……だ、大丈夫？」

「最低限は……まったく、面倒だ」

さっさと終わらせてやるから構えろ」

どっちが話を長引かせたのやら……

体調不良の堅守瑞貴を労っているのか、黙って構える明日香。

やる気は十分、後は勝てるかどうかだけど、無理ね。

「決闘！」「決闘！」「決闘！」「決闘！……だから大声を出すなと」

「先攻は俺が貰う、ドロー」

冥界の死者を守備表示で召喚し、カードを1枚伏せてターンエンドだ」

鎌を持ち、ローブを身に纏った死神のようなモンスター……

冥界の死者？ 確かあのモンスターの効果は……となるとあのデッキはやっぱり？

「私のターン、ドロー！」

ブレード・スケーターを召喚！」

薄い紫と濃い紫で肌を守る、アイススケートをしているであろうモンスター。

モンスターと言える部分はやはり、両腕に付けられているブレード……見た目はかな

り怖い。

「ブレード・スケーターで冥界の死者に攻撃！」

デュエルフィールド

決闘場を華麗に滑り、冥界の死者へと強烈な蹴りを叩き込む。

体をバラバラに碎かれ、粉碎される冥界の死者……その腕に付いているブレードは使わないの？

「(頭痛いつて言ってるのに大声を出しやがって……) 冥界の死者の効果が発動される

このモンスターが場から墓地へ送られた時

お互いのプレイヤーはデッキからLV3以下の通常モンスターを1体、手札に加える

この効果は強制効果だ、デッキに入っている場合は必ず手札に加える必要が有る」

「私のデッキにLV3以下の通常モンスターは入っていないわ」

「そうか、ならそれを確認する為にデッキ内容を見せてもらおうか？

その発言が嘘だった場合、反則負けになるが」

「な……私が組んだデッキよ！ 嘘なんて言うはずが無いじゃない！」

「ルール上、お互いのデッキを確認する強制効果が発動した場合

手札に加える、特殊召喚をするなどの効果が発動した時

その効果を受けられないプレイヤーは本当に受けられないのか相手プレイヤーに確

認させる義務が有る

先ほども言ったがこれは強制効果であり、ルールである

残念だが見せたくないなどと言う我が儘は通用しない、デッキを確認させてもらおう

か？」

「クツ……」

明日香は堅守瑞貴の前まで移動し、決闘盤からデュエルディスクデツキを抜いて渡す。

観客から卑怯だ、反則だ、最低だ、セクハラだ、変態め、羨ましい、明日香様のデツキハアハアと……

一部、凄まじく不適切な言葉を発する馬鹿（主に最後）が湧いていたけど、ルールだから仕方無い。

あんなモンスターを使う堅守瑞貴のデツキ、やはりあのデツキは……

「覚えるのが若干辛いが……この程度なら大丈夫か」

ふーん……戦士族を中心としたデツキか」

「……………屈辱だわ」

「ルールだからな、諦めろ」

「そういう貴方のデツキはどうなの？」

L V 3 以下の通常モンスター、本当に入っているのかしら？」

「馬鹿かお前、こんなモンスターを使って入れていない馬鹿は先ず居ない

入れているとしたらカード不足で仕方無いか、火力か、それとも何も考えていない大

馬鹿だけだ

ほら、デッキを返すぞ」

堅守瑞貴から強引にデッキを奪い、デッキをシャッフルしてセットする。

堅守瑞貴はデッキからカードをサーチ……探しているけど、やっぱりあのカードか。

「俺がデッキから手札に加えるカードは……封印されし者の右腕だ」

「な……エクゾディアパーツですって!?!」

体育館の生徒達がざわめき出す。

やっぱりエクゾディアってあまり見ない？

それにしても、早々に戦略を見せるなんて何を考えている？

堅守瑞貴の目的が分からない……

「カードを1枚伏せて、ターンエンド!」

「俺のターン、ドロ」

あー……そうだ、魔法カード、ワン・フォー・ワンを発動

手札からモンスターを1枚捨て、手札かデッキからLV1のモンスターを特殊召喚する

俺は手札の封印されし者の右腕を捨て、デッキから封印されし者の右足を特殊召喚す

「え!?! 封印されし者の右腕を捨てた!?!」

しかも封印されし者の右足を特殊召喚するだなんて!」



動きが少し止まったような……やっぱり頭が痛いとか？

それにしても何が目的？ 封印されし者の右足を攻撃表示で出すだなんて理解できない。

各パーツを揃えるなら場に出す意味なんて無いのに……

「永続罫、エンジェル・リフトを発動

自分の墓地からLV2以下のモンスターを1体、攻撃表示で特殊召喚する

俺が選択するモンスターは当然、封印されし者の右腕」

「またパーツを……」

生徒達が堅守瑞貴を嘲笑う声が聞こえる。

笑っている生徒、馬鹿にする生徒、理解できないと困っている生徒、悩みすぎて頭から煙が出ている生徒。

最後の生徒は心配だけどそれは置いておいて、私も何が目的か理解できない。

「魔法カード、ワンチャン!?!を発動

自分の場にLV1のモンスターが存在している時、デッキからLV1のモンスターを1枚加える

ただし、このターン中にこの効果で手札に加えたモンスター、または同名モンスターを召喚しなかった場合

このカードを発動したプレイヤーは2000ポイントのダメージを受ける

俺はワンチャン!?!の効果により、デッキからLV1のモンスター……封印されし者の左足を手札に加える

そしてそのまま、封印されし者の左足を召喚」

攻撃力2000の通常モンスター、こんなモンスターを並べても……

「どういふつもり？」

エクゾディアパーツは手札で揃える事で特殊勝利できるモンスター

まさか場で揃えて勝とうだなんて馬鹿な事は言わないでしょうね？」

「ある意味正解だな

魔法カード、トライアングルパワーを発動する

自分の場に存在するLV1の通常モンスターは全て、元々の攻撃力が2000ポイントアップする

よって、俺の場に存在するLV1のエクゾディアパーツ3体の攻撃力は……2200だ」

「1ターンで攻撃力2200のモンスターを3体ですつて!？」

まさかあのデッキ……パーツで殴り勝つデッキ？

だとしたら呆れるしかできない、でも……なんだか勝ちそうで怖い。

「カードを1枚伏せて、永続魔法、弱者の意地を発動

手札が0枚の時、自分の場のLV2以下のモンスターが相手モンスターを戦闘で破壊した場合

俺はデッキからカードを2枚ドロウする」

手札が無くなった時の為のカード……完全に戦闘仕様のエクゾディアデッキ!

戦うエクゾディアパーツってどう誰が得するの!?

完全に遊び&嫌がらせ&苛めでしょ!

「バトルフェイズ、右腕でブレード・スケーターに攻撃」

右腕が飛んでいき、ブレード・スケーターのお腹に拳が突き刺さる。

トライアングルパワーで強化された右腕の攻撃は強烈で、そのままサイバー・ブレイダーを粉碎する。

攻撃力1400のブレード・スケーターとの攻撃力差は800……結構大きなダメージ。

「弱者の意地の効果発動、俺の現在の手札は0枚、よってデッキからカードを2枚ドロウする

右足で直接攻撃」  
ダイレクトアタック

「永続罫、リビングデッドの呼び声を発動!

自分の墓地に存在するモンスターを1体、攻撃表示で特殊召喚するわ!

ブレード・スケーターを墓地から特殊召喚!」

「ならばそのまま右足でブレード・スケーターに攻撃」

今度は強烈な蹴りがブレード・スケーターに……って、踏みつけ!?

蹴るならともかく、踏みつけは酷い!

「左足で直接攻撃」  
ダイレクトアタック

「クツ……あら?」

……かはあつ!」

左足は明日香の股下を潜り……背後から踵で腰を強打。

なんというか、持ち主の性格が反映されるかのような攻撃方法。

そしてこれで明日香の残りライフは200……首の皮一枚繋がった感じ。

「トライアングルパワーの効果を受けたモンスターはエンドフェイズ時に破壊される

それを回避するカードである、先ほど伏せた魔法カード、馬の骨の対価を発動する

自分の場に存在する効果モンスター以外のモンスターを1体選択し、墓地へ送って発

動

デッキからカードを2枚ドローする

俺は右足を墓地へ送り、デッキからカードを2枚ドロー

……ドローしたカードに馬の骨の対価が入っていたな、もう1枚発動する

今度は左足を墓地へ送り、デッキからカードを2枚ドロ―だ

魔法カード、マジック・プランターを発動する

自分の場に存在している永續罫カードを墓地へ送り、デッキからカードを2枚ドロ―する

俺は場に存在するエンジェル・リフトを墓地へ送り、デッキからカードを2枚ドロ―  
エンジェル・リフトが場から離れた時、蘇生対象モンスターは破壊される

エンジェル・リフトの効果対象となっていた右腕はこの効果により破壊される」

「な、な、なあ……」

トライアングルパワーで受けるデメリットを全て回避し、更にドロ―するだなんて  
……

このターンで堅守瑞貴が使用したカードはワン・フォー・ワン、右腕、右足

エンジェル・リフト、ワンチャン!?!、左足、トライアングルパワー、弱者の意地

馬の骨の対価が2枚、マジック・プランター……合計で11枚。

それなのに手札に有るカード枚数が6枚ってどういう事なの？

「魔法カード、トライワイトゾーンを発動

自分の墓地に存在するLV2以下の通常モンスターを3体を選択し、墓地より特殊召

喚する

俺が選択するモンスターは封印されし者の右腕、右足、左足だ」

「また出てきた……」

どうしてかな、あの腕や足が凄く強く見えてしまう。

今度は何を狙っているのか、怖いけど気になってしまう。

「カードを3枚伏せ、ターンエンドだ」

伏せカードが3枚……また通常モンスターを補助するカード？

だとすれば何が出てくるか予想できるような、できないような……

「私のターン、ドロロー！」

……魔法カード、死者蘇生を発動！

墓地に存在するモンスターを1体選択し、特殊召喚する！

私を選択するモンスターはブレード・スケーター！

更に手札から魔法カー……」

「永続罫、暴君の自暴自棄を発動

自分の場に存在する、トークン以外の通常モンスター2体を生贄にして発動

俺は右足と左足を選択し、生贄に捧げる

お互いのプレイヤーは効果モンスターの召喚、特殊召喚は不可能となる

残念だが、エトワール・サイバーとブレード・スケーターを融合させ、サイバー・ブレイダーにはさせない」

「そん………な………」

デツキを確認したのはこの為？

確かにエクゾディアパーツは通常モンスター、でも自分にもデメリットは少なくな  
い。

さつき使った冥界の死者も……あ、場から墓地へ送られるだけだからセットしてもい  
いのか。

召喚、特殊召喚はできないけどセットと反転召喚はできるもの。

「なら、ブレード・スケーターで封印されし者の右腕に攻撃ー」

「速攻魔法、突撃指令を発動

自分の場に存在するトークン以外の通常モンスターを1体選択して発動、俺は右腕を  
選択する

選択したモンスターを生贄に捧げ、相手の場のモンスター1体を破壊する

右腕を生贄に、ブレード・スケーターを破壊」

蹴りのモーションに入る為、勢いを付けて向かって来るブレード・スケーター

だけど突撃指令を受けた右腕はカウンターの形を取り、ブレード・スケーターをぶん

殴る。

ブレード・スケーターは倒れそうになるものの、なんとか右腕を蹴り飛ばして破壊し、破壊された。

「うそ……そんな、私が……こんなにアツサリと？」

モンスターをセットして、カードを2枚伏せて、ターンエンドよ」

「俺のターン、ドロロー」

魔法カード、強欲な壺を発動し、更に2枚ドロローする

封印されし者の左腕を召喚し、装備魔法、下克上の首飾りを左腕に装備させる

このカードは通常モンスターにのみ装備できる装備カードだ

このモンスターが戦闘を行うダメージ計算時、相手モンスターとのLV×500ポイントの攻撃力がアツプする

その伏せモンスターがLV4の場合、左腕とのLV差は3、よって左腕の攻撃力は1500アツプする

仮にそのモンスターがLV4で、守備力が1700未満の場合、そのモンスターは戦闘で破壊されるな」

あの伏せモンスターは高確率でエトワール・サイバー……というかそれぐらいしか無さそう。



エトワール・サイバーの守備力は1600、左腕の攻撃力1700より低い。つまりこのまま左腕の攻撃を通した場合、明日香の場がガラ空き状態になってしまう。

「……………（伏せカードが嫌な予感しかしない）」

まあいいか、寧ろこの場合はそれが正解した方が助かる)

封印されし者の左腕でセットモンスターに攻撃

「（掛かった！）罨カード、聖なるバリアーミラーフォースを発動！

相手の攻撃宣言時に発動！ 相手の場の攻撃表示モンスター全てを破壊する！

残念だけど、貴方の封印されし者の左腕は破壊よ！」

左腕で持った首飾りで殴り掛かるものの、ミラーフォースに防がれ、破壊される。

「ただど全く動揺していない……………どういうつもり？」

「残念だったな、これで俺の勝ちが確定した

素直に倒されていれば良かったものを……………」

「え？」

「罨カード、補充要員を発動

自分の墓地にモンスターが5体以上存在している時に発動できる

自分の墓地から攻撃力1500以下の効果モンスター以外のモンスターを3体、手札

に加える

俺の墓地には、今破壊された左腕を含めて5体のモンスター、よって発動条件を満たしている」

「防がれる事を承知で……」

「その通りだ

俺は補充要員の効果により、墓地から封印されし者の左腕、右腕、右足を手札に加える」

各パーツが堅守瑞貴の手札に……だけど、まだ封印されしエクゾディア、封印されし者の左足が足りない。

「だけど、勝ちが確定したという発言から考えると……」

「魔法カード、ダーク・バーストを発動

自分の墓地に存在する攻撃力1500以下の闇属性モンスターを1体、手札に加える俺が手札に加えるモンスターは当然、封印されし者の左足」

「だけど、封印されしエクゾディアが手札に無ければ……」

「残念だったな、俺の手札には既に……有るんだよ、封印されしエクゾディアがな」

「え……」

「俺の手札に封印されしエクゾディア、そして封印されし者の右腕、左腕、右足、左足

全てのエクゾディアパーツが揃った、これにより、俺の勝ちだ」

エクゾディアパーツを決闘盤デュエルディスクにセットしていく堅守瑞貴。

堅守瑞貴の背後から出てくる右腕、左腕、右足、左足……そして、エクゾディア。

「そんな、こんなにアツサリと……」

「運が無かったな、俺の勝ちだ」

エクゾディアは両手を合わせ、少し広げた中に強く輝く炎の光。

あの攻撃は……怒りの業火 エクゾード・フレイム、エクゾディア最強の攻撃。

エクゾディアは輝く炎を撃ち出し、明日香は輝きに呑み込まれる。

これにより、堅守瑞貴の勝利が確定した。

「私の……負けよ」

がっくりと崩れ落ちる明日香……さすがにショックだった？

ライフをギリギリにされた上、エクゾディアを揃えられたら悔しいに決まっている。

しかも、下手すればエクゾディアパーツ、攻撃力200のLV1モンスターだけに敗

北する所だった。

そう考えたら明日香は寧ろよく耐えたと、褒めるべき？

『オシリスレッド、堅守瑞貴君』

校長からの放送？

もしかしてこの流れ、このタイミングでって事は……

『君の素晴らしい決闘技術デュエル・タクティクス』

モンスターをあらゆる方法で使いこなす技術

更にあのエクゾディアを揃えるテクニク

成績も優秀だし、決闘デュエルの実力も高い

文句なしで君は、ラーイエローに昇格です』

あ、やっぱり昇格するのね。

あちらでは昇格後、制服が変わってもオシリスレッドに留まっていたけど

今回はどうなる？ ラーイエローに残るのか、それともまたレッドに残るのか……

……

……

……

数日後、風邪が治ってもレッド寮に残っている堅守瑞貴が居た。

理由を訊いてみたんだけど……

「原作知識的な意味で、あまり覚えていないが別の寮に移動しない方がいい気がした

あと、好み的にもこちらの方が好きだ

金は有っても、やや貧乏性な所が有るのでな、これぐらいの部屋の方が落ち着く」

との事で、なんだか私の知っている堅守瑞貴と違う。

この堅守瑞貴と、私の知っている堅守瑞貴、どれぐらい違うの？

私に変に介入したからなのか、それとも私の知っている堅守瑞貴とまた別人なのか

……

どれにしても納得ができない、私はどうすればいいんだろう？

## 5話【イカサマは未然に防ぐもの】

最近、妙な噂が学園で流れている。

この学園で教育実習生をしている、龍牙という奴だ。

デュエル・アカデミアで正式に教師として採用条件の1つには

生徒50人に勝たなければならぬという意味不明なルールが存在している。

まあ、採用条件の1つとしてなら別に構わない気もするが、別に生徒でなくてもとは思うがな。

で、その生徒に現在40連勝中ぐらいたったかの龍牙だが

噂によれば、倒した生徒からカードを巻き上げているという事らしい。

アンティルールは学園では禁止されている上、そもそも教師が生徒のカードを奪うというのもどうか……

そんなに欲しければ俺が売ってやってもいいんだけどな、金さえ払えば。

「……で、何故お前は俺にその噂を教えに来たんだ？」

「何故って……寧ろこっちが知りたいわよ」

どうしてそれなりに広がっているこの噂を知らないの？」

「興味無いからな」

天上院明日香……最近妙に絡んでくる謎な奴。

以前の月一テストで屈辱的な敗北をした上、更に成績でも完敗

俺の態度も悪いのも有るのだが、最近鬱陶しく感じるぐらいだ。

問題はこいつだけではなく、天上院が来るとくつついてくる……

「呆れた、そんな事も知らないだなんて」

「興味無いのでしたらそんなものですわよ」

「そういう問題？」

枕田、浜口、そして咲良……前者2人はともかく、お前は俺の監視が目的か？

とにかくこの4人が天上院にひつついてくるので鬱陶しくて仕方無い。

女3人寄れば姦しいと言うが、4人なので姦しいを超えて喧しい。

しかも俺みたいな奴の近くに女子が4人も居るので男子生徒が近くに寄ってこない

……別に問題は無いが。

俺に静かな学園生活をさせてくれよ、お前ら……

「で、俺にどうしろと？ その教育実習生の相手をしろと？」

断るに決まってるだろうが、めんどくさい」

「そのめんどくさがりな性格、どうにかしたら？」

「余計なお世話だ枕田」

そもそも、そんな下らない奴の相手をしている時間が有るのならば

俺はその時間を使ってネタデツキを作った方がマシだ」

「ネタデツキって……」

「しかも勝つんですから始末に負えませんわ」

さすがにこの世界の一般人に負けるほど、元の世界は甘くないからな。

勝てなければさすがに問題だろう……この世界での反応は別だが。

まあ、この世界の一般人を強くする為にカードをばらまいているんだがな……さすがに進行は遅い。

蒔いているカードの絶対数がそう多くないとはいえ、かなり売っているんだがやはり弱い。

「嫌でも相手をする時が来ると思うけど……」

咲良が嫌な言葉を呟き、この話題は終了した。

何も無いのが最も楽しいと思う、時々刺激や俺の好奇心を満たす事件は起きて欲しいがな。

……俺に危害が及ばない程度の、という前提条件が付くが。

……



……

……

翌日、咲良の眩きが実際に起こってしまったのだが……どうしてくれようか？

何故俺がこんな下らない奴の相手をしなければならんのだ。

まったく、時間の無駄なものにつまらない事をさせやがって……

「君が堅守瑞貴君か……噂は聞いているよ、それなりに強いらしいじゃないか

そしてとても様々なデツキを使用し、珍しいカードも持っている……」

なんとというか、コレクターって感じだな。

そして欲しいモノが有れば力尽くでも戴いていくというかなんというか……

イイ笑みだな。

俺とは方向性が違うが、かなり嫌な性格をしているように見える。

「欲しいなら売ってあげますが？」

「ふふふ、それも有りだとは思いがね」

実は私はコレクターでね、今回の決闘で私が勝てば<sup>デュエル</sup>

君の持つ珍しいカードを分けてもらおうかと」

天上院達の言う噂はこういう事か……

面倒な奴に絡まれたものだ。

「それはさて置き、何故俺が相手になったのか疑問しか無いのですが？」  
「うん？ 君は了承していなかったのか？」

なんでも、君を私の対戦相手に推薦した人が居るといふ事だ

先日の月一テストでライイエローに昇格した者だし、丁度良いだろうと」

……なるほど、お前か咲良あ！ 絶対にお前が推薦しただろ！

本当に余計な事しかないな、お前つて奴は！ そんなに俺をトラブルに巻き込みたいのか！

ま、咲良には後でキツチリと仕返しをしておくとしてだ。

嫌な予感はしていたからな、咲良の昨日の眩きが原因でな。

咲良には悪いが、俺にはその手段は通じない。

大方、俺が負ければ精神的にダメージを与えられるとか考えていたんだろうがな。無いだろうとは思っているだろうが、学園から去ってくれば儲け物……つてか？

「まあいいだろう、既にお互いに準備は終わっているのだ

さつさと決闘デュエルを開始しようじゃないか

(ふふふ、君の決闘デュエルは十分に下調べさせてもらっているがね)」

なーんか、嫌な笑みをしてるな。

ま、精々俺を楽しませる程度には頑張ってくれよ？

キツチリと、正々堂々(?)と相手をしてやるからな。

うーん……堅守瑞貴に龍牙先生を嚇けてみたものの、微妙だった？

でも、こうやって今の内に面倒事に巻き込んでおけば、今後は自分から首は突っ込まないはず。

将来的におとなしくさせる為、今の内に強引にでも巻き込みまくってあげる！

「決闘<sup>デュエル</sup>！」

「先攻は私だ、ドロロー！」

ハイパーハンマーヘッドを守備表示で召喚

更にカードを1枚伏せ、ターンエンド！」

頭部がハンマー……どっちかと言えば木槌に似た、それ以外の部分は普通の恐竜っぽいモンスター

龍牙先生のデッキは恐竜族、その中の下級モンスターで最も面倒と言っても過言ではないモンスター。

戦闘を行ったモンスターが戦闘で破壊されない場合、持ち主の手札に戻す効果を持っている。

「俺のターン、ドロロー」

カードカー・Dを召喚」

凄く薄っぺらい、青い車のモンスター

あのモンスターの効果から考えると、今回の堅守瑞貴のデッキは……さすがにまだ分らない。

「攻撃力800のモンスターを攻撃表示？」

「カードを5枚伏せる」

「5枚もだど!？」

「ターン目からいきなり……」

「カードカー・Dの効果発動

このモンスターが召喚に成功した、メインフェイズにこのモンスターを生贄にして効果発動

デッキからカードを2枚ドロし、エンドフェイズに移行する

そしてこのターン、俺はモンスターを特殊召喚する事ができない

カードカー・Dを生贄にし、俺はデッキからカードを2枚してターンエンドだ」

「ただドロする為に自分の場のモンスターを減らすとはな

ならば私のターン、ドロ！ エレメント・ザウルスを召喚だ！」

手に青い宝石とか宝玉？

そんな感じの物を持った攻撃力1500の恐竜族モンスター

この時代のカードとしては普通に使えるぐらいのモンスターかな？

「更にハイパーハンマーヘッドを攻撃表示に変更！

2体のモンスターで直接攻撃！」

「ふう……相手の直接攻撃宣言時、手札から速攻のかかしを捨てて効果を発動

このカードを手札から捨てる事により、相手の攻撃を無効にし、バトルフェイズを終了させる」

「ふむ、ちゃんと保険を用意していたか」

でなければカードカー・Dなんて、あの堅守瑞貴が使うはずも無いか。

「罨カード、自業自得を発動

相手の場に存在するモンスターの数×500ポイントのダメージを与える」

「私の場のモンスターは2体だ

高が1000ポイントのダメージ……」

「更に罨カード、妖精の風を発動

場に表側表示で存在するこのカード以外の魔法・罨カードを全て破壊し

お互いのプレイヤーは破壊したカードの数×400ポイントのダメージを与える

現在表になっているカードはこのカード以外は自業自得のみなので、お互いに400

ポイントのダメージとなる」

「ふん、それでも合計で1400

その程度では……」

「手札からハネワタを捨て、ハネワタの効果を発動

このターン、自分が受ける効果ダメージを0にする

この効果は相手のターンでも発動できる」

妖精の風の効果ダメージを受けない為にハネワタを使った？

なんというか、僅か400ポイントのダメージの為に贅沢に使うのね。

「続けて罠カード、仕込みマシンガンを発動

相手の手札、場のカードを合計した枚数×200ポイントのダメージを与える」

「私の手札と場のカードは合計7枚……だと？」

これはまさか……

「罠カード、おジャマトリオを発動

相手の場に攻撃力0、守備力1000のおジャマトークンを3体、守備表示で特殊召

喚する

そのトークンは破壊された時、持ち主に300ポイントのダメージを与える」

「な、なんだと？」

やっぱり、あのデツキはどう考えても……

「ふむ、シヨックで動く気配が無いな……なら使えるかな？」

速攻魔法、チェーン・ストライク連鎖爆撃を発動

現在組まれているチェーンの数×400ポイントのダメージを与える

チェーン内に同名カードが発動されていた場合、このカードは発動できないが……問題は無

現在組まれているチェーン数はこのカードを含めて7回、よって2800ポイントのダメージを与える」

「ば、バカな……」

アレは確か……「チェーンバーン」!?

バーン系デツキが敬遠され、殆どが制限カードになっているこの世界でこんなに堂々と使うだなんて!

あんなデツキ、そう簡単に使って良いデツキじゃないのに……

「ではチェーンを処理していきましようか」

最初に連鎖爆撃チェーン・ストライクの効果により、チェーン数×400ポイント

現在7回なので2800ポイントのダメージを与える」

「な、なあ!?! ぐはああ!」

カードから鎖が放たれ、龍牙先生に巻き付き、手足を絡め取る。

そしてカードの方から鎖が爆発していき、龍牙先生を巻き込んで大爆発を起こす。

これで龍牙先生が受けたダメージは2800ポイント、残りライフは1200。

「続いておジャマトリオの効果により、相手の場におジャマトークンを3体、守備表示で特殊召喚する」

龍牙先生の場に現れるおジャマ3兄弟……そういえばアレって雄？

あんなパンツだけの格好で恥ずかしくないのか……見ている方が恥ずかしい。

「仕込みマシングンの効果

相手の手札と場のカード枚数×200ポイントのダメージを与える

先ほど現れたおジャマトークンも相手の場のカードと数えるので、現在のカード枚数は10枚

よって合計で2000ポイントのダメージを与える」

「なんだその数……うああああ!!」

床から出てきた妙にカラフルなマシングンが10丁……10丁!?

あのマシングンってカード枚数だけマシングンが出てくるのね……

全てのマシングンから同時に弾が撃ち出され、龍牙先生のライフが0に……

「私が……負けた?」



「……何を勘違いしてるんだ？」

「な、なに？」

「まだアンタのバトルフェイズは終了してないぞ？」

この瞬間より、俺はハネワタの効果によって自分が受ける効果ダメージは0となる  
さて……罨カード、妖精の風の影響を受けてもらおうかな？

場に存在している、このカード以外の表側表示の魔法・罨カードを全て破壊する  
そして破壊したカードの数×400ポイントのダメージを互いのプレイヤーに与える

現在このカードを除く、表になっている魔法・罨カードは4枚

よってこれらのカードを全て破壊して1600ポイントのダメージを互いに受ける

もつとも、俺はハネワタの効果でダメージを受けないので何も問題は無いがな

「ぐっ……ぐわあぁー！」

強烈な風が吹き、堅守瑞貴のカードを全て破壊する。

堅守瑞貴の目の前にはハネワタが浮き上がり、全ての風を止めてしまう。

「……ただ龍牙先生に自身を守るカードは何も無い……強烈な風を受けて1600ポイントのダメージ。」

既にライフは0だけど、1600ポイントのダメージを受ける。

「これで最後だな、自業自得の効果も発動される

カードは破壊されても、効果が無くなる事は無いのでそのまま効果は続行だ

相手の場に存在しているモンスターの数×500ポイントのダメージを相手に与える

現在、そちらの場にはトークンを含めて5体のモンスター……よって与えるダメージは2500ポイントだ」

「な、な、なあ……ぐふうー」

自業自得のイラストに描かれている、赤い太ったモンスターが出てきた。

そのモンスターが自分の太った体を利用して転がって……龍牙先生に突撃、転がりに巻き込んだ。

潰されて情けない声を出して……これで2500ポイントのダメージ。

合計ダメージは2800+2000+1600+2500=8900……元世界でも1ターンキル!?

「(情報収集は大事だって事がよく分かるな、元々大事だとは思っていたから当然のようにするが

対戦した生徒の話を聞く限り、こいつと決闘デュエルした時に魔法カードが使えなくなるらし

い  
可能性としては生徒のメンテナンス不足か、こいつが何か細工をしたかのどちらかだ  
ろう

モンスターは問題無く出せるし、罠カードも問題無く作動する

ならこいつが細工をしたと考えるのが妥当……だが、誰も決闘盤デュエルディスクを渡していない

ではどうやって細工をしたのか、決闘中デュエルに何かしら小細工をしたと考えるべきだ

突然魔法カードが使えなくなってしまう、なら最初から魔法カードなんて使わなければ良い

た  
故に基本は罠、モンスターによるバーンダメージを狙う「チエーンバーン」を選択し

別にこんなバーンデッキでなくとも勝てる自信は有るが、魔法カードが使えないのは厄介なのでな

面倒だし、時間が勿体ないし、咲良の企みをさっさと無にしたかったのも有るので採用した

今回は例え魔法カードが使えなかったとしても、与えるダメージは6100なのでどちらにせよ勝っている

ま、今後は使わない方向で考えるが……何か有ればまた使ってやろう、主に咲良関係

で)」

あ、堅守瑞貴に睨まれてる……もしかして私が仕立て人だつて気付かれた？

大丈夫だとは思うけど、もし訊かれても惚けよう、うん。

「俺の勝ち……ですね」

「な……な、納得できるか、あんな決闘<sup>デュエル</sup>！

いきなり効果ダメージカードを大量に使っただけだ！

あんな決闘<sup>デュエル</sup>、認められるはずが無い！」

なんというか、見苦しい。

言いたい事は理解できる、何もできずに敗北すればそう思うのは当然。

だけど、それでも納得できなくても認めるしか無い。

「ふう……認められないのならこんなカードは出てませんがね

効果ダメージカードなんて最初から生まれ無い、それなら納得できるんですか？

ま、発売されている以上、納得できなくとも使われても不思議じゃないのは当然でしょう？

まったく何を言っているのやら……子供ですか？ 負け惜しみは誰にでもできます

よ」

「黙れ！」

楽しそうな顔でイジメル堅守瑞貴……なんか失敗した。

こんな事になるんだったら仕組まなかったら良かった。

嫌になるならともかく、方向性は違っても楽しまれたら意味が無い。

「やれやれ……ならもう1度だけ相手してあげますよ」

そちらが勝てば先ほどの決闘は無かった事にしましょう

こちらが勝てば生徒に2連敗をし、情けなくも負けてしまった……そうなりますが」

なんとも嫌味な言い方、だけど龍牙先生もここで負けるといふ事はデュエル・アカデ

ミアに就職できない。

ならば例えどのような言い方をされようとも……

「……いいだろう、受けてやろうではないか」

今度はあのような真似をされる前に潰してくれる」

受けない理由は無い。

「先攻は譲りますよ、敗者ですからね」

「くっ……」

相変わらずというか……そんなにイジメテ楽しい？

龍牙先生には堅守瑞貴があまり調子に乗らせないように頑張つてほしい所。

でも、龍牙先生も調子に乗られたらそれはそれで気に入らない……

「決闘<sup>デュエル</sup>！」

「私のターン、ドロー！」

手札から俊足のギラザウルスを特殊召喚！

このモンスターの特殊召喚成功時、相手は墓地からモンスターを特殊召喚できるだが、そちらの墓地にモンスターは存在していないのでデメリットは無しだ！」  
足の速そうなやや小さめの恐竜。

開始1ターン目に出てくるモンスターでは最高クラスに良いモンスター

攻撃力はやや低いけど、それでも問題無い。

「相手モンスターの特殊召喚成功時、手札のカオスハンターの効果発動

手札1枚をコストに、このモンスターを手札から特殊召喚する

そしてこのモンスターが場に存在する限り、相手はカードをゲームから除外できない」

「私のターン中に攻撃力2500のモンスターを特殊召喚したど!?」

やや桃色の白髪ロングの、目の部分を仮面で隠した女性の悪魔。

手に持つのはとても長い鞭……どうしてこのモンスターで除外を封じるのか疑問。

「くっ……ならばもう1体、俊足のギラザウルスを今度は守備表示で特殊召喚だ！

そんなモンスターが何枚も手札に有るはずが無い！」

「ならその特殊召喚成功時に手札のドラゴン・アイスの効果を発動

相手が特殊召喚に成功した時、手札を1枚捨てる事で手札か墓地から特殊召喚できるこのモンスターは場に1枚までしか存在できないが、まあそんな事はどうでもいい

俺は手札のドラゴン・アイスを捨て、墓地からドラゴン・アイスを守備表示で特殊召喚」

骨みたいな顔をし、ややボロボロになっている翼の青いドラゴン。

ステータスは高く無いけど、この特殊召喚が厄介なモンスター……

手札コストが必要なのに不必要に等しい。

「更に俊足のギラザウルスのデメリット効果により、俺は自分の墓地のモンスターを特殊召喚する

俺は墓地より、マジック・キャンセラーを守備表示で特殊召喚する

このモンスターが表側表示で存在している限り、場の魔法カードは発動できず更に場に存在する魔法カードの効果は全て無効になる」

「くっ、カオスハンターの時に手札から捨てていたカードがモンスターだったか！

しかも魔法カードを封じるモンスターだど!?

お前が使うデッキは殆どが魔法カードに依存しているはずじゃ……」

見た目はやや昆虫のような、青い機械族モンスター

でも疑問しか浮かばない……堅守瑞貴は魔法カードを多用する戦いを得意としていたはず。

なのにどうしてこんな、魔法カードを封じるモンスターを採用している？

しかも手札のカードはモンスターばかり、あんなバランスの悪いデッキを使う？

ネタとかテーマとか、遊びデッキでなければそれは無いはずなんだけど……多分。

「俺が魔法カードに依存したデッキを使っている？」

くつくく……最初から封じられると分かっているのに誰がそんなデッキを使うかよ

このデッキは最初から魔法カードも、罠カードも入っていない、全てモンスターカードのデッキだ

それとも、俺が魔法カードを使っていないと、依存していないと何か不都合でも有るのかな？」

「クッー！」

それであんなモンスターばかりのデッキに……今回は「フルモンスター」なのね。

だけど、魔法カードを使わないと龍牙先生に不都合？ しかも悔しそうな顔をして、

何か裏でも有る？

そしてその裏を、堅守瑞貴は知っている……どういう事なの？



「魔法カードが使えなければ超進化薬は使えない

速攻で上級モンスターを並べようとしたのに……余計な事を！」

私は攻撃表示で特殊召喚した俊足のギラザウルスを生贄に、暗黒ドリケラトプスを召喚！

（強力なモンスターが居るが、それよりも……魔法カードだ！）

このモンスターは相手モンスターの守備力より攻撃力が上回っていた場合、戦闘ダメージを与える貫通効果を持つ！

暗黒ドリケラトプスでマジック・キャンセラーに攻撃！」

緑色の肌をし、鳥のような羽毛をしているた巨大な恐竜族モンスター

龍牙先生の攻撃指示を受けたはずなんだけど……動かない？

「おっと、何か勘違いしてませんか？

今は、先攻ターン目のそちらのターン、攻撃は当然としてバトルフェイズにも入れない

ね それなのに攻撃しようとは……それで本当に教師が務まるのか疑問しか沸きませぬ

「こんなルール、小学生でも……下手すれば幼稚園児でも知っている超基本的知識ですよ。」

そ、そういえばまだ先攻1ターン目だった。

堅守瑞貴がモンスターを出し過ぎて忘れてた。

相手ターンにモンスターを3体も特殊召喚するだなんて……

「しまっ！ クツ！」

カードを1枚伏せて、ターンエンドだ！

（魔法カードが封じられていなければ地砕きも使えたのに！）

「俺のターン、ドロー」

自分の墓地にモンスターが存在しない事により

手札からこのモンスター、ガーディアン・エアトスを特殊召喚する」

「墓地にモンスターが居ない時に特殊召喚できるモンスター!？」

真っ白な翼を持ち、頭に白銀の巨鳥の頭の毛皮をかぶった民族衣装……つばい服の美

しい女性が現れた。

ガーディアン・エアトスの美しい姿に、観客達も息を呑む。

それにしても、「フルモンスター」にガーディアン・エアトスを入れるだなんて、どう

して？

「更に俺はザ・カリキュレーターを通常召喚する」

電卓みたいな体をし、手足が出てきて頭に当たる部分には×300と書かれたモンス

ター

でも、見た目的に機械族なんだけど雷族……計算機のモンスターなら機械族じゃないの？

「このモンスターの攻撃力は、自分の場に存在する表側表示のモンスターのLV×300ポイントとなる

俺の場に存在するモンスターはLV2の自身であるザ・カリキュレーター

LV5のドラゴン・アイスとマジック・キャンセラー

LV7のカオスハンター、LV8のガーディアン・エアトスの合計LVは27

よってザ・カリキュレーターの攻撃力は8100だ」

「攻撃力8100だど!」

ザ・カリキュレーターは自分の体の電卓部分を押し、×300の前の空白部分に27の数字が現れる。

そしてIIを押す事で数字が点滅し、出てきた数字は現攻撃力である8100

あの部分ってLVを計算して攻撃力を表示する場所だったのね……

それにしても、立派な後攻1ターンキルね。

確か1ターンキルは嫌いって言ってたはずだけど、こっちでは平気にするの？

そう考えたら……この世界では最強クラスになっちゃうんじゃない？



「別にメタデッキにしたつもりは無いのに自然とメタっぽくなってんな……なかなか不思議な状況だ

あまり属性とか気にせず、ただフルモンスターで力押しするだけのデッキなのに

まあ、マジック・キャンセラーと人造人間サイコシヨツカーのロックモンスターは入っているがな

ほぼ殴り合いをするデッキのはずなのにこの光景は……運が良いのか悪いのか難しい所だ」

いくらなんでも酷すぎない？

私もだけど、他の人も凄く引いてる……

「……もういいや、面倒になったしさっさと終わらせよう」

マジック・キャンセラー、ドラゴン・アイスを攻撃表示に変更

マジック・キャンセラーで俊足のギラザウルスに攻撃」

マジック・キャンセラーの前面に装着されているパラボラアンテナみたいな部分に光が集まり

俊足のギラザウルスに照準を向け、中心部から青いレーザーが放たれ、光に貫かれて破壊される。

「伏せカードは発動しない……攻撃反応型の罠カードではないか

なら可能性が有るのは攻撃力上昇系のカードだが……あの厳しそうな表情からは一矢報いるなどの感情は無さそうだな

となれば生き残る可能性を上げる手段が有るとすればあの伏せカードは……)

カオスハンターで暗黒ドリケラトプスに攻撃」

カオスハンターは自身の持つ鞭で暗黒ドリケラトプスを何度も叩きつける。

何度も何度も……いつまで続ける気なの？

タツプリと一分以上叩き続け、満足したのか暗黒ドリケラトプスの顔を踏みつける。

そして足をグリグリと捻って……最後の最後に踏みつけた足を大きく振り上げて顔を強烈に蹴っ飛ばして破壊した。

……私、絶対にあのモンスターは使わないと誓おう、うん、怖いし。

「……………ガーディアン・エアトスで直接攻撃」

「グツ！ 永続罨、化石発掘を発動！」

自分の墓地に存在する恐竜族モンスターの効果を無効にし、特殊召喚する！

私は墓地の暗黒ドリケラトプスを守備表示で特殊召喚！」

「(ま、蘇生カードだろうな

良かった良かった、これで全モンスターで攻撃できる

ドラゴン・アイスで攻撃していた場合、暗黒ドリケラトプスを攻撃表示で特殊召喚さ

れる

そうなればドラゴン・アイスは攻撃を中断し、ガーディアン・エアトスで攻撃するしかなくなってしまふからな)

ではこのままガーディアン・エアトスで暗黒ドリケラトプスに攻撃」

空中に浮かび、手に持つ綺麗な剣を引くように構えて……消える。

気付いた時には暗黒ドリケラトプスの背後に立っていた。

数秒後、暗黒ドリケラトプスは真つ二つに切り裂かれ、破壊される。

「次だ、ドラゴン・アイスで直接攻撃」

「ぐうううう！」

ドラゴン・アイスは口から青い、氷のブレスを吐き出し、龍牙先生に攻撃する。

残りライフは2200、だけど残ったモンスターは……攻撃力8100のザ・カリ

キュレーター

伏せカードは無く、モンスターも居ない龍牙先生にこの攻撃を防ぐ手段は無い。

「ザ・カリキュレーターで直接攻撃」

「ぐわああ！ ぐわっ！ ぐっ！ もうぐっ！ やめっ！ ぎっ！ ろおっ！」

うわあ……手に当たるであろう部分から電気玉を撃ちだして攻撃してるんだけど

その回数が1回や2回じゃなくて何回も……何回するつもり？

煩いから龍牙先生の悲鳴は省略してほしいなあ……

暫く打ち続け、やつとザ・カリキュレーターが止まる。

撃ち出した電気玉は27回、場のモンスター<sup>モンスター</sup>のLVの回数攻撃した。

あの電気玉って1回が攻撃力300の攻撃だったとか？

でなければこうはならないんだけど……5900ものオーバーキルね。

「今回も俺の勝ち、残念でした

確かに手札は良かったものの、反則したと言えませんかよねえ？」

「クッ……ぐうう……」

悔しそうな顔をする龍牙先生。

その龍牙先生に堅守瑞貴は近づき、腕を持ち上げて指輪を抜き取った？

「ま、待てー！」

あの指輪を取られて慌てる龍牙先生。

だけど、なんだか大事な物を取られたというよりも

見られたくない物を取られたような反応に近い気がする。

「(何度かこの指輪に視線を向けていたからこれに仕掛けが有ると思うのだが……)

ふむ……お、ここが回る？ となるとこれは……試すか」

何人もの生徒が見ている前で堅守瑞貴は決闘場<sup>デュエルフィールド</sup>で色々としている。



何がしたいのか全く分からないけど、みんな黙って見ている。

堅守瑞貴は決闘盤デュエルディスクを起動させて……

「んー……神獣王バルバロスを召喚」

神獣王バルバロスが妥協召喚され、攻撃力1900で現れるけど……

「伏せて……罫カード、幻獣の角をバルバロスを対象にして発動して装備」

バルバロスの額に一角の角が現れ、バルバロスが咆える。

攻撃力は800上がって2700……だけど、それがどうかしたの？

「装備魔法、魔性の月を発動し、バルバロスに装備」

場に月が現れ、バルバロスは更なる咆哮を上げる。

とても凶暴な、いつ人を襲ってもおかしくないような恐ろしい咆哮を……

攻撃力も本来の攻撃力である3000まで上昇した。

「ふむ……」

堅守瑞貴は指輪の宝石部分デュエルディスクを決闘盤に向けて何か弄った。

回したというか、何をしたのかよく分からない。

そしてそれを床に置き、少し離れた場所で再びカードを取り出し、発動させる。

「魔法カード、野生解放をバルバロスを選択して発動」

しかし、野生解放というタダでさえ凶暴なバルバロスを更に凶暴化させるカードを

使っても反応は無い。

野生解放は獣族、獣戦士族モンスターの攻撃力を守備力分上昇させるカード。

バルバロスの守備力は1200、攻撃力は4200まで上昇するはずなのに変化が無い？

「ふむ……なるほど」

堅守瑞貴は再び指輪の下まで移動し、再度指輪を操作する。

そして同じように指輪を置き、また離れて……

「魔法カード、野生解放をバルバロスを選択して再び発動」

今度はバルバロスが巨大な咆哮を上げ、上半身の筋肉が膨れ上がり、下半身の獣部分も一回り大きくなった。

更に爪が大きく伸び、尾も伸びて鬣も長くなる、おまけに顔も凶悪になった上に牙がとても鋭くなる。

まさに野生解放という名に恥じないまでの、とても恐ろしい魔物としての姿になった神獣王バルバロスが現れた。

「クツククク……さてはて龍牙実習教員、これはどういう事か教えてもらっても構いませんかねえ？」

見ての通り、先ほど指輪を弄ったら魔法カードが使えたり使えなくなったり

こんな物を持つているとは、詳しいお話をお願いしたいのですが……どうでしょうか？」

堅守瑞貴の言う事が本当だとしたら……だとしたらもなにも、どう見ても本当。

なら龍牙先生はイカサマをして勝ち続けていたという事？

しかも、イカサマも許されないのに、更には学園で禁止されているアンテイルールまで！

観客はざわめき、段々と龍牙先生への罵倒へと変わっていく。

当然と言えば当然、こんな卑怯な事をして許せる生徒なんて、この学園に1人も居ない！

「わ、私はそんな……」

「龍牙先生」

「ツ！ 校長先生……」

あ、居たの校長先生。

今の今まで気付かなかった。

「貴方は決闘者<sup>デュエリスト</sup>として、最低の事をしました

更には疑いたくなかったのですが、学園で囁かれています……

龍牙先生が生徒達からカードを奪っている噂についても教えてもらいましょう

これより、貴方の部屋を徹底的に調べさせていただきます

貴方には取り調べを受けてもらい、その後はこの学園から出て行ってもらいます  
今後、二度とこの学園に來ない事を願います」

校長先生の決定に、龍牙先生はガツクリと四つん這いになって落ち込んだ。

こうなつた原因である堅守瑞貴を睨むものの、堅守瑞貴は例の指輪で遊んでいて気が付きもしない。

「校長先生、この指輪はどうしましょうかね？」

「こちらで預からせてもらいます

こんな事に巻き込んでしまつて申し訳無い……」

「別に、暇潰しになつたので気にしない事にします

1生徒から言いたい事が有るとすれば、今後はこんな人を雇わないでください

とまあ、これぐらいですね」

校長先生に指輪を渡し、堅守瑞貴は欠伸をしながら決闘場から出て行つた。

龍牙先生は最後の最後まで堅守瑞貴を睨んでいたものの、最後には力無く動かなくなつた。

その後、龍牙先生はアカデミア倫理委員会の人達に連れて行かれ、今回の騒動は終了した。

……

……

……

後日、堅守瑞貴に褒美が与えられる事になったのだけど……

堅守瑞貴はブルーへの昇格を希望、でもさすがに色々と早過ぎるのでそれは無しになった。

ではカードをとという事になったものの、それは堅守瑞貴が拒否、欲しいカードが無いとの事。

ならばどうしようという事になり、最終的に堅守瑞貴の部屋の物を綺麗にするという事で決着が着いた。

具体的には掃除をしたり、汚れていたり壊れそうな物を取り替えるという内容なんだけど……

「どうして、私が、貴方の、部屋の、掃除を、しなくちゃ、ならない!」  
「お前が仕組んだんだろうが、龍牙実習教員と俺の試合を

残念ながらクロノス教員や校長、鮎川教員にも訊いたから証言は十分だ

お前が下らない事をするから下らない面倒事に巻き込まれただろうが

掃除でもして反省し、その小さい企みも一緒に洗い落とせ」

「クツ……覚えてなさい、絶対に、仕返し、してやる、から！」  
「仕掛けた結果、仕返しされてるのはお前だろうが」

ほら、掃除程度で済ませてやってるんだから寧ろ感謝しろ」

屈辱！ 絶対に学園から追い出してやる！

雑巾で濡れた手を動かしながら、私は堅守瑞貴を追い出す事を強く誓った。

ちなみに掃除は明日香が、自分が話に出したのが原因だと若干の責任を感じて手伝ってくれた。

堅守瑞貴は別にどうでも良かったみたいだけど、少し居心地が悪そうだった。

多分、あまり気にしていなかった明日香が掃除に来て、どうすればいいのか分からないのだと思う。

掃除が終わった後、明日香にあまり気乗りしていなかったみたいだけどカードを渡していた。

渡したカードはコアキメイル・ベルグザーク、戦士族維持コストのコアキメイルモンスター

戦士族主体の明日香には丁度良いモンスターかもしれない。

基本攻撃力が高く、連続攻撃もできるこのモンスターは強力なモンスターだし。

それを理解している明日香は驚いて、このカードを貰っても良いのか訊いている。

ダメなら渡さんと正論を言う堅守瑞貴に礼を良い、明日香は帰っていった。

……明日香って、こんな扱いのキャラだったっけ？

そもそも、龍牙先生なんて登場した？ 私の記憶力不足なのか分からない。

でも……本当に堅守瑞貴は私の知る堅守瑞貴なのだろうか？

この前からこの考えが頭から離れない……完全に違いが分かるまで様子見かな？

## 6話【操られた2人・前編】

先日の龍牙の件から数日。

咲良が俺を呼び出してきた……面倒事の予感しかないな。

「……で、なんだ？」

「手伝ってほしい事が有る」

「断る、じゃあな」

「話ぐらい聞いて！」

溜め息を吐き、とりあえず話を聞くだけは聞いてやろう。

断るつもりしか無いが、暇潰しにはなるか。

「で？」

「もう少しその態度はどうにかならない？」

それはともかく……最近、明日香が夜中に外に出てる

心配だし、気になるから何をしているか調べたい」

「別にそれぐらい構わんだろうが……逢い引きでもしてるんじゃないか？」

丸藤亮と会っているという噂が立ってるらしいしな」



「……何で知ってるの?」

龍牙の件の後、頭では理解していたが実感が無かった情報の大切さを、改めて重要だと理解した。

下らない話題から騒ぎになるような話題まで、どんな話題も捨てずに覚えておく。大抵は今のようにつまらんが、知っているのと知らないのでは差は大きい。

積極的にはしていないが、この程度の噂は耳に入ってくる。

「まあ、私もその噂は知ってるけど違うらしい」

海の方で会っているらしいけど、明日香は森の方に向かっていているみたい」

そこまで知ってるなら別に俺なんて呼ぶ必要は無いだろ……

何故俺が天上院の調査なんてしなければならんのだ。

というか、何故俺を頼った? そういうのは遊城辺りにでも頼めよ。

「気になるのは、あの森には廃寮が有って

その寮では昔、何人もの生徒が行方不明になっているって話

しかも、あの寮では闇のゲームを研究していたらしい」

「闇のゲーム……ねえ?」

遊戯王DMで、千年アイテムを使った生死を賭けたゲーム。

このGX時代にも有った気がするが……こんなにすぐだったか?

「もし明日香がその寮を調べているのなら

危険だから止めさせたい、違うのなら違うで何をしているのか調べたい  
だからそれを手伝ってほしい」

「断る」

「闇のゲームなんて信じる相手が貴方ぐらいしか居ない！

他に頼れる相手が居ない！ だから手伝って！」

「断る」

「闇のゲームを信じる人なんて居ない！

他に頼める相手が居ない！ 手伝って！」

「断る」

「他に言えるような知り合いが居ない！

理解してくれる人が居ないから手伝って！」

「断る」

「こんな事言える人なんて居ない！

明日香が心配だから手伝って！」

「断る」

「えーつと……んー……て、手伝って！」

「断る」

ネタ切れか？ ボキヤブラリーが無くなっちゃったのか？

まあそれでも面倒だから断るけどな。

「闇のゲームとか千年アイテムとか、そういうのに興味が無いの？」

「……………」

そういえばこいつ、俺の事を知ってるんだったな。

俺の趣味とか興味が有る事を知っていても不思議ではないか。

確かに興味は有るのだが……

「今は関係無いんじゃないか？」

「有る」

「ほう？」

断言するとは、何か理由が？

「一応、私は貴方よりこの世界を知っているつもり

あまり覚えていないんじゃないの？ このアニメの事」

「……………お前はどこまで知ってるんだよ」

俺の記憶範囲まで知っていると、さすがに……

まあ構わん、相手が俺を理解しているのなら話は早い。

「だからこの世界、この時代にも存在する……闇のゲームはね」  
「だが断る」

「くっ……（本当は今回の闇のゲームがインチキだつて知ってる？」

それとも単に面倒なだけ？ さすがにそこまでは読めない

もつと巻き込まれて嫌な想いをして、さつさと出て行つてくれればいいのに！」

探るような目をされるが、気にする程でもない。

にしても、こいつはどうしてこうも俺を面倒事に巻き込もうとするのかね？

俺を追い出したいのならつまらない毎日を送らせればいいのにな。

そうなれば俺もやる気無くして何もしないだらけた毎日を送るだろうに……

面倒事は嫌いだが、騒ぎはそれはそれで楽しいんだぞ？

まあ、巻き込まれるのは嫌いだが……自分から首を突っ込むのは好きだが。

「話は終わったな？」

ほら、さつさとどこかに行け」

「（これ以上粘つても了承しなさそうだし、諦めるしか……

でも確か、アニメでは最終的に本当の闇のゲームまで発展していたはず

十代をそれに巻き込んでもいいのかどうか……

あの【堅守瑞貴】みたいに、本当の闇のゲームに見せるようにしただけにする事が正

解なのか

アニメみたいにインチキを気付かせ、それでも本当の闇のゲームが有るのかもしれないと思わせるべきか

今後の十代の成長を考えたら前者の方が良いはずんだけど……どうしよう?」

咲良は悩みながら、頭を抱えながら去って行った。

やはり先を知っていると色々と考ええる事が有るのか?

だからといって俺を巻き込むのは止めてほしい所だ。

さて……つと。

俺は巻き込まれるのは嫌いだ、自分から首を突っ込むのは好きだ。

天上院が行方不明になろうが、天に召されようが、オブラートに包まずに死んでしまおうが

俺が巻き込まれなければどうでもいい、寧ろ面倒事が減るからメリットなんじゃないか?

ま、人が死ぬ所なんて見ていて良い気がするものじゃないし

そんな事にならない方がいいんだが、どうでも良い事というのは事実だな。

俺は俺で、自分で廃寮というのを調べてみるか。

何か見つかればそれで楽しめばいいし、本当に闇のゲームに出会ったとしても……勝

てばそれまでだ。

所詮、この世界はデュエルモンスターズで基本構築されている。

生死を賭けた決闘なら、嫌いなのだが、ターンキルをしてでも勝つまでだ。

勝ちさえすれば俺には何もデメリットは無いのだからな。

………

………

………

夕方、廃寮に来て探索をしている。

深夜は深夜で色々とする事が有る、つまりこれは仕込みだ。

あんな話をしたんだ、どうせ咲良か天上院のどちらかは必ず来る。

子供っぽいのが、抜き打ち肝試しとでもいこうか……季節外れだがな。

んー……この部屋にはこんな物が有るのか……ん？

なんだこの写真、長い黒髪でオベリスクブルーの制服を着た男子……FuBuKi

10Join?

これはどう読むんだ？ フブキ ジュウジョイン？ いや、フブキ テンジョインか

？

テンジョイン……テンジョイン？ テンジョウイン……天上院か？

つまり天上院がこの森を調べていると仮定し、この廃寮に用が有ると仮定するならばこの男が関係していると考えて良さそうだ。

1年生だから弟は無い、父親という可能性は薄そうだし、兄が妥当かな？

さすがに従兄弟だの義理兄弟だのと考えると切りが無いから兄とでも思っておく。

闇のゲームの研究に、行方不明になった生徒……それを調べていると考えるのが正解か。

自分の関係者がそんな事に巻き込まれれば調べて当然だな、まあこれで天上院の問題は解決つと。

それはさて置き、どこで何をして、どんな事をしてやろうかな……

童心に帰るのも偶にはいいな、こんな子供っぽい事なんて現代じゃできる事じゃないし。

若返ったというのも有るし……もしかして肉体に精神が引つ張られてるのか？

俺はここまで子供っぽい性格じゃなかったはずだし……まあ別に問題は無いかな？

今を楽しめればそれでいいし、もし引つ張られていてもそこまで困る問題でも無い。

俺は今を楽しむタイプの人間であり、未来を楽しむ為に動くタイプでもあるからな。

例えるならば、食事時に好きな食べ物が出た場合、楽しみは後に取っておく為に最後に食べる。

しかし、その次に好きな物は先に食べてその瞬間を楽しむ……嫌いな食べ物も2、3  
番目ぐらいに食べる。

最後の楽しみのみならば、多少の面倒も甘んじて許容する、それでいて今も楽しむの  
が俺だ。

さてと、どこで仕掛けるかなーつと。

絵の有る部屋で絵画に潜む者とか、ベッドの有る部屋で夢魔の亡霊とか、甲冑の有る  
部屋で首無しの騎士とか

そんなモンスターを突然召喚して驚愕させるとかが良いかな？

おっと、それよりも今はどこに何が有るか調べないと。

という訳で地下室まで降りてきたのだが……なかなか良い趣味の部屋だ。

ここは決デューエルフィールド闘場であると同時に、儀式場にもなっていたんじゃないか？

装飾、雰囲気、部屋の形に床の模様……闇のゲームの研究という話はデマでは無さそ  
うだ。

下手な操作をしなければ何も問題は無いだろう。

最後はここで変装でもして、行方不明になった生徒の亡霊だとも言って決闘デューエルをする  
とか？

それはそれで楽しそうだ、その路線でやってみるか。



天上院ならば消えるように見せかけ、咲良なら驚けば馬鹿にしてやろう。  
下調べも終わつたし、急いで準備をしないとな。

間に合わなかつたら調べ損だし、頑張ってみようかね。

明日香の後ろを隠れながら歩く。

確か近いうちに何かが起こつたはず……それがいつか分からない。

堅守瑞貴の奴はやっぱり動かなそうだし、今回は私がなんとかしないと。

後を付けてきたのはいいんだけど、廃寮の周りを歩いているだけで中に入ろうとしな  
い。

まだ探索段階なのか、それとも別に調べているのか……あれ？

明日香に近づいて来てるのって、もしかして十代に翔に……誰だっけ？

アニメに居たのは覚えてるけど、途中退場だったから名前を忘れてしまった。

えっと、えっと……でかいの？ って、それは違う！ 確かに太ってるけど違う！

話は少し離れてるから分からないけど、明日香が十代に何かを言っているらしい。

多分、この廃寮に近づくなとか、そんな感じだと思う。

でも十代の性格から考えて、多分明日香の言う事なんて聞かずに入るはず。

という事はアニメのイベントが起こるのって……まさか今日!?

何か起こる、でも詳しくは覚えていない。

所々アニメに関する記憶が無くなっている……何が起こったわけ？

闇のゲームが関係するのは覚えてる、でも確か、確か……

悩んでいる内に、十代達は廃寮に入っていた。

そういえば明日香はどこに？

そう思っただけを見た時、黒い服を着た大男に担がれている明日香を……誘拐!?

でも、大男は廃寮に入っていた……何が起こった？

分からないけど、とりあえず気付かれないように追いかけてみよう。

暫く見ていたけど、特に明日香に何かをするつもりは今の所無さそう。

気になる事は、明日香のカードを一枚抜き出して床に落としたり

埃だらけの床に、引き摺るような跡を付けたり……何が目的？

落とされたカードは気になるけど、今は放置。

取った時に気付かれたら拙いし……後で拾えばいい。

こんな時に堅守瑞貴が居れば悪ふざけをしそうだけど

今回に限って来なくて良かった、断られていて良かった。

ゆっくりと大男の後ろを歩き、足音を立てないように慎重に……

「んむっ!」

後ろから誰かが口を塞いで!?

まさか仲間が!? でもそんな事は私の記憶が間違っていないなかったら無かったはず! あれ? なんで私はあの犬男に仲間が居ないって覚えている?

記憶がちぐはぐで、忘れていたり思い出したり……って、今は関係無い!

そんな事を考えている内に何かで目隠しをされ、猿轡をされて口を塞がれる。

更に手首を縄か何かで縛られて……どうして私がこんな目に!?

何が起こっているのか理解できない。

だけど歩けと催促されるかのように、腕を縛っている縄が引つ張られる。

多分、縄の先を相手が持つていて、そこを引つ張られているのだと思う。

怖い……怖いけど逆らったら何をされるか分からない。

私は黙って（口は塞がれているけど）引つ張られる通りに歩き出す。

暫く歩き、引つ張られる力が無くなった。

目的地に着いたみたいだけど、どうなっている?

「んんー? なんだ、貴様は?」

誰の声? 私は知らない……でも、もしかして私を引つ張っている人とこの声の主は

仲間じゃない?

ならなんの為に私はこんな目に遭っている? 訳が解らない。

「楽しそうな事をしているから混ぜてもらいに来た」

この声は……この、声は……何を考えてこんな事をした、堅守瑞貴!!!

しかも楽しそうな事？ 混ぜてもらいに？ ふざけるな！

「おーおー、怒ってるな

俺に気付いたか？ まあ声を聞けば分かるか」

当たり前！ 馬鹿にするな！

「貴様、何が目的だ？」

「天上院を誘拐し、遊城を誘い出す

それはそれで十分楽しそうだが、俺もその茶番に付き合わせろよ

条件として、カードを数枚ほど渡す……どうだ？」

明日香の誘拐はともかく、十代の誘い出し？

……思い出した！ 確かクロノス先生が十代を追い出す為に呼び出した刺客！

名前まで覚えていないけど、確かデーモンデッキを使うインチキ闇のゲームをする人

！

あれ？ でもこれって確か堅守瑞貴を誘う時には覚えていたはず……でも思い出し

た？

こんな短時間で忘れるほど記憶力が悪かった、なんてそんな事は無い。

どうなってる？ 私の記憶はどうなってる？ 自分が、なんだか自分が怖くなっていた。

「私がする事は仕事だ、お前のようなお遊びとは違う」

「だが、アンタは俺の条件を呑まなければならぬ」

今回の誘拐事件を警察に通報してもいいんだぞ？

俺はアンタの事は知っている……闇の決闘者<sup>デュエリスト</sup>、タイタンだったかな？

状況証拠として写真を……今、撮ったので十分だろうな」

写真をとった時、シャッター音が聞こえた。

どうやら本当に写真を撮ったらしい。

でも、シャッター音に若干の違和感を感じた……少し音がずれていたような気がする。

「……………」

「俺の言う事を聞いてくれればこれは警察に提出しないでおう

これは使い捨てカメラだし、このカメラごと渡しても構わない

それで証拠は消える……乗るか、蹴るかどちらだ？」

「……………貴様の目的はなんだ？」

「楽しむ事だ

せつかく俺が下調べまでして、お前が攫った天上院と俺が連れてきたこの女を驚かす為に抜き打ち肝試しを計画したのに邪魔をされたんだ

だから俺が楽しむ機会が減った、それを戻す為にこの茶番に付き合わせろ別に邪魔をするんじゃない、むしろ手伝つてもいい」

抜き打ち肝試しって……もしかしてこの為だけに私の頼みを断った？

嫌がらせも大概にしてほしい、受ける方は大変なのだから。

相変わらず、堅守瑞貴は楽しむ事しか考えていない……

「……いいだろう、だがその女はどうするのだ？」

「こいつか？」

まあ、さすがにもう暴れないだろうからいいか」

「ふあー！」

猿轡を外され、目隠しを外される……腕は縛られたままだけど。

目に入ってきたのは堅守瑞貴と大男、そして悪趣味な棺桶みたい物に入って気絶している明日香。

「こいつら……酷すぎる！」

「堅守瑞貴……」

「おっと、そんなに睨むな

単なるお遊びのつもりだし、天上院に何かをするなら問答無用で警察に突き出すつもりだ

別に、アンタも天上院に何かをするつもりは無いんだろ？」

「うむ、この者は遊城十代を誘き出す為の餌だからな」

「そういう問題じゃない！」

「こいつらは何を考えている！」

「こんな事をしていいはずが無い！」

「さてタイタン、お前の事を詳しく教えてもらおうかな？」

「一応名前ぐらいは知っているが、それ以外はあまり知らないのにな」

「どうして名前を知っているの？」

「外の楽しそうな決闘者デュエリストの名前ぐらいいは一応調べたからな

しかしまあ……何が悲しくてこんな場所まで足を運んだのか理解に苦しむ

誰かの依頼だとして、遊城十代を狙う理由を持つ者なんて……ああ、そういう事か  
 (遊城を狙う理由を持って、更に学園に入る手引きをできる人物なんて限られているし  
 な

どうせクロノス教員が嫌がらせをする為に呼んだんだろ)」

1人で勝手に何か言いながら勝手に納得された。

私には何がなんだか……

「話さなければ?」

「言わなければ分からないか?」

さっきのカメラを揺らしながら、またタイタンを撮る堅守瑞貴。

ここまでされてはさすがに言わないとは言えないらしく、タイタンは素直に白状した。

詳しくは省くけど、名前はタイタンで合っているらしい。

偽物の千年パズルを使い、相手に錯覚とプレッシャーを与え、闇のゲームと偽る。

そしてそれを闇のゲームと言い、依頼人に頼まれた相手を精神的に追い込むらしい。

相手は再起不能にはならないものの、闇のゲームの恐怖に陥るとかなんとか……

今回、依頼人から受けた対象は遊城十代、そして誘き出す為に明日香を攫ったと。

「ところで堅守瑞貴」

「なんだ?」

「私は、いつまで繋がれたままなの?」

「俺の手伝いをするのなら解放してやる

しないと言うのなら適当な場所に繋いで、朝まで放置する」



「……………」

つまり、言う事を聞かなければ置いて行くって事か。

嫌だなあ……やっぱり、あの【堅守瑞貴】みたいな事をする？

だとしたら私の立場って……

でも、十代の成長を促せるという方法ならこちらの方が良いのは确实。

確かアニメでは、十代は本物の闇のゲームにまで発展してもインチキだと思っ  
たっけ？

なら最後まで本当の闇のゲームだと勘違いしてもらって、心を強くしてもらおう。

いつか起こる、本当の闇のゲームの為、少しでも強くなってもらおうにも……

「手伝えば、いいの？」

「聞き分けが良くて助かる

咲良、遊城は1人で来ているのか？」

「……違う、他に2人を連れてきているから3人で来ている」

「ふむ、なら……」

今後、どうするかを考える堅守瑞貴。

何をするのかは大体予想はできるけど……

「よし、ではさういのはどうだ？」

私と堅守瑞貴とタイタンで作戦会議……みたいな何か。

完全にとぼちりを受けた明日香には悪いけど、今回は諦めてもらおう。

あまりこういう思考は良くないんだけど、遊城十代を成長させる為に……

言い訳なんてみつともないか、ごめん明日香。

「……悪く無いが、私が怨まれるだけではないのか？」

「どうせ滅多に来ないだろ？」

なら別にいいじゃないか、格好いい悪役ができるぞ」

「悪役に格好いい格好悪いなんて……」

「別にそれはどちらでも良い

そこまでするのだ、キチンと演技はしてもらおうぞ」

「大丈夫だろ、単純な馬鹿ばかりだし」

「……………やっぱり、私も演技をするの？」

なんだかんだで十代達を騙す決闘デュエルが決定した。

今回使用するデツキは堅守瑞貴から渡されたんだけど……なにこのデツキ？

なんというか、ロマンに溢れた楽しそうなデツキって感じ。

男の子って、何歳になってもロマンが好きなの？

かなり事故が怖いけど、それでも現実のデツキとも戦えないという事は無いはず。

まあ……勝てるとは言えないけど、まだまともに戦えるかな？

「いつの間にこんなデツキを作った？」

「ネタデツキは基本だろ？」

……確かにネタデツキだけど、これって結構強くない？

コンボが決まれば強いし、決まらなくてもまともに運用できなくはないし。

やっぱり事故が怖いけど、それでも十分に戦えるぐらいのネタデツキ。

十代達、こんなデツキに勝てるのかな？

「このデツキを使わないという選択肢は？」

「別に構わないが、お前のデツキだとあいつらは勝てないだろ？」

このデツキでも辛いと思うんだけど……私のメインデツキよりかは確かにマシかも。

でも基本攻撃力が高いこのデツキを相手に、十代達はどこまで頑張れるのか……

ちなみに、堅守瑞貴の使用デツキは教えてくれなかった。

タイタンのデツキは「チェスデーモン」だから、それに合わせていると思うけど。

そうこうしている内に明日香の意識が……

私と堅守瑞貴は隠れ、明日香の相手はタイタンに任せた。

「ん……な、何よこれ？」

腕を縛られ、どこか知らない場所に移動していて混乱している。

「ふっふっふ、貴様には遊城十代を誘き出す餌になってもらおう」  
「だ、誰？」

なんというか、ネタを知っているだけにあまり緊張しない。

堅守瑞貴の言う通り、なんだか茶番って感じしかない。

偽物の千年パズルが光り、明日香が悲鳴を上げて再び気絶する。

アレ、どんな仕掛けをすれば気絶するのだろうか？

「……喧しい悲鳴だ」

「何も知らない明日香の悲鳴で文句を言わない」

「だが、これでこの寮に居る遊城十代も来るだろう」

はあ、嫌だなあ……でも今更逃げられないし、覚悟を決めないと。

どうして私、こんな事に巻き込まれているんだろう？

堅守瑞貴を巻き込むはずだったのに、私が巻き込まれたらただの間抜けだ。

白い霧を出し、遊城達が来るのを待つタイタン。

俺と咲良は隠れ、出番を待つ。

足音が複数……どうやら来たみたいだな、遊城。

タイタンにも期待しているぞ、俺を楽しませてくれよ？

「明日香あー！」

「ふっふっふっふっふ……この者の魂は、もはや深き闇に沈んでいる」  
「誰だ!？」

霧の中に紛れていたタイタンがゆっくりと姿を見せる。

こいつの演出もなかなかだな、演出が必要な時は真似させてもらおう。

「ようこそ遊城十代」

「貴様、何者だ!？」

明日香に何をしたんだ!？」

「私は闇の決闘デュエルを操る闇の決闘者デュエリスト、タイタン」

「闇のゲーム?」

「ふざけんな！」

闇のゲームなんて有るはず無いだろ！」

いや、有るんだなこれが……GXはDMの後の設定だ。

つまり、あの当時に有った闇の決闘デュエルは実際に起こった事だ。

今回はインチキで偽物だがな。

「ふふん、試してみれば分かるだろうよ小僧

こころは何人も踏み入ってはならぬ禁断の領域

我はその誓いを破る者に、制裁を下す」

「ここで居なくなつた人達はお前のせいだな！」

明日香は、返して貰うぜ！」

ああ、勘違いしてるのか、天上院に関しては勘違いじゃないけどな。

別に助けようと思えば助けられたけど……

既に廃寮の中だったし、隙を探るのが面倒だったから手出しをしなかつただけで。

「私に闇のゲームで勝てるなら……遊城十代」

後ろで何か靴を漁っていた……なんだつたっけな、あいつの名前。

レッド寮で、体格が大きくて、そしてあの顔は……前田隼人だったか？

さすがにあまり目立たない奴の名前まではあまり覚えていないぞ。

とにかく、そいつから決闘盤デュエルディスクを受け取る遊城。

うーん、主人公してるな、あいつ。

「望むところだ！」

「ふふふ、威勢の良い事だ

だが小僧、貴様の相手は私だけではない」

「なんだって？ 仲間が居るのか！」

部屋の影からゆつたりと姿を現す俺と咲良。

そして俺達の姿に驚く遊城達。

「瑞貴に結美!?!」

名前で呼ぶなど、何回も言ってるだろうがお前は!

さすがに今はそれを言えないが……

「ふははははははは! この者達の魂も私が預かっている

魂を握っている私には、このように動かす事も容易なのだ!」

「そんな……瑞貴! 結美!」

煩い、名前を連呼するな。

さつさと話を進めろタイタン。

「さあ始めようではないか

私とこの2人、そして貴様らは3人

3VS3の変則マッチをな!」

「変則マッチだつて!?!」「ほ、僕も!?!」「俺まで入ってるのかあ!?!」

おー、イイ顔してるじゃないか。

そうやって絶望的な顔つてのを見るのが楽しくて仕方無い。

まあ、今回は頑張つて乗り切ってもらわないと困るんだがな。

「ルールは全員共通でライフポイントは8000

場も全員共通であり、自分のターンに他のプレイヤーのモンスターや魔法・罠カードも使用できる

場のカードはモンスター、魔法・罠共に通常のルールの通りに5枚まで

墓地、除外されるカードも全員共通であり、手札などに戻るカードはターンプレイヤーの手札に戻る

3人のチームなのだ、出すカード枚数に注意しなければ味方を妨害しかねんぞ？

ターン順は相手Aのターン↓味方Aのターン↓相手B↓味方B↓相手C↓味方C↓  
相手Aという順だ

ここまでで何か質問は？」

「……特に無い」「同じくツス……」「俺も無いんだな」

このルールは俺が提案した。

そんなに簡単に変則ルールなんて浮かぶものじゃないしな。

「では始めよう、闇のゲームをな……」

タイタンの言葉を合図に、俺と咲良もデッキをセットして構える。

丸藤と前田も準備をし、決闘盤にデッキをセットして準備を終わらせる。

「絶対に勝つ、勝つて3人を救うんだ！」

「僕だって……僕だって……ううう、あの2人に勝つ自信無いよお」



「よく知らない相手だけど、だからって助け無い理由にはならないんだな！」

おーおー、1人を除いて良い覚悟だな。

特に前田なんてよくもまあ、知らない奴の為に頑張ろうなんて気になるもんだ。

ま、頑張ってくれよ？ 俺達を助ける為にな。

「<sup>デュエル</sup>決闘！」 「<sup>デュエル</sup>決闘」 「デュ、決闘……」

威勢良く言ったのは遊城とタイタン、そして前田。

普通の声で言ったのが俺と咲良で、弱気で言ったのは丸藤だな。

この時点で既にそれぞれのやる気分かるものだ。

「僕のターンから……ドロー」

最初は翔のターンから。

確か使うデッキはロイドデッキだったっけ？

あまり強いイメージは無いし、この時期じゃあまりやる気も無かったはず。

どこまで頑張ってくれるかな？

「えっと、ジャイロイドを守備表示で召喚

カードを2枚伏せて、ターンエンド」

青いヘリコプターがデフォルメされた機械族モンスターが出てきた。

ジャイロイドって事は、やっぱり「ロイド」デツキ。

あのモンスターは1ターンに1度、戦闘では破壊されない効果が有ったはず。最初に出すモンスターとしては良いモンスターね。

「……俺のターン、ドロー」

次は堅守瑞貴のターン……

最後までデツキは分からなかったけど、これできつと分かる。

「インフェルニティ・ガーディアンを守備表示で召喚

カードを2枚伏せ、ターンエンド」

盾みたいな形をして、真ん中の炎の中に頭蓋骨が浮かんでるモンスターか……って、インフェルニティ!?

どうしてあんな1ターンキル率の高いデツキを……

「俺のターンだ、ドロー!」

今度は十代のターン。

最初のターンでもしてきそうな行動としては……

「よし、俺は手札から魔法カード、融合を発動!

手札のE・HERO フェザーマンとバーストレディを融合!

E・HERO フレイム・ウイングマンを融合召喚!」

右手には赤い竜のような砲口、左の背には白い翼、そして尾の生えた十代のフェイバリットカード。

1ターン目に登場する確率が高く、でもよくやられ役になってたっけ？  
今回はどうなるのか……

「バトルだ！」

フレイム・ウイングマンでインフェルニティ・ガーディアンに攻撃！

フレイム・シユート！」

だけど相手は堅守瑞貴、そう簡単に攻撃を通すとは……

「永続罫、ハンドレス・フェイクを発動

自分の場にインフェルニティと名の付くモンスターが存在している時

1ターンに1度、自分の手札を全て裏側表示で除外することができる

俺はこの効果を発動し、手札を全て除外する」

やっぱり……

「手札を除外したって攻撃は防げないぜ！」

「インフェルニティ・ガーディアンの効果発動

自分の手札が0枚の時、表側表示で存在するこのモンスターは戦闘、または効果によって破壊されない」

「なんだって!？」

フレ임・ウイングマンの竜の砲口から放たれた炎を受けつつも、何も影響が無かったように浮いている。

守備力1700のモンスターが最強最悪の盾として君臨する。

ガーディアンの名にふさわしいまでの鉄壁性能……これがインフェルニティ・ガーディアンの強さ。

「手札が0枚の時に発動する効果のモンスターだなんて変なモンスターだな

俺はカードを1枚伏せて、ターンエンドだ!」

十代は甘い、「インフェルニティ」の怖さを知らないからそんな事が言える。

現実の「インフェルニティ」を見たらどう思うか……

「私のターン、ドロー!」

タイトンのターン……つまり、必然的に次は名前を忘れた男子、最後は私になる。

タイトンのデッキは「チエスデーモン」、大体の予想はできる。

「この瞬間、ハンドレス・フェイクの効果発動

除外されたカードを手札に加える……ただし、現在俺のターンではない

よって俺の手札は現在のターンプレイヤーに渡される」

堅守瑞貴は横へ移動し、タイトルへと手札のカードを渡す。

これでタイタンの手札には堅守瑞貴のカードが入り、手札が9枚にまで……  
もしかしてあのカード、手札トス用のカードとして使うつもり？

「ふむ……ほう？ では、手札からジエネラルデーモンを捨て、効果を発動！

デッキよりフィールド魔法、万魔殿バンデイモニウム―悪魔の巣窟を1枚、手札に加える」

フィールド魔法サーチモンスター!?

まさかあのカード、ハンドレス・フェイクで渡したカードじゃ！

だとすれば堅守瑞貴のデッキは単純な「インフェルニティ」デッキじゃない？

「そしてそのままフィールド魔法、万魔殿バンデイモニウム―悪魔の巣窟―を発動！」

辺りが薄気味悪い、悪魔達の巢へと変化した。

そしてこの状況ではかなり拙いのでは？

「更にヘルポーンデーモンを召喚！」

右手は剣に、左手は盾となっている白い悪魔。

チェスで言えばポーンの位置に立つ、最弱と言ってもいい駒。

だけど、これはデュエルモンスターズではあまり当て嵌まらない。

「【デーモン】デッキ……だがそのモンスターには維持コストが必要なはずだ！」

「だがしかし、万魔殿バンデイモニウムが存在している限り

デーモン達に必要な維持コストが無効となり、ライフを払う必要が無くなる

続いて装備魔法、デーモンの斧をヘルポーンデーモンに装備！」

グニグニと右手の剣が動き、斧へと変化される……なかなか気持ち悪い。

だけどこれで攻撃力は2200、E・HERO フレイム・ウイングマンを上回った

！

「ヘルポーンデーモンでフレイム・ウイングマンに攻撃いー！」

斧を振りかぶり、強烈な斬撃でフレイム・ウイングマンは破壊される。

やっぱりあのモンスターって嘸まs……そんな言い方は悪いか。

「くっ、フレイム・ウイングマンー！」

これで十代は1000ポイントのダメージを受けた。

そして確かこの後は……

「ふふふ、ダメージを受けた罰ゲームだ

さあ、これを見よ」

タイタンが偽物の千年パズルを翳す。

見ろと言われて見てしまうのが人間の性、十代達はタイタンの持つ偽千年パズルを見

てしまう。

そして偽千年パズルは輝き出す。

「消えてゆく、お前の体がライフポイントに従い、徐々に消える……」

怪しく輝く偽千年パズルの輝きが収まった時、十代の体の一部が消えていた。

このマジック、どうやってやってるのかイマイチ分からない。

「俺の体が……」

「これが闇のゲームだ」

ライフポイントが0になった時、貴様の体は闇に食われて消え去るのだ」

「まさか、本当に闇のゲーム……」

「立ちこめた黒い霧が貴様達を包み込む」

苦しいだろう？ 息苦しいだろう？ これが闇のゲームのプレッシャーだ

貴様達の足はもう動かず、誰もこのゲームから逃げる事はできない」

痺れ葉を混ぜた霧で足を止めて、息苦しきはその影響を受けたからというのはタイタンの言葉。

ネタは教えてもらったけど、それでもこの息苦しさと足が動かない状態は気持ち悪い

……解毒剤、欲しいな。

「だが、闇のゲームをするには千年アイテムが必要のはず

お前はそれを……」

「ふふふふふ、これを見ろ

これこそ伝説の闇のアイテム、千年パズルだ

この決闘が闇のゲームという証よ<sup>デュエル</sup>

「アレは千年アイテム……」

偽物に騙される3人……武藤遊戯を詳しく知らない人ってこんな反応なの？

やっぱりオカルトって普通の人はあまり知らないのだろうか？

それにしても、あまり話しているとポロが出るから話すのは止めた方がいいのでは？

「私はこれでターンエンドだ」

「俺のターン、ドローー！」

大きい人のターン……本当に何て名前？

「俺は怒れる類人猿を召喚するんだな！」<sup>バースークゴリラ</sup>

やや赤みがかった毛色をした大きなゴリラ。

使用デッキは【獣族】？ それとも単なるアタッカー？

でも、テーマデッキとかを重視しているアニメ世界では単なるアタッカーの可能性は

低そう。

多分【獣族】とか、【地属性】とかのデッキだと思う。

「更に装備魔法、猛獣の歯を怒れる類人猿に装備！」<sup>バースークゴリラ</sup>

攻撃力と守備力を300ポイントアップさせるんだな！」

よ、弱すぎる初期の強化装備魔法？



怒れる類人猿の歯が猛獣の歯に変わったけど……殆どわからない。

だとしても、怒れる類人猿の攻撃力は2300までアップした。

つまり、攻撃力2200のヘルポーンデーモンでは勝てないという事になる。

「ハンドレス・フェイクの効果を発動！」

手札を全て除外し、インフェルニティ・ガーディアンは戦闘と効果で破壊されなくなる！」

「なら怒れる類人猿でヘルポーンデーモンに攻撃なんだな！」

何故か口から炎を吐き出す地属性獣族の怒れる類人猿……ん？

炎の中に何か別の……猛獣の歯が炎に混じって飛び出してる!?

ヘルポーンデーモンは炎に焼かれ、炎が消えた直後の猛獣の歯がぶつかって破壊された。

なんとというか、ヘルポーンデーモンが可哀想になってしまった。

「ぬう……」

タイタンの体も少し消えていく。

本当にどうやってこれをしているのかとても気になる。

「よし、俺はカードを2枚伏せて、ターンエンドなんだな！」

これで向こうの魔法・罠カードゾーンにカードが5枚揃った。

多人数で戦うのなら、こんな状況は不思議じゃない。  
堅守瑞貴の性格、行動、考え方から予想するに……

「畏カード、ストレートフラッシュを発動

相手の場に魔法・畏カードゾーンにカードが全て存在している場合に発動できる  
相手の魔法・畏カードゾーンに存在するカードを全て破壊する」

「な、なんだと!?」「そんなあ!」「全部だつてえ!?」

そんなロマン系カードを……でも、多人数戦では有効な手段である事に間違いは無い。  
い。

実際に発動に成功している以上、馬鹿にできるようなカードでもなければ無視できない効果。

十代達の魔法・畏カードが輝き、破壊されてしまった。

「くっ……だが破壊された俺のカードはヒーロー・メダル!」

このカードが相手によって破壊される場合、墓地へ送られずにデッキに戻る!  
そしてデッキからカードを1枚ドローする!」

「僕の伏せカードはワンダーガレージ

セットされているこのカードが破壊された時

手札からLV4以下のロイドと名の付く機械族モンスターを特殊召喚できる!」

「だがターンプレイヤーは前田隼人

故に遊城十代のデッキにヒーロー・メダルは戻るが、ドロウ効果は前田隼人が行う  
ワンダーガレージの効果も、ロイドと名の付く機械族モンスターは前田隼人の手札か  
ら特殊召喚される」

「……ヒーロー・メダルの効果でドロウするんだな

だけど、俺の手札にロイドと名の付く機械族モンスターは無い

だからワンダーガレージの効果は不発なんだな」

完全に嫌がらせ目的としか思えないようなカード。

しかも、タイミングも絶対に狙っていたとしか思えない。

そしてあの大きい人、前田隼人って名前だったのね。

次はやつと私のターンだけど、手札がやや事故を起こしてる。

こんなデッキだから仕方無いけど、このドロウでどうにかできる？

「私のターン、ドロウ」

ロマンは求められるけど、手札が足りない。

あと2枚ぐらい有れば……スタンバイフェイズ？

「スタンバイフェイズ時

ハンドレス・フェイクの効果により、タイタンの手札を私の手札に加える」

タイトルから手札を受け取り、手札を確認する。

この手札ならロマンを狙う事ができる……だから堅守瑞貴はこんなカードを使った？

手札が12枚も有れば割となんでもできる。

「ゼラの戦士を召喚」

緑の服と青いズボン、どこかで見たかのような青白い顔のような装飾の剣を持つ戦士。

そう、堅守瑞貴から渡されたこのデツキは……

「儀式魔法、ゼラの儀式を発動

手札か場から合計LVが8以上になるようにモンスターを生贄にする事でゼラを降臨させる

私は手札に存在するLV8のモンスター、プリズンクインデーモンを生贄に捧げ幾多の戦士を誘惑し、破滅の道へと進ませる邪悪なる悪魔！

儀式召喚！ 絶望の悪魔王、ゼラ！」

シンクロ召喚の時に使われていたような口上……これって楽しいな。

こういう特殊な召喚の時に使うと恥ずかしいけど格好いいし、なんとというか……開放感？

シンクロ召喚の時にはよく言ってたし、こういう口上は時々したいな。

「攻撃力2800のモンスターだつて！」

「こんな勝てるわけ無いツス！」

「ゼラつて……確かあの青ブルーアイス・ホワイト・ドラゴンの白龍を超える幻の超レアカードじゃ？

俺の気のせいなのか？ それとも俺の記憶が間違つてるのかなあ？」

え、そうなの？

アニメにそんな設定が有った記憶なんて無い。

また忘れてるのか、それとも知らないだけ？

ともかく、青白い肌をし、紫のマントを着けた巨大な悪魔。

その爪は鋭く、攻撃力2800の悪魔王としての威厳が出ている。

つと、まだ続けないと……

「ゼラはゼラの戦士を悪魔の道へと誘惑する

しかしゼラの戦士が目指すは大天使への道……そんな彼の運命は？」

「大天使を目指す男が悪魔なんかの誘惑に乗るはず無い！」

「そうツスそうツス！」

「頑張つてる人を誘惑するなんて酷いんだな！」

……モンスター世界のストーリーにここまで真剣に反論する人、初めて見た。

やっぱり3人共、デュエルモンスターズが好きなんだ。

だけど、ここは感動の正道ストーリーを破壊しないと……

「しかしここは悪魔の巣窟、そんな場所に迷い込んだゼラの戦士の命運は決まっていた

ゼラの戦士は悪魔王の誘惑に導かれ、闇の契約により悪魔への道へ進んでいく……」

ゼラはゼラの戦士の前に立ち、どこからか持ち出したのか、ワイングラスをゼラの戦

士に渡す。

ゼラの戦士は悩みながらもその杯を受け取り、ワインなのか血なのか……赤い液体を

一気に飲み干す。

その瞬間、ゼラの戦士は苦しみ始め、肉体が大きく変化していく……

「場に万魔殿バンデイモニウム—悪魔の巣窟が存在している時にのみ、このモンスターは特殊召喚される

ゼラの戦士を生贄に捧げ、手札よりデビルマゼラを特殊召喚する」

持っていた剣は消滅し、顔が悪魔のように凶悪に歪んでしまう。

更に背からは緑の翼が現れ、爪は鋭く尖り、フードの角は凶悪な形へと変化する。

これがゼラの戦士のなれの果て……悪魔へと堕ちた姿。

「ああああああ！ 悪の道に進んじまったあー！」

十代、ちよつとりアクション激しすぎない？

見ていて楽しい、堅守瑞貴も楽しんでる。

「また、攻撃力2800のモンスターなんだな……」

「このモンスターは万魔殿バンデイモナム―悪魔の巣窟が存在している時のみ

自分の場に存在するゼラの戦士を生贄にして手札から特殊召喚できる

更に自分の場に万魔殿バンデイモナム―悪魔の巣窟が存在している時に特殊召喚に成功した時

相手は手札をランダムに3枚捨てる……現在のターンプレイヤーである前田隼人の手札を3枚捨てる」

「俺の手札が……0枚になった!?!」

前田隼人……言い難いから隼人でいい。

隼人の手札が0枚になったからもう何も抵抗はできない。

なら次にする事は……

「魔法カード、思い出のブランクを発動

自分の墓地に存在する通常モンスターを1体、特殊召喚する

ただし、エンドフェイズ時にこの効果で特殊召喚したモンスターは破壊される

この効果により、ゼラの戦士を墓地より特殊召喚」

再び場に現れるゼラの戦士。

そして隣に立つデビルマゼラの姿を見て、驚き、悲しみの顔を見せる。

やはり闇の道へと進んだ己の姿に後悔しているのだろうか？

「魔法カード、テラ・フォーミングを発動

デッキからフィールド魔法を1枚選択し、手札に加える

私はデッキよりフィールド魔法、天空の聖域を手札に加える」

これで次の準備は整った……

「悪魔への道へ進んだゼラの戦士

しかしそれを後悔し、過去を思い出した彼は改めて大天使への道を願う

そんな彼を再び悪魔王ゼラは悪への道へと誘おうとする

だが彼は今度こそ誘惑を振り払い、聖域へと足を踏み入れる……

フィールド魔法、天空の聖域を発動し、万魔殿バンディモニウム——悪魔の巣窟は新たなフィールド魔

法の発動で破壊される

この聖域が存在している限り、天使族モンスターが受ける戦闘ダメージは0となる」

悪魔の巣窟は破壊され、辺りは白き聖域へと姿を変える。

ここは天空に存在する雲の更に上の神聖なる聖域……ゼラの戦士の目的地。

「悪魔王ゼラの誘惑を拒み続け、天空の聖域へと足を踏み入れたゼラの戦士

1度は悪への道へ進んだ彼を、聖域の者は歓迎する

そんな彼は、大天使への資格を手に入れる事により、大天使への姿を現す……」

ゼラの戦士の姿が白へと変わっていき、美しい白き翼が現れる。



手に持つ剣は青白い姿から白銀の剣への変わり、悪魔への道を断ち切る。

これがゼラの戦士の望んだ、大天使の姿。

「すげえ……これがゼラの戦士が目指した大天使の姿か！

すげえ、すげえよ！ ゼラの戦士も頑張ったんだな！」

……十代、これは偽物とはいえ一応闇のゲーム。

どうしてそんな興奮できる？ 忘れてる？

「興奮している場合じゃないツスよアニキ……」

攻撃力2800のモンスターが3体が増えたんすよ？」

「この大天使ゼラートはフィールド魔法、天空の聖域が存在している時のみ

場のゼラの戦士を生贄にする事で手札から特殊召喚ができる

そして自分の場に天空の聖域が存在している時

手札の光属性モンスターを1枚墓地へ送る事で、相手の場のモンスターを全て破壊で

きる」

「相手のモンスターを全滅させるだつて!？」

「そんなの反則ツス！ ズルツス！ 卑怯ツス！」

「そんな事されたらこのターンで俺達のライフが0になるんだな！」

そんな3人の期待に応えたい所だけど……

「効果の説明をただけ、効果を発動するとは言っていない」

というか、発動できない……手札に光属性モンスターが無い。

私のデッキの手札は全て使ってしまったし、2人は光属性メインのデッキじゃない。チエスデーモンには光属性のデスルークデーモンが有るけど、タイタンの手札に無かった。

もし効果の発動に成功していたら2800×3の8400のダメージで1ターンキルになっていた。

ちなみに私の初期手札はデビルマゼラ、大天使ゼラート、ゼラの戦士、ゼラ、ゼラの儀式、思い出のブランク

もし手札トスが無ければゼラの儀式で大天使ゼラートを生贄にしてゼラ降臨、更にデビルマゼラしか出せなかった。

渡された手札に儀式に使えるLV8のモンスター、フィールド魔法のサーチカードが有ったからできたコンボ。

多分、どちらも堅守瑞貴のカード……残りの手札のカードは多分タイタンのカードのはず。

堅守瑞貴、絶対にこのデッキとタイタンのデッキを合わせて組んだデッキに決まってる。

そうでなければここまで見事なサポートカードをパスなんてできるはずが無い。それにしても、なんて夢の共演……

ゼラの戦士とゼラの同時出現に、ゼラが出ている間のデビルマゼラへの悪魔墮ち。

更に元の姿に戻ってから大天使への道を進む姿……そして同時に同じ場へ立つ2人。デビルマゼラと大天使ゼラートが同時に現れる場なんて滅多に見れる場じゃない。

しかもゼラも立っているし、これを夢の共演と言わずになんと言えばいいのか……

「バトル、デビルマゼラでジャイロイドに攻撃」

デビルマゼラが巨大になった爪でジャイロイドを強烈に引き裂く。

だけどジャイロイドはボロボロになりながらも耐え抜く……

「じゃ、ジャイロイドは1ターンに1度、戦闘では破壊されない！」

「大天使ゼラート、ジャイロイドを倒せ」

私の指示により、大天使ゼラートはジャイロイドに近づく。

ジャイロイドは冷や汗を出してゼラートを見上げ……一瞬でバラバラに切り裂かれた。

……機械族のジャイロイドがどうやって冷や汗を出したのかを小一時間問い詰めた  
い所。

とにかく、大天使ゼラートとデビルマゼラの、ある意味同一人物による共同作業が終

わった。

なんというか、なんだか満足した。

「ゼラ、怒れる類人猿を攻撃」

デビルマゼラのように爪を逆立て、ボディブローのような動きでゴリラに爪を突き刺す。

その爪を回転させてゴリラの腹部を抉り、破壊する……なかなかのグロテスク。

とにかく、攻撃力が元に戻って2000の怒れる類人猿を撃破し、800ポイントのダメージが与えられる。

それにより、十代の体がまた少し見えなくなる。

「カードを一枚伏せて、ターンエンド」

やり過ぎた自覚は有るけど、決闘するからには手加減をするつもりは無い。

頑張れ主人公とその弟分と……友達？ 私達に勝つのは至難の業。

だけど勝てた時、きつとそれは君達の自信に繋がる。

……でも、もう少し手加減した方がよかったかな？

## 7話【操られた2人・後編】

「あ……あう……」

あれ？ 翔の様子が……

「あんなモンスターに勝てるはず無いよ……どうすれば、どうすればいいの？」  
まさか戦意喪失だなんて……戦ってもらわないと困る。

勝ってくれたら嬉しいけど、負けられてもまだ許せる。

だけど、途中で逃げられるのはどうしても止めてほしい。

「頑張れ翔！ 明日香達を助けるんだ！」

確かにヤバイ状況だけど、勝てないなんて事は無いんだぜ！」

「アニキ……」

そう、そうやって翔のやる気を取り戻して。

まだまだ負けると決まったわけじゃない、状況は厳しくても諦めないで！

「が、頑張ってみるよ……僕のターン、ドロー！」

表情が良い方へと変わった、多分動く？

だとしても、「ロイド」でこの状況を打破する手段は限られている。

そんな手札をそう簡単に……

「魔法カード、融合を発動！」

僕は手札のスチームロイド、ドリルロイド、サブマリンドロイドを手札から融合！

融合召喚！ スーパービークロイドージャンボドリル！」

ピンクと紫色のボディ、形的にアーモンドとかみたいな形状の先にはその名に恥じない、巨大ドリル。

デフォルメされているロイドモンスターでも十分脅威と思えるような見た目のモンスター……

攻撃力30000のモンスター……まさかアツサリと攻撃力28000を超えるなんて。

アニメのキャラ達はみんな逆境に強いのは知っていたけど、ここまでとは思わなかった。

「バトルフェイズ！」

ジャンボドリルでデビルマゼラに攻撃！」

ジャンボドリルの巨大なドリル……は、使われず。

小さな手の部分で引っ搔いてデビルマゼラが破壊される……どうせなんだからドリル、使つてよ。

とりあえず200ポイントのダメージで、デビルマゼラが破壊されてしまう。

夢の共演がもう無くなってしまうなんて、色々残念。

「やったあ！ 僕はカードを1枚伏せてターンエンドだ！」

まあさすがに調子に乗って……あ、忘れてた。

「永続罫、ハンドレス・フェイクの効果を発動

手札を全て除外し、次のスタンバイフェイズ時に手札に加える」

これで次の布石……堅守瑞貴への手札パスができた。

状況は良くないけど、どこまでできるか……

「俺のターン、ドロロー

スタンバイフェイズ時、ハンドレス・フェイクの効果により除外された咲良の手札を

俺の手札に加える

魔法カード、強欲な壺を発動し、デッキから更にカードを2枚ドロローする

サイバー・デーモンを守備表示で召喚する」

青い体の悪魔に機械を装着させたようなモンスター

あのモンスターの効果、そして堅守瑞貴の今まで使用したカード。

この2つを考えて……今回はサポートに徹するつもり？

プリズンクインデーモンも最上級モンスターだけど、サポートモンスターと言える。

あくまでも、メインはタイタンの「チエスデーモン」か、私の「ゼラ」かな？

「カードを2枚伏せ、ハンドレス・フェイクの効果を発動

手札を全て除外し、次のターンのスタンバイフェイズ時に手札に加える

これでターンエンド」

あの伏せカードは多分、嫌がらせみたいかなカードに違い無い。

さすがにまたストレートフラッシュは無いと思うけど。

「俺のターン、ドロロー！」

魔法カード、フュージョン・リカバリー融合回収を発動！

墓地に存在する融合に使用した融合のカードとモンスターを1体、手札に加える！

俺は融合と、E・HEROフェザーマンを手札に加える！

そしてそのまま融合を発動！手札のフェザーマン、スパークマン、バブルマンを融

合！

来い！ E・HEROテンペスター！」

攻撃力2800のE・HERO最上級モンスター

フェザーマンがスパークマンの鎧を着て、バブルマンのシヨットを装着したような見

た目で割と単純。

だけど、あのモンスターのアニメ効果から考えるとこの後の行動は……

「速攻魔法、終焉の地を発動



相手がモンスターを特殊召喚した時、自分のデッキからフィールド魔法を發動する

俺はデッキよりフィールド魔法、万魔殿バンデイモニウム―悪魔の巣窟―を發動する」

天空の聖域が破壊され、再び悪魔の巣窟へと辺りの姿が変わる。

どういうつもり？ そんな事をして何の意味が？

そんな事をすれば天空の聖域が破壊されて、大天使ゼラートが戦闘ダメージを受ける。

となると……：：：タイタンへの補助、それとも墓地のプリズンクインデーモンの効果を發動する為辺り？

「よくわかんないけど、今は関係無いぜ！

スーパービークロイド―ジャンボドリルで大天使ゼラートに攻撃！」

再びジャンボドリルは爪による引つ掻き攻撃で大天使ゼラートを破壊する。

戦闘ダメージは200と低いものの、どんどん私が召喚したモンスターが破壊されていく……

ああ、夢の共演がこんなにアツサリと消えてしまっただなんて。

「更にテンペスターで元凶、ゼラに攻撃！ この瞬間、テンペスターの効果発動！

自分の場のカードを1枚墓地へ送る事で、このターンの間、テンペスターは戦闘では破壊されない！

行け、テンペスター！ カオス・テンペスト！」

ゼラの鋭い爪を受け止め、逆手に装着されているキャノンから撃ち出される青い光線により、ゼラは破壊されてしまった。

テンペスターの効果で墓地へ送られたカードは翔の伏せカード。

伏せカードは無くなったけど、場には攻撃力3000と2800のモンスターが並んだ。

先ほどとは逆に近い立場になってしまった……問題は、多い。

「これでターンエンドだ！」

受けたダメージは現在でも僅か500、与えたダメージは現在900

こちらのライフはまだ7500で相手のライフも7100とお互いにまだまだ多い。

だけど、この瞬間でどこまで抵抗できるかで勝敗が決まっつきそう。

不確定要素は堅守瑞貴……色々な意味で不安。

「私のターンだ」

「この瞬間、手札が0枚の時にサイバーデーモンの効果が発動

ドローフェイズ開始時、手札が0枚の場合

通常のドローに加えてもう1枚ドローする」

「ほほう、そんな効果が有ったのか

では私は合計2枚のカードをドロ―だ」

「スタンバイフェイズ時、墓地のプリズンクインデーモンの効果が発動する

場に万魔殿―悪魔の巣窟―が存在し、プリズンクインデーモンが墓地に存在して

いる場合

場に存在するLV4以下の悪魔族モンスターの攻撃力が1000ポイントアップする

なお、この効果は強制効果なので必ず発動する」

「ふむ……ではサイバーデーモンの攻撃力を1000ポイントアップさせておこう

ふははははは！ なんと便利なモンスターだ！」

サイバーデーモンのドロ―加速効果、プリズンクインデーモンの強化効果

更にインフェルニティ・ガーディアンドの鉄壁の防御……全て堅守瑞貴のサポートカード。

例え堅守瑞貴のターン回数が少なくとも、これだけサポートされて負ける事はとても情けない。

とはいえ、勝つのは様々な意味で問題なのでできるのならば負けたいのだけど……

「装備魔法、フォリン・ダウン 墮落を発動！」

自分の場にデーモンと名の付くカードが存在していなければ破壊されてしまうカー

ドだ

だがしかし、このカードを装備した相手モンスターのコントロールを得るカードなのだ！

私はこの効果により、スーパービークロイドージャンボドルルのコントロールを得る！

「な、コントロールを奪うカードだって?!」

「チエスデーモン」デッキに、堅守瑞貴のサポート、そしてタイタン自身のそこその実力。

これらが合わさり、タイタンがとても強く思えてしまう。

って、これを通ったら十代達の勝ち目が更に薄くなってしまう！

「くっ……テンペスターの効果発動！」

自分の場のカードを1枚墓地へ送り、このターンの間は戦闘で破壊されない！

この効果でジャンボドルルを墓地へ送る！これで墮フオリン・ダウ落の効果は不発だ！

そういえばあの効果は相手のターンのでも発動できたっけ……そう思えばそこそこ強い気もする。

とはいえ、毎ターン墓地へ送るわけにもいかないし、長く続くはずも無い。

「回避したか……更にこのターンの戦闘破壊も不可能になった

私はインフェルノクインデーモンを守備表示で召喚し、カードを1枚伏せる  
そしてハンドレス・フェイクの効果を発動、手札を全て除外する

これで私はターンエンドだ」

紫から赤へと上から色が変わっていくマントを羽織り、青い髪の女性型悪魔が姿を現  
せる。

段々とこちらの布陣が整ってきている。

対して十代達の場合はテンペスターのみ、更に全員手札が0枚。

お互いにライフはあまり減っていないとはいえ、ライフもこちらの方が上。

状況は絶望的と言ってもいい。

「俺のターンなんだな、ドローー！」

「スタンバイフェイズのこの瞬間、インフェルノクインデーモンの効果が発動

自分の場に存在するデーモンと名の付くモンスターは10000ポイント  
アップさせる

私はこの効果で……まあ、サイバーデーモンの攻撃力でも上げておこう」

そういえばインフェルノクインデーモンの効果は相手ターンのスタンバイフェイズ  
時にも発動するっけ？

インフェルノクインデーモンの維持と攻撃表示のデーモンが出れば強力。

まあ、今は攻撃表示のデーモンがないからあまり関係無いけど。

「ちよ、ちよつと怖かったんだな……ユーカーリ・モールを守備表示で召喚！」

そしてテンペスターで、サイバーデーモンに攻撃なんだな！」

「罠カード、冥王の咆哮を発動！」

悪魔族モンスターが戦闘を行う時、100の倍数のライフを支払う

エンドフェイズ時まで相手モンスターの攻撃力・守備力を支払ったライフ分ダウンする！

サイバーデーモンは悪魔族、私はライフを800支払い、テンペスターの攻撃力と守備力を800ポイントダウンさせる！」

「それじゃあ攻撃力が2000になってしまっただな！」

「その通り、攻撃力と守備力の場合は戦闘破壊は発生しない」

サイバーデーモンは強力な咆哮を上げ、テンペスターは怯んでしまう。

撃ち出した光線は射線が外れ、サイバーデーモンは直撃しなくなった光線を腕で弾き飛ばす。

「くう……俺はこれでターンエンドなんだな！」

堅守瑞貴のカードがサポートに特化し過ぎている。

サポートでないカードが1枚でも出てきていない。

完全にお遊びのつもりらしいけど……：タイタンがカードを使う事で補っている。

イカサマとはいえ、闇の決闘者<sup>デュエリスト</sup>と名乗るだけの能力は有るといふ事ね。

「私のターン、サイバーデーモンの効果が発動し、2枚ドロ―

スタンバイフェイズ、ハンドレス・フェイクの効果でタイタンの手札は私の手札となる

続けてインフェルノクインデーモン、プリズンクインデーモンの効果発動

インフェルノクインデーモンは自分の場に存在するデーモンと名の付くモンスターの攻撃力を1000ポイントアップさせる

プリズンクインデーモンはLV4以下の悪魔族モンスターの攻撃力を1000ポイントアップする

まず、プリズンクインデーモンの効果を発動、インフェルノクインデーモンの攻撃力を1000ポイントアップ

そしてこの瞬間に罫カード発動、デーモンの雄叫び

ライフを500ポイント支払い、墓地に存在するデーモンと名の付くモンスターを1体、特殊召喚する

ただしこの効果で特殊召喚されたモンスターは生贄には使用できず、エンドフェイズ時に破壊される

私はこの効果により、墓地のプリズンクインデーモンを特殊召喚

そしてインフェルノクインデーモンの効果を発動、デーモンと名の付くプリズンクインデーモンの攻撃力をアップさせる

これにより、インフェルノクインデーモンの攻撃力は1900

プリズンクインデーモンの攻撃力は3600まで上昇する」

「攻撃力が……3600だと?」「つ、強すぎる……」

インフェルノクインデーモンを2周りほど大きくし、全体的に凶暴性の増したプリズンクインデーモン。

お互いがお互いを強化し、心無しかどちらも顔が凶悪になった印象が有る。

ライフが6200まで減ってしまったけど問題は無さそう。

さて、次はメイμφェイズか……

「……………このままバトルフェイズ

プリズンクインデーモンでテンペスターに攻撃」

ユーカリ・モールの効果は知らないけど、いい加減にテンペスターは消しておきたい。

まあ、どうせまた効果を使うだろうから倒せないけど。

「テンペスターの効果発動!

ユーカリ・モールを墓地へ送り、このターンの戦闘破壊を無効にするんだな!」



テンペスターに掴み掛かり、壁に向かって投げつけるプリズンクインデーモン。ただど戦闘破壊無効効果により、叩きつけられつつも耐えるテンペスター……

「戦闘破壊は免れても、戦闘ダメージは受けてもらおう」

攻撃力差は800、よって十代達のライフは残り6300となる。

ライフ差は1000とまだまだ近く、お互いに多い。

この状況をいつまで維持できるかが勝負の分かれ目かと、私は思う。

「カードを一枚伏せ、英知の代行者 マークュリーを守備表示で召喚」

青い肌、青い翼をした、英知の名に恥じない分厚い本を持った天使。

ただ、悪魔の巣窟に現れたせいとか、嫌そうな態度をしているけど我慢してほしい。

「エンドフェイズ、デーモンの雄叫びの効果で蘇生したプリズンクインデーモンは破壊される」

万魔殿バンデーモンニウム―悪魔の巣窟―の効果発動

デーモンと名の付くモンスターが効果によって破壊され、墓地へ送られた時

デッキから破壊されたモンスターのLV未満のデーモンと名の付くモンスターを1体、手札に加える事ができる

プリズンクインデーモンのLVは8、よってLV7以下のモンスターを手札に加える事ができる

私はこの効果により、デッキからLV6の暗黒魔族ギルファー・デーモンを手札に加える

そしてこの瞬間にハンドレス・フェイクの効果を発動し、手札を全てゲームから除外  
サイバーデーモンはエンドフェイズ時に手札が1枚以上有る時に破壊されてしまう  
……ターンエンド」

壁モンスターばかりがこちらの場に存在している。

とはいえ、攻撃力2800で疑似戦闘耐性を持つテンペスターを消す手段も無い。  
お互いにじり貧だけど、どうにかする手段も無いので……

「僕のターン、ドロロー！」

「インフェルノクインデーモンの効果発動

とりあえずインフェルノクインデーモン自身の攻撃力を攻撃力をアップさせておく」  
「でも守備表示……エクस्प्रेसロイドを守備表示で召喚して、効果発動！」

自分の墓地に存在するエクस्प्रेसロイド以外のロイドと名の付くモンスターを2  
体手札に加える！

僕はこの効果でスチームロイドと、ジャイロイドを手札に加えるよ！」

デフォルメされた新幹線みたいな見た目のモンスターが出てきた。

そして客車の出入り口が開き、その中からジャイロイドとスチームロイドが出てきて

手札に戻って行った。

戦闘耐性を持つジャイロイド、攻撃時に攻撃力を上げて2000以上にするスチームロイドを手札に戻した。

そして更にこの2体で融合もできるから次の翔のターン、何か動くかもしれないけど……正直、期待できないかなあ？

「テンペスターでインフェルノクインデーモンに攻撃！」

「罨カード、くず鉄のかかしを発動

相手の攻撃を1度だけ無効にする」

私の伏せカード……インフェルノクインデーモンを破壊されると困る。

というか、この場で破壊されて困らないモンスターが無い。

攻撃モンスターが1体だけなら、何度でも防がせてもらう。

「攻撃を無効にした後、くず鉄のかかしは再び場にセットされる」

「ええ!! つて事はずつと攻撃を無効にされちゃうの!？」

「……………僅かな例外を除き、罨カードは場に1度セットし、次のターン以降にならなければ発動できない」

セットされるので、発動できるのは1ターンに1度までだ」

1ターンに何度でも発動できると勘違いした翔に堅守瑞貴から説明。

勘違いしやすいけど、地味に制約が多いし時々邪魔になってしまいうくず鉄のかかし。だけど有ると無いとでは差が大きいのも事実……使われたら面倒。

「そうなんだ、よかつたあ……じゃないよ！」

毎ターン1回攻撃を防がれるって、そんなカード反則だよ！」

初見ではチートカードに見えるのは仕方無いけど、反則は言い過ぎ。

以前から思っていたのだけど、翔はどうも少し強いカードを見れば自信を無くす癖が有るみたい。

アニメの中盤から最後の方では頑張ってたのに、序盤はこんな性格だったっけ？

「ううー……何もできない、ターンエンド」

「この瞬間、英知の代行者 マーキュリーの効果発動

相手ターンのエンドフェイズ時にこのモンスターが表側表示で存在しており、更に自分の手札が0枚の場合

次の自分のターンのスタンバイフェイズ、デッキからカードを1枚ドロウする」

「「え？」」

そして堅守瑞貴のターンに移る。

「俺のターン、手札が現在0枚なのでサイバーデーモンの効果発動

通常ドロウに追加して更に1枚ドロウする……ドロウ」

1枚目をドローした時、堅守瑞貴の動きが止まった。

何をドローしたの？

「自分の手札が0枚の時にこのカードをドローした時、このカードを相手に公開して効果を発動できる

俺がドローしたカードはインフェルニティ・デーモン

このカードを公開し、このモンスターを手札から特殊召喚する」

山羊のような顔と角を持ち、燃える炎のように真っ赤な鬣をしたデーモンモンスター

……え？

インフェルニティ・デーモン？ あのデッキはサポート用デッキのはずでは？

もしかして、ちゃんと戦う為の術も用意しているとか言わないでしょうね？

「インフェルニティ・デーモンが特殊召喚に成功した時に自分の手札が0枚の場合

デッキよりインフェルニティと名の付くカードを1枚、手札に加える

俺はデッキからインフェルニティ・バリアを手札に加える」

インフェルニティと名の付くモンスターが表側攻撃表示で存在し、手札が0枚の時のみに発動できる。

相手が発動したモンスター効果、魔法、罠カードの効果は無効にして破壊するカウンター罠カード。

そして特殊召喚されたインフェルニティ・デーモンは攻撃表示……テンペスターを破壊する気満々。

「サイバーデーモンの効果でもう1枚ドロする

そしてスタンバイフェイズ時、英知の代行者 マーキュリーの効果

相手ターンのエンドフェイズ時に手札が0枚だったのもう1枚ドロ

更にハンドレス・フェイクの効果により、除外されていた咲良の手札を俺の手札に加える」

毎ターン3枚のドロ+味方の手札の持ち越し。

これにより私達の手札は常に尽きる事は無く、好きなだけ行動ができる。

対して十代達の手札は先述したが、現在は翔の公開済み手札の2枚のみ。

これで私達を相手にするのは辛いのでは？

「インフェルノクインデーモン、墓地のプリズンクインデーモンの効果発動

インフェルニティ・デーモンの攻撃力を合計2000ポイントアップさせる

インフェルニティ・デーモンもデーモンと名の付くモンスターなのでインフェルノク

インデーモンの効果を受けられる

更にLV4の悪魔族でもあるのでプリズンクインデーモンの効果も受ける」

「攻撃力3800って……」「どうやって倒せばいいんだな……」

これでインフェルニティ・デーモンの攻撃力は3800まで上昇した。

自分のターンは高い攻撃力、相手のターンにはカウンターの罠にくず鉄のかかし。

この状況、どうやって打破すればいいの？

「インフェルニティ・デーモンでテンペスターに攻撃」

「テンペスターの効果で戦闘破壊を無効にする！」

エクस्प्रेसロイドは墓地へ送られ、テンペスターは戦闘耐性を持つ。

インフェルニティ・デーモンは突進し、角をテンペスターに突き刺そうとする。

テンペスターはなんとかその角を受け止め、インフェルニティ・デーモンを投げ飛ばして破壊を免れる。

しかし、いくら攻撃を止めても攻撃力差は1000ポイント……差分ダメージを与える。

十代達の残りライフは5300まで減り、このままこの調子が続くようだと危険。

「バトルフェイズ終了、メインフェイズ2」

インフェルニティ・デーモンを生贄にし、暗黒魔族ギルフアー・デーモンを守備表示で召喚

カードを2枚伏せてエンドフェイズ時にハンドレス・フェイクの効果を発動  
手札を全て除外し、ターンエンド」

青い肌、赤い翼をした上級悪魔が姿を現せる。

武藤遊戯も使用していた、悪魔族モンスター……攻撃力こそ低いものの、効果は面倒。確かこのモンスターが原因で様々な問題が発生したんだっけ？

そこまで詳しくないから覚えていないけど。

これで私達の場合は全て埋まった。

だけど、このままではギルファー・デーモンの効果を発動できない。

ギルファー・デーモンは墓地へ送られた時、装備カードとして場のモンスターに装備される。

つまり魔法・罨ゾーンが埋まっている場合、効果を発動しても装備カードスペースが無い。

堅守瑞貴はこれをどうするつもり？

「俺のターン、ドロロー！」

「全モンスターが守備表示だから関係無いが、インフェルノクインデーモンの効果発動場のデーモン……ギルファー・デーモンの攻撃力をアップさせておこう」

「魔法カード、強欲な壺を発動して、デッキからカードを2枚ドロロー！」

……よし！ 魔法カード、ミラクル・フュージョンを発動！

自分の場か墓地からモンスターを除外し、E・HEROを融合召喚する！



俺は墓地のフレイム・ウイングマンとスパークマンを除外融合！

融合召喚！ E・HERO シャイニング・フレア・ウイングマン！」

一対の白く輝く翼を持つ白銀のE・HERO、名前の最も長いE・HEROで有名なモンスター

E・HERO シャイニング・フレア・ウイングマン……うん、長い。

さすがにこのモンスターまで出てきたら負けるかも？

あれ？ 確か堅守瑞貴はインフェルニティ・バリアを手札に加えたはず。

ミラクル・フュージョンでシャイニング・フレア・ウイングマンが出てくるぐらい予想できる。

なのに何故

「シャイニング・フレア・ウイングマンの攻撃力は墓地のE・HEROの数だけ300ポイント攻撃力がアツプする！」

俺の墓地にE・HEROはフェザーマン、バーストレディ、バブルマンの3体！

よって攻撃力は900ポイントアツプし、攻撃力は3400だ！」

現状でこの攻撃力はなかなか辛い……くず鉄のかかしを使っても2体の攻撃は耐えられない。

確実にこちらのモンスターは1体、破壊される。

「バトルだ！」

「シャイニング・フレア・ウイングマンでギルファー・デーモンに攻撃！」

「畏カード、ヘイト・バスターを発動」

自分の場の悪魔族モンスターが攻撃対象にされた時

相手の攻撃モンスター1体と、攻撃対象となった自分のモンスター1体を破壊

破壊したモンスターの攻撃力分のダメージを与える」

「な、なんだって!？」

そんな使い方を……しかもこの手段を使うという事は？

「この効果により、シャイニング・フレア・ウイングマンとギルファー・デーモンを破壊  
同時にシャイニング・フレア・ウイングマンの攻撃力分……墓地の数値を参照にする  
ので元々の攻撃力分

つまり、2500のダメージをお前に与える」

襲いかかってきたシャイニング・フレア・ウイングマンをギルファー・デーモンは受け止め、抱きしめる。

正確には抱きしめるといっても両腕で抱え込み、締め付けている？

何をするかと思えば、己の体を巻き込む地獄の業火でお互いを燃やし尽くした。

相手を巻き込んだの自爆？ なんて事を……

そしてヘイト・バスターの効果により、2500もの大ダメージを与える。

十代達の残りライフは2800……残りライフは3割近くまで減ってしまった。

対してこちらのライフはなかなか減らず、6200と倍以上も有る。

十代達は大丈夫なのか、心配になってしまう。

「ギルファア・デーモンの効果が発動する

このモンスターが墓地へ送られた時、場に存在するモンスタアの装備カードとなる

そして装備モンスタアの攻撃力を500ポイントダウンさせる効果だ

この効果により、テンペスターにギルファア・デーモンを装備させる」

ギルファア・デーモンが燃え尽きた場所に残った灰がテンペスターの周りを飛ぶ。

灰はテンペスターの口から入り込み、テンペスターは苦しみながらも抵抗できない。

全ての灰が入り込み、力が抜けきったテンペスターの攻撃力は2300まで下がる。

「<sup>バンデイモニウム</sup>万魔殿―悪魔の巣窟―の効果も発動する

戦闘以外でデーモンと名の付くモンスタアが破壊された

よってそのモンスタアのLV未満のデーモンと名の付くモンスタアをデッキから手

札に加える

ギルファア・デーモンのLVは6、よってLV5以下のデーモン……LV5のミスト

デーモンを手札に加える」

攻撃力2400の自分がダメージを受けてしまうデメリットを持つ半上級モンスター……

生贄無しで通常召喚できるけど、エンドフェイズ時に自壊して1000ポイントのダメージを受ける。

「だけど、この効果も『デーモン』では大したデメリットにならない。

バンディモニウム  
万魔殿——悪魔の巣窟——の効果は戦闘以外の破壊でサーチ効果が使える。

つまりダメージは受けるものの、後続のモンスターを簡単にサーチできる。

L V 4以下までのモンスターをサーチできるから「チェスデーモン」でも十分採用可能なモンスター

ダメージを無効にしたりできるカードを使ったりすればメリットの塊のモンスターにまで変貌する。

「だけど、それで手札が0枚じゃなくなった！」

インフェルニティ・ガーディアンの効果は無くなったぞ！

バトル続行！ テンペスターでインフェルニティ・ガーディアンに攻撃！」

「くず鉄のかかしを忘れてないか？ まあ、忘れてるならそのまま忘れさせておくか」

永続畏、ハンドレス・フェイクの効果を発動する

このカードは1ターンに1度……つまり自分のターンと相手のターンに1回ずつ発

動  
で  
き  
る

この効果により俺は手札のカードを全て除外し、手札を0枚にしてインフェルニティ・ガーディアンの効果発動

戦闘、効果によって破壊される事が無くなる」

「んな……」

戦闘破壊の回避だけじゃない……サイバードémonとマーキュリーの効果の発動条件まで満たした。

もし発動しなかった場合、どちらの効果も発動せずにドロ一枚数が増えただけになってしまった。

毎ターン3枚ドロが強いうえに守りも硬い……酷い構図になってしまっている。

「くっ……永続魔法、悪夢の蜃気楼を発動！

相手のスタンバイフェイズ時に手札が4枚になるようにドロし

自分のスタンバイフェイズ時にドロした枚数分だけランダムに捨てる！」

「……………」

インフェルニティ・バリアを発動しない？

堅守瑞貴が何を考えているのか全くわからない……勝つ事は目的ではないの？

彼の性格から考えたら手加減なんてするとは思えないし、訳が解らない。

「俺はこれでターンエンドだ！」

「エンドフェイズ時に手札が0枚なのでマーキュリーの効果が発動する

次のスタンバイフェイズ時にデッキからカードを1枚ドローする」

「そういう訳で私のターンだ

ドロー前に手札が0枚なのでサイバーデーモンの効果が発動

通常のドロー、そしてサイバーデーモンの効果で更にドロー

スタンバイフェイズ、マーキュリーの効果だ更にドロー

ハンドレス・フェイクの効果で除外されたカードを手札に加える」

タイタンの手札はこれで6枚、でもこの状況ではあまり活用できそうにない。

場はフィールド魔法も含め、埋まっていない場所はモンスターゾーン1箇所のみ。

これではタイタンは殆ど動く事ができない。

「スタンバイフェイズ、インフェルノクインデーモンと墓地のプリズンクインデーモンの効果を発動

デーモンと名の付くモンスター、そしてLV4以下の悪魔族モンスターの攻撃力を1000ポイントアップする

私はこの効果をインフェルノクインデーモンに対して発動、攻撃力を合計2000ポイントアップ

これでインフェルノクインデーモンの攻撃力は2900だ」

「悪夢の蜃気楼の効果発動！」

俺の手札は0枚、よって手札が4枚になるようにドロウする！」

テンペスターの攻撃力は現在2300、インフェルノクインデーモンの攻撃を受ければ600のダメージ。

十代達のライフは残り2800、これ以上減ってしまえば勝ち目は薄い。

「好きだけドロウするがいい

どうせ貴様のターンまでに、お前達のライフは尽きてしまうのだからな

インフェルノクインデーモンを攻撃表示に変更、テンペスターに攻撃！」

インフェルノクインデーモンはテンペスターに向かい……え？

……えつと、ナニをしてる？

「うわぁ……あー！ テンペスターの効果発動！」

自分の場のカードを墓地へ送り、戦闘破壊を免れる！」

悪夢の蜃気楼を墓地へ送る！」

なんというか……テンペスター、ご愁傷様？

多分精気でも吸い取っているのだと思うけど、いくらなんでもキ、キキキキ……キキキキ……スはどうかと思う。

あ、テンペスターが物凄く落ち込んでる、仮にも女性がキスしてくれたんだからそれは失礼じゃない？

そう思ったけど、あの容姿で悪魔で敵であるモンスターにあんな事をされたら仕方無  
いかな。

生のキスなんて初めて見たけど……アレはノーカンにしてもいいと思う。

なんというか、キスに対するイメージが壊れてしまいそうでもう……私も凹む。  
もつとロマンチックなのを期待していたのに、なんだか凄く悲しくなってくる。

遊戯王世界で恋愛なんて、きつと無理だと思うけど夢ぐらい観てもいいよね？

その夢も粉碎されそうなんだけど……う、夢に出てきそうで嫌になってきた。

「バトルフェイズ終了、私はインフェルノクインデーモンを生贄に捧げる

迅雷の魔王―スカル・デーモンを召喚！」

浅黒い体になった、デーモンの召喚のリメイクモンスターの1体。

攻撃力や守備力などは同じだけど、ライフコストと効果耐性を持った強力モンスター  
そして常時攻撃力2500と、テンペスターの攻撃力を上回る。

「ハンドレス・フェイクの効果を発動し、手札を全て除外する

私はこれでターンエンドだ」

それにしても、タイタンもテンペスターの効果発動時にインフェルニティ・バリアを



発動しなかった？

堅守瑞貴は気紛れでそんな事をしそうだけど、タイタンがそんな気紛れをすることは思えない。

先に手札を全て除外しておけば発動できたのに、最後にハンドレス・フェイクを発動したし

いったいあの2人は何を考えているのか、私には理解できない。

「俺のターン、ドローなんだな！」

魔法カード、強欲な壺を発動して、更にカードを2枚ドロー！

魔法カード、コアラの進行♪を発動するんだな！

自分の墓地に存在するコアラと名の付くモンスターを1体、特殊召喚！

更に手札に同名モンスターが有る場合、そのモンスターも特殊召喚できるんだな！

俺は墓地のラッコアラを特殊召喚し、更に手札のラッコアラを特殊召喚するんだな

！

ラッコの顔をし、コアラの体をした変な生き物が出現……正直に言つてあの姿は不気味。

あんなモンスターがいつの間に墓地に……って、私のデビルマゼラしか無い。

やっぱりあんなカード効果を使うと利用されるものなのか、アニメ世界は怖い。

「ラッコアラの効果発動なんだな！」

自分の場に自身以外の獣族モンスターが存在している場合

自分の場のモンスター1体の攻撃力をエンドフェイズ時まで1000ポイントアップさせられるんだな！

俺はラッコアラの効果でラッコアラ達の攻撃力を1000ポイントアップさせるんだな！」

ラッコアラ達はお互いがお互いに背負っている子供を相手に見せる。

子供達は相手に頑張れ！ という態度で元気に鳴いた。

それを見たラッコアラ達はやる気を出し、攻撃力が……そんな手段で攻撃力を上げたの!?

ともかく、これで攻撃力2300のテンペスター

そして攻撃力が上がり、攻撃力2200まで上昇したラッコアラ2体になった。

攻撃力2000以上のモンスターが合計3体……という事は？

「これ以上、ドローはさせないんだな！」

バトル！ テンペスターでサイバーデーモンに攻撃！」

「チィ！ 罨カード、くず鉄のかかしを発動！」

1度だけ相手の攻撃を無効にする！

そしてこのカードを再びセットする！」

テンペスターの攻撃はくず鉄のかかしに止められた。

だけど、これでもうくず鉄のかかしは使えない……

「これで攻撃が通るんだな！」

ラッコアラ達でサイバーデーモンとマーキュリーに攻撃！」

ラッコアラ達は素早い動きでサイバーデーモンとマーキュリーの周りを走り回る。

サイバーデーモン達がラッコアラ達を目で追えなくなった瞬間、ラッコアラ達は背後から強襲。

サイバーデーモンには頭から噛みつき、ガリガリガリガリと機械部分を噛み千切って機能を停止させ、殴って粉碎。

マーキュリーにはジャンプし、1回転して決めポーズをしてからそのままマーキュリーに跳び蹴りをする。

なんとというか、モンスター達がフリーダム過ぎて最近自分の目が心配になってきた。

「ぐうう……」

「これで俺のターンは終了なんだな！」

エンドフェイズ時、ラッコアラ達の攻撃力は元に戻る」

攻撃力は1200まで下がり、状況としてはかなり厳しい。

スカル・デーモンで攻撃を受ければ1300もの大ダメージを受けてしまう。だからといってドロースターは放置できないし、スカル・デーモンを攻撃してもくず鉄のかかしで止められる。

危険な賭だけど、その選択は決して悪くなかった。

「私のターン、ドロ」

ハンドレス・フェイクの効果で除外されていたカードを手札に加える」

さて、ずつと気になっていた堅守瑞貴の伏せカードを確認つと。

インフェルニティ・インフェルノと、インフェルニティ・リフレクター……は？

ちよつと待って、まさか手札に……インフェルニティ・バリアが手札に有った!?

インフェルニティ・インフェルノは自分の手札を2枚まで捨て

捨てた枚数だけデッキからインフェルニティと名の付くカードを墓地へ送る罫カード。

確かにハンドレス・フェイクの存在からして、自分のターンにしか発動できないかもしれないけど

こんな死に札になるようなカードを伏せられても私達が困る!

インフェルニティ・リフレクターはインフェルニティと名の付くモンスターが戦闘で

破壊され、墓地へ送られた時

破壊されたモンスターを蘇生させ、相手に1000ポイントのダメージを与えるカード。

インフェルニティ・ガーディアンはハンドレス・フェイクの存在から先ず破壊されるカードじゃないし

インフェルニティ・デーモンはギルファー・デーモンの生贄に使ったから戦闘破壊されない。

どうしてこのカードを……やっぱりに死に札になってしまうカードを2枚も伏せた!?

他のカードは私のくず鉄のかかしと装備カードとなっているギルファー・デーモン。

堅守瑞貴のハンドレス・フェイク、これで5枚のカードが完全に埋まっていく。

タイタンが何もできなくて当然であり、仕方無い状況。

この状況を打破する事は難しい……

インフェルニティがデッキに入っていない以上、インフェルニティ・インフェルノの空撃ちは不可能。

インフェルニティ・リフレクターはインフェルニティ・ガーディアンで自爆特攻をすれば発動できる。

だけど、そう簡単にいかないのも事実。

ラッコアラと相打ちをし、インフェルニティ・リフレクターの効果を発動して1000ポイントのダメージを与える。

更にスカル・デーモンでラッコアラを攻撃しても、与える合計ダメージは2300で500ポイント足りない。

手札の装備魔法、巨大化をテンペスターに装備するのも有りだけど、バトルフェイズ後では意味が無い。

巨大化は巨大化のコントローラーのライフが相手よりも多い場合、装備モンスターの攻撃力を半減させるカード。

ライフが多いこちらが発動し、相手モンスターにテンペスターに装備させればテンペスターの攻撃力は半減する。

インフェルニティ・ガーディアンとラッコアラの相打ちからのインフェルニティ・リフレクターでの蘇生とダメージ。

テンペスターの元々の攻撃力は2800の半分、1400からギルファー・デーモンの効果で900まで減少

スカル・デーモンでテンペスターに攻撃をし、1600のダメージを与えて残りライフは200。

テンペスターの戦闘破壊耐性効果を使っても、インフェルニティ・ガーディアンの攻

撃力は1200

バトルフェイズ中の蘇生だから再び攻撃が可能で、もう1度攻撃すれば300のダメージで十代達のライフは尽きる。

それが可能な手札なのに……この伏せカードが邪魔で巨大化が発動できない!

バトルフェイズをしてからでは巨大化の意味が無く、インフェルニティ・リフレクターの効果ダメージのみ。

装備魔法の巨大化はメインフェイズ2になってからしか発動できないので結局は絵空事になってしまう。

一応、もう1つ解決手段は有るんだけど……これを使っても決める事はできない。

だけどこんな中途半端な状況を続けるぐらいだったら有りかな?

それに、最終的にはこっちの方が有利になるんだから十分!

「スタンバイフェイズ時に墓地のプリズンクインデーモンの効果を発動

自分の場に存在するLV4以下の悪魔族、インフェルニティ・ガーディアンの攻撃力を1000ポイントアップさせる」

これでインフェルニティ・ガーディアンの攻撃力は2200まで上昇。

って、そういえばプリズンクインデーモンの効果は強制効果……どっちにしても相打ちではできなかつた。

さつきまで考えていた内容は全部無意味、なんだか少し悲しい。

気を取り直してつと、このデツキの最終兵器を見る、十代！

「私は墓地に存在する闇属性・悪魔族であるサイバードーモン、ジェネラルドーモン、インフェルニティ・デーモン

そして光属性・天使族の英知の代行者 マーキュリーをゲームから除外！

さあ出てきなさい、天魔神 ノーレラスを特殊召喚！」

暗闇の中から這い出てくるように現れる、一角を持つ骸骨顔の悪魔。

このデツキの最悪の裏の顔、天魔神 ノーレラス……まさか使う事になるとは思わなかった。

「天魔神……」

「ノーレラス？」

「インフェルニティ・ガーディアンを攻撃表示に変更し、バトル！

インフェルニティ・ガーディアンでラッコアラに攻撃！」

インフェルニティ・ガーディアンはラッコアラに突撃し、接触した瞬間に顔の周りの炎が燃え上がる

炎に包まれたラッコアラは火葬され、1000のダメージで残りライフは1800。

「スカル・デーモンでもう1体のラッコアラに攻撃！」



「テンペスターの効果を発動するんだな！」

「ラッコアラを墓地へ送り、戦闘破壊されなくなる！」

「やっぱり効果を使う……か。」

「これが通れば1300のダメージだったんだけど。」

「ならスカル・デーモンでテンペスターに攻撃！」

「スカル・デーモンの角から雷撃が放たれ、テンペスターに直撃する。」

「テンペスターは耐えるものの、ダメージは大きい。」

「200のダメージで残りライフは1600か……」

「ノーレラス、テンペスターに攻撃！」

「ノーレラスは自身が現れた暗黒の中に姿を消し、テンペスターの背後に現れ鋭い爪で背を抉る。」

「しかしテンペスターは耐えきるが、それでも苦しみは消えない……」

「100のダメージ、残りライフは1500まで減る。」

「いい加減、テンペスターには退場を願う」

「今までよく耐えてきたと思うけど、それももう終わり」

「……どういう意味だ？」

「説明をする前に永続罠、ハンドレス・フェイクの効果を発動」

次のスタンバイフェイズまで自分の手札を全て除外する

そしてライフを1000ポイント支払い、ノーレラスの効果を発動

お互いの場と手札のカードを全て墓地へ送る」

私の言葉を聞いた瞬間、十代達の動きが止まった。

「り、リセット効果モンスター……だって?」

「あんなに有利なのにそんな効果使うんすか!」

「……いや、でもテンペスターは向こうからしたら凄く邪魔なんだな

味方に手札を渡せるし、1ターンの間は無防備になっても十分にヤバイんだな」

隼人は頭が良いらしく、こちらの考えを理解してくれる。

何も考えない十代や、自分に都合が良い事ばかりの翔よりも好感が持てそう。

まあ、だからといって好きになるかと問われればそんな事は無いけど。

「ノーレラス、全てを呑み込め!」

場に存在するカードを、ノーレラスは自分の現れた暗闇へと引きずり込む。

テンペスター、インフェルニティ・ガーディアン、スカル・デーモンを呑み込み

万魔殿も崩れて伏せカードも呑み込み、最後は自分が暗黒へ入って穴を閉じる。

そして誰もいなくなつた……

「……ノーレラスの効果発動後、私はデッキからカードを1枚ドロ―する

魔法カード、強欲な壺を発動し、デッキから更にカードを2枚ドロ―

「ここでこのカードをドロ―するだなんて……」

ふふふ、このデッキは本当にロマンの塊だって思える。

「一度闇へと堕ちた者が大天使となっても、過去を変える事はできない……」

「へ?」「どういう意味ツスか?」

「闇の契約は過去永遠未来永劫と続けられる

装備魔法、契約の履行を発動

ライフを800支払い、自分の墓地に存在する儀式モンスターを1体、特殊召喚してこのカードを装備する

ただし、このカードが破壊された時、装備モンスターは除外されてしまうというデメリットが存在する

私は墓地より儀式モンスター、ゼラを特殊召喚する!」

再び現れる、最上級モンスター……ゼラ

こちらのライフは残り4400まで減ったけど、十分過ぎるライフ。

ただドアニメキャラを相手に油断をしてはいけないのは理解している。

もしサイクロンなんてドロ―されて、契約の履行を破壊なんてされたら目も当てられない。

「ここで攻撃力2800のゼラが戻ってくるなんて……」  
「てめえ！ 今度は何をするつもりだ！」

十代……感情移入し過ぎじゃない？

あくまでこれはソリッドビジョンで、実際にモンスターがいる訳じゃない。

十代つて本当に凄いなあ……心配になってしまっただけ。

「ゼラは大天使へと上り詰めた大天使ゼラートへと己の力を注いでいく

既に自分の体は保たない、それを理解していたゼラの最後の足掻き……

墓地に閻属性モンスターが4種類以上存在する時、このモンスターは閻属性モンスター生贄1体で召喚できる

墓地にはインフェルニティ・ガーディアン、天魔神 ノーレラス、暗黒魔族 ギル

フアー・デーモン

迅雷の魔王 スカル・デーモン、プリズンクインデーモン、そしてデビルマゼラの6種類の閻属性モンスター

よって条件を満たしている……ゼラを生贄に、墮天使ゼラートを召喚！」

私の言葉通り、ゼラは深淵から大天使ゼラートを引き摺り出し、力を与えていく。

苦しむ大天使ゼラートを無視して力を注ぎ込むゼラ。

やがて力尽き、青白い炎となりゼラは消滅してしまった。

残された大天使ゼラートは、白い肌は黒く、青い布は赤く、白く美しい翼は血のような恐ろしい翼へと変貌する。

持っていた剣も輝く白くて綺麗な西洋剣から、暗い白へと輝きを鈍くして逆刃部分には禍々しい突起が付いた怖いモノへと変化した。

闇から光へ、光から闇へと墮ちるとここまで変わる……モンスター世界も結構怖い。

「墮天使ゼラート……」

「やっぱり攻撃力が2800だなんて……」

「こんなにも最上級モンスターばかり出すなんて凄いな」

これ、堅守瑞貴のデッキだけだね。

それにしても、現状の最大の問題は……ハンドレス・フェイクで渡す手札に闇属性モンスターが有る事。

墮天使ゼラートは手札の闇属性モンスターを1体、墓地へ送って効果を発動する

相手の場のモンスターを全て破壊し、エンドフェイズ時に自身が破壊されるという効果。

禁止カードである相手モンスターのみを全滅させるサンダー・ボルトを闇属性モンスターを代償に発動できてしまう。

最後に自身が破壊されてしまうとはいえ、その効果は強力凶悪、最後の攻撃に相応し

い必殺技。

前の堅守瑞貴のターン、ギルファア・デーモンが効果で破壊された事によってミス  
デーモンが手札に有る。

いくらモンスターを展開されても、墮天使ゼラートが倒されない限り、次のターンで  
勝つてしまう。

「既にバトルフェイズは終了している為、私はこのままターンエンド

この「ゼラ」デッキ最後のモンスター……倒せるかな？」

倒せると思うけど。

というか、倒してくれないと困る。

「最後のモンスター……ほ、僕のターン、ドロー！」

……倒す事はできないけど、まだ負けない！

魔法カード、融合フュージョン・リカバリ回収を発動！

墓地の融合の魔法カードと、融合に使用したモンスター一体を手札に戻す！

僕は墓地の融合と、スーパードライブクロイドージャンボドルルの融合素材であるサブマ

リクロイドを手札に戻す！」

サブマリクロイド？

ダイレクトアタック  
直接攻撃をして壁にでもするつもり？

……違う！ 前のターンに翔がした事は……

「サブマリンドロイドを召喚！」

サブマリンドロイドは相手プレイヤーに直接攻撃ができる！

サブマリンドロイドで直接攻撃！」

地面へと潜り、私に魚雷を撃ち込まれた。

残りライフは3600、まだ多いのだけど……

「サブマリンドロイドは戦闘をした後、守備表示に変更できる！」

この効果を発動して、サブマリンドロイドを守備表示に変更！

そして魔法カード、融合を発動！ 手札のジャイロイドとスチームロイドを融合！

スチームジャイロイドを融合召喚だ！」

スチームロイドに口が出てきて、背中にプロペラが付いただけにしか見えない……

表示形式は守備表示、つまり2体のモンスターで壁を作ったつて事ね。

既に通常召喚をしているから、こんな方法じゃないとモンスターを並べられないか。

だけど、墮天使セラートの前にそんな壁を並べても無意味。

「僕はこれで、ターンエンド！」

終わった、これで私達の勝ちが決まった。

「俺のターン、ドロ……スタンバイフェイズだが場に万魔殿——悪魔の巣窟——が存在し

ない

よってプリズンクインデーモンの効果は発動できない

(このまま墮天使ゼラートの効果を使って勝ってもいいのだが

十代の手札は4枚、次のドロローで5枚になると考えると……)

マッド・デーモンを召喚する」

……え、マッド・デーモンを召喚？

そんな事をしなくても墮天使ゼラートの効果を使えばダイレクトアタック直接攻撃1発で終わるのに？

現れたのは赤い鬘をし、真っ黒な顔から目を輝かせている悪魔。

上半身と下半身は分かれており、口のように歯が姿を見せ、頭蓋骨が浮かんでいる。

何を考えてこんなモンスターを召喚した？

「装備魔法、デーモンの斧をマッド・デーモンに装備させる

先ほど使ったから効果は知っているな？ 攻撃力を1000ポイントアップだ」

マッド・デーモンの手にデーモンの斧が握られ、攻撃力は2800ポイントまでアッ

プした。

その攻撃力じゃ十代達のライフを0にできないのに、どうして？

「バトルフェイズ、マッド・デーモンでスチームジャイロイドに攻撃」

マッド・デーモンは腹部の口にデーモンの斧を入れ、頭蓋骨と共に噛み砕く。



そして嘯み砕いた骨を飛ばしてスチームジャイロイドに飛ばし……って、デーモンの斧は砕かれてない!?

元の形のままのデーモンの斧が最後に直撃し、スチームジャイロイドは破壊された。「マッド・デーモンの効果発動、マッド・デーモンが守備表示モンスターに攻撃した時そのモンスターは守備力を攻撃力が超えていけば、その差分だけ戦闘ダメージを与える」

スチームジャイロイドの守備力は1600、差分である1200のダメージだ」「貫通効果か……」

これで十代達の残りライフは300まで減った。

こちらのライフは3600、ライフ差は12倍にまで大きくなってしまった。

「墮天使ゼラート、サブマリンドロイドに攻撃」

墮天使ゼラートは持っていた剣を大きく振りかぶり、サブマリンドロイドを真っ二つに叩き切った。

サブマリンドロイドは破壊され、十代達の場合は完全にガラ空き状態に……

「ターンエンド」

次のターン、攻撃力2800であるマッド・デーモンの貫通攻撃がお前を襲う残り300程度のライフでは防ぎきれない……諦める」

堅守瑞貴が何を考えているのか全くわからない。

こんな事をして、目的はいったい……大体、そんな事を言えば殆ど十代の勝ちフラグじゃ？

次のターンに終わるなんて言った相手が次のターンを迎えた試しなんて……

「残りライフは300……俺のラストターンだ！ ドロー！」

十代、何をドローした？

「魔法カード、死者蘇生を発動！」

俺は墓地からE・HERO バブルマンを特殊召喚する！」

この状況でバブルマン？

手札にカードが有るからドロー効果は使えないし、何故？

「更に魔法カード、バブル・シャツフルを発動！」

自分の場の攻撃表示のバブルマンと、攻撃表示の相手モンスター1体を守備表示にする

そしてバブルマンを生贄にして自分の手札のE・HEROを1体、特殊召喚する！」

そういえばあのカード、アニメじゃ通常魔法カードだったっけ？

って、あんなカードを使ってまで特殊召喚するモンスターといええば！

「バブルマンを守備表示にし、墮天使ゼラートを守備表示に変更！」

バブルマンを生贄に、来い！ E・HERO エッジマン！」

黄金の体をした巨漢のE・HERO……この状況で出すなんて！

やっぱり十代は……遊城十代は、遊城十代か！

ちなみに墮天使ゼラートは翼で体を覆い、しゃがんで防御態勢を取っていた。

「いい加減、こんな辛気くさい場所はご免だぜ

フィールド魔法、摩天楼——スカイスクレイパー——を発動！」

辺りがビルに覆われ、アメリカンシティへと変貌する。

原作効果は反則クラスのカードだったっけ？

OCG効果では自分が攻撃する場合のみ、相手より攻撃力が低いと攻撃力を1000

ポイントアップする効果。

だけど原作効果では相手からの攻撃でも、攻撃力が負けていると攻撃力が上がってし

まう。

つまり、効果を受けたエッジマンを倒すには攻撃力3600を超える必要が出てくる

という……反則カード。

「E・HEROがバトルをする時、相手より攻撃力が低い場合

バトルするE・HEROの攻撃力を1000ポイントアップさせるカードだ！

最後に装備魔法、アサルト・アーマーをエッジマンに装備する！」

あ、終わった。

「このカードは自分の場に戦士族モンスターが1体の場合のみ、そのモンスターに装備できる！」

アサルト・アーマーを装備したモンスターの攻撃力は300ポイントアップする！

バトルだ！ エッジマンでマッド・デーモンに攻撃！」

「攻撃表示のマッド・デーモンが攻撃対象に選択された時

このモンスターは守備表示となる」

「へ？」

マッド・デーモンは腕をクロスし、防御の体勢になる。

だけど、マッド・デーモンの守備力は0……攻撃力0以外の全てのモンスターに倒されてしまう。

摩天楼のカード効果は相手が守備表示だとしても、攻撃力のみを見て攻撃力上昇効果が適用される。

アサルト・アーマーを装備していないエッジマンの攻撃力は2600、マッド・デーモンは2800

つまり摩天楼の効果は適用され、アサルト・アーマーの効果を受けないエッジマンの攻撃力は3600までアップする。

だけど今のエッジマンの攻撃力は2900、摩天楼の効果を受ける事はできない。攻撃力2900のまま、エッジマンはマッド・デーモンに攻撃をする。

「まあいいや！ エッジマンの効果発動！」

相手モンスターの守備力を攻撃力が超えていた場合、貫通ダメージを与える！

さっきの貫通攻撃のお返しだ！」

エッジマンの腕に付いている小型のブレードがマッド・デーモンの腹の頭蓋骨を粉碎する。

ついでに頭を上段蹴りで蹴り飛ばされ、吹っ飛んで破壊された。

こちらが受けたダメージは2900、残りライフは700……

「アサルト・アーマーのもう一つの効果発動！」

バトルフェイズ中にこのカードを墓地へ送る事で、装備モンスターはもう一度攻撃する事ができる！」

OCG効果では事前に墓地へ送らないと2回攻撃できない。

弱体化したように見えるけど、今の状況だと強化したように見えるから不思議。「ふう……期待通りに動いてくれて助かった

無駄な負け台詞も言ったから大丈夫だと思っただけど、若干不安だったんだよな

まあ、前のターンで大量ドロワーなんてさせたから不思議でもない結果だが

……あいつらに今度、墮天使ゼラートの効果を教えてやろう

あの時、本来ならお前達は負けていたって……どんな顔をするのか楽しみだ」

「これで終わりだ！ エッジマンで墮天使ゼラートに攻撃！

この瞬間、スカイスクレイパーの効果発動！

相手よりも攻撃力が低い場合、攻撃力が1000ポイントアップする！」

エッジマンの攻撃力は3600、墮天使ゼラートの守備力は2300。

残りライフは700、この攻撃に耐える術は無い……と、思う。

「墮天使ゼラート……闇に堕ちた苦しみから解放してやる！

これで終わりだ！ パワー・エッジ・アタック！」

エッジマンの拳が墮天使ゼラートの腹部に突き刺さり、墮天使ゼラートは破壊される。

貫通ダメージの衝撃で私と堅守瑞貴は倒れる……一応、操られているって事になってから。

「くっ……まさか負けるとは！

ぬああああああああああああああああああ！！！」

タイタンは煙玉を使って煙に隠れて逃げていった。

煙が晴れた時、十代達からは消えたように見えたかもしれないけど

こちらから見ればコソコソと逃げているのがよく見えた……なんだか格好悪い。

でも演出としては良いと思うけど、十代達は既にタイタンに感情が無くなっていた。

「明日香！ 瑞貴！ 結美！」

肩を揺すられ、起きる行動をするべきか気絶したフリを続けるか……

「……名前で呼ぶなど、何度言わせる遊城」

堅守瑞貴は起きる事にしたらしい。

「だ、大丈夫なのか？」

なんか魂を操つてるとか言ってたけど……」

「んな訳有るか、少し意識を操られていただけだ……頭痛つたあ」

なんだか、タイミングを逃してしまった。

起きるべきかこのまま寝ているべきか、本当に悩む。

「……さっさと起きろ咲良」

起きるべき？ でも揺すられて起きなかったのに声を掛けられただけで起きるのは

不自然な気がする。

でも起きないと何を言われるかわからないし……

「ふむ……お前らは天上院を持って先に出ろ」

「へ？ 瑞貴はどうするんだ？」

結美も……」

「俺はする事が有る、咲良にはその手伝いをさせる

だからさっさと行け」

「あ、ああ……わかった」

私に何をさせるつもりなのかわからないけど、とにかく十代達は明日香を連れて出て行った。

タイミングを逃した私はずっと倒れたままジツとしていた。

「おい」

「……………なに？」

堅守瑞貴の呼びかけに、私は起ち上がる。

軽く体の埃を落とし、堅守瑞貴と向き合う。

「今回、タイタンを呼び出したのは誰か分かるか？」

「クロノス先生が呼び出したはず」

「やっぱりか、予想はしていたがな」

「それよりタイタンは放置でいいの？」

「既に姿を消しているだろ」

「カメラは既に渡しているから何もできん」



決闘開始前、タイタンに何かを渡しているかと思えば……  
デュエル

まあ、大きな被害は出なかったのだし、良しとしておくべき？

「……と、俺が言うんでも思ってたか？」

「え？」

堅守瑞貴が手に持っていたのは使い捨てカメラ……え？

でも確か、タイタンにカメラを渡していたような？

「タイタンに渡したカメラは予備、これがタイタンの犯行を撮ったカメラだ

そして、音声までは録音はしていないが……」

もう1つ取り出したのは小型のビデオカメラ。

写真を撮り、録画までしていた？

「二重の証拠、校長にでも提出して警察でも呼ぶか

俺達が廃校に入った理由も、天上院が連れられたのを見て追いかけたと言える

例え罰せられるとしても、これを提出すれば犯人は捕まるのだから減刑はされるだろ

う

依頼人であるクロノス教員も、タイタンが白状すればどうなるか……」

今まで、堅守瑞貴を追い出そうと色々してきたけど

堅守瑞貴を相手に搦め手は絶対にせず、正面から行動しようと心から思った。

下手な事をすれば変な証拠を掴まれて私自身がどうなるかわからない。

そして弱みを握られたら……背筋が凍るような感覚、考えただけで恐ろしい！

「く、クロノス先生を追い出すような事はさすがに拙い

あの人は今後、重要になる人物なんだから」

「だから？ 例えそうだとしても今現在の行動を考えろ

1人の生徒を追い出す為だけにこんな事までしたんだぞ？

確かに行動をしたのはタイタンだが、呼び込んだのはクロノス教員だ

犯罪者を引き込んだ奴を放置するのはどうかと思うぞ？」

「それはそうかもしれないけど……」

もう少し穏便ならない？ 考えは理解できるけど」

「お前、アニメ世界だからって嘗めてないか？

元々アニメ世界だろうと、俺達からすれば現実なんだぞ

危険人物を放置しろって言われてお前は平気なのか？」

「そうは言わないけど、だけど！」

「……なら、また似たような事が起こったらどうする？」

「クロノス先生は今回以上に危ない事はしない！」

……はず、多分。

さすがに行動を全部覚えていないから断言できないけど。

「どうだか」

なら、そうだな……今後のアニメ内容は覚えているか？」

「え？」

えつと確かか……立ち入り禁止の廃寮に入った十代達は退学を賭けた制裁決闘デュエルをするはず

十代は翔とタツグを組んで、相手はDMの迷宮兄弟だったかな？」

「そうかそうか……」

俺達も制裁決闘デュエルをしようか？」

「私達はイレギュラーだからちよつとわからない

でも、明日香と隼人はお咎め無しだったはず

多分だけど、私達に罰は無いと思う」

「ふむ……まあいい

今は提出しないで置いてやるが、場合によってはこの証拠は提出させてもらう  
その条件は後日話す、それで構わないな？」

嫌な予感しかしないし、確実に私に嫌がらせみたいなき事をするはず。

だけど、アニメの重要人物が居なくなるのも困る。

つまり私はこの条件を呑むしか無い。

「わかった」

「だけど、酷い条件だったら断る」

「構わんよ、この世界らしく決闘デュエルで決めてやるから安心しろ

詳しくはまだ決めていないし、後日話すがな」

それだけ言って、堅守瑞貴は去って行った。

目的はわからないけど、その決闘デュエルに勝つしか無い。

これ以上、原作を滅茶苦茶にされて堪えるものか！

## 8話【チーム分け】

あー……眠い、昨夜の決闘デュエルで遅かったから寝不足だ。

ふあああ……ん？ 外が騒がしいが、どうかしたのか？

なにやらどこかの部屋のドアを叩いているらしいが、俺にまで迷惑だ。

ドアを開けて外に出てみると、遊城達の部屋の前になにやら屈強な野郎共が数名

あと、先頭というか、リーダーっぽい女性が1人……はて、誰だったかな？

「お前は……堅守瑞貴だな？」

「……何か？」

はて、俺が呼ばれる理由なんて大量に有りすぎて何故呼ばれたのか分からんな。

大体予想はできるが、当たっていたら面倒だ。

「お前を倫理委員会に連行する」

……あ、やっぱり？

素直に倫理委員会に付いていく事にする……前に、着替えとかは当然するけどな。

……

……

……

「ええー！ 退学!」「た、退学?」「退学……」「……………え、私も?」「……………(煩い)」

集められたのは6人。

遊城と丸藤、前田、天上院、咲良、そして俺だ。

この6人で同時に呼び出された、その原因なんて簡単に思いつく。

『本日未明、遊城十代以下6名は

閉鎖され、立ち入り禁止とされている特別寮に入り込み、内部を荒らした

調べはついている』

「なんでも言う事聞くからチャンスく」「どうやって?」……………え?」

『なんですか?』

「どうやって、特別寮に入り込んで内部を荒らしたと調べたのかを質問しています」

俺の言葉に倫理委員会の女性が少し口を閉じる。

どうやら具体的に調べきつていないと見えるが……

「まあ、入り込んだのは事実ですが

不審人物が現れ、天上院を気絶させ誘拐し、特別寮へと侵入、それを目撃した俺と咲

良は特別寮に入りました

自主的に入り込んだのは遊城、丸藤、前田の3人のみ

どんな理由だとしても特別寮に入るのは禁止だと言うのなら、不審人物が入り込まないようにしてほしいですね

具体的に言うとう警備を強化したり、島へ入る者の荷物チェックなど」

『不審人物？ そんな話は聞いていないぞ』

俺の言葉に倫理委員会は難しい顔をし始める。

校長も驚いた顔をし、真剣に考え事を始めた。

クロノス教員は顔を青くし、見るからに焦っている……馬鹿か？

『た、例えそうだとしTEEも、校則違反に違いは無いノーね

ペナルティは与えなければならぬイーの！』

「だとしても、警備に隙が有ったのも事実では？」

ね これは学園側の責任、不審人物から天上院を助けた事を褒めるべきだと思いますけど

が 助けを呼ばず、なにやら洗脳みたいな事をされた身なので俺と咲良も情けない事です

自主的に入った3人は俺達3人を助けました、これについての感謝や謝罪は無いのですか？」

『しカーし、それでも……』

「校則違反とこれは別問題ですよ、クロノス教員

校則違反のペナルティは余程理不尽でなければ素直に受けます

ですが不審人物を追い払い、生徒を救出した者に何も言わないのはどうなのでしょう？」

予想外の展開に、誰も話しに付いてこれていない。

馬鹿どもめ……もう少し頭を使い、恩を売ればペナルティは軽くなるんだぞ？

具体的には、校則違反で退学↓しかし生徒を救ったのも事実↓よって停学ぐらいでは？」

という形になる可能性が高い、主に人間の心理的な意味でだけだな。

ま、倫理委員会が人間性よりもルールを重視する場合、このやり方は通用しないがしないよりはマシだ。

『ふむ、この話は本当なのですか？』

遊城君、丸藤君、前田君、天上院君、咲良君』

「え、ほ、本当だぜ！」

確かに好奇心であの寮には行ったけど、明日香が捕まっていたのは本当だ！」

「殆ど気絶していた身ですが、私は確かに誘拐されたみたいです」



1度目を覚ました時、知らない男が目の前にいました

また気絶してしまい、気がついた時には外に出ていましたけど……」

「天上院さんが誘拐された事は目撃しました

それで堅守瑞貴と天上院さんを助けようとしたのですが

情けない事に、何かされたみたいで記憶が曖昧で……」

遊城、天上院、咲良が校長の質問に答える。

丸藤は緊張、前田は遊城が言ったので言うことを無くしてしまつたらしい。

『そんなの、辻褃合わせを相談したただケーで……』

「ちなみに俺と咲良は天上院が特別寮を調べているらしいと知つた為

本かどうかを確認する為に特別寮へ行きました

天上院は特別寮の周りを散策するだけで、中に入ろうとはしていません

帰ろうとしていた所へと不審人物が現れ、天上院を誘拐していきました」

詳しい状況説明までしたんだ。

ここまで言われ、辻褃合わせだと簡単に言えるはずが無い。

そして甘い校長の性格を考えれば……

『確かに校則違反はいけない事です

ですが、生徒を救つてくださったのは事実……

本当にありがとう遊城君、丸藤君、前田君

そして学園の警備の薄さで大変迷惑をかけてしまった

本当にすまない天上院君、咲良君、堅守君』

校長は心から真面目な顔をし、深く頭を下げる。

慌てるのはクロノス教員、遊城達を悪くするはずが学園が悪い事へとなっていたのだ。

当然困るし、どうすればいいのか頭を悩ませる。

「いや、校則違反しちゃったのは事実だし……」

俺もごめんなさい、もうしないようにする」

「ぼ、僕も！」

「俺もなんだな、ごめんなさい」

遊城達も反省する。

「すみませんでした」

「ごめんなさい！」

「校則違反についてはこちらも悪い事をしました

この件について、こちらも悪いので反省しておきます」

天上院、咲良、俺も謝罪。

全員が反省をし、謝罪までした。

さてと……クロノス教員、何かできるかな？

『……反省をしている所申し訳無いが、校則違反のペナルティは与えられる

学園の警備などは我々も深く反省しておき、二度と同じ事が無いようにしよう』

倫理委員会の女性も素直に頭を下げる……真面目な人間のようだ。

まあこれで、再び誰かを呼び寄せなんて手段を使えなくしておいた。

クロノス教員もこれで下手な事はしないだろう……多分。

『しかし、我々の不始末を片付けてくれたのも彼らです

突然退学というのはどうかと……』

『確かにそうですね、どうしますか？』

『な、ならば別のペナルティの方法を提案すルーの！』

自分の目的の話題になったらしく、クロノス教員が水を得た魚のように元気を出した。

さてはて、原作の流れは咲良から聞きだしているから知っているが……

現在俺達は6人、タッグでは人数がごちゃごちゃになってしまう。

『それは、制裁タッグ決闘！』

「制裁……」「タッグ」「決闘？」

遊城達、お前ら息がピッタリだな。

『その通り！』

君達6人で3組のタッグを作り、決闘デュエルをすルーのね

決闘デュエルに勝利したら無罪放免なノね』

「タッグ決闘デュエルか……おもしろそうだな」

「俺はシングルの望みたい」

『む……』

俺の言葉にどういう事かと睨んでくるクロノス教員。

他の奴らも俺が何を言うのか気になっている。

「こいつは弱すぎてタッグを組むと負ける

だからシングルにしてほしい」

「んな……俺達が弱いつて!?!」

「昨夜の決闘デュエルで僕達に負けたのはどこの誰ツスか!」

「負けてやったに決まってるだろうが……墮天使ゼラートの効果、教えてやろうか？」

手札の閻属性モンスターを1枚捨て、相手の場のモンスターを全て破壊する

そしてこの効果を発動したターンのエンドフェイズ時、このモンスターは破壊される

あの時、俺の手札には暗黒魔族 ギルファー・デーモンが破壊された時

万魔殿《パンデイモニウム》―悪魔の巣窟―の効果で手札に加えたモンスター……闇属性のミストデーモンが有った

手札交換もしていないし、捨ててもいない、つまり間違い無く手札に闇属性モンスターが存在した

だが、俺がああのに何をしたか覚えているか？」

俺の言葉を聞き、考える遊城達。

咲良は俺の言葉を聞き、呆れている。

「まさか、この時これを言う為だけにあんな事を？」

堅守瑞貴はマッド・デーモンを召喚し、デーモンの斧を装備させて攻撃した

もしミストデーモンを墮天使ゼラートの効果で墓地へ送っていた場合

場のスチームジャイロイドとサブマリノイドは破壊され、場にはカードが1枚も無い状況になっていた

そして結城君達の残りライフは1500、墮天使ゼラートの攻撃を防ぐ手段は無い

例え防げたとしても、マッド・デーモンを召喚されて再攻撃を受けていれば終わり

もしミストデーモンを捨てなくても、マッド・デーモンも闇属性モンスター……墮天

使ゼラートのコストになれる

堅守瑞貴が自ら負けなければ、あの決闘<sup>デュエル</sup>で勝っていたのは私達」

咲良の俺へのフォローという名の事実には絶句する遊城達。

まさか実力で勝ったと思つたら、本当は負けていた……弱いと思われても仕方無いだろう。

それを調子に乗って、自分達に負けたのはどこの誰かつて？ お前らの負けなんだよ。

「まあ、他にも態と変なプレイングをした時は何度も有つたけどな」

「インフェルニティ・バリアを伏せなかった時は驚いた」

自分の場に攻撃表示のインフェルニティが存在し、自分の手札が0枚の場合のみ発動できるカウンター罠カード

相手が発動した効果モンスターの効果・魔法・罠カードの発動を無効にして破壊する態と伏せなかったんでしょ？ 伏せていたら強欲な壺やミラクル・フュージョンを無効にできたし

それにヘイト・バスターの効果対象、シャイニング・フレア・ウィングマンじゃなくてテンペスターにしていたらすぐに破壊できたし

ギルファア・デーモンの生贄を別モンスターにしていたら伏せていたインフェルニティ・リフレクターを使っていた

自分の場のインフェルニティと名の付くモンスターが戦闘によって破壊され、墓地へ

送られた時

手札を全て捨て、破壊されたモンスターを蘇生して相手に1000ポイントのダメージを与えられる

インフェルノクインデーモンの効果で攻撃力を上げたインフェルニティ・デーモンの攻撃力は2800

もし生贄にせずに場に残り、インフェルニティ・バリアを発動してミラクル・フュージョンを無効にしていたら

遊城君は何もできずにエンドフェイズ、次のターンに攻撃力を上げてテンペスターと相打ちをしてインフェルニティ・リフレクターを発動

相手に1000ポイントのダメージに追加してバトルフェイズ中の蘇生で攻撃が可能で再攻撃ができた

他にもテンペスターで攻撃されたのなら、その時にヘイト・バスターを発動できていた

その場合、テンペスターの攻撃力である2800のダメージ、更にこちらの総攻撃で終わり

堅守瑞貴が本気で勝つつもりだったのなら、あの次のターンで終わっていた」

こいつ、俺のフォローをしたいのか遊城達の傷を抉りたいのか、どっちだ？

おそらく事実を指摘しているだけのつもりなのだろうが、完全に固まっているぞ？  
事実だから俺からは何も言わないがな。

「咲良が俺の言いたい事を殆ど言ってしまったが……理解したな？」

「そういう訳で、シングル戦をしたい」

『そ、そうなのーね？』

『どどどど、どうしましょ？』

『決闘デュエルの途中経過しか分かりませんが……』

『それでは他の者と公平になりません』

『彼にもタッグを組んでいただきます』

『……だ、そうです』

『わかりました』

校長だけなら楽そうだったのだがな。

さすがに倫理委員会から許可を得るのは難しいか。

「タッグ決闘デュエルか……燃えるぜ！」

「アニキったらそんなお気楽な……」

「十代らしいんだな」

「ふふ……」



ほのぼのしている空気で悪いのだが、お前ら状況を理解してるか？

下らない事ばかり話していると負けるぞ？

『校長、本人達も納得したみたいでスーの！』

『ならいいでしょう』

負ければ退学……は、やり過ぎですな

停学処分が妥当でしょう』

『決まりなノーね、負けたら停学処分！』

制裁タッグ決闘デュエルの対戦相手は、追って私から発表すルーのね！』

楽しくなってきたし、さてはてどうするか……

停学処分なんてお断り、停学処分を受けたなんて知られたら就職に影響が出る。

まあそこまで調べたりしないだろうが、無いに越した事は無いからな。

……

……

……

「それで、どんな組み合わせにするんだ？」

「僕なんかじゃダメだあ！」

「どうしよう、どうしようおー！ー！」

「お、落ち着くんだな翔

退学処分にならなかつただけ良かったと思うんだな」

遊城達3人は相変わらず。

「うーん……」

「天上院さん、何を悩んでいる？」

「私は誰と組むべきか考えているのよ」

「デツキ相性だけを言えば遊城君？」

「だけど機械族デツキと獣族デツキだと相性が悪いし……」

「戦士族と獣族、戦士族と機械族……どっちもイマイチ？」

咲良は天上院と話し合い。

誤算だったのは退学処分でも良かったのだが停学処分に落ち着いてしまった点か？

咲良が負けてくれれば色々と楽だったのだが、まあそこは妥協しよう。

咲良が持つてくる厄介事も、面倒だが楽しいといえれば楽しいしな。

「堅守瑞貴、誰と誰で組めばいいと思う？」

「……別に誰でもいいだろ」

「俺は自分が負けなければなんでも構わん」

「相変わらずそんな言い方……」

「分からないなら試せばいいだろうが」

適当にタッグを組んで決闘デュエルをすればいいだろう？

人数は居るんだ、タッグ決闘デュエルの練習ができる人数だぞ」

こいつらと練習なんてするつもりなんて無いがな。

デツキ内容さえ見れば誰とでも組めるデツキは作れる。

咲良はデツキを複数持っているから若干悩むが、問題は無いだろう。

「で、そう言う貴方は誰とタッグを組むの？」

「誰でも構わん、興味が無いね」

誰と組んでも何も変わらないからな」

「大した自信ね」

勘違いされているな。

「デツキ相性、手札事故、プレイミス……いくらでも状況は変わる

それを少しでも抑える為にデツキ内容を考えるんだだろうが

これは誰と組んでも変わらない、当然だろう？」

何より、弱みなんて見せたくない。

これぐらいの余裕を見せていなければ俺と組まれた時に緊張されても困る。

例えるなら、ずっと頭を抱えている丸藤みたいな奴だな。

「断言できる貴方が凄いわ」

「天上院さん、女子同士で組まない？」

「私は構わないけど……みんなは？」

天上院と咲良が組むのか？

問題は有るだろうが、他を考えると……

「デツキ相性から考えて却下するべきだろうな」

「天上院さんに合わせたデツキを使うだけ」

「それ以外は？ 俺も相方に合わせればいいが、残り1組が酷くなるぞ？」

遊城は戦士族の【E・H・E・R・O】、丸藤は機械族の【ロイド】、前田は獣族の【コアラ】

この3人は殆どデツキシナジーが無い」

「なら天上院さんと結城君で戦士族コンビ

丸藤君と前田君は私達の方がデツキを合わせるという事？」

「ベストとは言わんが、ベターだろうな」

まあだからと言って、誰と組みたいかと問われれば難しい問題だ。

この中で俺が組むとして、誰が戦いやすいか……

あまりしたくは無いが、咲良と組めば楽だろうな。

別に他が負けても何も問題は無いんだし、それで推してみるか？

咲良が煩そうだが、黙らせる為の手段はいくらでも浮かぶ。

だがそれ以上に楽しくそんな事はいくらでも有る。

「お前ら、別に誰と組んでも構わないだろう？」

「俺は誰とでもいいいぜ！」

「それはちよつと……」

「どうしようかなあ？」

「私は誰でも構わないわ」

「私は誰とでもはちよつと……」

遊城と天上院は問題無し、前田は若干悩み中、咲良と丸藤は希望が有るか。

ならこの場合、誰が誰と組むか簡単に決められるな。

「では遊城は天上院と」

前田は俺と、咲良は丸藤と組むが問題は全く無いな」

「問題しか無い！」

丸藤君とタツグなんてお断り！」

「即答?! しかも酷い！」

「覗き魔となんて絶対に嫌！」

「だからそれは誤解だつて！」

それにそつちはストーカーじゃん！」

「堅守瑞貴の嘘を信じるな！」

咲良がああ件の件以来、丸藤に嫌悪感を持っているのは知っていた。

若干予想以上だが、問題は有るだろうが楽しそうだから俺的にはOK。

というか咲良、そこまで覗かれたのがショックだったのか？

「それに……」

咲良が俺の横に来て小声で話しかけてくる。

「十代と翔がタッグを組まないと原作通りにならない

その決闘が切欠で翔の心が強くなつた

できるだけこの流れを変えたくない」

なるほど、それも有るだろうが単純に丸藤を嫌がっているだけだろ？

それぐらいは見れば分かるのだが、他に気付いている奴が居ないな。

丸藤は覗きの件を出されて怒っているし、遊城と天上院はタッグ決闘で相談中。

前田は丸藤の態度を苦笑いで見ているだけで、咲良の感情には気付いていないよう

だ。

「……まあいいだろう

お前が理由を付けて、なんとかそれを押し通せよ？

俺は俺で案を言ったからな」

「くっ……」

そこまで考えていなかったらしく、顔を歪ませて苛立ちを隠そうとしない。

俺がお前の面倒まで見るはず無いだろう？

何より、俺の案で通した方が俺が楽しいのだからな。

「タッグの組み合わせだけど、私の案を言ってもいい？」

咲良の言葉で全員が咲良の方を向く。

さて、どんな言い訳を使ってくるのか楽しみだ。

つまらなかったら俺がその言い訳を叩き潰してやろう。

「遊城君と丸藤君は兄弟分、ならその2人でタッグを組んだ方が息を合わせやすいと思う」

前田君はあまり授業に出ていなかったはず……実力の高い堅守瑞貴と組んだ方がなるとかなる

天上院さんは私と組んで、実力は（あまり信用できないけど）高いから戦いやすそう」

まともだがつまらんな……潰してやろうか？

どんな組み合わせにしてやろうか悩むな。

「あー！……こんなに考えるんだったら一回全部組み合わせで決闘デュエルしようぜ！」

そうすりや相性なんてわかるだろ！ それでいいだろ？」

頭を使う事を嫌う遊城の大声で場が静まる。

言っている事は確かにその通りなのだが……

「それは5回も決闘デュエルをするという事か？」

さすがに面倒だからお断りしたいのだが？」

「面倒って……」

「だけど十代の言う事も尤もじゃない？」

組み合わせはいくつも有るのだし、試しておいても損は無いわ」

天上院まで援護してきやがった。

その試す事が面倒だから断っているんだろうが。

「俺は抜けるぞ？」

誰と組んでも合わせるデッキを組むだけだからな」

「慣れないデッキを使って大丈夫なの？」

「俺はこの学園に来て、1度も同じデッキを使っていないが？」

似たデッキは使っても、戦い方が全く違うデッキを使っているし」

エクゾディアとか……この前は戦うエクゾディアパーツのデッキだったし。

ドロ―して揃える、ロックして揃える、自分のデッキを破壊して墓地回収をして揃え



るなど。

エクゾディアを揃えるにも全く違うデッキを使うからな。

「なら堅守瑞貴、組み合わせを試す為に相手になつて」

「全組み合わせを試す為に10回も戦えと？」

余計に面倒だろうが、それは……」

「なら1人2回、5戦だけ

残りはこちらでしておく」

5戦も十分多いぞ？」

組み合わせを考える事にも飽きてきたし、後は押し付けるのも有りか？

まあ面倒とはいえ、全員を叩きのめしておくのも有りかもしれないな。

先に心を折っておいても損は無いか……今後、俺に逆らわせない為にも。

折れそうに無い奴が居るが、そいつは最初から諦めておいてもいいだろう。

「仕方無いから妥協してやろう」

俺が1人で2つのデッキを使うが、構わないだろうか？」

「……【フルバーン】は使わないように」

「チッ」

手札が10枚有ればライフを8000削る事ぐらいできるのだがな。

まあいいだろう、咲良の言う事が正しければ……ならあのデッキにするかな？

「ルールはライフは共通で8000ポイント、場、墓地、除外は全員共通で通りモンスター、魔法・罠5枚まで

手札、デッキに戻るカードはそのターンプレイヤーの手札やデッキに戻すので決闘後デュエルに注意

ターン順は自分↓相手A↓相方↓相手Bの順番で進行……質問は無いな？」

特に問題は無く、全員が頷く。

「では少し待ってろ、デッキを組んでくる

そっちは俺との2戦で誰と誰で組むか相談しておけ」

少し離れ、5つのデッキを組み始める。

さーてつと……動かし方を考えないとならん、どうやってデッキを回そうか？

「誰と誰で組む？」

「2戦かあ……」

誰と誰で組めば相性が良いのか悩む。

私は明日香以外とはあまり組みたくないのだけど、この中からだと……

「私は天上院さんと組んでみたい

もう1戦の希望は……丸藤君以外なら誰でもいい」

「ま、まだ言うのお?」

覗き魔とはお断り。

「手っ取り早く決める為にも出た案でさっさと決めましょう

私は咲良さんと……さつき案に出たし、十代と組もうかしら?」

「なら俺は翔と組もうかな?」

「これで俺は決まったな」

「じゃあ俺は翔と咲良さんと組むんだな

「これで全員決まったぞ」

十代&明日香、明日香&結美、結美&隼人、隼人&翔、翔&十代

これで5戦でのチームが決まった、後は堅守瑞貴がデッキを組んでくるまで待つだけ。

どんなデッキを使ってくるのか……タッグ戦に特化したデッキだと思う。

【フルバーン】は止めるように言ったし、舌打ちをしていたけど多分使わない。

可能性が高いと予想するのは、両方が同じテーマにする事で格段に強化されるデッキ。

墓地のホワイトが増え、ホワイトキングが強化される【ホワイト】の可能性が高そう。

似たような理由で「ハーピィ」、神竜―エクセリオンも墓地に同名モンスターが存在すれば強化されるモンスターだし

封魔の伝承者なんて墓地に5体存在すれば……6属性中5属性を攻撃時限定とはいえ一方的に倒せる凶悪モンスターと化す。

チエイン・スラッシュャーなんて合計で6回も攻撃できてしまうモンスターにまで……攻撃力が上がれば恐ろしい。

モンスターではなくても凶悪なカードは複数存在する。

ゴブリンのやりくり上手を使われれば6枚ドロから1枚デッキ戻しで、5枚もの手札増強。

もし墓地に2枚のゴブリンのやりくり上手が存在していて、4枚を同時発動から非常食を使用した場合。

7枚ドロ―1枚デッキボトム×4で28枚ドロから4枚デッキ戻しで24枚もの手札増強に……なにそれこわい。

そこまではしらないと思うけど、彼はあの堅守瑞貴……断言ができない！  
暫く待つと堅守瑞貴が戻って来た。

どんなデッキを組んだのか……訊く事が怖い！

「デッキが組み終わった、始めるか

最初は誰と誰だ？ 希望が無いのなら俺が指名するが」

「なら俺が最初だ！」

立候補したのは十代、だけど翔はやる気がイマイチ……先にさせるべき？

後にすれば堅守瑞貴の戦い方を見て更にやる気を無くしてしまいそう。

「相方は？」

「私と翔君よ」

「なら丸藤が先だな」

「僕!？」

同じ事を考えたのか、堅守瑞貴は翔を指名。

渋々と前に出てくる翔、そしてやる気満々な十代。

「さっさと始めよう」

堅守瑞貴は両手に決闘盤デュエルディスクを装着して2人分を使うらしい。

やりにくそうだけど、本人がいいのなら気にしない。

他の人にさせればいいのに……

「決闘!」「決闘」「決闘……」

十代……元気だなあ。

「先攻は俺が貰おうか、ドロー」

自分の場にモンスターが存在しない場合、ソラー・ウインドジャマー太陽風帆船は特殊召喚できる

俺はこの効果により、手札からソラー・ウインドジャマー太陽風帆船を特殊召喚する

この効果で特殊召喚した場合、元々の攻撃力と守備力は半分となる

更にこのモンスターは場に1体しか存在できない」

青い船体に、上下に帆が付いているというなかなか不可思議な構造をした船。

元々のステータスは攻撃力800の守備力2400、半減して攻撃力400と守備力1200まで下がる。

シンクロもエクシーズも無いこの時間軸でこのモンスターをどう使うつもりなのだろうか？

「永続魔法、アドバンス・フォースを発動

自分がLV7以上のモンスターを生贄召喚する場合、LV5以上のモンスター1体で召喚ができる」

「……つまりどういう事だ？」

堅守瑞貴の言う事を理解できない十代。

あんなカードを使うという事は……あのデッキは最上級モンスターを中心としたデッキ？

でもあの堅守瑞貴が普通に通常召喚するデッキって、どんなデッキ？

「見て理解しろ」

アドバンス・フォースの効果により、俺は手札のLV7以上のモンスターを生贄1体で召喚する

俺は太陽風帆船ソーラー・ウインドシャマを生贄にし、LV7の水魔神―スーガを召喚する」

……え？ 水魔神？ え？ え？

ちよ、待つて、何故？ どうして？

「いきなり攻撃力2500のモンスターか……やるな！」

「ううう……どうしてこんなに簡単に最上級モンスターを召喚できるのさ」

も、問題はそこじゃない！ そこじゃない！

どうしてそのモンスターをチョイスしたのか、それが最大の問題！

「カードを1枚伏せ、ターンエンド」

青色の、額に水の文字を持つ三魔神の1体である水魔神―スーガ……

十代は興奮、翔は相変わらずやる気が出ない。

だけどターンは進行する、頑張ってもらいたい所。

「僕のターン……ドロー」

僕はジェット・ロイドを守備表示で召喚して、ターンエンド」

赤いボディのデフォルメされたジェット機のモンスター

確か効果は攻撃対象にされた時、手札から罠カードを発動できるカード。

弱くはないけど、強いとは言い切れないという、若干微妙なモンスターかな？

「俺のターン、ドロ」

手札のカードを1枚墓地へ送り、手札に存在するLV5のモンスター、THE トリツキーを特殊召喚する」

顔に？を貼り付けた、黄色がメインカラーと思われる道化師のようなモンスター

まさかもう2体目が……

「更にゼンマイソルジャーを召喚する」

V字型の頭部で背中にネジ巻き用の部品まで装着された、玩具のようなモンスター

だけど機械族じゃなくて戦士族、黄緑と白のカラーなのだけど……ゼンマイソル

ジャー？

THE トリツキーを生贄にすれば……あ、手札に三魔神が入っていない？

「永続魔法、進撃の帝王を発動

このカードが存在している限り、自分の場に存在する生贄召喚に成功したモンスターは

カード効果で破壊されず、カード効果の対象とならない

デメリットとして、エクストラデッキからモンスターを特殊召喚できないが……問題



は無い」

大体あのデッキが読めてきた。

あのデッキはアドバンス・フォースをメインにした【アドバンス召喚】

そしてアドバンス召喚に成功したモンスターに関係するカードを多用しているはず。

欠点は条件付き特殊召喚モンスターが多そうだから、場に左右される点？

けど、それはレベル操作ができる下級モンスターを採用すればいいだけだからそれほどでも無い。

下級モンスターを採用時は最上級モンスターの展開が遅れる点が欠点か？

【冥界軸最上級多用】デッキに比べて手札を稼げない事が辛いけど。

アドバンス・フォース以外に必要なカードは殆ど存在しない点で優れる。

けど、お互いに優位な点があるからどちらの方が強いとは言えない。

必要カードが少ない点でアドバンス・フォース、手札アドバンテージの冥界の宝札。

今回の堅守瑞貴のデッキは、アドバンス・フォースをメインとした【三魔神】デッキ。

「バトルフェイズだ

THE トリツキーでジェット・ロイドに攻撃」

トリツキーはカードを持つような動きをし、何かを投げるような動きをする。

だけどその手には何も持っておらず、何をしたのか……

「ジェット・ロイドの効果発動！」

このモンスターが攻撃対象となった時、手札の罠カードを発動できる！

僕は手札の罠カード、聖なるバリアーミラーフォースを発動！」

相手の攻撃宣言時、相手の攻撃表示のモンスター全てを破壊する！」

これなら進撃の帝王の効果で守られたスーガはともかく、他の2体のモンスターは破壊できる。

ライフを減らさなのまま、十代のターンに回せた事は大きい。

「カウンター罠、オーバーウェルムを発動

自分の場にLV7以上の、生贄召喚に成功したモンスターが存在している場合に発動できる

罠カード、または効果モンスターの効果の発動を無効にし、破壊する

このカードの効果により、ミラーフォースを無効にして破壊」

「ええ!? そんな！」

ジェット・ロイドの効果は永続効果だから無効にできない。

だけど、ジェット・ロイドの効果で発動した罠カードは無効にできる。

やっぱり生贄召喚に成功したモンスターのサポートカードを入れていた……

「ミラーフォースの効果は無効となり、トリッキーの攻撃は続行する」

トリツキーの投げた何かはジェット・ロイドに当たつたらしく、ジェット・ロイドが仰け反る。

そしてジェット・ロイドの周りに強烈な風が巻き起こり、ジェット・ロイドは破壊された……

多分、風でできたカード状の何かを投げつけ、当たった相手の周りに風を起こす攻撃？

風属性・魔法使い族らしい攻撃方法だと思う。

「さて……ゼンマイソルジャーでダイレクトアタック直接攻撃」

ゼンマイソルジャーの発条が少し回転し、ゼンマイソルジャーが動き出す。

腕の前に突き出し……ロケットパンチ!?

戦士族なのに機械族みたいな攻撃方法ってどうなの!?

ま、まあとにかく1800のダメージで残りライフは6200。

「水魔神―スーガでダイレクトアタック直接攻撃」

「うわああああ!」

スーガから吐き出される水流で大ダメージを受ける翔。

残りライフは3700と、既に半分を切っている。

「カードを1枚伏せ、ターンエンドだ」

この状況で、既に勝つ事は難しい。

次のターンでなんとか凌がなければ……勝つ以前に終わってしまう。

「う、うううう……」

そもそも、勝つ負けるといふ問題ではなかったらしい。

翔がもう泣いている……昨夜は頑張っていたけど、単に夢中になっていただけか。

それとも助けようとする使命感なのか、はたまた他の何かなのか。

どんな理由にしろ、今は既に戦意喪失なので使い物になるかもわからない。

「やっぱり僕なんかじゃアニキのパートナーなんて無理なんだ……」

「そんな事は無いぜ翔！ まだ少しやられただけだろ！」

デュエル  
決闘はまだまだこれからだぜ！」

十代の言葉に、少し顔を上げる翔。

十代は人を元気に与えられる人間、彼のような人に励まされれば大抵の人は元気が出てくる。

彼ほど毎日元気でやる気に満ちている人は、殆ど存在しないのだから当然とも言える。

「別に諦めてもいいけどな

俺が楽になるし、無駄な時間を減るからな」

「っー」

逆に、ここで酷な発言をするのも堅守瑞貴らしいと言える。彼は人の心を折り、やる気を削りきる事を得意としている。

彼ほど人の気持ちちを平気で折るような人も、同じく殆ど存在しないと思う。

「瑞貴、お前！」

「名前で呼ぶなど何回言わせる気だ、お前は？」

事実だ、やる気も無い奴の相手をしてやるほど、俺は暇ではない、ああ暇ではないとも

こんな決闘デュエルをしている時間が有ればデッキを5個は組めるのだからな」

「くっ……くっ……くっ！」

段々と涙を瞳に浮かべだす翔、だけど堅守瑞貴に容赦という言葉は存在しない……多分。

前回の決闘デュエルを考えると、容赦ぐらいは持っている気がする。

だけど結局心を折るような事を言ったから……やっぱり容赦なんて存在しない！

「まったく、逃げるのならさっさと逃げろ、邪魔だ」

そんな態度ではお前と組む相手が哀れで可哀想で同情してしまいたくなくなってしまっただろうが

パートナーを失望させたくなければ、僅かにだけでもやる気の1つでも見せたらどうだ？

もつとも、やる気を出した所で勝てるかと問われれば、全く無関係としか言えないがな」

励ましているのか氣力を折っているのか全く判らない……とは、端から見た時の言葉なのだけど。

この言葉を受けた本人からすれば、今の言葉は完全に心を折られてしまう。

「そうだよね、僕なんかがパートナーじゃ相手が可哀想だよね……」

完全に泣き、戦意なんてどん底以下にまで落としてしまう。

後ろを向いて走りだそうとし……

「ふざけんな！」

十代の声で、足を止める。

「ふざけていない、事実だ」

「事実なんかじゃない！」

翔と組む相手が哀れで可哀想で同情してしまうだと？ パートナーが失望するだと

？

馬鹿にすんな！ 俺が翔に失望なんてするもんか！ 同情や哀れみなんて真つ平だ

ぜー！

決めた、残りの決闘デュエルなんて関係ねえ！ 俺は翔とタツグを組む！ 文句は言わせねえ

！

「アニキ……」

「翔、俺のパートナーはお前だけだ！

この決闘デュエルだって、本番だって絶対に勝つぞ！」

「う、うん！」

十代の言葉に涙を消し、笑顔を浮かべる翔だけど。

それが一時的なのか、今後も続いてくれるのか全くわからない。

対して堅守瑞貴の表情は呆れと嫌悪……何故？

「よくそんな臭い台詞が言えるもんだ、俺には理解できん

そしてあんな言葉一つで元気を取り戻す、なんとも軽くて調子の良い奴だな

また負けそうになったら同じ姿を晒すんだろ？ 無駄な努力は止めておけ」

「馬鹿にするな！

僕だってやる時はやるんだぞ！」

「なら最初からやれよ、だからこんな状態なんだろうが

馬鹿にもしたくなる俺の気持ちを理解してくれないかねえ？」

「理解なんてできるもんか！ 俺のターン、ドロー！」

俺はE・HERO バブルマンを召喚、そして効果を発動！

自分の場にバブルマン以外のカードが無い時、デッキからカードを2枚ドローする！  
そして魔法カード、メタモルフォーゼ突然変異を発動！

自分の場のモンスターを生贄にし、同じLVの融合モンスターを1体、特殊召喚する

！

俺はLV4のバブルマンを、E・HERO バブルマン・ネオに進化させる！」

言い方はアレだけど、実際はバブルマンを生贄にしてバブルマン・ネオを特殊召喚。

OCGでは効果モンスターであり、場のバブルマンと手札のメタモルフォーゼ突然変異を墓地へ送って  
特殊召喚されるモンスター

アニメではバブルマンと他のモンスターの融合体であり、バブルマンとして扱う効果を持つている。

バブルマン 鱈が生え、若干ヘルメットが変わった程度の見え目……：……どうなのだろう  
か、これは？

そして元の世界ではネタ扱いにもできないぐらいに役に立たない以前にそもそも場  
に出せないというカード。

メタモルフォーゼ突然変異がコスト、バブルマンが場に存在し、更にバブルマン・ネオが手札に存在する



必要が有る。

これだけのカードを、例えば突然変異メタモルフォーゼが無制限でも使う人はファン以外存在しないと思う。

「(……:そういうえばあのカード、アニメ世界ではヒーロー・キッズとの融合モンスターだったな

どうしてOCGでは効果モンスターとして出たのか、誰にも理解できなかっただろうな……:哀れ)」

「更にバブル・シヨットをバブルマン・ネオに装備させる！

このカードはバブルマンにのみ装備できるカードだが、バブルマン・ネオはバブルマンとして扱えるから装備できる！

バブル・シヨットの効果で攻撃力を800ポイントアップ！」

これは……:もうこのコンボを使う？

十代、君はあのモンスターの恐ろしさを知らない……:正確にはあのモンスターに関するモンスターをかな？

残念だけど十代、貴方は選択肢を間違えた！

「バトлда！」

バブルマン・ネオで水魔神―スーガに攻撃！」

「……………ふん」

スーガに向かってバブル・シヨットから水が発射される。

素直に攻撃を受けるスーガ、堅守瑞貴は何もしない。

「この瞬間、バブルマン・ネオの効果発動！」

このモンスターと戦闘したモンスターをダメージステップ終了時に破壊する！

更にバブル・シヨットの効果、このカードを代わりに破壊し、戦闘ダメージを0にして戦闘破壊から免れる！」

バブルシヨットは破壊されてしまったが……

「忘れたのか？ 永続魔法、進撃の帝王の効果を……」

生贄召喚されたモンスターは効果によって破壊されない

スーガを倒したければ、素直に戦闘破壊するんだな」

「げ……」

私も忘れてた……目立たない上にあの会話が有った。

しかもオーバーウェルムの発動も有って、完全に記憶から消えていた。

この状況じゃどうしようも無い。

「カードを2枚伏せて、ターンエンドだ！」

「俺のターン、ドロー」

場のゼンマイソルジャーの効果が発動

メインフェイズ時、エンドフェイズ時までLVを1上昇させ、攻撃力を400ポイントアップさせる

ただしこの効果はこのカードが場に存在している限り、1度しか発動できないこの効果により、ゼンマイソルジャーのLVと攻撃力を上昇させる」

ゼンマイソルジャーの発条が大量に周りだし……煙を上げた？

なるほど、ゼンマイのモンスター達が効果を1度しか発動できないのって、発条が壊れるからだっただけらしい。

元々巻かれていて、動ききつたから効果が使えないと思っただけ、まさか壊れていたなんて……

あーあ、ゼンマイソルジャーの目が白眼になってしまっている、完全に壊れた？

「LV5となったゼンマイソルジャーはアドバンス・フォースの効果を受ける事が可能だ

ゼンマイソルジャーを生贄にし、LV7の雷魔神―サンガを召喚する」

上半身のような体をした、額に雷の字を持つ……黄土色？ つばい色のモンスター

雷魔神―サンガ……2体目の魔神である最上級モンスター！

そして進撃の帝王の効果を受ける事が可能な攻撃力2600のモンスター！

「防ぎきれるかな？」

バトルだ、水魔神―スーガでバブルマン・ネオに攻撃」

「罨カード発動、ヒーローバリア！」

自分の場にE・HEROが存在している場合に発動できる！

相手からの攻撃を1度だけ無効にする！」

スーガの水流を防ぐけど……

「雷魔神―サンガ、バブルマン・ネオに攻撃」

殆ど動揺などせず、攻撃を続行する堅守瑞貴。

これをどうやって防ぐか……と思ったけど、防ぐ事ができずにサンガの雷撃に破壊されるバブルマン・ネオ。

サンガも進撃の帝王の効果を受けているのでバブルマン・ネオの効果で破壊されない。

戦闘ダメージは1400、残りライフは2300だからこのターンは凌ぐ事ができる。

「THE トリックキーダイレクトアタックで直接攻撃」

「罨カード、ヒーロースピリッツを発動！」

E・HEROが戦闘で破壊されたターンのバトルフェイズ中に発動できる！」

相手モンスター1体からの戦闘ダメージを0にする！」

再びカードを投げるトリッキーだけど、バブルマン・ネオの姿が現れて攻撃を防ぐ。戦闘ダメージが0になった……ライフは少ないけど、まだ大丈夫そう。

「……ターンエンド」

不機嫌そうだけど、このターンに決められなかったから？

それとも他に理由が？

「(手加減が難しい……)」

「ぼ、僕のターン、ドロロー！」

魔法カード、強欲な壺を発動！ デツキからカードを2枚ドロローする！」

ん？ 翔の表情が変わった？

何か考え込むような、思い出すような……翔のデツキであんな顔をするカード？

確か、確か何か有ったはず、確か……思い出した！ パワー・ボンド！

「……………」

「ん？ どうした、翔？」

「あ、いや、なんでもないよアニキ」

明かに様子がおかしいが、それでもなんとか頑張ろうとする翔。

手札をずっと見続け、どうするか悩んでいる。

「……よし、魔法カード、融合を発動！」

手札のレスキューロイドとキューキューロイドを融合！

レスキューキューロイドを融合召喚！」

消防車の姿をしたロイドのモンスター、そして何故か炎属性という謎なモンスターでもある。

攻撃力は2300と、上級モンスターとしては低めなのに攻撃表示？

まあ、あのモンスターをパワー・ボンドで融合したらデメリット効果で負けだから仕方無い。

パワー・ボンドは融合先モンスターが機械族の場合、融合の魔法カードとして使用できるカード。

そして融合後、融合召喚されたモンスターの元々の攻撃力を倍にする。

ただし、エンドフェイズ時に融合召喚されたモンスターの元々の攻撃力分のダメージを受けてしまうカード。

残りライフ2300でレスキューキューロイドを融合したら、自滅ダメージでジャストキルになる。

「バトルだ！」

レスキューキューロイドでトリツキーに攻撃！」

「……………(受けてやるか)」

レスキューキョロイドの放水器から吹き出る……炎!?

消防車なのに炎を噴くから炎属性!? 火炎放射ならぬ火炎放車!?

そ、それはともかく堅守瑞貴は何もせず、炎に焼かれるトリツキーは破壊される。

受けたダメージは僅か300だけど、堅守瑞貴にダメージが通った!

「よし! デコイロイドを守備表示で召喚!

カードを1枚伏せて、ターンエンド!」

融合解除が伏せられていた場合、無限ループが起こせるモンスター達が揃った。

戦闘以外の手段を使えばいいだけとはいえ、どうなる事やら……

「俺のターン、ドロ………まあいいか

魔法カード、クロス・ソウルを発動

相手の場に存在するモンスターを選択して発動する

俺が選択するモンスターはレスキューキョロイドだ

このターン、自分がモンスターを生贄にする場合、選択した相手モンスターを生贄にしなければならぬ

ただし、このターンはバトルフェイズを行う事はできないがな」

「ま、まごか……」

「アドバンス・フォースの効果だ

LV6のレスキューキョロイドを生贄に、LV7の風魔神―ヒューガを召喚だ」

これは酷い……球体の体に腕が生えた、額に風の字を持つ緑のモンスター

翔が苦勞して召喚したモンスターだったのに、これでは報われない。

「バトルフェイズが行えないので俺はこのままターンエンドだ

お前達は三魔神に勝てるかな？」

この状況は確かに辛いかもしれない状況。

十代ならなんとかしそうな気がするけど、大丈夫？

「俺のターン、ドロ―！」

魔法カード、融合を發動！

手札のE・HERO ワイルドマンとE・HERO エッジマンを融合！

E・HERO ワイルドジャギーマンを融合召喚！」

ムキムキマッチョな半裸の男性、左腕と右足と股間部分に鎧が……そこまで見て、すぐに目を逸らす。

ちよつと刺激が、カード状態ならともかく実体化されたら私には刺激が強い……

見ても恥ずかしいし、私にはまだまだ早い、あんな男性は苦手。

「ん？ どうしたの？」



「なんでもない、なんでもない……」

明日香に質問されるけど、そんな事どうでもいい。

うううう……早くあのモンスターをどうにかして、堅守瑞貴！

「(……………へえ?)」

「更に永続魔法、騎士道精神を発動！

このカードの効果により、攻撃力が同じモンスターと戦闘をしても、俺のモンスターは破壊されない！」

ワイルドジャギーマンの攻撃力は2600、サンガと同じ。

だけど三魔神の効果は、攻撃をされた時のダメージ計算時

表側表示の間に1度だけ、相手モンスターの攻撃力を0にする効果。

相手モンスターの攻撃力がどれだけ高くても、攻撃力を0にされれば意味が無い。

この勝負、堅守瑞貴の勝ちか……

「バトルだ！」

ワイルドジャギーマンで雷魔神―サンガに攻撃！」

「……………」

ワイルドジャギーマンは飛び上がり、背負った剣でサンガを真つ二つに叩き切る……  
ええ？

素直に破壊されるサンガ？ どうして効果を発動しない？ 今度は何を考えている  
!?

「ワイルドジャギーマンは相手モンスター全てに1回ずつ攻撃ができる！

水魔神―スーガ、そして風魔神―ヒューガに攻撃だ！」

同じように破壊されるスーガとヒューガ。

戦闘ダメージは僅か300、合計でたったの600ポイント。

いったいどうなっている？ 堅守瑞貴が苦戦しているとでも？

「……………」

だけど、そんな顔には見えない。

何が狙いで無抵抗で攻撃を受けている？

それにしても、ワイルドジャギーマンの存在で目の向け所に困る。

「どうだ瑞貴！」

俺はこれでターンエンドだ！」

状況は圧倒的に十代達が有利。

だけど堅守瑞貴がこのまま終わるはずが無い。

何を狙っているのかわからないけど、油断したらすぐに終わってしまう。

「……………だから、名前と呼ぶなど言っているだろう」

俺のターン、ドロ―

相手よりも自分の場のモンスターが2体以上少ない場合、このモンスターは特殊召喚できる

俺は手札より、魔導ギガサイバーを特殊召喚」

全体的に黄金の鎧の、名前的には魔法使い族で見た目的には機械族の戦士族モンスター―

劣勢時には頼りにできる、攻撃力2200の半上級モンスター―

だけど今召喚されても状況を好転させる事はできない。

「LV6の魔導ギガサイバーを生贄に、LV7の風魔神―ヒューガを召喚

風魔神―ヒューガでデコイロイドに攻撃」

ヒューガの起こす突風でデコイロイドはアツサリと吹き飛ばされて破壊される。

ワイルドジャギーマンの存在が本当にネックなのだけど、効果を使えば簡単に終わる。

どうして堅守瑞貴は三魔神の効果を発動させないのだろうか？

「ターンエンド」

「僕のターン、ドロ―！

このままバトル！ ワイルドジャギーマンでヒューガに攻撃！」

「……………」

効果を発動されずにそのまま破壊されるヒューガ、ダメージは200ポイント。残りライフは7200、まだまだ多いけど状況は本当に悪い。

それでも何も行動しない、何を狙っているのか全く予想できない。

「僕はこれでターンエンドだ！」

「俺のターン、ドロー」

カードを一枚伏せ、ターンエンドだ」

手札がドローカードだけ、伏せれば何もできない。

あの伏せカードは？

「俺のターン、ドロー！」

フレンドツグを召喚して、フレンドツグとワイルドジャギーマンで直接攻撃だ！」  
ダイレクトアタック

機械でできた犬が現れ、堅守瑞貴に噛みつく。

そしてワイルドジャギーマンの大剣で攻撃され、合計ダメージは3400ポイント。残りライフは3800……そろそろ動かないと危ない。

「……………」

それでも動かない堅守瑞貴が不気味過ぎる。

何が彼をここまで動かさないので、私には予想できない。

「これでターンエンドだー！」

「俺のターン、ドロー」

魔法カード、魂の解放を発動

墓地に存在するカードを5枚までゲームから除外する

俺が選択するカードはお前達の墓地に存在する融合のカード2枚

そして俺の墓地に存在する雷魔神―サンガ、風魔神―ヒュウガ、水魔神―スーガの合計5枚だ」

融合を除外したのはフレンドツグを破壊した時に効果を発動されない為かな？

フレンドツグは戦闘で破壊された時、墓地の融合の魔法カードとE・HEROを1体、

手札に加える効果。

両方が墓地に存在していなければ効果は発動できない。

そして3体の魔神を除外？ もしかしてあの伏せカードは！

「罨カード、異次元からの帰還を発動

ライフを半分支払う、俺のライフは3800なので1900の支払いだな

ゲームから除外されている自分のモンスターを可能な限り特殊召喚する

ただし、この効果で特殊召喚されたモンスターはエンドフェイズ時に除外される

特殊召喚するモンスターは当然、先ほど除外した3体のモンスターだ

戻ってこい、雷魔神―サンガ、風魔神―ヒューガ、水魔神―スーガ」  
三魔神が場に揃った……これを狙っていた？

だとしてもドロ―したカード、前から伏せられていたカードではない。

あのずつと伏せられているカードはいつたい？

「へっ、だけどそのモンスター達じゃワイルドジャギーマンは倒せないぜ」

「なら倒せるようにするまでだ

雷魔神―サンガ、風魔神―ヒューガ、水魔神―スーガを生贄にする事でのみ特殊召喚  
できるモンスターが存在する

俺はこの3体のモンスターを生贄にし、ゲート・ガーディアンを特殊召喚する」

特殊召喚、乗っただけ・ガーディアン！

……冗談はさて置き、3体の魔神が下からスーガ、ヒューガ、サンガとぶつちやけ乗っ  
ただけのモンスター

だけどその攻撃力は3750と高く、ワイルドジャギーマンの攻撃力を大きく超えて  
いる。

「攻撃力……3750だって？」

「またこんな強い上級モンスターが……」

さすがにこのモンスター達は強いのか、2人が動揺する。

十代は楽しそうだけど、翔はもう負けが決まったかのような表情をしている。

「ゲート・ガーディアン………まあいいか

フレンドツグに攻撃」

暫く攻撃対象を悩み、フレンドツグに攻撃をした。

この攻撃が通れば十代達のライフは0に！

「翔の罠カード、進入禁止！ No Enemy!!を発動！

攻撃表示の相手モンスターを全て守備表示に変更する！

ゲート・ガーディアンは守備表示になってもらうぜ！」

アニメでは相手モンスターにだけ効果が発動されるカード。

OCGでは攻撃表示の全てのモンスターが守備表示になる。

どちらにも利点があるからどちらが強いとは言えない。

「防いでくれないと困っていたぞ」

このままターンエンドだ」

ゲート・ガーディアンの守備力は3400と十分に高い。

この守備力を超えるモンスターは翔のデッキに存在していないはず。

パワー・ボンドで攻撃力を上げて、やっと倒せる守備力。

「そろそろ守りのカードも無いだろう？」

ゲート・ガーディアンを放置しても、負けるだけだぞ？

精々勝てるカードをドロイーできるよう、己の悪運を信じるんだな」

どうして堅守瑞貴はこんな事を？

絶対に手加減しているのはわかる、だけど何故？

彼の性格から考えて、手加減はしても相手に勝つようにする。

だけど今の行動を見ていたら……

「僕のターン……ドロイー！」

何をドロイーした？

「（これを使えば勝てる……だけど、本当に大丈夫なの？

あの伏せカード、あの伏せカードがもしそうなら負けてしまう！

どうすれば、どうすれば、どうすれば……どうすれば！」

凄く悩んでるけど、どうしたのかわからない。

少し移動し、翔の手札を覗いてみると……手札のカードは3枚。

スチームロイド、ユーフォロイド、そしてパワー・ボンド。

この状況で堅守瑞貴に勝つにはユーフォロイド・ファイターをパワー・ボンドで融合  
召喚する以外に無い。

スチームロイドを召喚し、ゲート・ガーディアンをユーフォロイド・ファイターで撃



破

そしてスチームロイドとフレンドッグで直接攻撃で翔が勝てる。

だけど、翔はまだあのカードを使う勇気が無い……かな？

「……スチームロイドを守備表示で召喚して、全てのモンスターを守備表示に変更

ターンエンドだよ」

勇気は、出なかった……か。

「……………ふん、俺のターン、ドロー

魔法カード、強欲な壺を発動し、更に2枚ドローする

装備魔法、メテオ・ストライクを発動

装備モンスターの攻撃力が攻撃をした相手モンスターの守備力を上回っていた場合

その差分だけ相手に戦闘ダメージを与える貫通効果を付与する

このカードをゲート・ガーディアンに装備させる

（このモンスターはもう不要だな、召喚するまでも無い）」

攻撃力3750の貫通効果を得たモンスター

十代達の残りライフは2300、ワイルドジャギーマン以外に攻撃をすれば終わる。

「ゲート・ガーディアンを攻撃表示に変更

ゲート・ガーディアンでフレンドッグに攻撃」

スーガの水で水弾を作り、サンガの雷で電気を通した水へと変える。そしてその電水弾をヒューガの突風で撃ち出す。

機械族のフレンドッグは水を受け、電気を通しやすくなりショート、そのまま破壊される。

フレンドッグの守備力は1200、2550のダメージで十代達の負け。

なにはともあれ、半裸の大男が消えてくれて色々な意味で助かった。

「負けたかぁー……ちつくしよー！」

でも、惜しいとこまで追い詰めたぜ！」

さて、イベントは起こしておかないと。

今成長してもらわないと、後々困る。

「やっぱり僕なんかパートナーなんて無理なんだよ……」

「そんな事無いだろ、かなり良い線行ってたじゃないか

そういうえば翔、最後のターン動きが止まってたな

ちよつと手札見せてくれよ」

「あ、ちよつとアニキ！」

私が動く前に十代が先に動いた。

翔の手札を確認し、疑問の顔になる。

「パワー・ボンド？ どうして最後のターンに使わなかったんだ？」

俺のワイルドジャーマンとユーフォロイドを融合してユーフォロイド・ファイターにすれば

ゲート・ガーディアンを倒して、残りのモンスターの直接攻撃で勝っていたじゃないか」

「これは使っちゃダメなんだ！」

「このカードはお兄さんに封印されてるんだ……」

「ふ、封印？」

「やっぱり僕なんかじゃアニキのパートナーなんて無理なんだよ！」

「翔ー！」

逃げ出してしまふ翔、啞然として動けない十代。

誰も動かないけど、これは多分、あの2人の問題だから私が介入する事じゃない。

なにより……抜けられて困るのは私達全員なのだからしっかりと説得してもらわないと。

そういうえば堅守瑞貴の手札と伏せカードは？

疑問に思い、片付けようとしている堅守瑞貴から決闘盤を奪う。

デュエルディスク

「……………何故奪う」

「何を考えていたのかわからなかったから

三魔神の効果も使っていないし、最後まで伏せカードを発動しなかった

どれだけ手加減しているのか、それが気になった」

手札を確認してみると……：The<sup>ザ</sup>ty<sup>タイ</sup>rant<sup>ラント</sup> NE<sup>ネ</sup>PT<sup>プ</sup>UN<sup>ユ</sup>E!<sup>ン</sup>?

モンスター1体の生贄でも召喚できるLV10のモンスター、生贄にしたモンスターの元々の攻撃力と守備力の合計値となる。

そして生贄にしたモンスター1体を選択、そのモンスターの名前と効果を得る。

なるほど、特殊召喚モンスターであるゲート・ガーディアの攻撃力を受け継いで進撃の帝王の耐性を持たせる。

他にも、三魔神の効果を使用後、名前と効果を奪って効果の再発動やゲート・ガーディアの生贄にも使える。

この感じなら合成魔獣 ガーゼットもデッキに入っているとは思議じゃない。

伏せカードは……超古代生物の墓場？

特殊召喚されたLV6以上のモンスターの攻撃と効果の発動を不可能にするカード。

だからあのデッキは生贄召喚に拘っていたか……三魔神は最上級モンスターで攻撃力は2400以上と高い。

そのモンスターを超える手段は、主に特殊召喚を使う以外にあの2人にはほぼ手は無

い。

可能性が有るとすれば、生贄召喚したE・HERO エッジマンぐらい？

それでも、三魔神の効果を発動されればもう手は無いと言ってもいい。

高速生贄召喚、三魔神の攻撃力を0にする効果、そして超古代生物。

この3つが合わさった時、あのデッキに勝つ手段はモンスターの効果破壊か超古代生物の破壊。

だけどモンスターの効果破壊は帝王の進撃で止められる。

魔法カード以外の魔法・罠カードの破壊も、オーバーウェルムで止められてしまう。

サイクロンや大嵐が無ければとは思うけど、どうせあのデッキにはアヌビスの裁きや王家の呪いが入っているはず。

オーバーウェルムの効果外の魔法カードを封じるカウンター罠を使えば、あのデッキに勝つのは難しい。

なんて厄介なデッキを作ったのか……予想通り、かなり手加減していたとしか思えない。

「どうしてこんなに手加減を？」

「勝つだけなら簡単だった、当然だろう？」

強いて言うなら、丸藤のあの茶番劇を楽しみたかっただな

俺には理解できないあの思考回路を見てみたい、それだけだ

案の定、訳の解らない、意味不明な考え方で逃げ出したよ

なんともまあ、見ているだけで楽しめるが腹の立つ光景だな」

吐き捨てるように翔を批判する堅守瑞貴。

気持ちには理解できないとは言わないけど、言っている事はなかなか酷い。

「時間を無駄に過ごした気分だよ、こんなに下らない茶番は初めてだ

以前の女子寮の事件よりも遙かに酷いね」

「それは言い過ぎ」

十代は明日香と話している。

多分、アニメ通りなら丸藤亮の件について話していると思う。

こちらの話を聞いていない、有る意味幸運だった。

「……手加減つて、どういう意味なんだな？」

「ん？」「え？」

私達の近くに居たのは前田隼人。

どうやら彼には聞かれていたらしい。

「言った通りの意味だ

俺はやろうと思えばダメージ0で勝つ事も可能だった

サンガ、ヒューガ、スーガの効果も、発動可能なのに使わなかったしな」

「なんで、そんな事を？」

「茶番」

2文字!？」

「十代と翔を、馬鹿にしてんのか!」

「馬鹿だとは思っているな、頭は実際に悪いし」

丸藤の思考回路に関して馬鹿以前に……小学生並かと疑うぐらいだ

俺の妹より遙かに酷い、6歳下の10歳だぞ? どうなんだ、その辺り?」

「今は玲ちゃんは無関係無いでしょ」

「……お前に妹の名前を教えた記憶は無いのだから」

「気にしない」

少し睨まれ、すぐにどうでもよさそうな顔をする。

私が堅守瑞貴を知っていると、そう思っているから妹の事も知っていると聞いたのだろう。

絶対に玲ちゃんに手出しはしないでおこう、何をされるか全く予想できない。

「翔だって頑張ってるんだな!」

「頑張るだけなら幼稚園児でもできるぞ?」

結果を出さなければ意味が無いだろうが

過程も大切だと思うが、殆どの人は過程よりも結果を重視する

勉強だつてそうだろうが、どれだけ勉強を頑張っても、テストで赤点を取れば意味が無い。

知らない人が見れば、どれだけ怠けていたのだと言われても仕方無いだろう？

本人や周りが、いくら頑張っていたと言つても誰も信用できん

丸藤が努力をしていると信用してほしいのなら、それ相応の行動で示すんだな

あんな態度を見せられては、アレだけの事を言われても仕方無いと思うがね」

「言い過ぎなんだな！」

「全面的に賛成するつもりは無い

だけど、あながち間違つているとは言えない」

「咲良さんまで!？」

相変わらず、堅守瑞貴は言う事だけは正論。

なんだかんだで、堅守瑞貴も努力をしていないとは言えない。

授業でも、デッキでも、決闘デュエルでも、どんな行動にしても。

目的などはともかく、結果を出しているから好き放題言える。

カードプールの広さの強さだけではない、使いこなすだけの能力が有るからの実力。



どれだけ強いデツキを持っていても、デツキを使いこなせなければ弱者と言われるのだから当然。

「だけど言い過ぎ、もし逃げ出したらどうする?」

「放置でいいだろ」

誰かがタッグではなくシングルで戦えば済む話だ。

丸藤の処理は学園で決められるだろうからな、俺達には関係無い

そして俺は、丸藤が停学だろうが退学だろうが逃げだそうが興味も無い」

それだけ言い、堅守瑞貴は去って行った。

1つのタッグが決まり、残りのタッグは誰でも良いとでも言いたいのだろう。

私と隼人は堅守瑞貴が去って行くのを見届け、十代と明日香に話しかける。

「どうする?」

「どうするって、俺はカイザーと決闘デュエルしたいぜ!」

……十代に訊いた私が馬鹿だった。

どうしてそんな結論に落ち着いたのか、私には理解できない。

「天上院さん、説明お願い」

「翔君の実の兄、カイザー亮の存在を教えたのよ」

翔君がカードを封印されているって言っていたし、理由も人間性も知りたい

だから決闘デュエルをしてカイザーを知るんですって」

私には理解できない思考回路。

確かアニメでは……十代と亮の決闘デュエルで翔がやる気を出すだけ？

だけど、アニメでは退学を賭けていたけど今回は停学、そこまでするだろうか？

「そういえば、俺は翔と組むけどお前らはどうするんだ？」

「私は咲良さんとかしら？」

「俺が堅守と？　ちよつと自信が無いんだな……」

それに、タッグを組んでも一緒に戦える気がしないんだな」

単人は先ほどの会話で、堅守瑞貴に苦手意識を持ったらしい。

こんな状態で組んでも本来の実力を出し切れるとは思えない。

「はあ……仕方無い、私が堅守瑞貴と組む」

これが一番誰とも揉めない組み合わせかもしれないし」

「い、いめん……」

「いい、半分予想はしていた」

堅守瑞貴の性格からして、この展開も予想していたかもしれない。

誰と組めば一番動きやすいかを考えれば、私と組んだ方が楽に決まっている。

だけどそう簡単にいかせてやらない！

「堅守君と組めて嬉しいのかしら？」

「なんだか笑っているし」

私は暗い笑みを浮かべながら、どのデッキを使うか考える。

覚悟しておくように、堅守瑞貴！

絶対に苦戦させてやる、負ける気は無いけど私と組みたくなくなるぐらいに！

## 9話【騙し合いコンビ】

遊城と丸藤との決闘デュエルから数日。

前田が親といざこざが有ったらしいが、無視しておいた。

結局の所、特に影響も無しに話は終わったのだから今更どうでもいい。

そういえば遊城が丸藤兄と決闘デュエルをしたらしいが負けたらしい。

こちらにも気にするような問題では無いが、丸藤がやる気を出したとかなんとか。

あの丸藤がやる気をねえ……全く信用できんな。

「それで、何が言いたいんだ？」

「何がって……他に何か無い？」

「何も？」

咲良が話してきたのだが、全くもってどうでもいい。

こいつは俺にこの話をして、何を期待したんだ？

「(アニメ通りの展開になってるのだけど、気にならない?)

私も具体的に知っているわけじゃない、明日香から伝え聞いたただだから)

もうすぐタッグ決闘デュエルが始まるけど、どんなデッキを使う？」

「……そう言うお前は？」

「教えてくれたら教える」

結局、俺と組む事になったのは咲良だ。

やはり組みやすい奴と組んだ方が俺も楽だし、咲良の実力の高さは認めている。

遊城が丸藤と組むと言い、俺は前田にあんな事を言ったのだ。

直接理由は聞いていないが、どうせ俺と組みたくないと言い出したのだろう。

咲良は天上院と組みたがっていたが、タイタン戦の時に俺と組んでもいる。

前田が俺と組みたくないと言った場合、咲良はアニメキャラである天上院と俺と関わらせない為に俺と組むと言い出す。

遊城達と決闘中<sup>デュエル</sup>は適当に考えていたが、決闘後<sup>デュエル</sup>に残りの組み合わせ方を考えてよかった。

まあ、別に誰と組んでも問題無かったけどな、強いて言うなら咲良と組む事が楽だっただけで。

それはそれとして……ふむ、どんなデッキにするかな？

嫌がらせを前提にするととなると、大体決まってくるけど。

「ワーム」

「嘘」

「よくわかったな」

疑問系ではなく断言しやがった。

半裸男性だらけの筋肉デツキでも使つてやろうか？

そうなると十中八九、戦士族を中心としたデツキになるだろうから不可能ではないし。

「コアキメイルを使おうかと思つている」

「【コアキメイル】つて……タッグでは相性最悪」

「それぐらいのハンデが無いと、相手が可哀想だろう？」

ああ、コアキメイルを使うとも……コアキメイルと名の付くモンスターをな。

さすがにタッグで【コアキメイル】デツキを使うほど馬鹿じゃない。

「で、お前は？」

「私は蘇生モンスターデツキを使う予定」

堅守瑞貴用の作つたデツキだし、この時代では強過ぎる気もするけど」

「ああ、あの女子寮で使つた蘇生効果を持ったモンスターばかりのデツキか  
確かにこの時代では強いかもしれないな」

普通の相手と戦う場合、あのデツキは強い。

しかし、若干物足りないな……主に俺が。

「嘘、本当は【超魔神イド】を使う……堅守瑞費用じゃなくて普通の【超魔神イド】だけだ」

私は停学になってもそこまで気にしないけど、一応真面目に授業を受けている堅守瑞貴

そして確か、将来を良くする為にこの学園を卒業しようとしていた

停学は堅守瑞貴にとつて受けたくない罰のはず、これで少しは自重して」

問題は咲良が言った言葉が嘘だった場合か？

もしこいつが【超魔神イド】【バブーン】【ネフロード】とかのデッキを使ってきた場合。

下手なデッキを使えば俺のデッキがボロボロになってしまう。

【ネフロードの鳳凰神】との相性は悪い、最悪と言ってもいいぐらいに悪い。

俺は魔法・罠カードを多用するから、それを破壊してしまう大嵐の効果を内蔵したネフロードの鳳凰神は大苦手だ。

それを咲良が馬鹿みたいに何度も自壊させてきたら俺は何もできない。

【超魔神イド】の場合、どんなデッキでもほぼ相性が悪くなる。

最初から利用しようとしないうち【ネフロード】以上にどうしようも無い。

最悪、俺のモンスターが全て超魔神イドに破壊され、召喚ロックスを受けてしまう事に

なる。

その点、それ以外のデッキならどうにでもなる。

俺も適当にまともに戦えるデッキを使えばいいだけなのだからな。

断言できる情報が有るとすれば、咲良のデッキはどれも自分のモンスターを破壊と蘇生させるデッキ。

咲良とタツグを組む以上、自分のモンスターはどれも効果破壊されてしまうと考えるもいいだろう。

ま、俺を追い出そうと考えている咲良の事だ、今回も半ば負けを考えて行動するつもりだろうな。

本人は隠そうとしているのだろうが、雰囲気と機嫌を見れば大体予想できるぞ？

俺も咲良のデッキを利用してもらうだけだ。

モンスター0枚の全魔法・罠カードデッキという手段も考えられるしな。

そうなれば【超魔神イド】の場合、俺には何も影響の無いデッキとなる。

【ネフティスの鳳凰神】を使われた場合はさすがに辛いかな。

とにかく、俺の予想はあの蘇生デッキは嘘で、使用デッキは【超魔神イド】だな。

初めて咲良と戦った時の、あの超魔神イドの使い方……ほぼ確実にメインモンスターだろう。



間違っていたら辛いけど、それでも問題無いデツキにしておこう。

どうせ、咲良のデツキはどれでも自分のモンスターを墓地へ送るのだからな。

「そろそろ時間だし、会場に向かう？」

「そうだな、遅刻するわけにもいかない」

遅れて色々と言われるのも面倒だしな」

ちなみに今居る場所は学園の入り口前の道。

咲良は俺の部屋に入る事を嫌がり、男子禁制の女子寮に俺が行く事もできない。

必然的に場所は教室やこのような場所になってしまふ。

まあ、別にどこでもおれは構わないのだがな……高い場所と女子寮はお断りだが。

俺と咲良は指定された決闘場デュエルフィールドに向かう。

途中で天上院と前田組に会い、一緒に向かう事になった。

前田がやや俺を意識していたが無視しておく、話せば面倒そうだし。  
デュエルフィールド

決闘場に着くと、それなりの人数の観客が居た。

別に観客の人数で勝負するわけでもなし、気にする必要は無いだろう。

「結構人が居るわね」

「ううう……緊張するんだな」

「緊張しても仕方無い」

「観客なんて鬱陶しいだけだ」

こんなもので緊張して失敗されると困るが、咲良は問題無さそうだ。

前田は緊張、天上院も少し緊張しているように見えるが……まあ大丈夫だろう。

そして……遊城と丸藤は若干遅い、遅刻か？

「十代達はまだ来ていないみたいね」

「ちゃんと起こしたんだけどなあ……」

前田、お前も苦労してるんだな。

授業中に寝たりする遊城や丸藤の子守も大変だろう。

あいつらが停学すれば案外楽になると思うぞ？

居ないものは仕方無い、そう思いさつさと決闘場デュエルフィールドに上つていく。

俺に釣られ、渋々ながらも他の3人も上る。

若干不安そうにしながら、それでも決闘場デュエルフィールドに上がったからには顔付きはマシになつ

た。

「ま、間に合ったかあ!？」

「アニキが二度寝なんてするからあー!」

「翔だつてそうだろう!」

喧しく叫びながら走って入って来たのは当然、遊城と丸藤。

俺と咲良は呆れ、前田と天上院は苦笑い、クロノス教員は今にも怒鳴りそうで、校長は暢気に笑っている。

こんな馬鹿の為に少しでも無駄な時間を使いたくない。

「ふう……ではこれより、タッグ決闘デュエルを始めルーのですね！」

クロノス教員の言葉で会場が沸くが、騒々しい。

そしてこの声で遊城と丸藤は会場の人間の多さに気付く。

暫く見渡した後、とある場所を見つめる……その先には？

「……………」

丸藤亮、学園の皇帝、カイザーだったな。

使用モンスターはサイバー・ドラゴンを中心とした「サイバー・ドラゴン」デッキを使用する。

サイバー・ツイン・ドラゴン、サイバー・エンド・ドラゴンをパワー・ボンドで融合する。パワーデッキ。

そして相手をリスペクト……つまり相手に敬意を払う、相手を尊重するのかなんとか。

だがしかし、それは本当に相手に敬意を払っていると言えるかと問われれば、俺は首を傾げるしか無い。

そもそも、相手に敬意を払う方法が、全力で相手と戦うとか相手の本気を受け止めるだとか。

何故それがリスペクトに繋がるのか、俺にはとてもではないが理解できない。

カードゲームで敬意を払う方法など、相手が自分の攻撃を全て全力で受け止めた上で勝った時ぐらいだと思う。

全力で相手と戦う、これに敬意を払うと言う言葉が当て嵌まるのか……当て嵌まらないだろう。

パワーデツキを使用していると考え、言い方を変えれば、一撃で潰してやると言っているとも思える。

相手の本気を受け止める、言い方を変えれば、お前が本気を出すまで暫く待つてやろうと、俺はそう取れるな。

俺のする手加減と、丸藤兄の本気を受け止めるという意味、似ているようで全く違う。

俺は相手が考え込む、慌てる、苦戦している姿を見る事が楽しくて加減をしたりする。他にも状況や機嫌や気分、決闘デュエルの理由など、そんな理由で手加減をする。

しかし一方の丸藤兄は全く違う。

相手の攻撃を全て受け止め、全力で相手と戦う。

つまり、相手の攻撃を全て躲し、弱った所を一撃必殺で刈り取る……

本人の意思や気持ちはともかく、実行された事はこんな内容なので全く信用できん。下手をすれば、完全に無自覚の俺以上に心をへし折る行為だ。

相手によつては立ち直れない可能性も否定できない。そんな事をして、相手をリスペクトするとは片腹痛い。

いつその事、相手を傷心させる為の戦いとも言つてくれた方がお互いの為だろう。もしくは相手の全てに勝つ為、完全に屈服させてやろうとも言え。

言い方一つで見方が随分変わる人間つてのも、早々居ない気もするな……  
堂々と言っているだけに、余計に俺の言い方が広がれば色々立場が危なくなりそう  
だ。

「それで対戦相手は？」

教員かオベリスクブルーの生徒かね？

まさかまた君が、相手をするのかね？」

おっと、考え事をしていて忘れていた。

「いいえ、これは彼らの校則違反の罰則を審理する為の、決闘デュエルでスーの相手はそれそうオーの、決闘者デュエリストでなければ意味ありませんーの」

「うむ、それで？」

校長の目が輝いている……校長、少し自重しろ。

仮にも生徒が停学になるかどうかの決闘デュエルだろうが。

少しでも構わん、心配そうな素振りを僅かにでも見せろ。

「不心得者を叩きのめすべく！ んゝ。パルメザンチーズ

伝説の決闘者デュエリストを呼んでありますーの！」

パルメザンチーズ……相変わらずクロノス教員の言葉は謎だ。

この口調はどうにかならないのだろうか？

「へやあ！」

「な、なんだ!？」

どこからか現れ、飛び出てきた中華服を来た2人の男性。

バック宙返り続け、なにやらやたら格好良く登場したのは……

オレンジの服に迷の文字を額に書いた男、緑の服に宮も文字を額に書いた男の2人。

こんなキャラ、居たっけ？

「我ら流浪の番人」

「迷宮兄弟」

で、本名は？

「うわあ、香港映画か？」

「もしかして、この人達が対戦相手？」

「(格好いいのか格好悪いのかわからない)」

だから、本名は？

「彼らはあの、デュエルキング決闘王武藤遊戯と決闘した事の有るとい  
デュエリストう

伝説の決闘者でスーのね」

そんな情報はどうでもいいから本名は？

デュエルキング「決闘王と!？」

「……聞いたことが有るわ

その無敵のコンビネーションでデュエルキング決闘王を苦しめたという、兄弟決闘者」

「そ、そんなのが相手なのかあ？」

うん、俺の興味はそんな事より本名でだな……

「お主らに怨みは無いが」

「故有って対戦する」

「我らを倒さねば」

「道は開けん」

「いぎ、勝負!」

呼吸が合うのはわかった、だから本名を教えろ。

「これは思い切った事をしましたね

本物だ本物だ……」

本名……よりも校長、あんたミーハー過ぎるだろ。

さつきも思ったが、もう少し自重という言葉覚えてくれ。

原作じゃ退学だろ？ その時もこんな反応だったのか？

「しかし校長、彼らくらイーにはこれくらイーの事をしませーんとね！

第一、他の生徒に示しがつきませーんの」

「おもしろい、やらせてみましょう」

「んおお？」

「第一、彼らはもうやる気だよ？」

校長の言葉にクロノス教員はこちらを向く。

主にやる気を表に出しているのは遊城、咲良の2名。

俺は無関心、前田と天上院は緊張、丸藤は逃げ腰。

「おもしれえ……あの決闘王デュエルキングと戦った伝説の決闘者デュエリストと戦えるなんて！」

「少しは歯ごたえがあると嬉しいけど……」

（堅守瑞貴を倒してくれないと困るし）

気のせいじゃなく、咲良の視線が若干こちらに向いているがな。

どうせ、俺を倒してくれないと困るとでも思っているんじゃないか？



「ま、いいでしょう」

それでは始めたいと思うノーね!

最初は誰からナーの? ベジタブルソース?

ベジタブルソースってなんだよ。

「もちろん俺が」

「俺からさせてもらう」

遊城の言葉を遮り、俺が立候補をする。

「ちよ、なんだよ、邪魔すんなよ」

「いつまでもこんな面倒な事に付き合っている気は無いんだ

さっさと終わらせて、早くのんびりと休みたいんだよ」

「ちよつとぐらいいいじゃねえか!」

「別に少しぐらい後でも構わんだらう?」

どうせ暇だろ、お前?

俺はしたい事がいくらでも有るんだ、譲れ」

デツキ作成とか、オークション販売とか、寝るとか。

色々と有るんだから、邪魔をされては困る。

「遊城君、私からも頼みたい」

私と堅守瑞貴に、先に決闘デュエルをさせて

いつまでも堅守瑞貴と組んでいるという状況は……」

視線を向けるな、嫌なら嫌と言え、鬱陶しい。

遠回しにされる方が傷付く時だって有るんだぞ？

俺はその程度では傷付くどころか、痒みも出て来ないが。

「でもよお……」

「まあまあ十代、別にいいじゃない」

「ちえ……」

天上院に諭され、渋々ながらも諦める遊城。

俺の時はアレだけ食い付いて、天上院が言えばさっさと収めるのか？

まあ、当人から言われれば反発するのも当然だがな。

「順番は決まったノーね？

始めますーよ？」

「はい」「……………どうぞ」

「ではでは両者位置について！」

俺と咲良、そして迷宮兄と迷宮弟は所定の位置に立つ。

あ、そうだ……

「1つ質問、いいか？」

「ぬ、なんだ？」

迷宮兄に質問をする。

「さっきの演出、必要だったのか？」

まさか高校生相手に、自分達は強いという威嚇の意味を込めた行動？

それともただ格好つけたかっただけ？」

クロノス教員の合図で盛り上がった会場が一気に冷める。

んー……こんな感じに会場を冷やすのも楽しいもんだ。

「……知ってどうする？」

「威嚇を込めたと言うなら浅知恵と馬鹿にしてやる

格好つけたかっただけと言うなら鼻で笑ってやる

何も考えていなかった言うなら情けない大人だと見下してやる」

「……………」

無言、どうやらどれかが正解だったらしい。

とりあえず、哀れみの目で見てもやろうと思った。

「堅守瑞貴、そろそろ始めない？」

「そうだな」

アツサリと引き、デツキを装着する。

溜め息を吐き、咲良もデツキをセツト。

俺を睨みながら、デツキをセツトする迷宮兄弟。

「ふう……タッグパートナーへの助言はダメなノーね

パートナーのフィールドも、自分のフィールドとして扱いますの

いいでスーね？ 各チーム、共通ライフ8000ポイントなノーね！」

「決闘デュエル！」「決闘デュエル！」

ちなみにルールの補足。

タッグルールとは言うが、バトルロワイヤルルールと言っても間違いではない。

全プレイヤーは最初のターンは攻撃できず、2回目の自分のターンから攻撃が可能となる。

ライフが共通な点、場のカードは自分のカードとして扱うが自分の場とは言えないのである。

例えば俺の場にモンスターが存在し、咲良の場にモンスターが存在しない場合。

相手は咲良に直接攻撃ができ、俺の場のモンスターを壁に使用する事はできない。

同じように攻撃する場合も自分のモンスターのみであり、パートナーのモンスターでは攻撃できない

ただし、咲良は俺の場のモンスターの効果を使用する事が可能であり、逆も然り。そして効果などを発動するカードは持ち主が発動し、タッグパートナーが好き勝手に発動する事はできない。

しかしアレだな、何故アニメはこんなに面倒なルールなのかね？

これで咲良が「超魔神イド」を使っていた場合……これは面倒な事になりそうだ。

瑞貴と結美のタッグ決闘<sup>デュエル</sup>、どんなデツキを使うんだ？

女子寮の時は瑞貴はデツキにモンスターを戻すデツキ、結美は墓地から復活してくるモンスターが多かったデツキ。

タイタンの時は瑞貴は悪魔族、結美は天使族と悪魔族が混合したゼラが中心のデツキ。

今回はどんなデツキを使うのか、楽しみだ！

「俺の先攻、ドロー」

イービル・ソーンを召喚、そして効果を発動

このモンスターを生贄にし、相手に300ポイントのダメージを与える」

地面からピンクの垂れ下がった花を咲かせ、紫の針だらけの実の作っている植物のモンスター

んで、効果が発動された時に実が爆発して、針の攻撃が迷宮兄弟に300ポイントのダメージ。

これだけの為に召喚したのか？

「更にデッキからイービル・ソーンを2体まで攻撃表示で特殊召喚する

デッキより、2体のイービル・ソーンを特殊召喚

ただし、この効果で特殊召喚されたイービル・ソーンは効果を発動できない」

同じような花が2つ咲いたけど、紫の実の針が無い……

どうして無くなったんだ？

「永続魔法、世界樹を発動する」

瑞貴の後ろに巨大な大木が……なんかすげえ。

「魔法カード、フレグランス・ストームを発動

場に存在する植物族モンスターを1体破壊し、デッキからカードを1枚ドロウする

俺が破壊するカードはイービル・ソーン、イービル・ソーンを破壊

そしてドロウしたカードが植物族モンスターだった場合

お互いにドロウしたカードを公開し、更にもう1枚ドロウする

俺がドロウしたカードはキラー・トマト、植物族モンスターだ

よって俺はもう1枚、デッキからカードをドロウする」

キラー・トマト……どんな効果だっけ？

やっべ、ど忘れしちまった！

「そして世界樹の効果が発動する

場に存在する植物族モンスターが破壊された時

このカードにフラワーカウンターを1つ乗せる」

世界樹に花が1凛の花が開く。

花が咲いて、どんな意味が有るんだ？

「永続魔法、超栄養太陽を発動

自分の場のLV2以下の植物族モンスターを生贄にして発動する

生贄にしたモンスターのLV+3以下のLVを持つモンスターをデッキ、または手札

から特殊召喚する

ただし、このカードが場から離れた時、特殊召喚されたモンスターは破壊され

特殊召喚されたモンスターが場から離れた時、このカードを破壊する

俺はLV1のイービル・ソーンを生贄に、デッキからLV3のローンファイア・ブロッ

サムを特殊召喚する」

火花を放っている植物のはずのモンスター……炎属性なのか？

というか、さつきからカードが出まくってるんだけど、大丈夫なのか？

「ローンファイア・ブロッサムの効果を発動

自分の場の植物族モンスターを1体、生贄にする

デッキから植物族モンスター1体を特殊召喚する

ただし、この効果は1ターンに1度しか発動できない

この効果により、ローンファイア・ブロッサム自身を生贄にする

そしてローンファイア・ブロッサムが場から離れた事で超栄養太陽は破壊される

ローンファイア・ブロッサムの効果により、デッキからフェニキシアン・シードを特殊召喚する」

種みたくない見た目だけど、真ん中でつけえ目が出てて、上から赤い花が萎れてる？

さっきのローンファイア・ブロッサムって、効果を聞いてたらLVの制限無いんだよ

な？

なんで攻撃力が800しか無いモンスターを出したんだ？

それならもつと強いモンスターがデッキに入っていると思うんだが……

「フェニキシアン・シードの効果を発動

このカードを場から墓地へ送る事で、手札からフェニキシアン・クラスター・アマリ

リスを特殊召喚」

真つ赤な花を持った攻撃力2200の最上級モンスターか。



いきなりこんなモンスターを出すなんてすげえ……

「カードを1枚伏せ、ターンエンドだ」

「私のターン、ドロー！」

暴風小僧を準備表示で召喚し、カードを1枚伏せてターンエンドだ」

人型モンスターの、子供？

暴風小僧だし、やっぱ子供なのかな？

「私のターン、ドロー」

魔法カード、サンダー・クラッシュを発動

自分の場のモンスターを全て破壊し、相手に破壊したモンスターの数×300ポイン

トのダメージを与える

私が破壊するのはフェニキシアン・クラスター・アマリス」

「血迷ったか、味方のモンスターを破壊するとはな

300程度のダメージなどくれてやるわ」

何やってんだよ！ 攻撃力2200の最上級モンスターを破壊するだなんて！

そんな事してなんの意味が有るんだよ！

「フェニキシアン・クラスター・アマリスの効果発動

このモンスターが破壊された時、相手に800ポイントのダメージを与える」

「なんだと!？」

雷でフェニキシアン・クラスター・アマリリスが破壊されたんだけど、爆発したあ!?  
そして炎が出てきて迷宮兄弟を燃やし、更にサンダー・クラツシュの雷が襲いかかった。

「自分の場のモンスターが効果で破壊された時、このモンスターは特殊召喚される

フェニキシアン・クラスター・アマリリスのダメージ効果にチェーンし、機皇帝ワイゼル∞を特殊召喚」

白い体の機械族モンスター……って、攻撃力が2500でLV1だって!？」

なんだそのモンスターは! 絶対反則だろ!

「攻撃力2500のLV1モンスターだど!？」

「そして植物族モンスターが破壊された事により、世界樹にフラワーカウンターを1つ乗せる」

また世界樹に花が……

「機皇帝ワイゼル∞を生贄に、超魔神イドを召喚

カードを2枚伏せて、ターンエンド」

青い体の四足歩行のモンスター……って、攻撃力が低くないか？

さっきの機皇帝ってモンスターの方が攻撃力が高いぞ!

どうして態々攻撃力の低いモンスターを？

「態々攻撃力の低いモンスターを召喚するとはな！ 私のターン、ドロー！」

兄者、モンスターを借りてもいいかな？」

「ああ、構わんとも」

「ありがとう、私は暴風小僧を生贄に捧げる！」

暴風小僧は風属性モンスターを生贄にする場合、2体分の生贄となるのだ！

出でよ、風魔神―ヒューガ！」

風魔神―ヒューガだつて!?

アレはこの前、瑞貴が使ってきたモンスターじゃないか！

「更に魔法カード、死者蘇生を発動！ 墓地に存在するモンスターを1体、蘇生させる！」

私が蘇生させるモンスターは暴風小僧を特殊召喚！

続いて魔法カード、生け贄人形ドールを発動！

自分の場のモンスター1体を生贄に、通常召喚可能なLV7のモンスターを手札から

特殊召喚する

私は暴風小僧を生贄に、水魔神―スーガを特殊召喚！」

おお、水魔神―スーガも出てきたのか！

これはすげえ、あいつら強ええ！

「兄者、モンスターを好き勝手しまつてすまなかつた」

「なあに、お前の為なら犠牲にもなろう」

「いやいや、それでは私の気が済まない」

魔法カード、闇の指名者を発動！

このカードは、相手のデッキのモンスターの一枚指名するのだ

そしてそのカードが相手のデッキに入っていた場合、そのカードを手札に加える！

私が指名するカードは、雷魔神―サンガだ！」

迷宮兄に指を差し、効果対象のプレイヤーを選ぶ。

タッグであんなデッキを使つてるんだ、当然……

「ふふふ、ありがとう弟よ」

当然、私のデッキにサンガのカードは入っている」

迷宮兄の手札に雷魔神―サンガのカードが……

つて事はもう出てくるのか？ ゲート・ガーディアンが！

瑞貴でもなかなか出せなかつた、あのモンスターが！

「迷宮兄弟……タッグとしてのコンビネーションは最高ね」

「それに比べてあの2人は難しそうなんだな」

「デッキ、あんまり合わせてないのかな？」

「だけど何か考えが有るはずだぜ」

お前なら勝てるよな？

瑞貴、結美！

「私のターンはこれで終了だ」

「ふぁ……あ、茶番終わった？」

「……………」

ちや、茶番って酷くないか？

「そんな掛け声なんてどうでもいいっての……」

寧ろその掛け声、お前らの手札の確認をし合っているとかじゃないだろうな？

あれだけ私語を言い合っていたらそれを疑いたくなるんだが？」

「失敬な！」

「我らがそのような卑怯な事を」

「すると思うのか！」

「思う」

「……………」

ば、バツサリと切り落としやがった。

「まあいい、お前らがどんな手段を使おうとも関係無い。」

俺は俺のしたいようにするだけだ

俺のターン、ドロロー……まったく、俺の邪魔ばかりしやがって

世界樹の2つ目の効果を発動する

フラワーカウンターを2つ取り除き、場に存在するカードを1枚破壊する

俺が選択するカードは……超魔神イドだ」

「ふはははははは！

お前達、チームワークがバラバラだな」

「よもや、味方のモンスターをまたも破壊するとは」

「愚か者達め、貴様らなど我ら兄弟の力で粉碎してくれる！」

「迷宮兄弟の言う通りよ

あの2人は何を考えているの？」

「味方のモンスターを破壊しまくるだなんて

まるで1対1対2なんだな」

明日香や隼人の言う通りだ。

どうしてあんな事を？

「……………」

だけど、結美が動揺した感じは全く無い。

どうしてあんなに平気そうな顔をしてるんだ？

「キラー・トマトを召喚

そういえば迷宮兄の場にはモンスターが存在していなかったな……」

だけど攻撃するなら超魔神イドの方が攻撃力が高いよな？

なんで態々破壊して、キラー・トマトなんて召喚したんだ？

「バトルフェイズ

キラー・トマトで風魔神―ヒューガに攻撃」

は？

「し、しま……なんだと？」

「ヒューガに攻撃？

お前達はどうしようも無いほど愚か者らしいな！

ヒューガで反撃！ 魔風波！」

ヒューガの風の弾でキラー・トマトは簡単に破壊されちゃった……

攻撃力差は1000、瑞貴に1000ポイントのダメージか。

「……キラー・トマトの効果発動

このモンスターが戦闘で破壊され、墓地へ送られた時

デッキから闇属性・攻撃力1500以下のモンスターを1体、攻撃表示で特殊召喚す

る

俺はデツキからキラー・トマトを特殊召喚」

「はははははは！」

まさか再び自滅しようとしても言うのではないだろうな？」

「世界樹にフラワーカウンターを一つ乗せる

キラー・トマト、風魔神―ヒューガに攻撃」

「はは……は？」

また破壊されるキラー・トマト……何を考えてるんだ!？」

「キラー・トマトを特殊召喚、世界樹にフラワーカウンターを一つ乗せる

キラー・トマトで風魔神―ヒューガに攻撃」

「貴様、何を考えている!？」

「キラー・トマトの効果でプチトマボーを特殊召喚

フラワーカウンターを一つ乗せて、プチトマボーで風魔神―ヒューガに攻撃」

「な、なんだんだ貴様はあ!？」

迷宮兄弟の言葉を見殺し、プチトマトに顔が付いて服を着たモンスターが呆気なく破壊される。

プチトマボーの攻撃力は700だから1400のダメージ。



このターンで合計、4400もの自爆をして残りライフが……3600!?

「プチトマボーの効果を発動

このモンスターが戦闘で破壊され、墓地へ送られた時

デッキからトマボーと名の付くモンスターを2体まで特殊召喚できる

俺はデッキからプチトマボーを2体、守備表示で特殊召喚する

そして世界樹にフラワーカウンターを1つ乗せる」

な、なんか滅茶苦茶大量にモンスターが墓地へ送られたぞ？

ライフもすつげえ減つたし、何がしたいんだよ！

「世界樹の3つ目の効果を発動

フラワーカウンターを3つ取り除き、自分の墓地の植物族モンスターを1体、特殊召

喚する

俺はローンファイア・ブロッサムを守備表示で特殊召喚

ローンファイア・ブロッサムの効果を発動し、プチトマボー1体を生贄にする

デッキから植物族モンスター、ボタニティ・ガールを守備表示で特殊召喚」

頭つつうか、髪が花でできた女のモンスター

な、なんかいっばい出てきたぞ？ どうなってるんだ？

「魔法カード、フレグランズ・ストームを発動

効果は先ほど説明した通り、ローンファイア・ブロッサムを破壊してカードをドロドローしたカードは植物族モンスター、フェニキアン・クラスター・アマリリスよつて更にもう1枚ドロロー、そして世界樹にフラワーカウンターを1つ乗せる」

さっきの最上級モンスターか。

「魔法カード、トレード・インを発動

手札のLV8のモンスターを捨て、デッキからカードを2枚ドロローする

俺はフェニキアン・クラスター・アマリリスを捨てて、2枚ドロロー

世界樹の2つ目の効果を発動

フラワーカウンターを2つ取り除き、場のカードを1枚破壊する

ボタニティ・ガールを破壊し、ボタニティ・ガールの効果を発動

このモンスターが場から墓地へ送られた時

デッキから守備力1000以下のモンスターを1枚、手札に加える

俺が手札に加えるモンスターは守備力0のフェニキアン・クラスター・アマリリス

そしてもう1枚、魔法カード、トレード・インを発動

手札のフェニキアン・クラスター・アマリリスを捨て、デッキからカードを2枚ド

ロー」

す、すつげえドローしてるぞ、瑞貴の奴。

しかも場と手札がめまぐるしく変化してて訳が解らなくなってきた！

「魔法カード、強欲な壺を発動し、デッキから更に2枚ドロー

……やつと来たか、フィールド魔法、古の森を発動する

このカードの発動時、場の守備表示モンスターを全て攻撃表示にする

プチトマボーを守備表示から攻撃表示へ変更」

辺りが綺麗な森に変化した……どんな効果を持ったカードなんだ？

「俺はカードを1枚伏せ、エンドフェイズだ」

アレだけ好き勝手して、それでも手札が3枚も有るって凄いな。

だけどフラワーカウンターは0個になってるぞ？

なんであの効果でスーガとかヒューガを破壊しなかったんだ？

「ふ、ふふふ、なにを狙っているかと思えばフィールド魔法を発動しただけか！」

「しかも場に居るモンスターは1体の弱小モンスターのみ！」

まったく、そんな事をしていったい何になるのやら」

迷宮兄弟が瑞貴を馬鹿にしてるけど、嫌な予感がする。

どう考えても瑞貴が原因なんだけど。

「エンドフェイズだと、言っただろう？ まだターンは終了していない

墓地のフェニキシアン・クラスター・アマリリスの効果を発動

自分ターンのエンドフェイズ時、墓地の植物族モンスターを1体ゲームから除外する  
そして、このモンスターを守備表示で特殊召喚できる効果を持っている」

「ふん、だからどうした！」

攻撃力が2200有ろうとも、守備表示で特殊召喚される上に守備力0のモンスターでは怖く無いわ！」

「我らのモンスターの、壁にもならんな！」

「忘れたのか？」

フェニキシアン・クラスター・アマリリスを破壊すると、800ポイントのダメージを受けるんだぞ？」

「高が800！」

「それがどうした！」

「はあ……墓地のイービル・ソーンを除外し、フェニキシアン・クラスター・アマリリスを蘇生

更にもう1体、イービル・ソーンを除外してフェニキシアン・クラスター・アマリリスを蘇生

最後にもう1体、イービル・ソーンを除外してフェニキシアン・クラスター・アマリ

リスを蘇生

高が800だろうと、3体破壊すれば2400のダメージだぞ？」

まさか除外する為のモンスターを稼ぐ為にあんなにモンスターを墓地へ？

瑞貴の墓地、あと何体植物族モンスターが居るんだ？

「なるほど、確かに考えているようだな」

「しかし、その程度では我らには勝てぬ！

私のターン、ドロー！」

「この瞬間、超魔神イドの効果が発動

このモンスターが効果によって破壊された次のターンのスタンバイフェイズ時

墓地に存在するこのモンスターは復活する、戻って来なさい、超魔神イド」

結美の言葉で復活してきた超魔神イド……守備表示なんだな

効果で破壊されたら復活できるモンスターなのか。

「そしてこの瞬間にもう一つの効果が発動

自分の場の超魔神イド以外のモンスターを全て破壊する」

「また自分のモンスターを破壊するカードだと!？」

「しまった、それではフェニキシアン・クラスター・アマリスの効果が!」

「罠カード発動、デストラクト・ポーシオン

自分の場のモンスターを1体破壊し、その攻撃力分のライフを回復する  
破壊するモンスターはフェニキシアン・クラスター・アマリリス

その攻撃力分、2200のライフを回復する」

瑞貴が罫カードを発動。

フェニキシアン・クラスター・アマリリスが破壊され、ライフが合計2200回復した！

これでライフは5600！

「フェニキシアン・クラスター・アマリリスの効果が発動

このモンスターが破壊された事により、相手に800ポイントのダメージを与える」

「ぬうううう」

合計で2200のダメージ、迷宮兄弟の残りライフは5800か。

まだそんなに減ってないな。

「植物族モンスターが破壊された事により、世界樹にフラワーカウンターを1つ乗せる」  
「そして超魔神イドの効果により

残りのフェニキシアン・クラスター・アマリリス2体とプチマボーが破壊される」

「更に2回、フェニキシアン・クラスター・アマリリスの効果が発動する

1600ポイントのダメージを受けてもらおうかな？」

「おのれえー！」

「そして、世界樹にフラワーカウンターを1つ乗せる」

これで迷宮兄弟のライフは残り4200まで減った。

今、どっちのターンだっけ？

「もう許さんぞ！ 地雷蜘蛛を召喚！」

茶色い巨大な蜘蛛のモンスター……って攻撃力2200!? LV4の攻撃力じゃな

いぞー！

あ、でも結美がさつきLV1の攻撃力2500のモンスターを使ったか。

そう考えると別に普通な気がしてきたな……

「更に魔法カード、生け贄人形ドールを発動

弟が先ほど効果を説明したな？ 私は地雷蜘蛛を生贄に、雷魔神―サンガを特殊召喚

！

雷魔神―サンガ……3体目が揃った！

「今見せてやろう……」

「究極のモンスターを！」

究極のモンスターって、やっぱりあの！

「雷魔神―サンガ、水魔神―スーガ、風魔神―ヒューガが3体場に揃った時

この3体を生贄とし、ゲート・ガーディアンを特殊召喚する！」  
「わー、すごーいすごーい

攻撃力3750だつてさー、かてるはずないよー」  
み、瑞貴がすつげえ棒読みで……

何が、したいんだ？

「先ほどから我らを馬鹿にしおつて……」

「その罪、万死に値する！」

「で？ 俺は自分の言いたい事を言っているだけなんだがねえ？

それで万死だなんて言うぐらいなら、俺を倒してから言うんだな」

挑発挑発、また挑発。

そんなに怒らせると何をするかわかんないぞ！

「装備魔法、メテオ・ストライクを発動！

ゲート・ガーディアンにこのカードを装備する！

このカードを装備したモンスターが守備表示モンスターを攻撃した時

その守備力を超えていれば、その数値だけダメージを与える！」

げっ！ 超魔神イドの守備力はたったの800！

これじゃあ大ダメージじゃねえか！



「ゲート・ガーディアンで、超魔神イドに攻撃！」

魔神衝撃波！」

「畏カード、デストラクト・ポジションを発動

効果はさつき堅守瑞貴が説明した通り、超魔神イドを破壊してライフを2200回復する」

ライフが7800まで回復したけど、壁モンスターが居ないぞ！

それだと直接攻撃を受けちゃう！」

「我らの前に無防備に立つとは愚かな！」

では望み通り、ゲート・ガーディアンで直接攻撃！」

「……………」

2人共、平気そうな顔だな。

3750のダメージで、残りライフが4050まで減ったんだぞ？

もう少し何か、何か無いのか？

「貴様らのモンスターなど敵では無いわ！」

「我らの無敵のコンビネーション、破れるものなら破ってみせよ！」

「では遠慮無く……古の森の効果発動

このカードが存在している限り、攻撃をしたモンスターはバトルフェイズ終了時に破

壊される

ゲート・ガーディアンは破壊されるな、残念」

「な、なんだとお!?!」

「古から存在する森は、静寂を好んで争いを嫌うんだろうな

古の森の効果により、ゲート・ガーディアンは破壊」

「ば、ばかな!」

「我らのゲート・ガーディアンが!」

あんな手段で、あのゲート・ガーディアンを簡単に破壊しちゃった。

俺と翔が苦戦した、あのモンスター達をこんなに簡単に……

実は俺達が思っているより、そんなに強くないモンスターなのか?

「おのれ……ターンエンドだ!」

「私のターン、ドロー」

好き勝手するのはお互い様、私も好きにする

墓地の超魔神イドの効果を発動、効果によって破壊された次のスタンバイフェイズ時

超魔神イドを再び蘇生させる」

うへえ……何回でも復活するモンスターってすっげえ厄介だな。

効果で破壊しないと復活しないけど、自分からあんなだけ破壊してたらなあ……

「モンスターは存在しないし、超魔神イドで直接攻撃」

「ぬうー！」

超魔神イドの体当たり攻撃で、迷宮兄は2200の大ダメージを受ける。

残りライフは2000……すげえ、この2人はすげえよ！

「古の森の効果により、超魔神イドは戦闘をした為、バトルフェイズ終了時に破壊される」

超魔神イドが破壊されて場から居なくなつた。

これでまた2人の場に、モンスターは存在しなくなつた！

「だけど効果で破壊された事により」

次のターン、また超魔神イドは復活する」

「お、おのれえー！」

「ならばその魔物！」

「我らが次のターンに！」

「倒してみせよう！」

ゲート・ガーディアンを倒されてもそんな事が言えるだなんて……

もしかして、ゲート・ガーディアンを超える切り札が有るのか!?

「……………」

瑞貴と結美はお互いに顔を合わせて？

「……………」

「ん？」

「くつくくくくくくくく……………」

「ぷふつ、わ、笑つちやダメ、笑つちやダメ…………くつ、無理！

ぷつあはははははははははは！」

瑞貴と結美が…………笑い出したあ!？」

「くくつ次のターンだよ？」

「ふふふ…………次のターンは来るけど、何もできないのにな？」

どういう意味だ？

「私はこのまま何もせずにエンドフェイズ

墓地のプチトマボー3体を除外して、フェニキシアン・クラスター・アマリリスを3

体蘇生」

タッグパートナーの墓地のモンスターを蘇生？

だけど、それで何もできないって？

「そんなモンスター、倒さなければいいだけの話！

私のターン、ドロー！」

「この瞬間、超魔神イドの効果が発動

スタンバイフェイズ時に蘇生され、自分の場のモンスターを全て破壊する」

「し、しまったあ！」

「ごめんなさいね♪」

超魔神イドの効果により、フェニキシアン・クラスター・アマリリスが全て破壊される。

「フェニキシアン・クラスター・アマリリスの効果、発動だ

このカードが破壊された時、相手に800ポイントのダメージを与える

3体の効果が発動し、合計ダメージは……2400だな」

フェニキシアン・クラスター・アマリリスの炎が迷宮兄弟へ向かう。

このダメージが通れば、迷宮兄弟のライフは……

「ば、ばかなあああああああああ!!!」

炎に巻き込まれ、迷宮兄弟のライフは0になった。

これで決まりだ、瑞貴と結美の勝ちだ！

「よっしやあ！」

瑞貴達の勝ちだあ！」

「凄い、あんなにアツサリ勝っちゃった……」

「さすがね、あの2人は強いわ」

「俺も負けないように頑張らないとなあ」

伝説の決闘者デユエリストでも、勝てるってわかったんだ！

怖いもなんて無いぜ！ 絶対に勝つぞ！

つとお、なんかあの2人、睨み合ってないか？

「……………」【コアキメイル】はどうした？」

「コアキメイルならデツキに入っているぞ？

コアキメイル・グラヴィローズがな」

「それは詐欺！」

「そういうお前こそ、あの蘇生デツキはどうしたんだ？

何故お前は【超魔神イド】を使っている？ あのデツキには入っていなかったはずだ」

「ぐっ、それは……超魔神イドも蘇生モンスター」

だから蘇生デツキと言っても間違いではない」

言い合いになってる？

どういう事なんだ？

「まさかあの2人……」

「お互いのデツキ確認、デツキ合わせをしていないの？」

「それどころか、使用デツキで嘘を言ってたみたい」

「だけど勝つんだな、あの2人」

呆れるというかなんというか

どうしてあの2人はあんなに仲が悪いんだ？

「伏せカードのヘイト・バスターを使わなかったのは何故だ？

デストラクト・ポーションをフェニキシアン・クラスター・アマリリスに使い  
ゲート・ガーディアンの攻撃時、ヘイト・バスターを使ってもよかったはずだ  
というか、そうすれば俺の自爆特攻以外の戦闘ダメージは0だった」

「そう言う自分こそ、狂植物の氾濫を伏せておいてよく言う

プルトマボー2体を特殊召喚した時には既に10体もの植物族が墓地にいた

1体につき300ポイントの攻撃力を上げるのだから、三魔神なんて余裕で倒せたはず」

「三魔神の効果を忘れたのか、お前は

1度だけとはいえ、相手モンスターからのダメージを0にする効果だろうが  
攻撃をしても倒す事はできず、戦闘ダメージも無いのだから無駄な動きだ」

「効果を使い切らせてもよかったと思うけど？」

「そういえば何枚もドローしていたけど、残りの手札は？」

「次のターンにでも雷魔神―サンガが出てくると予想していたからな

ゲート・ガーディアンを特殊召喚される可能性が高かった

そう考えると無駄になる可能性の方が高い

ちなみに手札は薔薇の刻印と種子弾丸、ポリノシスだ」

「確かにそれなら無駄な可能性も有ったか……

なら薔薇の刻印でさっさとヒューガやスーガを奪えばよかったのでは？

種子弾丸を発動しておけばキラール・トマトをリクルートしている間に全弾貯まっていたはず

そうすれば2500のダメージを与えられたし、もつと早く終わっていた

ポリノシスを伏せて、超魔神イドの蘇生だつて無効にできたはず」

「奪っていた場合、場が埋まって超魔神イドが蘇生できないだろう？」

まあ、その場合はフェニキシアン・クラスター・アマリリスの蘇生数を減らせばいいだけだな

種子弾丸を使つてもつまらんだろう？ それに使っていたらデストラクト・ポーショ

ンを伏せられなかった

ポリノシスで超魔神イドの蘇生を阻害しても意味は無い、ヘイト・バスターが伏せられていたしな」



……ダメだ、あの2人が何を言ってるのか全くわかんねえ。

「貴方達、あの2人の会話の意味、わかる？」

「全くなんだな」

「僕も……」

「凄いつて事だけはわかる」

あの2人、どれだけ勉強したんだ？

結美の授業態度って確か、真面目だけど凄くやる気無さそうにしてるはずじゃなかったっけ？

瑞貴も見た目は真面目だけど、授業なんて殆ど聞いてないのに……

あ、でも問題の解答を求められたら2人共簡単に答えてるな。

本当に勉強してるのか？ 全くわからないな。

「あ、校長先生

これで問題無いですよね？」

「はい、君達の停学の件は取り消しましょう」

「もう帰ってもいいですか？」

「ここに居る意味も無いですし」

「おや、他の4人の決闘デュエルは見ていかないのですか？」

「見るだけ無駄ですから」

結果は決まっていますしね」

それだけ言つて瑞貴は出て行つた。

結果は決まっているか……信用してくれてんのかな？

「(どうせメインキャラが停学になんてなるはず無いしな

しかし負けてくれば学園が静かになつて助かる

そもそも、自分さえどうにかなれば気にする事でも無い)」

「咲良君、君はどうするのかね？」

「見ていきます」

どうなるか、気になりますし」

結美は残るみたいだ、情けない姿は見せらんねえな！

アレだけ簡単に勝つたんだ、俺も続いてやるぜ！

「では、次は誰かな？」

「はいはいはい！」

俺、俺が出る！」

「アニキ……」

「頑張れ遊城君、あの人達そんなに強くないから勝てる

(……はあ、やっちゃった)

どうして決闘デュエルが始まると負けようなんて気持ちが無くなる？

変なプレイングはしておいたけど、それでも負ける気にはならなかった

負けるつもりだったのに……勝ったら意味が無い

やっぱり邪魔をするのではなくて、自分で倒して勝つぐらいの気持ちじゃないとダメ

?

困った、良い機会を逃すなんて失敗、また次の機会が有れば頑張ろう」

「おう！」

俺は決闘デュエル場に立ち、翔も着いてくる。

悔しそうな顔をしていた迷宮兄弟も、気持ちを入れ替えて本気のだ。

もう負けはしない……楽しくなってきた、全力で戦おうぜ！

「ルールはさっきと同じなノーね

では、始めルーの！」

「へへ、勝たせてもらおうぜ」

「もう油断はせん！」

「全力で向かわせてもらおう！」

「僕だって、僕だって……僕だって！」

「  
「  
「  
決闘<sup>デュエル</sup>!  
「  
「  
「

## 10話【SAL猿去る】

「……おい咲良」

「なに？」

「何故、俺はお前に引つ張られているんだ？」

「手伝いなさい」

「別にどうなろうが構わないだろうが、万丈目とかいう奴が行方不明なんだろう？」

丸藤が騒いでいたのは教室に居た誰もが知ってる、お前はアニメの展開を知ってるんだらう？

なら、その万丈目がどうなるかも知っているだろうが、何故探す？」

詳しい事は知らないが、何故か万丈目……確かオベリスクブルーのルーキーだったか？

よくわからんが、咲良が探そうと言い出すぐらいだ、重要人物なのだろう。

しかし俺が探す理由は無、そもそも俺を関わらせたくなかったんじゃなかったのか？

「探す意味は無い事は知ってる、彼がどこに行ったのかも知ってる」

「ただ、今回のメインは全く別の内容」

「つまり、万丈目を探す事を口実に何かをしようとも？

……というかい加減に腕を放せ、自分で歩く」

「却下、放したら私を無視して帰ってしまいそう」

「読まれていたか、まったく……俺に何をさせるつもりだ？

俺が動くと困るんじゃないのか？

関係も無く、興味も無い話に無駄足を踏ませるな。

「……堅守瑞貴、動物は好き？」

「あ？ 動物？ 好きだぞ、人間よりも気楽に関われるからな

下手な奴よりもずっと好きだ、というか飼いたい」

妹の玲が動物アレルギーじゃなければ飼っていたのだがな。

動物好きの玲には辛い事実だ……仕方無い事だから諦めるが。

「そこまでは知らなかったけど、動物が好きな事は知ってる

動物実験、どう思う？」

「研究者は死ねばいいのと思うね

人体実験などは被験者が了承し、実験を受ける事が普通だ

しかし動物に拒否権など存在しない、人語を話せないから当然だ

つまり何が言いたいかと言えば……研究者は死ねばいいのに」

もつとも、その動物実験が無ければ医療などの発展が遅くなっていた。

全てが悪いとは言えないが、それも結局は人間の都合だ。

言い出せばなら病院を頼るなど言われてしまふし、その辺りは何も言えん。なんとも難しい所だが、俺にその辺りの手出しをできるとは思わない。

動物実験は大反対だが、止める権限が無いのでは発言に意味など無いのだ。

「(最初と最後って同じじゃ?)」

簡単に言うと、準……つまり万丈目君が学園から出て行った

彼を探す為、十代達は森に入っていく

偶然その森にはこの島に存在する研究所から脱走した動物が逃げ出していた

ここまで聞けば、大体予想できる？」

つまり、その動物を逃がす為の手伝いをしろって事か？

「アニメではどうなった？」

「その動物は決闘デュエルをする訓練を受けていた

十代とその動物が決闘デュエルをし、研究者達の手から逃がした

細かい所までは覚えていないけど、大体こんな感じ」

「動物が決闘デュエルって……しかし、俺はそれに必要なのか？」

今の話聞いてる限り、遊城だけで事足りるだろう?」

「研究者は麻醉銃を持っていたし、強引な手段を使っていたはず

貴方ならそれぐらいどうにかできる」

「銃を持った相手に素手で向かえと? アホか貴様

それに俺の腕力とか、その辺りを知らないのか?

俺は力なんて無いぞ、具体的に言うとな貧弱だし運動不足だ」

運動が嫌いなだけだな。

いいんだよ、この学園ではカードができれば他の事なんて多少できなくても。

体育なんて無くなってしまえばいいのに……全て勉強だけでいいだろうが。

「大丈夫、なんとかなる」

「なるか!」

この女は俺をなんだと思ってるんだ!

困った時は堅守瑞貴とか思っているんじゃないだろうな?

確かにこいつが相談できる相手は俺ぐらいしか居ないかもしれないが

だからって、お前は俺を追い出そうとしているんじゃないのか?

「……銃ぐらい持っているでしょ?」

「持っているはずが無いだろうが!



持っていたら銃刀法違反で捕まるに決まっているだろ！

お前は本当に俺をなんだと思っているんだ！」

「持っていないなんて嘘言わなくてもいい

私は知っているから」

「嘘じゃなくて本当に持っていない！」

本当にこいつは俺を知っているのか？

しかし銃か……：そういえば銃って許可証を持っていたら携帯できるんだったな。

万が一危険な事が起こった時の為、どうにかして許可証と銃を手に入れておくべきか

？

闇のゲームがこの時代にも存在しているという事は咲良が言っていたからな。

「言いたくないのはわかったから、今はそれはいい

とにかく、その動物を助ける為に手を貸してほしい」

「断る、先ほども言ったが遊城だけでどうにかなるんだ

俺が手を貸す理由は無い、お前だけでどうにかしろ」

「できる自信が無いから、こうやって頼んでいる

でなければ貴方なんかは手伝いをお願いしない」

「これがお願いという態度か貴様

強引に連れ出しているだけだろう、自分の行動を顧みてから言ってみる  
 そもそも頼んでもないだろ、無理矢理引っ張っているのだから」

「なら改めて言う」

その実験動物を助ける為に手を貸してほしい、お願い」

「断る」

「なら無理矢理にでも……」

「既に無理矢理だろうがお前は！」

いい加減にしてくれないかね、こいつは！

『出てきなさいーい！』

決闘デュエルに負けたぐらいで雲隠れなんて、情けないわよー！！』

……なんだ、今の叫び声は？

「今の声って確か……」

「天上院だな、何を言っているんだ？ あいつは」

決闘デュエルに負けたぐらいで雲隠れ？

で、今この状況であんな大声を上げているという事は……

「咲良、もしかして天上院も万丈目を探しているのか？」

「そう

十代、翔、明日香、それと明日香と一緒に居たジユンコとももえの5人  
その5人で準を探している」

アニメキャラ達の関係がイマイチわからん。

そういうえば前田はどうしたんだ？ 遊城と仲が良いんじゃないのか？

『きやああああああああああああああああああああああああああああああ!!』

「今の声は?!」

「……何故悲鳴?」

『助けてええええええええええええええええええええええ!!』

女生徒の悲鳴だな、誰の声だったか？

聞いたことは有るのだが、思い出せん。

「多分、ジユンコの声」

「ジユンコ……ああ、枕田か

で、何故悲鳴が?」

『放しなさいよおおおおおおお!!』

「誘拐でもされたのか? いや、だとすれば手口が雑過ぎる

口を塞ぎ、声を抑えて誰にも気付かれないようにするのは基本だ」

「誘拐、した事有るの?」

「したじやないか、お前を」

「(……そういえばそうだった)」

さすがに冗談で済む程度の内容だったがな。

……いや、それでも一応誘拐は誘拐か。

「悪かったな、あの時は少々欲に走り過ぎた

もうしない、反省しておく」

「え、あ……もういい

結果的に十代達への良い刺激になったはずだし

ロマンデツキを回せたのは楽しかった」

さすがにもうしないようにしておこう、我ながら暴走し過ぎた。

これからはもっと別の手段で捕まえるとするか。

理由付けなんていくらでもできる、今後は言葉で操ろう。

「じゃなくて、今はそれどころじゃない！

ジユンコを助けないと！」

「いや、遊城が助けるんじゃないのか？

先ほどまでの会話の流れだと、その動物が誘拐したのだと思うが……

まあ、誘拐したと決まったわけじゃないがな」

「黙って走る！」

何故俺までこんな騒ぎに……願わくば、走った先で楽しみが有る事を祈る。

でなければ骨折り損のくたびれ儲けに、授業のサボりだ。

既にサボりの状態なのだが、それはもう諦める。

せめて楽しまないと損だし、精々楽しそうなハプニングでも起こってくれないかねえ

？

………

………

………

声のした方へと向かうと、崖の近くに来た……来てしまった！

これは困った、とてもとても、それはもう心から逃げ出したい。

そして見てみると、崖に生えている1本の傾いた木に乗せられている枕田。

枕田を支えているのは機械を体中に付けている猿？ 何故猿？

いや、確かに決闘デュエルができそうな動物は何かと問われれば猿ぐらいしか浮かばないが

………

だからといって……しかも決闘盤デュエルディスクを付けている、色々な意味でツツコミ所しか無い

ぞ。

「あ、咲良！ それに堅守瑞貴！

ここ凄く怖いのに！ た、助けてえー！」

と、言われても困る。

俺は高所恐怖症、崖から少し離れているこの場所でも足が震えてくるのに

崖の端に生えている木に乗せられている枕田を助ける？

そ、それは、ちよつと……む、無理ではないだろうか？

というか怖すぎてそこまで歩けそうにない、ど、どうしよう？

俺が心から本気で困っていると、黒服の男が3人現れた。

そしてその内の1人が銃のような物を持っている……可能性としては麻醉銃かな？

咲良の話が本当なら、あの猿はどう見ても実験動物、実験体を殺す可能性は低い。

「もう逃げられないぞ！」

麻醉銃で撃たれくなかつたらおとなしく降りてこい！」

やはり麻醉銃か、そりやそうだ。

大体、女生徒が人質に取られている状態で、本物の銃なんて使えるはずが無いだろう。

下手すれば枕田が落ちるし、目の前で動物が死ぬばショックでどうなるかわからな

い。

錯乱、記憶喪失など、今後の人生に大きく左右されてしまうような症状になっても不

思議ではない。

そして黒服達が出てきた場所辺りから遊城達4人も現れた。

どうやら俺と咲良には気付いていないようだが……

「きゃあああ！」

助けて明日香さーん！」

完全に混乱しているな、それも仕方無いだろう。

普通の女子高生がこんな状況になるだなんて誰も想像できん。

……いかん、自分があの場所に置かれた状況を想像してしまった。

手が、手が震えだしてきた！ 怖すぎて体が寒くなって、重くなって……

「あ……………」

「堅守瑞貴？」

全身の力が抜けて、立てなくなってしまった。

「ど、どうしたの？」

「俺は、高所恐怖症だぞ」

自分が枕田の立場になったと想像したら、力が……抜けた」

「……………（そういえばそんな弱点があったっけ？）」

もしかしてこの状況、完全に裏目に出た？」

う、動けない……

早くここから逃げ出したい!

「チィ、生意気に人質なんて取りやがって!」

「つうかアンタ達、一体誰なんだよ?」

黒服と遊城が何か言ってるが、俺にそんな余裕なんて全く無い!

誰でもいいから、枕田を助けるのもなんでもいいから!

だから俺を早くここから離れさせてくれ!

具体的には俺の腕を放せ! 咲良ああああ!

「アニキ、あの猿決闘盤デュエルディスク付けてるよ」

「アレはただの猿ではない」

我々が訓練を重ねて育て上げた、決闘者猿だ!デュエリスト

「決闘者猿!」

「お前ら、そんな事よりさっさと枕田を助けてやれ!」

「あ、瑞貴居たのか?」

「名前と呼ぶな!」

「そ、!?」

いきなり背の低いおっさんがあの猿について話してきたがどうでもいい!



早くこの件を終わらせて、さっさとこの場所から離れたい！

終わらせないと、咲良が手を放しそうにないからな！

「とうか、何をしているの貴方達？」

「腕を組んで仲良さそうに……きやー！」

「……………あー！」

咲良が俺の腕を放したが、すぐに掴んだ。

具体的には組んでいるような状態から驚掴みへと変えた。

いい加減に俺を解放しろ！

「黙れ浜口！ 強引に連れられたんだよ、俺は！」

万丈目が行方不明になった件で、探すのを手伝えと無理矢理な！」

「きよ、今日の堅守君は随分と機嫌が悪いのね

口調も荒いし、座り込んでるし……」

黙れ天上院！

お前らがこんな所に来なければ何も起こらなかったんだよ！

「ごほん、あの猿の名は

Super Animal Learning、略してSALだ」

「まんまじゃん」

他に何か名前は無かったのか！

もう少しまでもな名前にしてやれよ！

可哀想だろうが！ 主にあの猿が！

猿と猿と名付けてどうするんだお前ら！

「博士……」

「あ……つい口が滑ってしまったようだ」

あの研究者、本当に研究者か？

自分の研究を話したいのだろうが、一般人の目の前で話す内容じゃないぞ。

まあ、名前ぐらいならまだ問題は無さそうだが……そういう問題じゃないか。

「ちよつと待った！」

遊城が前に出てくる。

もしかしてこの展開は咲良の言っていた……

「俺に任せろ！」

「任せろ？」

君にいつたい何ができると言うのだ」

「もちろん、<sup>デュエル</sup>決闘に決まってるさ」

<sup>デュエル</sup>決闘脳、ここに極めたり……てか？

猿との決闘、興味が無いとは言わんがさすがにお断りだ。

使用デッキも大体予想ができるし、そもそもこんな場所では……俺が戦えん！

「決闘って……まさかアニキ！」

「あの猿と決闘するって言うの？」

「誰とでも決闘をすれば、心が通じ合えるんだ！」

それが例え、猿だつてな！」

心が通じ合える……ねえ？

「咲良、俺とお前は決闘で心が通じ合えたと思うか？」

「絶対にお断り」

「だろうな、俺もだ」

「………別にそういう対象で見て欲しいだなんて言わないけど

そうハッキリと言われると傷付く、私も女」

「男には言つてもいいのか？」

「堅守瑞貴が相手ならば何も問題は無い

気にしないでしょ？ 恋愛に興味も無いのだから」

「否定はしない」

全く無いとは言わないのだが……男の一人暮らしは寂しいんだぞ？

今は寮生活だし、学園に通っているから気にならないが

元の世界では偶に人肌が恋しくなる……俺だって感情を持つ人間なのだから当然だ。つと、そんな事はどうでもいいな、今は気にする程そんな感情は無いのだから。

「おーい、猿ー！」

「ウキ？」

「お前も決闘者なら、デュエリスト決闘で決着付けようじゃないか！」

「ウキー！」

何故だろうか、遊城を殴りたくなってくる。

何故だろうか、遊城がやたら羨ましく思える。

何故だろうか、遊城に苛立ちを感じる。

「すげえアニキ、猿と会話してる」

「それだけ猿に近いって事かしら？」

「きつと、人間の言葉が解るように教育されたのよデュエル

決闘ができるぐらいですもの」

どう考えても天上院が正解だな。

丸藤、お前は仮にも遊城の弟分じゃなかったのか？

そしてそれを肯定する浜口、お前もフォローしてやれ。

「俺が勝ったら、人質を解放しろ！」

「ま、負けたら？」

「俺が負けたら？」

ああそつか、考えてなかったぜ……」

遊城が負けたらねえ……俺が口出ししていいのかな？

どうせ遊城が勝つんだろうし、何を言っても構わんだろう。

「遊城が負ければお前を研究所から解放する」

「へ？」

「お前、何を勝手な事を！」

デュエル決闘をしないのなら口を出すな！」

黒服が何かを言っているが気にしない。

元はと言えば、お前らが動物実験なんてしているからこうなったんだろうが！

「こんな事件が起こった原因はアンタ達デュエルだろ？」

遊城が負けた場合、アンタ達が俺に決闘で勝てばあの猿を返してやる

だがアンタ達が負けた場合、どんな理由や研究などが有ろうともあの猿を解放しろ

そして猿、遊城が負けた場合でも枕田は解放しろ、そうすれば逃げる手伝いをしてやる」

こうなったら自棄だ、どんな手段を使ってもあの猿を解放してやる。

遊城の言った内容を考えた場合、遊城が勝てば人質解放としか言っていない。

そこに付け込んで、遊城が勝っても猿を研究所に返すとは言っていないと言っている。

あまりしたくはないが、決闘盤デュエルディスクをあいづらの顔面に投げつけてでも止めてやる！

なんでこんな脳筋手段を使わねばならんだ！ 咲良が悪い！ 咲良のせいだ！  
くそつたれめ！

「ど、どうなってるのよおー！」

「心配すんなジユンコ！」

俺は絶対に勝つ！」

「負けても俺がどうにかす……」

「俺は勝つ！」

遊城に遮られたがまあ、枕田を不安にさせない為にもそれぐらい強気の方がいいな。

これ以上の口出しは止めておこう、枕田が暴れ出して落ちたりすれば洒落にならないからな。

俺が言ったのは少しでも安心感を持たせる為、枕田には心から同情するよ。

だから俺からもなんとかしてやる、だから遊城が勝つまで頑張れ。

猿は遊城の言葉を理解し、俺も見て納得をする。

どうやら両方の意見を採用するという事のようにだ。

自分が勝てば自由を得られるのだ、やる気も十分だろう。

枕田を木の太い場所に寄せ、落ちない場所に置く。

しかしそれでもまだ十分不安定、枕田は相当怯えている。

……いかん、これ以上枕田を見ると俺が危険だ。

枕田に自分を投影して、自分まであそこに居る気持ちになっちゃった。

今でもあまり動けそうにないのに、全く動けなくなっちゃったかもしれない。

「(堅守瑞貴を掴んでいる腕が凄く震えてる

高所恐怖症は知っていたけど、ここまで酷い弱点だったなんて……

なんというか、子供みたいで微笑ましく思えてしまう

けど、どうせ頭の中では怖い事を考えていそうだから全く可愛くない)」

「ウキー！」

猿は近くの岩に飛び乗り、デュエルディスク決闘盤を構える。

一応形にはなっているが、本当に決闘ができるのか？

「人質を放した！」

麻酔銃を持っていた黒服が銃を構えるが、させて堪るか！

俺は銃を持った奴の腕をめがけて決闘盤デュエルディスクを投げつける。

当然、狙うのは銃を構えている方の腕、トリガーを構えている腕に当てれば撃たれる可能性が高いからな。

「ぐあつー！」

なんとか銃に当たり、腕から銃が弾き飛ばされる。

俺の行動をすぐに察知し、咲良が落ちた銃を奪う。

咲良が手を放したから逃げ出したいが、さすがに色々と拙いので動かない。

「貴様ー！」

「こんな危ない物……てえいー！」

銃はライフルの形、つまり発砲をする筒が長い形状となっている。

咲良は思いつきりその筒の部分を地面に叩きつけ、その部分を折る。

「な、なんて事をするんだ！」

「わ、私、銃なんて持って、持ってる……ヒッ！」

夢中になっていたのだろうが、銃を壊して正気に戻ったのだろう。

手から銃を落とし、真つ青な顔をして俺の背中に隠れる。

俺以上に震えている咲良なのだが……何故俺の背中？

確かに位置的には近いが、天上院や浜口の方がいいんじゃないか？



「これは使えませんね」

「構わん、おもしろいデータが取れるかもしれない

あのまま決闘デュエルをさせるのだ」

この爺……あの壊れた銃でぶん殴ってやろうか！

「あ……あああ……」

恐怖に怯えた人間が見苦しいのは知っているが、俺もこうだったのか？

しかし怖いものは怖い、本能と言っても過言ではない感情なのだ。

暫くの間はこのままでいてやろうと思うが、長く続いたら殴ってでも正気に戻そう。

「これで気にする事は無いな

まあ、適当に頑張れ遊城」

「あ、ああ……案外良い所が有るんだな」

「お前の為じゃない

動物実験なんて虫唾が走るくらい大嫌いなだけだ」

「でもありがとよ！

これで遠慮なく決闘デュエルができるぜ！」

お前が勝てば俺の手間も省ける可能性が高いんだ。

俺をこれ以上、高い場所に残させるな。

「わ、私……銃なん、銃なんて……あ、ああああ……」

で、問題の咲良は重傷か。

こいつどうしよう？ 殆どしがみつかれている状態だから身動きが取れん。

落ち着かせる為に頭でも撫でたり、背中を軽く叩いてやればいいのか？

それとも抱きしめるとか？ さすがに色々と拙いだろ。

困った、怯えている子供のあやし方なんてこれぐらいしか浮かばないぞ。

「へへ、<sup>デュエル</sup>決闘！」

『<sup>デュエル</sup>決闘！』

「うわあ！ しゃべった！」

「ふっふっふ、<sup>デュエル</sup>決闘に関する言葉は全てプログラムされているのだ」

この爺、いい加減に殴りたい！

<sup>デュエル</sup>決闘に関しては若干省略。

遊城が攻撃力1600のE・HERO スパークマンを召喚してターンエンド。

猿は攻撃力2000の怒れる類人猿バーサークゴリラを召喚、スパークマンに攻撃して撃破、遊城のラ

イフは残り3600。

猿は伏せカードを1枚出して、ターンエンド。

遊城は攻撃力2100のE・HERO フレイム・ウイングマンを融合召喚して

怒れる類人猿を攻撃して撃破。

フレ임・ウイングマンは戦闘で破壊したモンスターの元々の攻撃力分のダメージを相手に与える効果を持つ。

戦闘ダメージと効果ダメージで2100のダメージ、猿のライフは残り1900となる。

途中で爺がやたら自慢げに色々話していたが、苛立ちしか感じないから思い出したくもない。

動物の方が精霊の声を聞く事ができる？ そんな下らない事の為に動物実験をしていたのか！

精霊が見えようが声が聞こえようが、動物実験をする理由になるか！

猿は次のターン、何故か機械族のアクロバットモンキーを召喚……猿型だからか？

そして伏せられていたカードは永続罫、DNA改造手術。

場に存在する表側表示モンスターの種族を自分が指定した種族に変更するカード。

選択された種族は獣族、アクロバットモンキーとフレ임・ウイングマンの見た目が

変わって獣に……

猿は続いて魔法カード、野性解放を発動する。

場の獣族・獣戦士族モンスターを1体選択し、守備力分だけ攻撃力を上昇させるカ―

ド。

ただし、効果を受けたモンスターはエンドフェイズ時に破壊されてしまう。

猿は獣族となったアクロバットモンキーを選択、守備力分の1800上昇して攻撃力が2800となる。

ついでに機械部分はDNA改造手術で鎧のようになっていたが、野性解放でヘルメット以外は破壊されてしまった。

本来の使い道としてはあまり良い手段とは言えないが、フレイム・ウイングマンを選択するのも有りだったな。

野性解放は相手の場のモンスターも選択できる、獣族・獣戦士族限定とはいえノーコストの除去カードとなる。

今回の場合、野性解放の効果でアクロバットモンキーは破壊され、場がガラ空きになっってしまうからな。

守備表示で召喚し、野性解放をフレイム・ウイングマンに使用して自壊させる方が安心できるだろう。

残りライフは1900なのだ、ダメージよりも守りを優先しても良いと思われる。

案の定、猿は伏せカードも何も出さずにターンエンド。

遊城のライフは2900まで減ったとはいえ、やはり良い手段とは言えないな。

まあ絶対に悪い手とは言わんが、相手の手札が多い時にするのはやはり悪手だろう。そして遊城のターン、何かをしようとした瞬間、対戦している猿以外の猿の声が……何事かと思つて見てみれば、10匹近くの猿の群れが居た。

この状況から察するに……

「お前、仲間の下に帰りたくて研究所を脱走してきたんだな？」

「ウキィー!!!」

どうやら肯定のようだ、大体予想通りだな。

丸藤や天上院、浜口は遊城が勝てば猿が、猿が勝てば枕田がと悩んでいる。

一応、俺がどうにかするつもりなのだが……やはり信用が無いのかねえ？

別に信用が欲しいとは言わんが、若干腹も立つ。

そして遊城の答えは、手加減しないで本気の勝負。

決闘は真剣勝負、1度始めた決闘<sup>デュエル</sup>は手加減しないそうだ。

俺と同じ事を考えているのだろうな、あの猿は群れに戻すという事を。

だから本気で戦う、端から見れば非情な人間だけだな。

遊城はE・HEROクレイマンを召喚し、DNA改造手術で獣族となる。

しかし遊城はそれを無視し、魔法カード、捨て身の突進！を発動する。

アニメオリジナルカード、自分の場に存在する攻撃力1000以下のモンスター1体

を選択。

そしてライフを1000支払い、そのモンスターが相手に戦闘ダメージを与えた時  
選択したモンスターの守備力分のダメージを戦闘ダメージに追加するカード。

弱くはないがライフコスト1000が痛く、攻撃力1000以下という条件も厳しい。  
い。

更に戦闘ダメージを与える必要も有る事も考えると、サポートやロマンが必要なカード  
だな。

クレイマンで直接攻撃、ダイレクトアタック攻撃力800に守備力2000で合計2800のダメージで  
勝利。

「さあ約束だ、ジユンコを返してもらおうぜ」

猿は暫く動かなかったが、素直に遊城の言う通りに動く。

枕田を木から下ろし、おとなしく自分の処遇を待っている。

どうやらその辺りも教育済みらしいな……腹が立つぐらいに！

「う、うわあああん！」

ちゃんと大地に立った枕田は天上院に泣きつく。

怖 かつ た 事 は よ く 理 解 でき る、 そ れ は も う

よ—————く理解できる。

後で慰めの意味も込めて、頑張ったで賞という事で何かカードでもやろうかな？  
「助けてくれてありがとう」

でも……あの猿、また研究所に連れ戻されるのね」

「それは無いな」

「「「え？」「」」」

俺の言葉に、遊城を除く全員が振り向く。

「よくやった！」

後は我々に任せろ！」

「ちよおつと待ったあ！」

猿に近づこうとした黒服達の前に立ち塞がる遊城。

やはり俺の予想通りに動いてくれたらしい。

「俺は決闘に勝つたら人質は返せとは言ったが  
デュエル

研究所に戻すとは言っていないぜ」

「なに？」

「あの猿はこのまま仲間と一緒に、森に返す」

しかしそれには問題がある。

あの黒服達は誰も、それに納得するはずが無いからだ。

まあ、それをどうにかするにはこれがやはり楽だよなあ……

何も考えていない丸藤、天上院、枕田、浜口の4人は暢気なものだ。

遊城を褒め、このまま何事も無くハッピーエンドになると思っている。

「邪魔だ、どけ!」

しかし現実はその簡単に事を終わらせてくれない……いや、人間の欲望か?

黒服2人は遊城を押し退け、猿に捕獲用の網を投げつけて捕獲する。

猿は自由に動けず、黒服達に押さえ込まれてしまう。

「猿!?! くそお!」

「そんなに仲間を一緒にさせたければそうしてやってもいいぞ?」

「え?」

爺が何かを吐いているが、次に吐く言葉も簡単に予想ができる。

「ただし私の……」

「研究所で……か?」

「研究所でな」

「なに!?!」

そして次は他の猿を捕まえるか?

実験動物は何匹いても困らないか?



「他の猿共もみんな捕まえるんだ！」

実験動物は多いに越したことは無いからな」

猿達を捕まえようと、黒服がジワジワと詰め寄っていく。

まあ、こんな所でもいいかな？

そう思った時、どこかで見た事の有る猫が黒服の顔に飛びかかる。

何事かと思えば……

「ざつすがフアラオ、お手柄ですにゃ」

「」「大徳寺先生！」「」

大徳寺教員か……タイミング良すぎないか？

「あ、アンタは……」

「事が公になれば、困るのは貴方の方ではないのかにや？」

動物虐待で訴えられちゃいますよー」

「ぐ、ぐううう……」

おっと、俺からも口出ししよう。

「というか大徳寺教員、訴えてもいいですか？」

「おや堅守君ではないですかにゃ」

「先ほどの猿へ行った行動、全て録画済みです

写真も有りますよ？ 証拠は十分です」

小型の録画カメラ、写真カメラを全員に見えるように取り出す。

爺が歯軋りをしそうならに俺を睨み付けてくるのが楽しくて仕方無い。

いやあ、我慢して残った甲斐が有ったというものだ。

「あららー……これはこれは困ったにや

すぐに解放しないと、本当に訴えられちゃいそうですにや？」

この言葉がトドメとなり、黒服達は猿に装着されていた機械を取り外して逃げ帰っていった。

しかし決闘盤デュエルディスクだけは装着したまま……何故？

とにかく、遊城達は猿との別れを済ませ、遊城達5人と俺と咲良、大徳寺教員だけとなる。

「それにしても、大徳寺先生が居なければ私達どうなっていたか……」

「ありがとうございます」

「いえいえ、私は何も……」

「お礼ならファラオと、追いつ返すお手伝いをしてくれた堅守君にしてくださいにや」

「不要です  
俺は遊城達を助けたのではなく、あの3人が気に入らなかつた

そして猿を解放したかっただけです」

「それでも、助かった事は事実よ

堅守君もありがとう」

「だから不要と言っただろうが

なら俺を強引に連れ出して無理矢理引つ張ってきた咲良にでも言え

もつとも、銃を持った恐怖で怯え疲れ、黒服達が去った安心感で眠ってしまったがな」  
俺の背中に体を預けて眠られ、今までは別の意味で身動きが取れない。

改めて確認したいんだが、こいつは俺を追い出したいんだよな？

もつと頑張ってくれないと、俺は追い出せないぞ？

根が真面目で、善人寄りの人間だから非道な事はできないんだろうがな。

もつと卑怯、反則、自分の立場や性別を利用すれば俺を追い出す事ぐらい簡単だろうに。

正攻法、自主的に俺を追い出そうとしている咲良を見ると……楽しくて楽しくて

仕方がない！

「ラブラブですわねー」

「俺としては代わってほしいのだが？

こんなに力の抜けた体を預けられれば重い」

「女の子に対して重いは禁句よ！」

「全体重がのし掛かってしまつて困るんだよ枕田

それに疲れる、更に邪魔、おまけに鬱陶しい」

「さすがに酷過ぎよ？」

なら代われよ。

「そういえば先生、なんでこんな所に居たんですか？」

「ああそうそう」

「万丈目君が見つかったんだにや」

「え、ホント！」

「よかつたあ」

ふう、これでもう万丈目を探さなくて済む。

まつたく、俺は何をしにここに來たのかわからなくなるな。

しかしまあ、猿を助けられたのだから良しとおこう。

でなければ無駄足を踏ませたという事で誰かに八つ当たりしたいぐらいだ。

「でも、この島にはもう居ないんだにや」

「え？」

大徳寺教員の説明によると。

「どうやら大徳寺教員もあの後、万丈目の行方が気になったらしくて探していたらしい。」

「港に向かった時、船に乗った万丈目を見つけた事でこの島を出て行つたと察したようだ。」

「咲良があそこまで詳しく知っていたんだ、どうせメインキャラだろう。」

「つまり放置しても戻ってくる可能性が高い、今後はもう気にしなくても良さそうだな。」

「おい天上院、枕田、浜口」

「誰でもいいから咲良をどうかしろ」

「……」

「なんだその目は、その生暖かいものを見るような目は。」

「大体予想できてしまう自分の人間観察力の高さが今は気に入らない。」

「私、馬に蹴られたくありませんわ」

「頼ってもらえているんだからいいじゃない」

「私達よりも、貴方が頑張った方が咲良さんも嬉しいんじゃないかしら？」

「予想通りだったよ、言う内容が」

「寝言は寝て言え姦しトリオ、さっさとどうかしろ」

「というか、俺に人間一人を運ぶほどの腕力筋力体力は無い」

「自慢して言う事ですの？」

「男の癖に情けないわねえ」

「自覚しているからこんな状況で身動きが取れないんだだろうが

できるのならさつさと地面に叩き落としている」

「気絶している、眠っている人間の体重は重いんだぞ？」

「力の無い俺にはどうしようも無いんだ、助ける。」

「仕方無いわね……」

天上院が咲良を抱き上げ……お姫様抱っこか。

女性が女性にそれをするのはどうなのだろうか？

しかも妙に似合っているから困る、天上院の性格故にだろうか。

咲良はどちらかと言えば美人よりも可愛いに分類されるタイプだし。

だがさすがに抱き続ける事はできないらしく、腕を肩に回して咲良を立たせる。

浜口は天上院を手伝う為、咲良の逆の腕を自分の肩に回す。

2人に支えられ、女子共はそのまま帰って行った。

俺も一息を吐いて起ち上がり、この場を後にする。

いつまでもここで何もしないでのんびりする気も無いのでね。

遊城と丸藤は大徳寺教員と話しているし、放置でいい。もう二度と、この場所に来ないようにしよう、怖いし。

## 11話【冬休み編1 ホワイトクリスマス】

冬休み、多くの生徒が実家に帰っているだろう。

そういう俺も、家に帰ってきているのだからな。

しかしまあ、こいつは何がしたいのかね？

『貴方の家に遊びに行くから家の場所を教えなさい』

咲良から電話をされた。

電話番号、こいつに教えたっけ？

……まあいいか、逆にこいつの電話番号が手に入ったんだ。

用が有る時は電話してやろう、主に押し付ける時とか。

「お前、俺の事嫌いだろ？」

何故遊びに来るんだよ」

『玲ちゃんに会う以外に理由が有るとでも？』

「会ってどうする？」

『会ってから考える』

別に何かを吹き込むとか、手を出すとかじゃないから安心して』



いや、お前と会う事が先ず心配事でだな……

「会わせたいとは思わないな」

『玲ちゃんの癖なら知ってる、話し方』

確か、話している相手の口調を真似してしまう……違う?』

「合っているがな、何故お前がそれを知っている?」

確かに玲の事は知っているらしかつたが、そこまで知っているなんてさすがに不気味だぞ」

当然、咲良に玲の事は教えていない。

以前の予想で俺が出ているアニメでもとか想像したが、そこに玲が登場したのか?

どうやって登場した? 咲良に問い詰めてみるべきか……さすがに重要人物じゃないよな?」

『知っている上で言う、玲ちゃんを傷付けるような事はしないし言わない』

この約束を破ったら、私が学園から出て行ってもいい』

そこまで言うなら大丈夫だとは思うが、やや微妙だな。

本当に家に入れるかどうかは、また別の判断が必要か?

問題と思うし気にする程の事じゃないが、戯れの気持ちも出てくる。

「条件付きで許可してやろう」

『条件?』

「この世界はどんな世界だ?」

『どんなって、遊戯王?』

「前提条件は当然として、玲とちゃんと仲良くしてもらおう事だが

この世界ではこのような条件を出す場合、どんな条件だと思う?」

咲良の性格から考えて、玲を邪険に扱う事は無いだろうとは思う。

だから癖のせいで仲が良い相手が少ない玲の交友関係を広める為になるからな。

例え咲良であろうと、玲の為になるなら歓迎してやる事は平気でできる。

別に玲に悪く当たらなければ無条件で来て貰う事に異論は無い。

しかし、そんなに簡単に許可する事は俺らしく無ければつまらなくもある。

咲良も無条件でなんて言えば怪しむだろうしな……今までの俺の行動から考えると。

『まさか、決闘デュエルして勝つても言うつもり?』

「楽しい決闘デュエルを期待しておいてやろう

あと、その決闘デュエルでは別の条件が有る」

『……わかった

それで、どんな条件?』

「それはだな……」

「今日は学園の知り合いが来るぞ」

「突然過ぎ、何故？」

「お前に興味を持ったんだとよ」

別に殆ど話してないんだけどな」

お兄ちゃんがいきなり学園の人が来るって言い出した。

……私に興味って、どういう事？

「一応訊くが、アレらのカードは誰にも見せていないな？」

「自慢したいぐらいだけど、約束は守ってる」

それがどうした？」

「今回だけ特別だ、許可する」

お兄ちゃんがあのカードの使用を許可？

どうしてそんな事を許可するの？

「何故？」

「知っているからだ、手加減は不要だぞ」

お兄ちゃん以外に手加減をしなくていい……あれ？

「私はその知り合いと戦うのか？」

「嫌なら構わないが？」

「する」

数少ない機会だもの、逃がすなんてヤダ。

それにしても本気かあ……勝てるかな？

「強い？」

「さあな」

しかし、1度負けそうになったな」

「それ、強いんじゃないか？」

「自分で判断するんだな」

強いと期待しておこつと。

お兄ちゃんに勝てそうになったんだもん、強いよね？

「そんなに気になるなら、俺が先に戦って見せてやろうか？」

使用デツキは変えさせるから大丈夫だと思おうが」

「なら頼む、見てみたい」

楽しみだなあ……本気で決闘デュエルができるなんて。

今までお兄ちゃんにカードを貰っても、手加減しかできなかつたし。

お兄ちゃん以外では初めて、凄く楽しみ。

.....

.....

.....

お兄ちゃんの知り合いが来ると聞いて数日。

その知り合いの人と会う為、待ち合わせ場所に向かっている。

「この寒い冬に、しかも夕方のどうしてこんな場所で……」

「待ち合わせ場所だからな」

だからって港じゃなくても……

暖かくして来てるから大丈夫だけど、肌寒くなってきた。

「この辺りでと言ったが、居るかな？」

待ち合わせの場所までもうすぐ。

お兄ちゃんは学園の人を探す為にあちこちを見てる。

「お、見つけた」

お兄ちゃんの目が止まった方を見てみると、女の子が立って待っていた。

学園の知り合いって女の子だったの？

私達が女の子の方に向かうと、その人もこっちに気付いた。

「この寒い中で港に呼び出すなんて非常識」

「態とだ、気にするな」

「時間通りに来たんだし、問題は無い」

「本当に時間通り過ぎる」

「約束の時間2分前って……私は20分も早く来たのに」

「お前が勝手に早く来たただけだろうが」

「仲が良いのか悪いのかわかんない。」

「友達というか、ライバル？」

「それで、あの子が……」

「私？」

「妹の玲だ」

「堅守玲、よろしく」

「よろしくね、玲ちゃん」

「私は咲良結美、仲良くしよう？」

「自己紹介の口調が良くなかったと思うけど気にしてない？」

「で、どうする？」

「わかってるだろ？」

「咲良さんが決闘盤デュエルディスクを装着。」

お兄ちゃんは……呆れてる。

「馬鹿か？」

こんな目立つ場所できないだろうが

もっと人気の無い場所に向かうぞ」

「……………」

格好つけて決闘盤デュエルディスクを装着したのに格好つかなかった。

ちよつと凹んでいたから頭ナデナデしてあげた。

「玲ちゃんは堅守瑞貴と違って良い子」

「あぶー！」

い、いきなり抱きしめられたあー！

なんで？　なんで？

「玲はあまり人付き合いに慣れていないんだぞ

そういうスキンスリップはするなどは言わんが、突然は止めておけ」

「そうなの？」

その、玲ちゃんごめんね？」

「だ、大丈夫」

ビツクリただけで気にしてない。

それよりも私と咲良さんはお兄ちゃんの後ろを付いていく。

どこに向かうのかな？

暫く歩くと、有料の決闘場デュエルフィールド？

どうしてこんな場所まで……つて、決闘デュエル1回で5千!?

なんでこんな高い場所で!?

「なに、(´▽´)？」

「有料の決闘場デュエルフィールドだ」

その代わり、誰にも見られずに決闘デュエルできるといふ場所だ

時間制限は有るが監視カメラも無い、秘密の決闘デュエルをする為の場所だ」

「何に使うのか解らない」

「目立ちたくない人、手の内を外で晒したくない人などが利用する

他にも場所が無い時、集合場所にして時間潰し、そんな場合にも使える

俺達みたいな人間には助かる場所だ、時々有るから覚えておいて損は無いぞ」

私とお兄ちゃんの決闘デュエルは家で決闘盤デュエルディスクを使わない決闘デュエル。

ここは決闘盤デュエルディスクを使いたい人とかも利用するのかな？

「……今度、探してみる」

お兄ちゃんが学園に行っている間、私も探してみよう。



お兄ちゃん以外に私の本気で戦える相手なんて居ないけど。

「一応訊くが、ちゃんと作ってきたな？」

「それが条件なら仕方無いから作ってきた」

お兄ちゃんと咲良さんが決闘盤デュエルディスクをセットする。

どんな戦いになるのか、楽しみ。

「ルールはどうする？」

「OCGRルールで、ライフも8000にしたい

このルールでするなんて久しぶりなもの」

OCGRルールって何？ ライフが8000スタート？

久しぶりって、決闘デュエルって普通は4000のライフでしょ？

8000なんてタッグ決闘デュエルとか、そんな時以外殆どしないよ？

お兄ちゃんとは毎回ライフ8000でするけど……

「決闘」

「先攻は私、ドロー

氷結界の軍師を召喚し、効果を発動

手札の氷結界と名の付くモンスターを墓地へ送り、デッキからカードを1枚ドローする

ただし、この効果は1ターンに1度しか使えない

手札の水結界の虎将　グルナードを墓地へ送り、「ドロー」

黒い僧服みたいなのを着て、青い帽子をかぶったおじいちゃんが出てきた。

攻撃力は1600の、多分氷結界って名前が関係したモンスター？

この寒い冬に氷のモンスターは、見ているだけで寒くなりそう。

「カードを1枚伏せて、ターンエンド」

今回のお兄ちゃんのデッキはどんなデッキだろう？

「俺のターン、ドロー」

魔法カード、トレード・インを発動する

手札のLV8のモンスターを捨て、デッキからカードを2枚ドロウする

俺が捨てるカードはスノーダスト・ドラゴン、デッキからカードを2枚ドロウ

「コールド・エンチャントを召喚する」

氷でできた杖を持った人……また氷!?

だけど攻撃力は氷結界の軍師と同じ1600、このままだと相打ち。

「コールド・エンチャントの効果を発動

手札を1枚捨てる事で、場に存在する表側表示のモンスター1体にアイスカウンター

を1つ乗せる

手札を1枚捨て、コールド・エンチャンター自身にアイスカウンターを1つ乗せる」  
コールド・エンチャンターが杖を掲げて、光を放つとコールド・エンチャンターの杖を持つていない腕が凍っていた。

自分の力で自分を凍らせるって、大丈夫なのかな？

「コールド・エンチャンターの攻撃力は場に存在するアイスカウンターの数×300ポイントアップする

この効果により、コールド・エンチャンターの攻撃力は1900まで上昇」

自分を凍らせれば攻撃力が上がるの？

どんな仕組みなのかよくわからない。

「再びコールド・エンチャンターの効果を発動

手札をもう1枚捨て、アイスカウンターをコールド・エンチャンターに乗せる」

腕の氷が更に大きくなって攻撃力が2200までアップ？

もうLV4の攻撃力じゃない。

「更にもう1回だ

手札を捨ててアイスカウンターをコールド・エンチャンターに乗せる」

「攻撃力が2500……」

腕の氷がもうコールド・エンチャンター自身ぐらいいまで大きく……

そして攻撃力が上級モンスター並まで上昇した。ただ、その為に手札を3枚も捨てるなんて勿体ない。

氷結界の軍師を倒すだけなら1枚でよかったのに。

「バトルフェイズ、コールド・エンチャンターで氷結界の軍師に攻撃」

コールド・エンチャンターは凍っている腕を振りかぶって、氷結界の軍師を叩き潰す。

こんな方法で攻撃するなんて、実は怖い人？

咲良さんのライフは残り7100まで減った、どうなるかな？

「クツ……」

「速攻魔法、超再生能力を発動する

このターン中に手札から捨てた、または場や手札から生贄にしたドラゴン族モンスター

その枚数だけ、このターンのエンドフェイズ時にドローする

俺が手札から捨てたドラゴン族モンスターはトレード・インで捨てたスノーダスト・ドラゴン

更にコールド・エンチャンターの効果で捨てたスノー・ドラゴン  
ブルーアイス・ホワイトナイト・ドラゴン  
青氷の白夜龍、ブリザード・ドラゴンの計4枚だ」

あのデッキって、どんなデッキ？

水属性・ドラゴン族デツキだとしたらコールド・エンチャンターは入らないだろうし。

手札を捨ててもあまり効果を使えそうにないモンスターだし……よくわからない。

「完全に手札事故」

「だが、それは十分に活用できた

カードを1枚伏せてエンドフェイズだ、超再生能力の効果で4枚ドロ

ターンエンド」

無くなりそうだった手札を一気に補充した。

名前を聞く限り、どのモンスターも寒そうな名前。

「私のターン、ドロ」

氷結界の術者を召喚」

攻撃力1300のモンスターじゃ勝てないよ？

「更に自分の場に氷結界と名の付くモンスターが存在している場合

手札の氷結界の伝道師は特殊召喚できる、守備表示で特殊召喚

ただし、この効果でこのモンスターを特殊召喚をしたターン

自分はLV5以上のモンスターを特殊召喚する事はできない」

青いフード付きマントを羽織ったおじさん。

だけど守備力はたったの400、こんなモンスターだと危ないよ。

「自分の場に自身以外の氷結界と名の付くモンスターが存在している場合、氷結界の術者の効果が発動する」

「LV4以上のモンスターは攻撃宣言ができない」

「ロック効果モンスター、だから攻撃表示で召喚したのかな？」

「私はこのままターンエンド」

「俺のターン、ドロロー」

「コールド・エンチャンターの効果により、手札を1枚捨ててアイスカウンターを1つ自身に乗せる」

「これで更に攻撃力は300ポイント上昇した」

「だけど、攻撃できないのなら意味は無い」

「コールド・エンチャンターの腕の氷がどんどん大きくなってく。」

「もう2mぐらいは有りそうで、見ているだけで怖い。」

「先ほど捨てたカードは氷の女王だ」

「……それが？」

「俺の、墓地には、水属性モンスターが、5体のみ、なんだぞ？」

「水属性モンスターが5体のみ……あ！」

「自分の墓地に水属性モンスターが5体の場合、このモンスターは特殊召喚できる」

手札から氷霊神ムーラングレイスを特殊召喚だ」

巨大な氷が現れ、その中から白い体を持つ氷のモンスター……

攻撃力2800のモンスターだけど、それだけだとロックは止められない。

「氷霊神ムーラングレイスの効果を発動

このモンスターが特殊召喚に成功した時、相手の手札をランダムに2枚捨てる

氷霊神ムーラングレイスの効果は1ターンに1度までしか使えないがな

さて咲良、お前の手札の3枚の内、真ん中と左のカードを捨ててもらおうか？」

「……………」

黙って手札を2枚捨てる咲良さん。

お兄ちゃんの手札は3枚で咲良さんの手札は1枚。

「そしてスノーマン・クリエイターを召喚する」

……えっと、かき氷を作るモンスター？

青い機械でできた体の、まるでかき氷を作る機械みたいな体をしたモンスター

攻撃力は1600だけど、LVは4だから攻撃ができない。

「スノーマン・クリエイターの効果を発動

召喚、反転召喚、特殊召喚をした時に発動ができる

自分の場に存在する水属性モンスターの数だけ、相手の表側表示モンスターにアイス

カウンターを乗せる

スノーマン・クリエイターを含め、俺の場に水属性モンスターは3体

よって3つのアイスカウンターを乗せる、乗せるモンスターは全て氷結界の術者だ」

スノーマン・クリエイターのかき氷を作る場所に雪達磨が作られて……ええ!?

かき氷じゃなくて雪達磨を作る機械だったの!?! そんな事ができるんだ……凄い。

次々と作って行って、できた雪達磨は3つ、その雪達磨を伸びた機械の手で掴んで投げた!?

雪達磨は氷結界の術者に当たって、雪に埋もれた氷結界の術者になっちゃった。

凄く重そうだけど、大丈夫なのかな?

「そしてアイスカウンターの数に更に3つ増えた事により

コールド・エンチャントの攻撃力が更に900ポイントアップする」

コールド・エンチャントの腕の氷が大きくなるだけじゃなくて形も変わってきた。

凄く刺々しくて、人に当たったら串刺しにしてしまいたいような形で凄く、物凄く怖い!

アイスカウンターの数7個、攻撃力は2100アップして攻撃力3700!

「スノーマン・クリエイターのもう1つの効果を発動

この効果でアイスカウンターを3つ以上乗せた場合

相手の場のカードを1枚破壊する、氷結界の伝道師を破壊だ」



「それはさせない、罨カード、海竜神の加護を発動

このターンのエンドフェイズまで、自分の場に存在するLV3以下の水属性モンスターは戦闘や効果で破壊されない

アイスカウンターデッキだもの、効果破壊を狙う事ぐらいは予想できている」「氷結界である程度ロックをしてくと予想をしていたが……

確かに氷結界は下級モンスターはロックに向いているとはいえ、そのカードを使うか  
お前の性格から考えれば若干予想外だったな」

「……決闘中に悪いけど、質問

今の会話を聞くと、もしかしてデッキをお互いに知ってた？」

「ん？ 私達は学園の同級生

デッキを把握していても不思議じゃない」

「が、今回は俺が指定した

俺はアイスカウンターをメインにするデッキ

咲良は氷結界モンスターをメインにしたデッキとな」

「なんで？」

別に指定する理由なんて無いと思うんだけど……

「何故って、今日は何月何日だ？」

「12月24日のクリスマススイヴ……」

「今年は辰年、そのクリスマスマスだ」

だから俺の使用デッキはドラゴン族を多用する「アイスカウンター」デッキだ

他にも氷、アイス、ブリザードなど、雪などに関係したモンスターを多用している」

「私は雪の結晶の形をしたものを身に付けている氷結界のモンスター」

例えば氷結界の伝道師の杖の先には結晶みたいな形をしているでしょ？」

「えっと、つまり？」

「今日は辰年ドラゴンの雪降る聖夜氷結界だ（結界＝聖域）」

できれば屋外がよかったのだが、お互いのデッキ構築から考えて自重した」

「それに寒い」

ロマンチックっていうのかな？

ちよつと呆れちやつて素直に感動できない。

「それはさて置き、攻撃を封じられて効果破壊もできないとなると今は諦めか

俺はこのままターンエンドだ」

「私のターン、ドロロー」

氷結界の伝道師の効果を発動

自身を生贄にする事で、自分の墓地に存在する氷結界と名の付くモンスターを1体、

特殊召喚する

氷結界の伝道師を生贄に、氷結界の虎将　グルナードを特殊召喚」

氷みたいな青い綺麗な鎧を着た戦士のモンスター

攻撃力が2800の最上級モンスターがこんなに簡単に出てくるなんて……

だけど、氷結界の術者の効果で攻撃はできない。

「氷結界の輸送部隊を召喚して、効果を発動

自分の墓地の氷結界と名の付くモンスターを2体デッキに戻してデッキをシャッフル

その後、お互いにデッキからカードを1枚ドローする

私は墓地の氷結界の軍師と、氷霊神ムラングレイスの効果で捨てられた氷結界の水影をデッキに戻して、ドロー」

「氷結界の輸送部隊のドロー効果はお互いに発動する

よって、俺もデッキからカードを1枚ドローする」

緑のドラゴンみたいな見た目をした海竜族モンスターが大きな荷物を背負ってる。

なんだか馬みたいな扱いな気がする。

「氷結界の虎将　グルナードの効果を発動

このモンスターが表側表示で存在している限り、自分のメインフェイズ時に1度だけ

発動できる

通常召喚に加え、氷結界と名の付くモンスターを1体、召喚する事ができる

この効果で氷結界の武士を召喚する」

グルナードみたいに氷のように綺麗な鎧を着た、刀を持った武士のモンスター  
攻撃力は1800だけど、やっぱり攻撃できないよ？

「……本当にいいの？」

「構わん、既に教えている

当然だが色々と条件を付けているがな」

私に教えて、色々と条件？

という事はもしかして……

「なら……LV4の氷結界の武士に、水属性LV2の氷結界の術者をチューニング  
氷に閉ざされた結界に潜む猛虎よ、その荒々しい姿を現せ！

シンクロ召喚！ 砕け、氷結界の虎王 ドウローレン！」

「し、シンクロ……召喚」

「本当に知ってる……」

どうして咲良さんがシンクロ召喚をできるの？

お兄ちゃん以外、このカードを持っている人なんて誰も居なかったのに。

もしかしてお兄ちゃんか咲良さんにあげたのかな？

あれだけ秘密にしろって言っていたカードをあげたって事は……

「さて咲良、ドウローレンをシンクロ召喚してどうするんだ？」

「ドウローレンの効果を発動するに決まっている」

自分の場に存在する表側表示のカードを好きなだけ手札に戻し

ドウローレンの攻撃力を戻した枚数×500ポイントアップさせる

私は氷結界の輸送部隊を手札に戻し、ドウローレンの攻撃力を500ポイントアッ

プ

ドウローレンの咆哮で輸送部隊が怯えて手札に戻っちゃった。

やっぱり虎って怖いのかな？ 気になるなあ、触って見たいなあ……

でも触ったら体が痒くなるから触れない……くすん。

「しかし、スノーマン・クリエーターの効果で乗ったアイスカウンターは全て消えたが

それでもコールド・エンチャントの攻撃力は2800、グルナードと同じだ

まさか相打ちを狙っているとは、言わんよなあ？」

「輸送部隊は手札に避難させただけ

バトルフェイズ、氷結界の虎将 グルナードでスノーマン・クリエーターに攻撃」

「甘いな、罨カード、儀水鏡の反魂術を発動

自分の場の水属性モンスター1体をデッキに戻し、墓地の水属性モンスターを2体、手札に戻す

俺はスノーマン・クリエイターをデッキに戻し、墓地のスノーダスト・ドラゴンとスノー・ドラゴンを手札に戻す」

グルナードは背中に背負った氷の大剣でスノーマン・クリエイターを壊そうとするけど、その前にデッキに戻っちゃった。

これじゃあ相打ちをしない限り、お兄ちゃんのモンスターは倒せない。  
「逃げられた……ならばバトルフェイズ終了

魔法カード、浮上を発動

自分の墓地に存在するLV3以下の水族、海竜族、魚族モンスターを1体選択  
選択したモンスターを表側守備表示で特殊召喚する

私が選択するモンスターは氷結界の術者、守備表示で特殊召喚」  
え、ちよつと待って？

確か氷結界の術者って、他に氷結界が居る時に……

「これで再びLV4以上のモンスターは攻撃できないロックができた

私はこれでターンエンド、このロックを突破できる？」

「ロックは俺の大好き物、使われると良い気はしませんがまあいい

氷結界とアイスカウンター、どちらを選ぶと俺が訊いたんだからそこは諦める俺のターン、ドロー

手札を3枚捨て、コールド・エンチャントの効果で自身にアイスカウンターを乗せる

これで攻撃力は900ポイントアップし、再び3700まで上昇した

更に魔法カード、サルベージを発動

自分の墓地に存在する攻撃力1500以下の水属性モンスターを2枚、手札に加える俺が手札に加えるモンスターはスノー・ドラゴン2枚だ」

さっきのコールド・エンチャントの効果で2枚共捨てたのかな？

だけども1枚しか手札に回収してない、またドローした？

「そして再びコールド・エンチャントの効果だ

手札を2枚捨て、自身にアイスカウンターを乗せて攻撃力がアップする」

攻撃力が4300……凄い。

全身が氷で覆われて、自分の体が巨大化したみたいなたまに変化しちやつた。

氷でできた、2周りぐらい大きい自分ってちよつと不気味。

ちなみに氷の体が持っている杖の形が槍みたいになつてるんだけど……

「氷霊神ムーラングレイスを守備表示に変更し、カードを1枚伏せてエンドフェイズ

速攻魔法、超再生能力を発動、効果は先ほど説明した通りだ

スノー・ドラゴンを2枚を2回、スノーダスト・ドラゴンの計5枚だ  
よつて俺はデツキからカードを5枚ドローする

(ロックを突破できるモンスターがなかなか来ないな、これは困った)

お互いに殆ど動けない状態。

咲良さんは攻撃力4300のコールド・エンチャンターに手出しできない。

お兄ちゃんも攻撃を封じられて身動きが取れない。

どっちが先に相手を攻略できるのかな？

「私のターン、ドロー」

氷結界の輸送部隊を召喚して、効果を発動

墓地の氷結界の武士と氷霊神ムーラングレイスの効果で捨てられた氷結界の番人

ブリズドをデツキに戻す

そしてお互いにデツキからカードを1枚ドロー

氷結界の虎王 ドウローレンの効果を発動

表側表示で存在している輸送部隊と術者を手札に戻して、攻撃力を1000ポイント

アップする」

攻撃力が3000までアップした。



攻撃表示のままだったら氷霊神ムーラングレイスに攻撃して戦闘ダメージを与えられたけど。

ただどお兄ちゃんはやんと読んでいたみたいで守備表示にされちゃってる。

「バトルフェイズ、氷結界の虎将　グルナードで氷霊神ムーラングレイスに攻撃」

守備力2200の氷霊神ムーラングレイスじゃ攻撃を防ぎきれない。

グルナードの大剣で斬りつけられ、破壊されてしまう。

「氷霊神ムーラングレイスの効果

このモンスターが場から離れた場合、次の自分のターンのバトルフェイズをスキップする

次のターン、俺は攻撃する事ができない」

「なら守りを考える必要は無さそう」

メインフェイズ2、グルナードのもう1度氷結界を召喚する効果を発動し、氷結界の軍師を召喚して効果を発動

手札の氷結界と名の付くモンスターを墓地へ送って、デッキからカードを1枚ドロースする

私は手札の氷結界の修験者を墓地へ送り、デッキからカードをドロ

このままゆつくり、コールド・エンチャンターを倒すカードが来るまで待つよ

私はこれでターンエンド」

「俺のターン、ドロ―

モンスターをセット、カードを1枚伏せてターンエンドだ」

モンスターをセット？

リバー効果モンスターで氷に関係するモンスターなんていたっけ？

「OCGRルールだから、守備モンスターは必ずセットにする必要が有る

アニメルールみたい表側守備表示ができないから、リバー効果モンスターかただの壁かわからない」

私のターン、ドロ―

氷結界の軍師の効果を発動して、手札の氷結界の交霊師を捨ててドロ―

氷結界の御庭番を召喚」

銀髪の両手に剣を持った男の人なんだけど……こ、攻撃力1000のモンスターを攻撃表示？

剣を持った見た目に反して攻撃力が1000って、なんだか悲しい。

「あ、ヤバイ」

罨カード、水霊術―「葵」を発動する

セットされているスノーマンイーターを生贄にして効果を発動

相手の手札を確認し、カードを1枚選択して捨てる」

「水霊術……はい、手札」

咲良さんの手札は氷結界の術者、氷結界の輸送部隊、氷結界の破術師の3枚。

氷結界の破術師の効果ってどんな効果だろう？

「俺が捨てさせるカードは当然、氷結界の術者だ」

「くっ、このまま水霊術を発動しなかったらよかったのに」

「そんな事誰がするか」

御庭番は対象を取るモンスター効果から氷結界を守るモンスターだ

ドウローレン辺りに攻撃されて、リバーシした時に発動するスノーマンイーターの効

果が発動した場合

強制効果だから必ず表側表示のモンスターを1体破壊する必要があるんだぞ

そうなった場合、氷結界は対象にできないからワールド・エンチャントが破壊され

る

無防備状態を晒せと言うのか貴様は」

「私が楽になるのに……それ以上に今、私がピンチだけど」

気のせいかな？

この2人の決闘<sup>デュエル</sup>、私が普段している決闘<sup>デュエル</sup>と次元が違う気がする。

お互いにモンスター効果とか理解して、すぐにピンチを回避してる。  
ここまで戦って、まだ1回しかライフが減っていないって凄い。

「仕方無い、グルナードの効果でもう1度召喚をする

氷結界の輸送部隊を召喚して、効果を発動

墓地の氷結界の術者と氷結界の修験者をデッキに戻して、お互いにドロ

ドウローレンの効果を発動して、輸送部隊、御庭番を手札に戻して攻撃力をアップさせる

ドウローレン、グルナード、軍師を守備表示に変更

これで私のターンは終了」

「俺のターン、ドロ

魔法カード、貪欲な壺を発動する

墓地に存在するモンスター5体をデッキに戻し、デッキからカードを2枚ドロする

俺はスノー・ドラゴン2体、スノーダスト・ドラゴン、ブリザード・ドラゴン、氷霊神ムーラングレイスをデッキに戻す

そしてデッキからカードを2枚ドロ

お兄ちゃんの手札が8枚にまで増えちゃった。

咲良さんの氷結界の輸送部隊の効果とか、色々とでこんな事に。

でも何回も墓地からモンスターを回収してるから全然墓地のモンスターが増えない。デツキと手札と墓地をモンスターが走り回ってる。

「魔法カード、強欲なウツボを発動

手札の水属性モンスター2体をデツキに戻し、デツキからカードを3枚ドロウする  
俺は手札の水属性モンスター、ドラゴン・アイスとE・HERO アイスエツジをデツキに戻す

そしてデツキからカードを3枚ドロウ」

手札を2枚戻してデツキから3枚ドロウ？

魔法カードの強欲なウツボを使って、手札が2枚減って、3枚ドロウだから……

あ、ただの手札交換カード？

「ふむ……魔法カード、トレード・インを発動

手札のLV8のモンスター、ブリザード・プリンセスを捨ててデツキから2枚ドロウ場に存在するコールド・エンチャンターに乗っているアイスカウンターを4つ取り除き

手札より、スノーダスト・ドラゴンを特殊召喚する」

氷でできた体を持つ大きな赤い目のドラゴン。

アイスカウンターを取り除いて特殊召喚できるんだ……

「スノーダスト・ドラゴンが表側表示で存在している限り

アイスカウンターが乗ったモンスターは攻撃できず、表示形式も変更できない効果だったはず

コールド・エンチャンターは高攻撃力の壁にしなければならない」

コールド・エンチャンターの体の氷を食べてるスノーダスト・ドラゴン。

これでアイスカウンターを取り除いているんだ……

ついでに凄く冷たそうなブレスでコールド・エンチャンターをカッチコチにしてる。

今のブレスでアイスカウンターが乗っているモンスターは動きを封じられるのかな？

それでもコールド・エンチャンターに乗っているアイスカウンターは5つ。

攻撃力は3100だからまだまだ強い。

「更にもう1体だ、アイスカウンターを4つ取り除いてスノーダスト・ドラゴンを特殊召喚」

「2体目……だけど、まだコールド・エンチャンターにはアイスカウンターが乗っている攻撃力も1900まで下がったし、攻撃もできない」

でもスノーダスト・ドラゴンの攻撃力は2800も有る。

咲良さんのモンスターだって簡単に倒されても不思議じゃない。

「ならこうするまでだ、スノーマン・クリエイターを召喚して効果を発動

自分の場の水属性モンスターの数だけ、相手モンスターにアイスカウンターを乗せる  
俺の場の水属性モンスターは4体、とりあえずドウローレンにカウンターを全て乗せ  
る

そして追加効果、アイスカウンターを3つ以上乗せた場合に発動

相手の場に存在するカードを1枚選択して破壊する

俺が破壊するカードは氷結界の軍師だ」

さつきみたいに雪達磨を投げつけてドウローレンを雪達磨で埋めちゃった。

そして氷結界の軍師に雪達磨を投げつけ……あれ？ 雪達磨の中に何かが入ってる

？

何が入っているのかと考えている間に、氷結界の軍師に雪達磨が直撃した。

雪達磨が壊れて、中から鱗みたいなのが出てきた!?

しかも氷結界の軍師がガブガブってされて、破壊されちゃった……アレ、何？

「自分の場の水属性モンスター2体、スノーマン・クリエイターとコールド・エンチャン  
ターを生贄にする

手札からアイス・ブリザード・マスターを特殊召喚だ」

氷でできた杖を持ち、金髪の長い髪を靡かせている綺麗な女のモンスター

攻撃力2500で特殊召喚効果を持っているモンスター……咲良さん、危ない？  
「……1ターンでそんな布陣、できるもの？」

「お前が手札を潤してくれたからな

でなければここまでできたとは思わんよ」

氷結界の輸送部隊、何回も効果を発動したら仕方無い？

だけど、効果を使わなかったら咲良さんも手札が足りなかつたし……難しい。

「永続魔法、異次元海溝を発動

このカードの発動時、自分の場・手札・墓地の中から1体、水属性モンスター選択して除外する

俺が選択するカードは墓地に存在する水属性モンスター、氷の女王だ」

このタイミングで除外？

どんな意味が有るんだろう？

「これで俺の墓地に存在するモンスターはブリザード・プリンセス、  
ブルーアイス・ホワイトナイト・ドラゴン  
青氷の白夜龍

スノーマン・クリエーター、コールド・エンチャンター、スノーマンイーターの5体

全て水属性のモンスターであり、この5体のみだ」

「ちよつと、まさか……」



「手札より、氷霊神ムーラングレイスを特殊召喚する

そしてこの特殊召喚の成功により、相手の手札をランダムに2枚捨てる効果が発動する

4枚の内、真ん中の2枚を捨ててもらおうか」

「また手札が……」

攻撃力2800のモンスターがまた出てきた。

攻撃力2800のモンスターが3体、2500が1体で咲良さんの残りライフは7300。

そして壁モンスターは2体だから、なんとか耐えられる。

「アイス・ブリザード・マスターの効果を発動

1ターンに1度、場に表側表示で存在するモンスターを1体選択し、アイスカウンターを1つ乗せる

この効果で氷結界の虎将 グルナードにアイスカウンターを1つ乗せよう」

アイス・ブリザード・マスターは杖を振りかぶって……殴った!?

しかも殴られたグルナードが凍った! 更にスノーダスト・ドラゴンが氷のプレスで更に凍らせた!

だけど、アイスカウンターを乗せる意味って有るの?

「アイス・ブリザード・マスターのもう1つの効果を発動

自身を生贄にする事で、アイスカウンターが乗ったモンスターを全て破壊する」

「ちよっ！」

「アイスカウンターが乗ったモンスターが氷結界の虎王　ドゥローレンと氷結界の虎将  
グルナードの2体

アイス・ブリザード・マスターを生贄にし、ドゥローレンとグルナードを破壊する」  
アイス・ブリザード・マスターが杖を振りかざすと、凍っていた2体のモンスターの  
氷が粉々になった。

この術で力を使い切ったのか、アイス・ブリザード・マスターは倒れて、消えていっ  
た。

「私の、氷結界のモンスター達が……」

これで咲良さんの場にカードは無い。

お兄ちゃんの場合には攻撃力2800のモンスターが3体。

この攻撃を防ぐ手段は、無い！

「終わりだ

スノーダスト・ドラゴン2体と氷霊神ムーラングレイスでダイレクトアタック直接攻撃」

「くああっ！」

スノーダスト・ドラゴン達は氷のブレスで攻撃。

氷霊神ムーラングレイスはお腹部分の氷柱を落としての攻撃。

咲良さんのライフは0、お兄ちゃんの勝ち！

「俺の勝ちだな」

「また負けた……そろそろ勝ちたい」

「頑張れ」

何回も決闘<sup>デュエル</sup>して、全部お兄ちゃんが勝ってるんだ。

あ、そうだ忘れてた。

「咲良さん」

「なに？ 玲ちゃん」

「どうしてシンクロモンスターを知ってる？」

「どうして……知ってるから？」

「それは答えになるのか？」

知ってるから知ってる、間違っていないから答えになってる？

よくわかんない。

「一応訊くけど、玲ちゃんも使うの？」

「使うぞ」

俺が許可した時以外では絶対に使うなど言っているがな  
ちなみに、俺のライフも相当削られたりする時も有る

玲は強いぞ？ 鍛えたからな」

鍛え……た？ 拷問の間違いじゃ？

そう言いたいぐらいスパルタだった気がするけど、きつと気のせいじゃない。

「という訳だ咲良、次は玲と決闘な」デュエル

「え？」

え？ 聞いてないの？

「何故驚く？ 楽しみだろう？」

「私が玲ちゃんと決闘？」デュエル

「別に構わんだろう？」

ここに来たのだからって、半分はそれが理由だからな」

「わ、私達が決闘をした意味は？」デュエル

「玲が咲良と決闘をしたくなるかどうかのテスト？」デュエル

それで玲、咲良の実力はどうだった？」

咲良さんの実力なんて、当然だけど……

「強かったと思う、是非とも対戦を願いたい」

「……だよ、受けてやれば？」

当然だが、デュエルデツキは変えていいぞ」

「玲ちゃんと決闘……する」

玲ちゃんの実力も気になるし」

咲良さんと決闘、デュエル頑張ろう。

きつと強い、私の本気のデツキで戦う！

「お手合わせ、お願いしようかな」

「望むところ」

私は自分のデュエルディスクデツキを決闘盤にセット。

咲良さんもデツキをセットして、お互いに準備はできた！

「んじゃ、頑張れよ」

お兄ちゃんは少し下がり、のんびりしてる。

ただ今はお兄ちゃんに目は向かない、目の前の相手によそ見なんてできない！

デュエル「決闘！」「デュエル決闘」

## 12話【冬休み編2 玲の本気】

「決闘！<sup>デュエル</sup>」

確か玲ちゃんのだツキは「スキルドレイン」や「最上級モンスター」だったはず。

または「機械族」や「サイバー・ドラゴン」を使っていたかな？

どのだツキにしても、攻撃力の高いパワーだツキを好んで使用していた。

今回使うだツキはいったいどんなだツキなのか……

「……って、今回のライフは？」

「8000でいいだろう」

俺と玲はいつもそれでしている」

毎回OCGルールでしていた？

それともライフだけ8000で？

アニメルールのままライフ8000かな、今の言い方だと。

「先攻は私、ドロー！」

カードを2枚伏せて、ターンエンド！」

2枚伏せただけ？

私の知っている玲ちゃんのデッキは重量級だけど、出しやすいモンスターが多かったはず。

手札事故の可能性も有るけど、伏せるだけというのは不気味。

「……………」

堅守瑞貴がニヤニヤした顔で私を見る。

多分、玲ちゃんのデッキを見て驚くと思っただけ。

だけどデッキを知っている私が驚くと思っただけは大間違い。

「私のターン、ドロロー」

ヘル・セキュリティを準備表示で召喚」

頭にパトカーのサイレンみたいなのがついた小型の悪魔モンスター

とりあえず様子見という事でこのモンスターかな？

「カードを一枚伏せて、ターンエンド」

「私のターン、ドロロー！」

自分の場にモンスターが存在しない場合、このモンスターは生贄無しで召喚できる

手札より時械神メタイオンを召喚！」

赤いボディ、中央の巨大な鏡みたいな場所には不気味な顔の巨大な天使族モンスター

……時械神!!

そんなモンスターをデッキに入れてるって、どんなデッキ!?

「このモンスターは自分の場にモンスターが存在しなくても召喚できるLV10のモンスター」

攻撃力は0だけど……バトル、メタイオンでヘル・セキュリテイに攻撃!」

メタイオンの拳がヘル・セキュリテイに直撃するけど平気そう。

むしろ馬鹿にしてる、その程度の攻撃なのかって……相手が天使族モンスターだから

?

だけど、物理の計算から考えたら、あの質量の拳で殴られたら物凄い威力になると思  
うんだけど……

「攻撃表示のメタイオンが戦闘を行った場合、自分が受ける戦闘ダメージは0になる

そしてバトルフェイズ終了時、メタイオンの次の効果が発動

メタイオン以外のモンスターを全て持ち主の手札に戻し

戻したモンスターの数×300ポイントのダメージを相手に与える

ヘル・セキュリテイを手札に戻して」

メタイオンがその巨大な顔をヘル・セキュリテイに近づけてくる。

ヘル・セキュリテイは段々と怖くなって手札に逃げてきた。

あんな顔を間近で見たら、逃げたくなるのも仕方無い。



「手札に戻ったモンスターは1体

よって300ポイントのダメージ」

残りライフは7700、まだまだ余裕が有る。

「だけど、時械神メタイオンの効果はもう1つ有る

自分のスタンバイフェイズ時にデッキに戻ってしまふ効果

次のターン、また私がヘル・セキュリティを出せば元のまま」

「心配ご無用、私のターンはまだ終了してない

永続罠、メタル・リフレクト・スライムを発動！

発動後、このカードはモンスターとなって守備表示で私の場に特殊召喚される

このモンスターは攻撃できないけど、問題は無い」

銀でできたスライム状のモンスター……気持ち悪い。

私はワームのベトベトした形状のモンスターもダメだけど、スライムのヌチョヌチョしたのも苦手。

うううう……早く消えてくれないかなあ。

「(へえ……ふーん)」

「私の場に、2体のモンスターが揃った」

「2体のモンスター？」

「LV10のメタル・リフレクト・スライムと時械神メタイオンでオーバーレイ！」

2体のLV10モンスターで、オーバーレイネットワークを構築、エクシーズ召喚！  
発進せよ！ 超弩級砲塔列車グスタフ・マックス！」

走って来たのは凄く巨大な砲塔を持った列車型のモンスター……

「……は？」

ちよつと待って、こんなに簡単に出てくるモンスターだっけ？

超弩級砲塔列車グスタフ・マックスって、こんなに簡単だっけ？」

「玲のデツキは超重量級モンスターで固められた専用デツキだぞ？」

最上級モンスターなんて簡単に出せる、故に簡単に出てくるぞ」

ええー……

「やっぱりエクシーズ召喚も知ってるみたいだし、問題無い

ならこのままグスタフ・マックスの効果発動！」

1ターンに1度、このモンスターのオーバーレイ・ユニットを1つ取り除く

時械神メタイオンを素材コストとして墓地へ送って、相手に2000ポイントのダ

メージを与える！」

発射オーライ・ビィイイッグ・キャノオー………ン！」

「え、嘘、ちよつと、ま、ええええええ！」

砲塔から凄まじい巨大極太ビームが発射されて、私に直撃。  
目がチカチカする……

「これで私はターンエンド！」

ライフが更らに持っていかれて、残りライフが5700。

何度も効果を受けたら負けるのだけど、さすがに攻守3000のモンスターは辛い。

「私のターン、ドロー」

自分の場にモンスターが存在していない場合、このモンスターは特殊召喚できる

私はE—HERO ヘル・ブラットを特殊召喚！」

頭と背中に悪魔の翼みたいなものを付けた、見た目若干虫っぽい悪魔。

数少ない、悪魔族の特殊召喚モンスター、だけど十代の前じゃ使えないカード。

だから普段はヘル・セキュリティのリクルート効果で生贄を持つてくる。

「E—HERO?」

「私はE—HERO ヘル・ブラットを生贄にして、超魔神イドを召喚！」

私のフェイバリットモンスター、超魔神イド！

送りつけデッキ以外で活躍が殆ど無いなんて言わせない！

「更にフィールド魔法、暗黒界の門を発動！」

私の背後に巨大で、禍々しい雰囲気を持った門が現れる。

暗黒界へと続く、闇の門の前に、どこまで戦えるかな？

「このカードが存在している限り、悪魔族モンスターの攻撃力は300ポイントアップする」

そして暗黒界の門の効果を発動

1ターンに1度、自分の墓地の悪魔族モンスターをゲームから除外、私はE—HER  
O ヘル・ブラットを除外

そして手札の悪魔族モンスターを捨てる、私はヘル・セキュリティを捨てる  
その後、デッキからカードを1枚ドロウする」

「墓地のカードを除外して手札交換？」

「そうかもしれないけど、そうじゃないかもしれない」

だけど問題は無い、永続魔法、一族の結束を発動！

自分の墓地の元々の種族と、場に存在する同じ種族のモンスターの攻撃力を800ポイントアップさせる！

私の墓地には元々の種族が悪魔族のヘル・セキュリティがいる

超魔神イドも悪魔族モンスター、よって攻撃力は800ポイントアップ！

「暗黒界の門の効果と合わせて攻撃力が3300……」

超弩級砲塔列車グスタフ・マックスの攻撃力3000を超えた!？」

「更に装備魔法、ヴィシヤス・クローを超魔神イドに装備！

攻撃力を更に300ポイントアップさせる！」

超魔神イドの前足の1本が鋭いかぎ爪へと変化する。

攻撃力は3600、十分過ぎる攻撃力になった。

「バトル、超魔神イドで超弩級砲塔列車グタフス……グスタフ・マックスに攻撃！」

超魔神イドのかぎ爪で叩きつける攻撃により、グスタフ・マックスは破壊された。

戦闘ダメージは僅か600、とはいえあの重量級モンスターは破壊できた。

「グスタフ・マックス……でも、名前は間違えないで」

「ズ、ズめん……」

名前、覚えにくいじゃない。

「だけど、戦闘ダメージを受けたこの瞬間、手札からトラゴエディアを特殊召喚！」

黒々とした、蜘蛛みたいな下半身を持つ悪魔族モンスター

なんだか、嫌な予感しかない。

「このモンスターは自分が戦闘ダメージを受けた時、手札から特殊召喚ができる

このモンスターの攻撃力と守備力は、自分の手札の枚数×600になる

私の現在の手札は3枚、よって攻撃力と守備力は1800となる！」

多分、あのモンスターの目的は攻撃力じゃない。

狙っている事は大体予想ができるけど……

「私はこれで、ターンエンド」

「私のターン、ドロロー！」

この瞬間、手札が増えた事でトラゴエディアの攻撃力と守備力が600ポイント上昇し、2400！

魔法カード、強欲な壺を発動して更に2枚ドロロー！

いくら攻撃力を上げたって、私のモンスターの前じゃ無力だって教えてあげる

そして、私の前でフィールド魔法を発動した事を後悔して」

フィールド魔法を発動した事を後悔？

後悔するようなモンスターなんて……まさか！

「エクストラデッキからサイバー・エンド・ドラゴンをゲームから除外！

Sin サイバー・エンド・ドラゴンを手札から特殊召喚！」

翼が黒く、3つの頭部の内1つが黒く、1つが白い仮面に覆われたサイバー・エンド・ドラゴン。

まさか、こんな大型モンスターを出してくるだなんて思わなかった……

「玲を相手にパワー勝負だなんて、無謀な事をするな」

「さ、さすがにこれは予想外……それで、次は何を出してくる？」

また伏せカードはメタル・リフレクト・スライム？

他に簡単にLV10のモンスターなんて出せないと思うけど」

「それでもない、出そうと思えば簡単に出せる

永続罫、光のピラミッドを発動！」

黄金に輝く巨大なピラミッドが玲ちゃんの背後に現れる。

ちよつとちよつと、また巨大なモノが玲ちゃんの近くに……玲ちゃんが凄く小さく見える。

「そしてこのカードが場に存在している時、ライフを500ポイント支払う

手札からスフィンクス・テレーリアを特殊召喚！」

顔が赤髪の女性だけど、体は翼の生えた獅子のモンスター

あんなモンスターまでデッキに……って、あのモンスターもLV10!?

「また、超弩級砲塔列車グ……グス、タフ？ グスタフ・マックスをエクシース召喚するつもり？」

「お兄ちゃんが言った事を忘れた？」

私を相手にパワー勝負なんて、無謀だって

墓地のモンスターを全てデッキに戻し、究極封印神エクゾディオスを特殊召喚！」

エクゾディアと似ているけど肌が浅黒く、鎧が黒くなったエクゾディオスが現れる。





胸元からまたも極太巨大ビームが発射されて、超魔神イドがアツサリと……  
 攻撃力5000の攻撃なんて簡単に防げるはずもない。

戦闘ダメージは2700、残りライフは3000にまで減ってしまった。

「続いてトラゴエディアで直接攻撃！」  
ダイレクトアタック

現在の手札は2枚、よって攻撃力は1200!」

トラゴエディアの口から物凄いブレスが……1200のダメージで残りライフは1800。

Sin サイバー・エンド・ドラゴンが居る時、他のモンスターは攻撃できない。

そしてスフィンクス・テレーリアは召喚・特殊召喚をしたターンに攻撃ができない。

更に究極封印神エクゾディオスは墓地に通常モンスターが居なければ攻撃力は0となる。

残す場合はトラゴエディアしか居なかったのだけど……おかげで助かった。

「まだ、私のライフは残ってる」

「そう、だからメインフェイズ2に入って、このターン、まだ私は通常召喚をしていない

超次元ロボ ギャラクシー・デストロイヤーを生贄に、The tyrant

ネNEPTUNEを召喚!」

鰐みたいな4つ足の下半身を持ち、上半身は鎧を着て大鎌を持った人型の鰐のモンス

ター

どうして、この場でこのモンスターを？

「The tyrant NECTUNEは1体の生贄で召喚ができるモンスター

そして生贄にしたモンスターの元々の攻撃力と守備力の合計と生贄にしたモンスター1体の効果と名前を奪う

超次元ロボ ギャラクシー・デストロイヤーの攻撃力5000と守備力2000

更に名前と、効果を奪うけど……あまり意味は無い」

えっと、確かあのモンスターのLVは10だったっけ？

そしてもう1つ思い出したけど、そういえば究極封印神エクゾディオスの効果で墓地のモンスターは……

「これで終わりにしてあげる！」

LV10のThe tyrant NECTUNEとトラゴエディアをオーバーレ

イ！

2体のLV10モンスターでオーバーレイネットワークを構築、エクシーズ召喚！

再び発進せよ！ 超弩級砲塔列車グスタフ・マックス！」

あ、終わった。

「超弩級砲塔列車グスタフ・マックスの効果発動！」



初期ライフが8000の場合でも」

「完全に油断していたからな」

不意打ちだからそこまで削ったけど負けた。

お兄ちゃんの守りを抜く事はあのデツキでも難しい。

しかもそれ以降、アッサリと対策をされて簡単に突破される。

「相変わらず、パワーで攻めるのが好きだな」

「楽しいんだから別に構わんだろう？」

私だって馬鹿じゃない、他のデツキも考えてはいる」

「考えてはいる……が、結局力押しになるだろ？」

「……………」

なんだか恥ずかしい。

自分が単純だっって言われてるみたいで。

「お兄ちゃん、私と決闘デュエルだ！」

今日こそはお兄ちゃんい勝つ！」

「できもしない事は言わない方がいいんじゃないか？」

相手をする事は構わないけどな」

私とお兄ちゃんはデツキをセットする。

確かに力押しのおデッキでお兄ちゃんとは相性は悪いけど。

だけど、負けるつもりなんて無いんだから！

そもそも、パワー対決だったらお兄ちゃんにだって負けない！

「ライフはいつも通り8000でいいな？」

「構わん、今日こそは絶対に勝つ！」

デュエル  
「決闘！」

「私の先攻、ドロー！」

今度はいつもの得意デッキを使う、さっきのデッキの対策用デッキでは勝てないぞ！

魔法カード、トレード・インを発動！

手札からLV8のモンスターを捨て、デッキからカードを2枚ドローする！

私を手札から捨てるカードは磁石の戦士マグネット・バルキリオン！

このカードを捨てて、2枚ドロー！」

お兄ちゃんを相手に手加減もデッキの正体隠しも全く無意味。

このデッキだって、お兄ちゃんが私の為に作ったデッキなのだから……

私の希望通りに、私の性格に合うように、私の実力に合わせたデッキ。

だけど、自分でもこのデッキは改造してるんだからね！

「永続魔法、冥界の宝札を発動！」

更にもう1枚、永続魔法、Advance Zoneを発動！  
カードを1枚伏せて速攻魔法、終焉の焰を発動！

自分の場に攻守0の黒焰トークンを2体、守備表示で特殊召喚する！  
ただしこのターン、召喚・特殊召喚・反転召喚はできない

更にこの黒焰トークンは闇属性モンスターが生贄召喚以外の生贄にできない  
私はこれでターンエンド！」

黒い炎に青い1つ目が出ている黒焰トークンが2体、私の場に現れる。  
今できる手札で最高の出だし、お兄ちゃんだつてそう簡単に……

「俺のターン、ドロロー」

フィールド魔法、フューチャー・ヴィジョンを発動」

辺りが宇宙のような世界へと色を変える。

このカードつて、どんな効果なの？

「更に永続魔法、魂吸収を発動する

そしてフォーチュンレディ・ライティを召喚」

黄色の髪と服、黒いニーソックスと水着みたいなインナーを着た女の子のモンスター  
持つてる杖の先端が黄色の太陽みたいな形なんだけど、逆側が鎌みたいになつて  
ちよつと怖い。

それにしても、攻撃力が？って？

「このモンスターの攻撃力・守備力はこのモンスターのLV×2000となる

ライティのLVは1、よって現在の攻撃力と守備力は2000だ」

「黒焰トークンを破壊する為にそんな弱いモンスターを？」

お兄ちゃん、私を馬鹿にしてるのか？

すぐにそんなモンスターなんて撃破して……」

「この瞬間、フューチャー・ヴィジョンの効果が発動する

モンスターが召喚された時、そのモンスター1体をゲームから除外する」

ライティの足元に穴ができて、その中にライティが落ちちやつた……

そんなカード、ライティを召喚してから発動してもよかつたんじゃないの？

「この瞬間、ライティの効果が発動

このモンスターがカードの効果によって場から離れた時

デッキからフォーチュンレディと名の付くモンスター1体を、特殊召喚する

デッキより、フォーチュンレディ・アーシーを特殊召喚」

ライティが落ちた穴からモンスターが飛び出てきた。

今度は眼鏡をかけた、オレンジをメインカラーにした女の子……どつちかと言えば女

性？

服の色と髪型、顔付きと杖の先端の形が変わったぐらいで、他は殆どライティと同じ。  
……あ、地味に額で光っている第3の目も形がちよつとだけ違う。

このモンスターのLVは6、という事は攻撃力は1200？

「アーシーの攻撃力は自身のLV×400となる

アーシーのLVは6、よって攻撃力は2400だ」

LV1のモンスターから攻撃力2400のモンスターが飛んでくるの？

「特殊召喚時、フューチャー・ヴィジョンの効果は発動しない

そして魂吸収の効果、モンスターがゲームから除外される度にライフを500ポイント回復する

バトルフェイズだ、アーシーで黒焰トークンに攻撃」

「この瞬間に永續畏、血の代償を発動！

自分のメインフェイズ中、または相手のバトルフェイズ中に効果を発動できる！

ライフを500ポイント支払い、通常召喚ができる！

私はライフを500ポイント支払って血の代償の効果を発動！

黒焰トークン2体を生贄にして、闇の侯爵ベリアルを召喚！」

漆黒の大剣を持つ、黒い翼に白いマントの最上級悪魔族モンスター

攻撃力2400のアーシーではベリアルは突破できない！



「召喚したな？」

「ん？ そうだな、召喚したな」

何を今更？

「この瞬間、フューチャー・ヴィジョンの効果が発動

モンスターが召喚された事により、そのモンスターを除外する」

「な、なに!？」

ああ！ ベリアルが穴にポツシュート……せつかく召喚したのに。

「だが、召喚には成功した！ 冥界の宝札の効果発動！

自分が2体以上のモンスターを生贄にした、生贄召喚に成功した時

デツキからカードを2枚ドロウする！」

「モンスターが除外された事で、魂吸収の効果でライフが500ポイント回復する

しかし場がガラ空きだな……アーシーで直接攻撃だ」  
ダイレクトアタック

「クツ……血の代償の効果を再び発動！

手札からモンスターを……あ」

召喚したらまたフューチャー・ヴィジョンで除外されるんじゃないか？

「どうした、召喚しないのか？」

うわ、凄く嘗めるような顔をしてる。

またフューチャー・ヴィジョンで除外されるんだから諦めろって顔だ。

「……なんでもない」

「なら攻撃を続行しても構わんな

アーシーで玲に直接攻撃」

アーシーの持った杖の逆、鎌の部分で斬りつけられ……そうになったんだけど。

アーシーが躓いて転けて、杖が飛んで……あいた！

私の頭にアーシーの杖が落ちてきた、こんなので2400のダメージって、なんだか微妙。

「ふむ……俺はこれでターンエンドだ」

「エンドフェイズ時、Advance Zoneの効果発動！

1ターンに1度、自分が生贖召喚をしたエンドフェイズ時に効果が発動する！

このターン、生贖にしたモンスターの数だけ、効果が発動する！

1体以上の場合、相手の場にセットされているカードを破壊できるんだけど……無いから不発

2体以上の場合、カードを1枚ドローする、この効果でドロー！

そして更に私のターン、ドロー！」

手札補充も十分、ベリアルの抜けた穴はどうやって修復しようかな？

「スタンバイフェイズ時、フューチャー・ヴィジョンの効果が発動

除外されたモンスター、コントローラーの次のスタンバイフェイズ時

このカードの効果で除外されたモンスターは表側攻撃表示で場に戻ってくる

闇の侯爵ベリアルはこの玲のターン、攻撃表示で場に戻る」

穴からベリアルが出てきた。

よくわからないけど、とにかくモンスターは戻って来た。

なんだかよくわからないカードだけど、時間稼ぎにしかならないよ!

「手札からLV5以上の闇属性モンスター、地縛神 C c a p a c A p u を墓地へ送り

手札からダーク・グレファアを特殊召喚!」

体中が黒くて、目が赤い剣を持った男。

なんだか雰囲気怖いけど、効果が便利だからこのデッキだと使う。

「ダーク・グレファアの効果を発動!」

1ターンに1度、手札から闇属性モンスター1体を捨てる事で、デッキから闇属性モンスター1体を墓地へ送る!

私は手札のレベル・ステイラーを捨てて、デッキのレベル・ステイラーを墓地へ送る!

そして墓地に送ったレベル・ステイラーの効果発動！

自分の場のLV5以上のモンスター1体のLVを1下げ、このモンスターを蘇生させる！

闇の侯爵ベリアルLVを1つ下げて、レベル・ステイラーを蘇生！

更にもう1つ、ベリアルLVを1下げ、レベル・ステイラーを蘇生！」

これなら……どうだ！

「永続魔法、冥界の宝札の2枚目を発動！

レベル・ステイラー2体とダーク・グレフアーを生贄にし、邪神ドレッド・ルートを召喚！」

緑の体をした、白い骨のような鎧みたいなものを装着している巨大な悪魔。

私のモンスターは絶対に、戦闘で負けたりなんてしない！

「冥界の宝札の効果発動！

2体以上のモンスターを生贄にして召喚した為、2枚ドロ！」

2枚発動されているから、合計で4枚ドロ！」

「だが召喚だ、邪神ドレッド・ルートはフューチャー・ヴィジョンの効果で除外される

そして魂吸収の効果でライフを回復する」

「ならば特殊召喚をするだけだ！」

魔法カード、ダーク・フュージョンを発動！

自分の手札・場から融合素材モンスターを墓地へ送り

エクストラデッキから悪魔族の融合モンスターを融合召喚する！

手札のE—HERO マリシヤス・エツジと、LV6以上の悪魔族、LV8の溶岩魔人ラヴァ・ゴーレムをダーク・フュージョン！

融合召喚！ 切り裂け、E—HERO マリシヤス・デビル！」

刃物のように鋭い翼、鋭利な爪、悪魔らしい黒い体の邪悪なE—HERO。

さあお兄ちゃん、このモンスターまでは防げないでしょう？

「ふむ……思ったより成長してるな

確かに渡したカードだが、それらのカードをそこまで使うか

若干予想以上だ、少々嘗めていた事は謝ろう」

そう言うお兄ちゃんだけど、余裕そうな顔。

お兄ちゃんからすれば、これぐらいはまだ平気なのかな？

「……バトルフェイズ！」

ベリアルでアーシーに攻撃！」

ベリアルの大剣で叩き切r……らない？

剣の腹の部分で頭を強打して破壊、紳士のように全然紳士じゃない。

アーシーの攻撃力は2400でベリアルが2800、400のダメージ！  
「マリシヤス・デビル！ お兄ちゃんに直接攻撃だ！」  
ダイレクトアタック

爪を立て、お兄ちゃんに錐揉み回転しながら突撃。

マリシヤス・デビルの攻撃力は3500、これは大きなダメージになる！

これでお兄ちゃんに与えた戦闘ダメージは3900

魂吸収の効果で1500回復していたから、残りは5600！

「私はこれでエンドフェイズ、Advance Zoneの効果を発動する

セットカードが無いから1つ目の効果は不発

2つ目の効果、カードを1枚ドロロー！

そして3体を生贄にして生贄召喚をした場合、墓地のモンスター1体を手札に加える

！

私はこの効果で墓地の溶岩魔人ラヴァ・ゴーレムを手札に戻す

これで私のターンは終了だ」

お兄ちゃんにはこれでプレッシャーになったはず。

溶岩魔人ラヴァ・ゴーレムは相手モンスター2体を生贄にして特殊召喚されるモンス

ター

しかも、コントローラーに1000ポイントのダメージを与える危険な効果。

前はこのモンスターでボロボロにされたけど、今回は私が使う！」

「ふむ……俺のターン、ドロ」

このスタンバイフェイズ時、除外されていたライティが俺の場に攻撃表示で戻ってくる

そして戻って来たライティの効果が発動

スタンバイフェイズ時に自身のLVを1つ上昇させる

ライティはこれでLVが2になり、攻撃力が400となった」

攻撃力は低いし、問題無いかな？

「装備魔法、ワンド・ワンドを発動

魔法使い族モンスターにのみ装備できるカードだ

装備モンスターの攻撃力が500ポイントアップする」

ライティの持っていた杖が先端に緑の宝石が装飾された、若干不気味な杖に変化した。

ライティが振ってるけど、なんか凄く嫌そうな顔をしてる。

「攻撃力を500ポイントアップしたって……」

「ワンド・ワンドのもう1つの効果を発動

このカードと装備モンスターを墓地へ送り、デッキからカードを2枚ドロする」

ライティは杖を振って……また穴に落ちていった。

フューチャー・ヴィジョンの効果じゃないのに落ちるの？

「装備魔法、ネクロの魔導書を発動

墓地の魔法使い族モンスター1体の除外と、手札の魔導書と名の付くカードを相手に公開して発動する

俺は墓地のアーシーを除外し、手札のグリモの魔導書を公開する

墓地の魔法使い族モンスター1体を攻撃表示で蘇生させ、このカードを装備する

ただし、ネクロの魔導書は1ターンに1度しか発動できないがな

俺が蘇生させるモンスターはフォーチュンレディ・ライティだ」

ライティが穴から紫色の怪しい本を持って戻って来た。

だけど攻撃力は僅か200、怖い相手じゃない。

でも、どうしてアーシーを蘇生させなかったのかな？

「ネクロの魔導書のもう1つの効果

このカードを装備しているモンスターのLVは、除外したモンスターのLV分アップする

除外したアーシーのLVは6、よってライティのLVは6上昇し、攻撃力は1400だ



そして除外された事で、魂吸収の効果でライフを500回復」

「ライティの攻撃力はまだベリアル半分程度

そんな攻撃力では、私のモンスターは倒せない」

「故にもう少し動く、速攻魔法、地獄の暴走召喚を発動する

俺の場に攻撃力1500以下のモンスターが特殊召喚され、相手の場にモンスターが存在している時に発動できる

俺は今特殊召喚したモンスターをデッキ・手札・墓地から可能な限り特殊召喚する

玲も自分の場の好きなモンスターを選択し、デッキ・手札・墓地から好きなだけ特殊召喚しろ

俺はライティをデッキから2体、特殊召喚する」

「私はベリアル、デッキから2体特殊召喚する」

私の場にベリアルが3体並んだ。

攻撃力は2800、3体の合計は8400、1ターンキルができてしまう。

「次に先ほど見せた魔法カード、グリモの魔導書を発動

デッキから魔導書と名の付くカードを1枚、手札に加える

ただし、グリモの魔導書は1ターンに1度しか発動できない

俺はこの効果によりデッキからセフェルの魔導書を手札に加える」

魔導書って名前のカード、さっきから効果がよくわからない。

お兄ちゃんは何がしたいの？

「手札に加えたセフェルの魔導書を発動

自分の場に魔法使い族モンスターが存在する場合、手札の魔導書と名の付くカードを相手に見せ

自分の墓地に存在するセフェルの魔導書以外の魔導書と名の付く通常魔法カードを1枚選択して発動する

俺の場にはライティが存在し、手札のゲートの魔導書を公開、墓地の魔導書はグリモの魔導書を選択する

セフェルの魔導書の効果は、今選択した墓地の通常魔法と同じ効果となる

よってグリモの魔導書と同じ効果、デツキの魔導書と名の付くカードを1枚手札に加える

俺が手札に加えるカードはヒュグロの魔導書だ」

手札がぐるぐる回るう……

「次に魔法カード、フォーチュンフューチャーを発動

除外されているフォーチュンレディを墓地へ戻し、デツキからカードを2枚ドロースる

先ほどネクロの魔導書で除外したアーシーを墓地へ戻し、2枚ドロ―

またドロ―？ さっきから何を狙っているの？

「永続魔法、異次元隔離マシ―ンを発動

お互いの場に存在するモンスター―体を選択し、そのモンスター―を除外する

闇の侯爵ベリアル―の効果で、そいつ以外のモンスター―は攻撃・魔法・罠の対象にできない効果だからな

俺が選択するモンスター―は俺の場のネクロの魔導書を装備しているライティと、玲の場のベリアル―だ」

お兄ちゃんの背後に巨大な機械が現れ、その機械に吸い込まれるライティとベリアル―。

さっきからお兄ちゃんの使うカードがめんどくさい。

「装備対象が居なくなつた事でネクロの魔導書は破壊される

そしてライティの効果が発動し、デッキからフォーチュンレディ・ウォーテリーを特殊召喚する

除外された事で魂吸収の効果でライフを2枚分、1000ポイント回復して

特殊召喚されたウォーテリー―の効果が発動する

特殊召喚された時、自分の場にウォーテリー―以外のフォーチュンレディ―が存在してい

る場合、2枚ドローする

ウォーテリー以外のフォーチュンレディであるライティが存在している、よって2枚ドロー」

今度は青を基準とした女の子、杖の形も若干水っぽい。

攻撃力は1200、LVが4だからLV×300の攻撃力になるのかな？

そしてお兄ちゃんは更にドローした、この後もきつともつとドローするんだろうなあ  
……

「魔法カード、ブラック・コアを発動

手札を1枚捨て、場に存在する表側表示のモンスターを1体除外する

俺が選択するカードはライティ、手札を1枚捨ててライティを除外だ

そしてライティの効果により、ウォーテリーを特殊召喚

魂吸収の効果でライフを500回復し、ウォーテリーの効果で2枚ドロー」

ライフが2000も回復して、お兄ちゃんのライフが7600にまで増えた。

頑張つてライフを削つたのに、これじゃあ殆ど意味が無いよ。

「速攻魔法、ゲートの魔導書を発動

自分の場に魔法使い族モンスターが存在している場合、墓地の魔導書と名の付くカー

ドを3枚まで除外して発動する

俺の場にはライティとウオーテリーが存在している、墓地のネクロの魔導書、グリモの魔導書、セフェルの魔導書を除外

除外した枚数によってこのカードの効果が変更される、ただしゲートの魔導書は1ターンに1度しか発動できない

3枚除外した時のゲートの魔導書の効果は、相手の場のカードを1枚選択し、除外する効果

この効果により、Advance Zoneを除外してもらおうか？」

「ぐ……ぐう……」

私のデッキの、キーパーツが除外されちゃった。

このカード、1枚しかお兄ちゃんに貰ってないのに！

「ゲートの魔導書のコスト、そしてAdvance Zoneを除外して合計4枚除外された

魂吸収の効果により、ライフを2000回復する

魔法カード、フォーチュンフューチャーを発動

除外されているフォーチュンレディを墓地へ戻す

ブラック・コアで除外したライティを墓地へ戻し、デッキからカードを2枚ドロ―

沢山ドロ―されたけど、ライティの攻撃力は僅か200

ウォーテリーの攻撃力だった1200しか無い。

私のモンスターは低くてもベリアルは2800も有る。

色々とされてるけど、私のモンスターはまだまだ平気！

「さて、俺はまだこのターン……通常召喚をしていない」

「……なに？」

そういえばそうだったような気がするけど……

「ウォーテリー2体を生贄にし、地縛神 Asllla pisscuを召喚する」

すっごく大きな鳥のモンスター、お兄ちゃんも地縛神を使うんだ。

って、それって凄く拙い状況なんじゃ!?

「地縛神 Asllla pisscuはフューチャー・ヴィジョンの効果で除外される」

「あ、ふう……驚かせるな」

ダイレクトアタック  
直接攻撃を受けると思ってた。

「除外された瞬間、地縛神 Asllla pisscuの効果発動」

このカードが自身のフィールド魔法が存在しない時に破壊される効果以外で場から

離れた時

相手の場に存在する表側表示モンスターを全て破壊し、相手に破壊した数×800ポ

イントのダメージを与える」

「いくらなんでもそれは反則だろ!？」

出てきた瞬間に効果発動して、しかも後で戻って来てまた発動できるだなんて!」

地縛神 As<sup>ア</sup>lla<sup>ラ</sup> pi<sup>ピ</sup>scu<sup>ク</sup>は私のモンスターを啜えて、呑み込んで消えちゃつ

た……

マリシヤス・デビルにベリアルが、私のモンスターがあ……

「3体の破壊、よつて2400のダメージだな

血の代償の効果を1度使っているから残りライフは5100か

地縛神 As<sup>ア</sup>lla<sup>ラ</sup> pi<sup>ピ</sup>scu<sup>ク</sup>が除外された事で、魂吸収の効果でライフが回復す

る

そしてそうだな……とりあえず、ライフで直接攻撃ダイレクトアタックでもしておこうかな」

血の代償を使えただけど、ライフの攻撃力はたったの200。

無駄にライフを減らすより、素直に攻撃を受ける。

私の残りライフは4900、お兄ちゃんのライフは10100と私の倍以上。

この状況、どうしよう？

「カードを3枚伏せて、ターンエンドだ」

お兄ちゃんの場にはモンスターはライフだけ、だけど次のターンに地縛神

As<sup>ア</sup>lla<sup>ラ</sup> pi<sup>ピ</sup>scu<sup>ク</sup>が戻ってくる。

フィールド魔法のフューチャー・ヴィジョン、永続魔法の魂吸収と異次元隔離マシン、そして伏せカードが3枚。

どうやってあの布陣を突破しよう……

「私のターン、ドロロー！」

このスタンバイフェイズ、フューチャー・ヴィジョンで除外されていた邪神ドレッド・ルートが戻ってくる！

そしてドレッド・ルートの効果、このモンスターが存在している限り

ドレッド・ルート以外のモンスターの攻撃力・守備力は半分になる！」

ライティの攻撃力は更に下がってたったの100！

ドレッド・ルートでライティを倒せば、大ダメージを与えられる！

「墓地の2体のレベル・ステイラーの効果発動！

ドレッド・ルートのLVを下げて、2体を復活させる！」

お兄ちゃんの場合にモンスターはライティしか居ない。

これじゃアラヴァ・ゴーレムを特殊召喚できないから諦める。

多分、これも狙っていたんだろうなあ……

「魔法カード、トレード・インを発動！」

手札のLV8のモンスター、溶岩魔人アラヴァ・ゴーレムを捨てて、2枚ドロロー！



墓地の悪魔族モンスターを3体、溶岩魔人ラヴァ・ゴーレム、闇の侯爵ベリアル、E—HERO マリシヤス・エツジを除外！

手札からダーク・ネクロフィアを特殊召喚！」

青白い肌をした、壊れた赤ん坊の人形を抱いている悪魔。

正直に言えば凄く怖いけど、大丈夫！

「モンスターが除外された、魂吸収の効果でライフを1500回復する」

「構わない！ 魔法カード、ダーク・コーリングを発動！

自分の手札・墓地の融合素材モンスターを除外して

ダーク・フュージョンの効果でのみ融合召喚できる融合モンスターをダーク・フュー

ジョンで融合した扱いで融合召喚する！

墓地の岩石族・磁石の戦士マグネット・バルキリオンと悪魔族・E—HERO マリ

シヤス・デビルを除外融合！

最強最悪の悪魔、ダーク・フュージョン！ 現れる、E—HERO ダーク・ガイア

！

岩のような鎧を纏った強力な悪魔族モンスター

いくらお兄ちゃんでも、このモンスターまではどうにもできない……はず！

「ダーク・ガイアの攻撃力は融合素材にしたモンスターの元々の攻撃力となる！

融合素材のモンスターはどちらも攻撃力3500、よってダーク・ガイアの攻撃力は7000!

だが、ドレッド・ルートの効果で半減し、それでも攻撃力3500だ!

「ついでに、除外された事で俺のライフは1000ポイント回復する

これで俺のライフは12600だな」

ま、まだまだ!

「レベル・ステイラー2体と、ダーク・ネクロフィアを生贄に捧げる!

出て来い! 邪神アバター!」

漆黒の太陽、邪神アバター、降臨!

「2体以上のモンスターを生贄に、生贄召喚に成功したので冥界の宝札の効果でドロースするが

その前にアバターの効果が発動する!

相手ターンで数えて2ターンの間、相手は魔法・罠カードを発動できない!

これでお兄ちゃんの魔法・罠カードは封じた!」

「ふむ、確かにそれらを封じられれば辛いな

ではここは止めさせてもらおうかな? カウンター罠、運命曲湾を発動する

自分の場に存在するモンスターがフォーチュンレディのみの場合にのみ、発動できる

魔法・罨の発動、またはモンスターの召喚を無効にしてゲームから除外する

そしてこのターンのエンドフェイズ時、持ち主の手札に戻る

俺はアバターの召喚を無効にし、ゲームから除外する

召喚を無効にされた事で冥界の宝札の効果も、アバター自身の効果も発動しない  
更に魂吸収の効果により、俺はライフを500ポイント回復する」

「……………」

心が、折れそう。

「ならばバトルフェイズ！

ダーク・ガイアでライティに攻撃！」

「罨カード、亜空間物質転送装置を発動

自分の場のモンスター1体をエンドフェイズ時までゲームから除外する

この効果でライティを除外し、場から離れた事でライティの効果が発動」

「どんなモンスターが出てきても、ダーク・ガイアには敵わない！」

「ライティの効果にチェーン、ゼロ・フォースを発動

自分の場のモンスターがゲームから除外された時に発動できる

場に存在する全てのモンスターの攻撃力は0となる」

「攻撃力が0!?!」

それじゃあ戦闘では殆ど負け無しのドレッド・ルートの攻撃力も0？

攻撃力が3500も有るダーク・ガイアの攻撃力も0!?

「そしてライティの効果により、デッキからフォーチュンレディ・ダルキーを特殊召喚  
 ダルキーの攻撃力は自身のLV×400となる、LVは5なので攻撃力は2000  
 ドレッド・ルートが場に存在しているから、攻撃力は現在1000となつているな」  
 みんなと色違い、紫色の女の子。

やっぱり額の目とか杖の先端の形は違うけど、これは危険なのでは？

「魂吸収の効果でライフが回復して、俺のライフは13600だな

さて、攻撃を続行するか？」

「続行しない、メインフェイズ2に入る！

血の代償の効果を発動して、ライフを500支払う！

E—HERO ダーク・ガイアを生贄にして、死霊操りしパペットマスターを召喚！

そしてパペットマスターの効果発動！

ライフを2000支払い、自分の墓地に存在する悪魔族モンスターを2体、特殊召喚  
 する！

このターンは攻撃できないけど、既にバトルフェイズは終了しているから関係無い！

私が蘇生させるモンスターは闇の侯爵ベリアルと、地縛神 Cc a p a c A p u d a

！」

青い色を基準として、黄色も所々に入っているゾンビのような顔をしたピエロっぽい悪魔。

その指先の糸で吊し下ろされている地縛神 C c a p a c A p u と闇の侯爵ベリアル。

このモンスター達なら、十分に戦えるはず！

そしてベリアルは他のモンスターに攻撃できなくする効果を持っている。

攻撃力0のドレッド・ルートも、これで守る事ができる！

「そして死霊操りしパペットマスターはフューチャー・ヴィジョンの効果で除外

俺はライフを500回復し、俺のライフは14100

玲は血の代償とパペットマスターの効果で2500のライフを支払って残りは2400だな

そして1体しか生贄にしている事により、冥界の宝札の効果も発動しないって……」

「ドレッド・ルートのLVを2つ下げて、墓地のレベル・ステイラーを2体、守備表示で蘇生させてターンエンド！

エンドフェイズ時、運命曲湾で除外されていた邪神アバターを手札に戻す」

「亜空間物質転送装置の効果で除外されていたライティを場に戻すぞ」

これでレベル・ステイラーが出せし、ライフは厳しいけど血の代償で邪神アバターを召喚できる。

お兄ちゃんは魔法・罫を封じればなんとかなるはずだし、大丈夫……だよな？

「俺のターン、ドロー」

このスタンバイフェイズ時、フューチャー・ヴィジョンで除外されていた地縛神 Asllia piscu なのだ

地縛神と名の付くモンスターはお互いの場に1体しか存在できないモンスターだ

既に場には地縛神 Ccaca Apu が存在しているので、こいつは場に戻って  
 こない」

もし戻ってきていたら攻撃力2500の直接攻撃モンスター

ドレッド・ルートの効果で半減していても、凄く危なかった。

「ライティ、ダルキーの効果発動

自分のスタンバイフェイズ時にLVが1つ上昇する

ライティのLVは2となり、攻撃力は400なのだが半減して200

ダルキーのLVは6となり、攻撃力は2400なのだが半減して1200だ」

それでも、まだ半減しても攻撃力1400のベリアルの方が強い！

「魔法カード、アルマの魔導書を発動

ゲームから除外されている魔導書と名の付くカードを1枚選択し、手札に加える  
ただし、アルマの魔導書は1ターンに1枚しか発動できない

俺はアルマの魔導書の効果により、ネクロの魔導書を手札に加える」

確か墓地の魔法使い族モンスターの蘇生させるカード。

そして装備モンスターのLVを、発動時に除外したモンスターのLV分だけアップさせる。

「装備魔法、ネクロの魔導書を発動

場にはライティとダルキー、そして手札のヒュグロの魔導書を公開し、墓地のアーシーを除外する

墓地のウォーテリーの特殊召喚し、除外したアーシーのLV分だけウォーテリーのLVを上昇させる

ウォーテリーの攻撃力は自身のLV×300となる

現在のウォーテリーのLVはネクロの魔導書の効果も合わせて10、よって攻撃力は3000

しかしドレッド・ルートの効果を受けるので、攻撃力は1500だな」

ペリアルルの攻撃力を上回られた、ドレッド・ルートが危ない！

そして私のライフももつと危ない!

「除外された事で魂吸収の効果でライフを500回復するぞ

ウォーテリーが特殊召喚された時、自分の場に他のフォーチュンレディが存在している

よつて俺はウォーテリーの効果により、デッキからカードを2枚ドロウする

フォーチュンレディ・ウインディーを召喚、そしてウインディーの効果が発動

このモンスターの召喚に成功した時、自分の場のフォーチュンレディの数だけ相手の魔法・罠カードを破壊する」

同じ服で緑の服と髪の色、やっぱり微妙に違う杖の先端と額の目を持つ女の子。

「な、お兄ちゃんの場合にフォーチュンレディは4体……ん?」

フォーチュンレディの数までじゃなくて、数だけって事は

私の魔法・罠カードは3枚、という事は破壊できないんじゃないのか?」

「確かに、本来ならそうかもしれない

しかし俺のフィールド魔法、フューチャー・ヴィジョンの効果も発動される

ウインディーはゲームから除外され、効果が発動する時にフォーチュンレディは3体  
玲の魔法・罠カードと同数となり、破壊効果は適用される」

「そ、そんな……」



ウインディーは穴に落ちながら、杖を投げつけてくる。

杖がブーメランみたいに飛んで、私の血の代償と2枚の冥界の宝札を破壊して穴に入っていく。

血の代償は相手のターンの場合、バトルフェイズ時にしか効果を発動できない。

バトルフェイズに入ってくれば邪神アバターを出せたのに！

「そして除外された事で魂吸収の効果でライフを500回復

魔法カード、ヒュグロの魔導書を発動

自分の場に存在する魔法使い族モンスター1体を選択、俺はダルキーを選択する

選択したモンスターはエンドフェイズ時まで、攻撃力が1000ポイントアップする

ただし、ヒュグロの魔導書は1ターンに1度しか発動できない

攻撃力が1000ポイントアップし、その後、ドレット・ルートの効果で攻撃力が半

減する

よって攻撃力は2200に上昇後、半減して攻撃力は1100だな」

私の残りライフは2400、これは……拙い！

「バトルフェイズ、ウォーテリーでベリアルに攻撃」

ウォーテリーは杖の鎌の部分でベリアル首を……私は100のダメージを受ける。

残りライフは2300、まだ、まだ大丈夫！

「次にダルキーでレベル・ステイラーに攻撃」

杖でレベル・ステイラーを叩き潰すダルキー

守備表示だからダメージは無いから大丈夫！

「この瞬間、ダルキーとヒュグロの魔導書の効果が発動

ヒュグロの魔導書の効果を受けたモンスターが相手モンスターを戦闘で破壊した時

デッキから魔導書と名の付く魔法カードを1枚、手札に加える

俺はデッキよりグリモの魔導書を手札に加える

そしてダルキーの効果は相手モンスターを戦闘で破壊し、墓地へ送った時

自分の墓地のフォーチュンレディと名の付くモンスター1体を特殊召喚する

俺が特殊召喚するモンスターは、フォーチュンレディ・ファイリーだ」

今度は赤い服を基準とした女の子。

ライティ、ファイリー、ウインディー、ウォーテリー、ダルキー、アーシー

6属性のフォーチュンレディが全て出てきた。

「つて、ファイリーだと？」

いつの間にそんなモンスターを墓地へ？」

「1度だけ、手札のカードを捨てる時があったのを忘れたのか？」

俺がブラック・コアの発動コストで捨てた手札のカードが、このカードだ」

あの時に捨てていた？

まさか、あの時からもうこの展開を予想していたの!?

「ファイリーの効果が発動する

このモンスターがフォーチュンレディと名の付くカードの効果で、表側攻撃表示で特殊召喚に成功した時

相手の場に存在する表側表示のモンスター1体を選択し、そのモンスターを破壊する  
そして破壊したモンスターの攻撃力分のダメージを、相手に与える

俺が選択するモンスターは地縛神 C c a p a c A p uだ」

ファイリーは杖の先から炎を撃ち出し、私の地縛神 C c a p a c A p uを破壊する。  
C c a p a c A p uの攻撃力はドレッド・ルートの効果で半減して150

0  
つまり、私は1500のダメージを受け、残りライフは800……

「ファイリーの攻撃力はライティと同じく、自身のLV×200となっている

ファイリーのLVは2、よって攻撃力は400だが、ドレッド・ルートの効果で半減して現在は200だ

そうだな……ファイリーでドレッド・ルートに攻撃」

ファイリーの鎌の攻撃で、ドレッド・ルートを破壊されちゃった。戦闘ダメージは200、残りライフは600。

「これで攻撃力は元に全て戻った

最後にライティでレベル・ステイラーに攻撃」

私のモンスターが、全滅？

魔法・罠カードも1枚も存在していない。

残っているカードは手札の邪神アバターののみ……終わったかな。

「魔法カード、グリモの魔導書を発動

デッキより魔導書と名の付くカードを1枚手札に加える

俺が手札に加えるカードはトーラの魔導書だ

カードを2枚伏せて、ターンエンドだ」

こんな状況でも、全く容赦をしないお兄ちゃん。

もう楽勝なんだから伏せカードなんて伏せなくてもいいのに……

「私のターン、ドロー

フューチャー・ヴィジョンで除外されていた死霊操りしパペットマスターを場に戻す」

そうだ、どうせ負けるなら、負けるんだっただら……

「パペットマスターのLVを2つ下げ、墓地のレベル・スティーラーを復活！」

「アバターを召喚しても、意味は無いぞ？」

「最後の最後、これを見て驚け！」

レベル・スティーラー2体と、パペットマスターを生贄にして

全てを消し去る悪魔！ 邪神イレイザーを召喚！」

蛇のような下半身、そして口のような形をした中には怖い顔が存在している。

最後の足掻きにもならない、ただ見せる為だけの召喚！

「邪神イレイザーの攻撃力は、相手の場に存在しているカードの数×1000ポイントの数値となる！」

お兄ちゃんの場合にはモンスターが4体、魔法・罠ゾーンに5枚、そしてフィールド魔法の計10枚！

よって邪神イレイザーの攻撃力は10000となる！」

「しかし、フューチャー・ヴィジョンの効果により、邪神イレイザーはゲームから除外される

もし除外されなければ、まだ可能性は有ったのだがな」

邪神イレイザーは破壊されて墓地へ送られた時、場のカードを全て破壊する。

しかも、自分で自分を破壊する効果を持っている。

破壊できた場合、お兄ちゃんの手札は0枚、私の手札は邪神アバターののみ。

先に召喚できるモンスターを召喚した方が有利になる戦いになっていた。

だけど……フューチャー・ヴィジョンの効果で、穴へと落ちていくイレイザー

この状況を、打破する事はできなかった。

「除外された事により、俺のライフは500回復する

俺のライフは15600だな」

どうやって勝てばいいのか、誰か教えて。

「ターンエンドだ」

「俺のターン、ドロー」

このスタンバイフェイズ時、フューチャー・ヴィジョンの効果で除外されていたウィンディーが場に戻ってくる

そしてフォーチュンレディ達の効果が発動し、全員スタンバイフェイズ時にLVが1つ上昇する

ライティとファイリーはLV3、ウィンディーはLV4、ダルキーはLV7、ウオー

テリーはLV11

ライティとファイリーは攻撃力600、ウィンディーは1200、ダルキーは280

0、ウオーテリーは3300だ」

合計攻撃力は……8500？

私の残りライフは600、つまりー7900になって……殆ど2回死んでる!?

「今回最も活躍したライティに最後を頼もうかな

バトルフェイズ、ライティで玲に直接攻撃」  
ダイレクトアタック

ライティが私に笑顔でバイバイって手を振って消えた？

どこに行ったかと思って探して見ると、背後にライティが鎌を振りかぶって……斬られた。

そんな、攻撃力600の攻撃じゃないよ。

「はあ……また、負けたか」

「残念だったな、まだまだ負けてやらん」

まったく、お兄ちゃんに勝つのはいつになる事やら。

「そういえばお兄ちゃん、咲良さんはどうする？

まだ気絶したままだが、放置は拙いだろ」

「放置でいいだろ、別に」

「家と呼ぶんじゃないのか?」

「本人が勘違いしていたからいいんだよ

勝てばってな、俺は別にそんな事一言も言っていないのにな」

つまり、お兄ちゃんにも私にも負けた。

だから咲良さんは置いて行かれても、当然だと思っただ。

「後で何か言われるんじゃないのか？」

「別に構わん、どうにでもする

何かしてきても、どうせ咲良の性格じゃ大した事なんてできないしな」

つまり良い人なのかな？

「さて帰るか

帰ったらさっきの決闘デュエルについての話をするぞ」

「嫌だね、お兄ちゃんのもそういう話になると長いからな」

「却下だ」

「横暴だ！」

お兄ちゃんと言ひ合ひしながら帰る。

お兄ちゃんデュエルの決闘解説、為になるけど長い。

慣れたけど、今夜は覚悟しておこう。



## 13話【冬休み編3 結美と玲】

冬休みももうすぐ終わり、あのクリスマスマスの日から俺は特に変化は無い。

だが、妹の玲と咲良の関係は変化したので、こんな状況になっている。

「魔法カード、ダーク・コーリングを発動！」

墓地の岩石族、磁石の戦士マグネット・バルキリオンと悪魔族モンスター、邪神ドレツド・ルートを除外融合！

E—HERO ダーク・ガイアを融合召喚！

このモンスターは融合素材になったモンスターの元々の攻撃力の合計となる！

マグネット・バルキリオンの攻撃力は3500、ドレツド・ルートの攻撃力は400

0

よってダーク・ガイアの攻撃力は7500となる！」

「ちよつ、またそいつ!?!」

「ダーク・ガイアで超魔神イドに攻撃！」

「畏カード、ヘイト・バスターを発動！」

自分のモンスターの悪魔族モンスターが攻撃対象に選択された時

相手の攻撃モンスター1体と、攻撃対象となったモンスター1体を破壊！

更に破壊したモンスターの攻撃力分のダメージを相手に与える！」

「ダーク・ガイアが……だけど、そのダメージは元々の攻撃力で計算される！

よつて、私にダメージは無い！」

……とまあ、なにやら仲が良くなつたらしい。

さすがに家だというのは止めたのだが、例の決闘場デュエルフィールドでよく決闘デュエルをしている。

だから金が飛ぶ飛ぶ、別に大して痛くもないが咲良が金を払わないのに納得ができません。

玲の相手をしてもらっているし、新鮮らしく楽しそうだから許してやるが。

ちなみに戦績は咲良が2勝24敗と負け越している。

そして今回で通算27戦目、よく「超魔神イド」で勝てたりできたものだと思う。

もつとも、そろそろ勝利をほぼ諦めてきたみたいだけどな。

「フィールド魔法、デーモンパレス伏魔殿——悪魔の迷宮——を発動！」

このカードがフィールドに存在する限り、私の場の悪魔族モンスターは全て攻撃力が500ポイントアップする！

終焉の焔の効果で特殊召喚された黒焔トークンは、闇属性モンスター以外の生贄召喚の生贄にできない

「ただどこのモンスターは閻属性！ 2体の黒焔トークンを生贄に、地縛神 Cc a p a c A p u を召喚！」

このモンスターはフィールド魔法が存在しなければ破壊されてしまうけど、フィールド魔法は有るから問題無い！

フィールド魔法の効果により、悪魔族である Cc a p a c A p u の攻撃力は500ポイントアップ！」

「攻撃力3500の地縛神?!」

「Cc a p a c A p u (アップ)は相手プレイヤーに一直接攻撃ができる！」

地縛神 Cc a p a c A p u (アップ)で、結美お姉ちゃんに一直接攻撃！」

「きゃああああ！」

……どうやら、また咲良が負けたようだな。

ちなみに、どうやら妙に咲良に懐いたらしく、玲は咲良を結美お姉ちゃんと呼んでいる。

普段シンクロやエクシーズができないからな、そういう相手ができて嬉しいんだろ

う。

呼ばれている本人は嬉しいが嫌そうという、なんとも複雑そうな顔をしていたがな。

「これで私の25勝2敗だね」

「また負けた……」

お互いにデッキ特性はほぼ理解している、だからアンチカードとかもお互いに入っている。

しかし、咲良のデッキは「超魔神イド」、改造するにも限度が有る。対して玲は超重量級デッキなのでいくらでも改造できる。

現在の玲のデッキは、閻属性悪魔族が中心で「デーモン」の特性も入っている。

「そろそろ諦めたらどうだ？」

「諦めないに決まってる！」

「だとしても、玲を相手にそのデッキでは力不足だろ

元々玲のデッキはパワーデッキ、力で勝とうと思う方がおかしい」

咲良はそれでも攻撃力で勝とうと、色々と試行錯誤してきていた。

だがメインカードが超魔神イドという時点で厳しい。

いくら他のカードを変えたとしても超魔神イドの効果からは逃げられないからだ。

「また負け続けているな、何連敗だ？」

「……18連敗」

「いくらなんでも負けすぎだろ

気分転換に普段と全く違うデッキでも作ってみたらどうだ？」

別に咲良は弱くない、弱くはないのだが……そこまで止まる。

咲良は原作オリジナルカードを使えばかなり強いのだが、それは自重しているらしい。

俺を相手にする時以外にはあまり使う気が無いそうだ。

偶に使ってくれれば、俺も楽しめそうなんだけどな……デッキの弱点を知ってるから攻略は簡単なのだが。

「確かに、全く違うデッキを使うのも有りかもしれない

ちよつと作ってくる、玲ちゃんが相手ならシンクロもエクシーズも使っているし」

対玲用のデッキかよ、俺用じゃなくて。

こいつ、最近自分の目的を忘れているんじゃないかと思う。

俺が学園に居ると悲しい目に遭う奴が居るから、追い出そうとしていたんじゃないのか？

後は俺が学園に居るのを嫌がる為に面倒事を持ってきている、それは俺には通用しないのだがな。

咲良がデッキを作っている間に、玲にも発破を掛けておく。

咲良が新しいデッキを作っているから、お前も新しくデッキを組んでみたらどうだ……とな。

どうしようかと迷っていたが、玲は頷いてデツキを考え始める。  
必要なカードは俺に言えば渡すと言っていたし、相談に来るだろう。

………

………

………

約1時間後、2人のデツキが完成した。

玲にはカードをある程度渡したが、どんなデツキになったかは知らない。

この2人のデツキ構築能力や構成、後は本人次第だ。

「<sup>デュエル</sup>決闘！」

ルールはライフが8000スタート、それ以外は特に変化は無い。

ライフが多い方がお互いに楽しめるからな。

「私の先攻、ドロ―！」

手札から、ジエネラルデーモンを墓地へ送り、効果を発動！

デツキからフィールド魔法、<sup>バンディモナム</sup>万魔殿―悪魔の巣窟―を手札に加える！

そしてそのまま<sup>バンディモナム</sup>万魔殿―悪魔の巣窟―を発動！」

玲の発動したフィールド魔法により辺りが薄暗くなり、一般的なイメージの悪魔達が好みそうな場所へと変化する。

バンデimonium  
万魔殿を発動という事は、玲のデッキは「デーモン」デッキかな？

「そして魔法カード、闇の誘惑を発動！」

デッキからカードを2枚ドロし、手札から闇属性モンスターを1体除外する

この効果で手札のプリズンクインデーモンをゲームから除外する！」

「プリズンクインデーモンを除外？」

プリズンクインデーモンは墓地に送ってこそ意味の有るモンスターだ。

除外する必要は無いに等しいというよりも、デメリットしか無いだろう。

「トランス・デーモンを召喚して、効果を発動！」

1ターンに1度、手札の悪魔族モンスター1体を捨て、エンドフェイズ時まで攻撃力を500ポイントアップさせる！

手札のトリック・デーモンを捨てて、攻撃力を500ポイントアップ！」

「攻撃できないのに攻撃力を上げる意味……」

墓地にモンスターを送る為？」

「正解！ 墓地へ送られたトリック・デーモンの効果発動！」

このカードがカードの効果によって墓地へ送られた時、デッキからトリック・デーモン以外のデーモンを1枚手札に加える！

ただし、トリック・デーモンの効果は1ターンに1度しか使用できない

私はトリック・デーモンの効果により……デツキからデーモンの将星を手札に加える！

更にデーモンの将星の効果、このモンスターは自分の場にデーモンが存在している場合、手札から特殊召喚できる！

デーモンの将星をそのまま特殊召喚、ただしこの効果で特殊召喚する場合、自分の場のデーモンを1枚選択して破壊する！

ただし、デーモンの将星の特殊召喚効果は1ターンに1度しかできない

デーモンの将星の効果により、トランス・デーモンを破壊する！」

デーモンの召喚に少し似た、悪魔の将軍が姿を現す。

帯電した体に捕まれ、トランス・デーモンは悲鳴を上げながら破壊された。

「この瞬間、トランス・デーモンの効果が発動！

自分の場に存在するトランス・デーモンが破壊され、墓地へ送られた時、除外された闇属性モンスター1体を手札に加える！

さつき闇の誘惑の効果で除外したプリズンクインデーモンを手札に加える

そして万魔殿バンデイモナム—悪魔の巣窟—の効果も発動！

戦闘以外でデーモンと名の付くモンスターが破壊され、墓地へ送られた時

破壊されたモンスターのLV未満のデーモンと名の付くモンスターをデツキから1



枚、手札に加える

破壊されたトランス・デーモンのLVは4、よってLV3以下の……トリック・デーモンを手札に加える！」

手札が目まぐるしく変化するが、手札の損失は無いに等しい。

少々手札がばれているとはいえ、玲の手札は現在5枚だ。

手札を数枚公開する代償としてデーモンの将星を特殊召喚したと言ってもいいだろう。

いや、万バンデイモニウム魔殿——悪魔の巣窟——も発動しているので追加要素付きだな。

「カードを3枚伏せて、ターンエンド！」

玲のデッキは「デーモン」でほぼ確定だろう。

細々とした動きはしているものの、相変わらずパワーデッキだと思うが……

ここからどうやって展開していくのかな？

「私のターン、ドロ—— 永続魔法、生還の宝札を発動！」

自分の墓地のモンスターが特殊召喚された時、デッキからカードを1枚ドロする！

続いて魔法カード、炎王の急襲を発動！

相手の場にモンスターが存在し、自分の場にモンスターが存在しない場合に発動できる！

デツキから炎属性の獣戦士族、獣族、鳥獣族モンスター1体を特殊召喚する！

ただし、この効果で特殊召喚されたモンスターの効果は無効にされ、エンドフェイズ時に破壊される

そしてこのカードは1ターンに1度までしか発動できない

私はこの効果により、炎属性・獣戦士族の暗黒のマンティコアを特殊召喚！」

人間の老人のような顔、ライオンの胴体、鳥のような翼に蠍のような尾を持つモンスター1

暗黒のマンティコアなら、咲良が作ったデツキはまた自己再生デツキだろうか？

「そしてビーストライカーを召喚して、効果を発動！

手札のカードを1枚捨て、自分のデツキからモジヤを1体特殊召喚する！

ただし、この効果は1ターンに1度しか発動できない

手札を捨てて、デツキのモジヤを守備表示で特殊召喚！」

こいつらは自己再生効果を持った、キング・オブ・ビーストの効果と関連したモンスターだ。

やはりそういうデツキなのかな？

「更に、ビーストライカーの効果で捨てられた魔轟神獣ケルベラルの効果が発動！

このモンスターが手札から墓地へ捨てられた時、墓地から特殊召喚される！」

チューナーモンスター、魔轟神獣ケルベラルを特殊召喚！

生還の宝札の効果により、デツキからカードを1枚ドロロー！」

ん？ 魔轟神獣？ 魔轟神獣が入るようなデツキなのか？

とりあえず獣族や獣戦士族がメインに入る、「ビースト」デツキなのは解った。

L V 1のモジャ、L V 2チューナーのケルベラル、L V 4のビーストライカー、L V 6の暗黒のマンティコアの4体か。

このモンスター達でどうするつもりだ？

「L V 1モジャに、L V 2魔轟神獣ケルベラルをチューニング！

抵抗すら許さぬ不敗の剣、天届く先まで世界を貫け！

シンクロ召喚！ 全てを奪え、霞鳥クラウソラス！」

緑の体毛に覆われた巨鳥が姿を現すが、大地に立って翼で身を守るように縮こまっている姿はなかなか滑稽だ。

あのモンスターの効果は確か……

「クラウソラスの効果を発動！

1ターンに1度、相手の場に存在する表側表示のモンスター1体を選択して発動する

！

選択したモンスターのエンドフェイズ時まで攻撃力を0にし、効果を無効にする！

私を選択するモンスターは当然、デーモンの将星！」

「そんな効果のモンスターを……」

デーモンの将星は力が抜けたように跪く、辛そうな状態だな。

そして何よりも、屈辱に塗れた顔でクラウソラスを睨み付けている。

「手札の魔轟神と名の付くモンスター、魔轟神獣ガナシアを捨てる

そしてこのチューナーモンスター、魔轟神獣チャワは特殊召喚される！」

更に捨てられた魔轟神獣ガナシアの効果も発動！

手札から捨てられ、墓地へ送られた時に墓地から攻撃力を200ポイントアップして

復活する！

ただし、場から離れた時にガナシアはゲームから除外される

そして墓地からの復活により、生還の宝札の効果でドロー！」

子犬に乗った黄色い小さな悪魔と、薄紫色の二足歩行で歩く象が姿を現す。

ガナシアの攻撃力は元々の攻撃力は1600だが、効果で1800まで上昇する。

玲の場には攻撃力0にまで下がっているデーモンの将星と伏せカードが3枚か……

厳しいかな？

「LV6 暗黒のマンティコア、LV3 霞鳥クラウソラスに、LV1 魔轟神獣チャワを

チューニング！

嫉妬を司る大罪、海の悪魔王は玉座にて世界を見下す！

シンクロ召喚！ 魔轟神第三の王、魔轟神レヴュアタン！

「こ、攻撃力30000のモンスター……」

これは酷い、攻撃力30000のレヴュアタンに攻撃力18000のガナシア、攻撃力18500のビーストライカーか。

総攻撃力は5650……4000ライフ開始ならば1ターンキルだぞ、これは。

それにしてもあの咲良のデッキ、「ビースト」なのか【魔轟神】なのかわからないな。

「バトルフェイズ！

レヴュアタンでデーモンの将星に攻撃！」

「罨カード、ヘイト・バスターを発動！

自分の場の悪魔族モンスターが攻撃対象となった時に発動！

攻撃をしてきたモンスターを攻撃対象になったモンスターを破壊し

相手に破壊したモンスターの攻撃力分のダメージを与える！」

「んな？」

デーモンの将星とレヴュアタンは同時に爆発し、咲良は3000もの大ダメージを受ける。

レヴュアタンには破壊され、墓地へ送られた時に墓地の魔轟神を手札に加える効果を

持っている。

破壊されても大丈夫だと踏んで最初に攻撃したのだろうが、選択は間違っていないが代償は大きかったな。

「くっ……レヴュアタンの効果発動！」

このモンスターが破壊され、墓地へ送られた時

自分の墓地に存在する魔轟神と名の付くモンスターを3枚まで選択し、手札に加える！

私は魔轟神獣チャワ、魔轟神獣ケルベラル、魔轟神レヴュアタンを手札に加える！

ただし、レヴュアタンはシンクロモンスターなのでエクストラデッキに戻る」

手札を回復してきたか、これで咲良の手札は5枚にまで増えた。

しかし……1ターンでする布陣じゃないぞ？ アレは。

「こちらの万魔殿バンデイモニウム—悪魔の巣窟—の効果も発動！」

デーモンが戦闘以外で破壊された事により、デッキからLV6未満のデーモン……LV5のミストデーモンを手札に加える！」

玲も手札を増やす、これで玲の手札の枚数は3枚か。

場のカードは玲の場には伏せカードが2枚、咲良はモンスターが2体。

「まだバトルフェイズは続いている！」

ガナシアとビーストライカーで直接攻撃！」  
ダイレクトアタック

ガナシアの突進攻撃で玲に1800のダメージ、ビーストライカーは持っている巨大なハンマーで玲を叩き潰す。

これで玲の残りライフは4350にまで減ってしまった。

もう少しでライフが半分まで減ってしまうな。

「まだ……罨カード、フリッグのリングゴを発動！」

自分の場にモンスターが存在しない場合、戦闘ダメージを受けた時に発動できる！

自分が受けた戦闘ダメージ分のライフを回復し、邪精トークンを1体特殊召喚する！

トークンの攻撃力と守備力は受けた戦闘ダメージと同じになる！」

ビーストライカーの攻撃力は1850、そのライフを回復して残りライフは6200になった。

そして邪精トークンが特殊召喚され、咲良のモンスターは全て攻撃を終える。

「また面倒なカードを……手札の魔轟神と名の付く魔轟神獣ケルベラルを捨て、魔轟神

獣チャワを特殊召喚！」

そして捨てられた事によってケルベラルは特殊召喚される！

蘇生されたので生還の宝札の効果でドロー！　そしてカードを3枚伏せる！」

これで咲良の手札は0、魔轟神と言えはこの動きだな。

「LV4ビーストライカーに、LV1の魔轟神獣チャワをチューニング!

魔轟神界に君臨せし軍王、世界を支配する力を我が前に魅せよ!

シンクロ召喚! 魔轟神第二の王、魔轟神レイジオン!」

赤と青の模様を持つ黄金の鎧を纏った魔轟神の王の1人、魔轟神レイジオン。

攻撃力は2300と低めだが、それでも強い効果を持っている。

「レイジオンの効果を発動!

手札が1枚以下の時にシンクロ召喚に成功した時、手札が2枚になるようにデッキからカードをドローする!

私の手札は0枚、よってデッキからカードを2枚ドロー!

カードを1枚伏せてエンドフェイズ、墓地の暗黒のマンティコアの効果発動!

このモンスターが墓地へ送られたターンのエンドフェイズ時

自分の場に存在する獣族、獣戦士族、鳥獣族の1体を墓地へ送り、墓地より特殊召喚される!

場の魔轟神獣ケルベラルを墓地へ送り、暗黒のマンティコアを復活!

生還の宝札の効果でドロー! ターンエンド!」

咲良も咲良でなかなか酷いな……伏せカードが4枚に生還の宝札。

そして攻撃力1800のガナシアに、攻撃力2300の暗黒のマンティコアとレイジ



オンか。

それでいて手札を2枚持っている、そう簡単に見れる状況じゃないな。

よく後攻1ターン目でこれだけ展開できたものだ。

「私のターン、ドロロー！ 永續罫、シエイプシスターを発動！」

このカードは発動後、チューナーモンスターとなつて特殊召喚される！

ただし、シエイプシスターは1ターンに1度しか発動できない

更に手札からミストデーモンを召喚！

このモンスターはLV5だけど、生贄無しで召喚する事ができる

ただし、エンドフェイズ時にミストデーモンは破壊され、1000ポイントのダメージ

ジを受ける」

銀色のスライム状の女性型モンスターが姿を現し、霧のような下半身をした悪魔も現

れる。

そして、シエイプシスターは罫モンスターでありながらチューナーだ。

つまりこの玲の状況を考えると……

「LV1邪精トークン、LV5ミストデーモンに、LV2シエイプシスターをチューニン

グ！

孤高の王者、天地を揺るがす力で全てを消し去れ！

シンクロ召喚！ 頂点に立て、レッド・デーモンズ・ドラゴン！」  
「レッド・デーモンズ・ドラゴン!？」

そのデッキは「デーモン」や「悪魔族」じゃなかったの!？」

これは確かに驚くだろうが、こいつもデーモンの名を持っている。

そう考えれば不思議ではないだろうが……玲のデッキならば悪魔族デッキだと思うだろうな。

「魔法カード、トレード・インを発動！

手札のLV8のモンスター1体を捨て、デッキからカードを2枚ドロウする！

手札のLV8モンスター、プリズンクインデーモンを捨てて、2枚ドロウ！」

手札交換、これで玲の手札で知られているカードはトリック・デーモンのみか。

だが少々手札が足りなさそうに見えるな、どうしようか迷っている感じだ。

「バトルフェイズ！」

レッド・デーモンズ・ドラゴンで魔轟神獣ガナシアに攻撃！

クリムゾン・ブレス！」

レッド・デーモンズ・ドラゴンの強烈な火炎によって燃やし尽くされるガナシア。

戦闘ダメージは1200、だが伏せカードを1枚も使わないのは気になるな……

咲良のライフは残り3800にまで減った、余裕はそこまで有るとは思えないのだが

?

「くっ……ガナシアは自身の効果で特殊召喚された事によって墓地ではなく除外される」

「カードを2枚伏せ、ターンエンド！」

「私のターン、ドロー！」

レスキューラビットを召喚し、レスキューラビットの効果を発動！

このモンスターをゲームから除外する事で、デッキからLV4以下の同名の通常モンスター2体を特殊召喚する！

レスキューラビットを除外し、デッキから剣闘獣アンダルグラティアルビーストを特殊召喚！

ただし、この効果で特殊召喚されたモンスターはエンドフェイズ時に破壊される  
更にレスキューラビットの効果は1ターンに1度しか発動できない」

ん？ 剣闘獣だと？ デッキ構成がイマイチわからなくなってきたな。  
グラティアルビースト

【ビースト】かと思えば【魔轟神】、【魔轟神】かと思えば【剣闘獣】？  
グラティアルビースト

「更に罠カード、ハンディキャップマッチ！を発動！」

自分が剣闘獣と名の付くモンスターの特殊召喚に成功した時  
グラティアルビースト

デッキ、または手札から剣闘獣と名の付くモンスターを1体特殊召喚する！

デッキから剣闘獣ラクエルを特殊召喚する！  
グラティアルビースト

なるほど、ラクエルも炎王の急襲の効果で特殊召喚できるモンスターだったな。だとしても、その為だけにグラティアルビースト剣闘獣を入れるのもおかしな話だ。

どのような意図であんなデツキを作ったんだ？

「ラクエルを含む、2体のグラティアルビースト剣闘獣と名の付くアンダルをデツキに戻す！

融合召喚！ 剣闘獣へラクレイノス！」

攻撃力3000、レット・デーモンズ・ドラゴンと同じ攻撃力が……

相打ちをすれば咲良がかなり有利になる状況だな。

「手札の獣族モンスター、紋章獣レオを墓地へ送りチューナーモンスター、虚栄の大猿を特殊召喚！

この効果で特殊召喚した場合、墓地へ送ったモンスターのLV分だけ、このモンスターのLVを上げるか下げられる！

ただどこの効果を使わない事もできる、私はこの効果を使わないでLV5のまま特殊召喚！

更に紋章獣レオの効果、このモンスターが墓地へ送られた時

デツキから紋章獣レオ以外の、紋章獣と名の付くモンスター1体を手札に加える！  
ただし、この紋章獣レオの効果は1ターンに1度しか発動できない

レオの効果により、紋章獣ベルナーズ・ファルコンを手札に加える」

紋章獣まで入っているのか？

とりあえず手札の損失を抑えたが、この後はどうするつもりだ？

虚栄の大猿のLVは5、シンクロ召喚するにはLVが少々高いな。

他のモンスターはレイジオンのLV5、マンティコアのLV6、ヘラクレイノスのLV8とどいつも高い。

この状況でシンクロ召喚できるモンスターは星態龍と天穹覇龍ドラゴアセンションのみ

しかし咲良のデッキ内容から考えて入っていない可能性が高い、名前も種族も合わなくなり「ビースト」とは外れるだろうな。

「LV5の魔轟神レイジオンと虚栄の大猿でオーバーレイ！

2体のモンスターでオーバーレイ・ネットワークを構築！

エクシーズ召喚！  
Z W ー 獣王獅子武装ゼアル・ウエボン

……今度はZ Wかよ、どれだけ闇鍋デッキなんだ？  
剣闘 獣 魔轟神、Z W、紋章獣ゼアル・ウエボン

一応、獣族や獣戦士族、鳥獣族で固められているから纏めれば「ビースト」なんだろうが……

「Z W ー 獣王獅子武装ゼアル・ウエボンの効果発動！」

1ターンの1度、エクシース素材を1つ取り除く事でデツキからZゼアル・ウエボンと名の付くモンスターを1体、手札に加える！

私は魔轟神レイジオンを墓地へ送り、デツキのZゼアル・ウエボン Wイーグル・クロウ | 荒鷲激神爪を手札に加える

！

そしてZゼアル・ウエボン Wイーグル・クロウ | 荒鷲激神爪は相手よりライフが2000以上少ない場合、特殊召喚

できる！

手札からZゼアル・ウエボン Wイーグル・クロウ | 荒鷲激神爪を特殊召喚！

咲良のライフは3800であり玲のライフは6200、ライフ差は2400だから特殊召喚はできるが……

攻撃力3000を2体並べ、更に攻撃力2300のマンティコアと攻撃力2000の

Zゼアル・ウエボン Wイーグル・クロウ | 荒鷲激神爪だと？

玲の奴、十八番のパワーデツキを使われて啞然としているじゃないか。

「バトル！ Zゼアル・ウエボン Wライオ・アームズ | 獣王獅子武装でレッド・デーモンズ・ドラゴンに攻撃！」

攻撃力は互角、これでは相打ちになる。

どうするつもりかな？

「畏カード、バスター・モードを発動！」

自分の場のシンクロモンスター1体を生贄にし

そのモンスターの名前を含む／バスターと名の付くモンスターをデッキから攻撃表示で特殊召喚する！

レッド・デーモンズ・ドラゴンを生贄にして、デッキからレッド・デーモンズ・ドラゴン／バスターを特殊召喚！

「させない！ 剣闘獣ヘラクレイノスの効果発動！」

このカードが場に存在している限り、手札を1枚捨てる事で相手の魔法か罠の効果を無効にして破壊する！

手札の紋章獣ベルナーズ・ファルコンを捨て、バスター・モードを無効にする！」

「そんな!?」

バスター・モードの効果での生贄はコストだ、よって効果を無効にされてもシンクロモンスターは戻らない。

これで玲の場はガラ空き、  
Z ゼアル・ウエボン | 獣王獅子武装ライオ・アームズは直接攻撃できないが、それ

他ダイレクトアタックのモンスターは直接攻撃ができる、これは……終わったかな？

Z ゼアル・ウエボン | 獣王獅子武装ライオ・アームズは直接攻撃ができない

攻撃を中断し、剣闘獣ヘラクレイノスグラティアルビーストで直接攻撃！」

「甘い！ 速攻魔法、デーモンとの駆け引きを発動！」

LV8以上のモンスターが場から墓地へ送られたターン中にのみ発動可能！

手札、またはデッキからバーサーク・デッド・ドラゴンを特殊召喚する！

デッキより、バーサーク・デッド・ドラゴンを特殊召喚！

「攻撃力3500のモンスター……手札も無いからヘラクレイノスの効果で止められない  
い

攻撃力でも負けているし、どうしようもできないっ！

攻撃は中断！ 暗黒のマンティコアを準備表示に変更して、ターンエンド！」

デーモンの駆け引きも、デーモンと名の付くカードだから入っていたのかな？

咲良のデッキは闇鍋デッキだが、玲のデッキも大概だな。

「私のターン、ドロロー！」

スタンバイフェイズ時、墓地のプリズムクインデーモンの効果が発動！

万魔殿バンデモニウム—悪魔の巣窟—が発動している時、場のLV4以下の悪魔族の攻撃力を100

0ポイントアップさせる！

のだけど、対象となるモンスターが存在しない為、効果は不発になる」

このままバトルフェイズ！

バーサーク・デッド・ドラゴンは相手のモンスター全てに1回ずつ攻撃ができる！

最初は剣闘獣グラディアルビーストヘラクレイノスに攻撃！



「デッドボンバー、第一打！」

バーサーク・デッド・ドラゴンの口から打ち出された紫色の火球でヘラクレイノスは破壊される。

「どうやら防ぐ手段は無いらしく、咲良のライフは500ポイント削られる。」

「ヘラクレイノスが……」

「バーサーク・デッド・ドラゴンでZ ゼアル・ウエボン W | 獣王獅子武装に攻撃！」

「デッドボンバー、第二打！」

Z ゼアル・ウエボン W | 獣王獅子武装も、アツサリと破壊されてしまう。

攻撃力3000という高さ故に採用したのだろうが、相手が悪かったな。

玲のパワーデツキの前では、攻撃力3000程度では力不足だ。

「バーサーク・デッド・ドラゴンでZ ゼアル・ウエボン W | 荒鷲激神爪に攻撃！」

「デッドボンバー、第三打！」

攻撃力2000のZ ゼアル・ウエボン W | 荒鷲激神爪が破壊され、1500のダメージ。

咲良のライフはこれで2500も削られ、残りライフは1300になった。

「バーサーク・デッド・ドラゴンで暗黒のマンティコアに攻撃！」

「デッドボンバー、第四打！」

暗黒のマンティコアを守備表示にせず、攻撃表示のままだった場合。

この戦闘ダメージを受けていたダメージは1200、残りライフは100にまで減ってしまっていた。

もし玲が手札のトリック・デーモンを召喚していた場合、ダイレクトアタック直接攻撃で負けていたかもしれないな。

「カードを1枚伏せて、エンドフェイズ！」

バーサーク・デッド・ドラゴンは自身の効果により、私のターンのエンドフェイズ時に攻撃力が500ポイントダウンする」

「まだー、エンドフェイズ時に永続罠、リビングデッドの呼び声を発動！」

自分の墓地に存在するモンスターを1体、攻撃表示で特殊召喚する！

私は墓地の紋章獣レオを蘇生させ、生還の宝札の効果でドロー！

そして場の獣族モンスターである紋章獣レオを墓地へ送り、暗黒のマンティコアを守備表示で蘇生させる！

生還の宝札の効果でドローし、紋章獣レオの効果が発動！

このカードが墓地へ送られたのでデッキから紋章獣レオ以外の紋章獣と名の付くモンスターを1枚手札に加える！

デッキから紋章獣ベルナード・ファルコンを手札に加える！」

手札0枚から伏せカード1枚で手札を3枚まで増やしたか。

玲の手札は現在1枚、トリック・デーモンのみだが……どうなるかな？

「私のターン、ドロー！」

魔法カード、マジック・プランターを発動！

自分の場に存在する表側表示になっている永続罫カードを墓地へ送り、デッキからカードを2枚ドローする！

対象不在のリビングデッドの呼び声を墓地へ送り、カードを2枚ドロー！

魔法カード、ユニコーンの導きを発動！

除外されているLV5以下の獣族か鳥獣族モンスターを1体選択、私はレスキューラビットを選択！

そして手札を1枚除外し、選択したモンスターを攻撃表示で特殊召喚する！

手札を除外し、レスキューラビットを特殊召喚！

更に除外したダーク砂バクの効果を発動！

このカードがゲームから除外された時、自分の墓地に存在するLV4以下の獣族モンスターを蘇生させる！

私はこの効果でビーストライカーを特殊召喚！ 生還の宝札の効果でドロー！

罫カード、デストラクト・ポーションを発動！

自分の場に存在するモンスター……暗黒のマンティコアを破壊し、その攻撃力分だけ

ライフを回復する！

暗黒のマンティコアの攻撃力は2300、よってライフを2300回復し、3600

！

ビーストライカーの効果を発動！ 手札を1枚捨て、デッキのモジャを特殊召喚！

レスキューラビットの効果を発動し、自身を除外してデッキから同名通常モンスター2体を特殊召喚する！

この効果により、再びグラディアルビースト剣闘獣アンダルをデッキから2体特殊召喚！

私の場にはモジャとビーストライカーの2体の獣族モンスターと、獣戦士族のグラディアルビースト剣闘獣アンダルが2体

自分の場に獣族モンスターが2体存在している場合、墓地のチェインドッグは特殊召喚できる！

墓地よりチェインドッグを特殊召喚し、生還の宝札の効果でドロー！

チェインドッグは自身の効果で特殊召喚された場合、場から離れた時にゲームから除外される！

「……………どうなってるの？」

なんともまあ、これはまたアツサリとモンスターを5体並べたな。

いくら全てのモンスターが下級モンスターとはいえ、これだけ並べられるのはなかなか

か凄い。

それにしても……咲良のデッキは結局「ビースト」でいいのか？

「LV4のチェーンドッグとビーストライカーでオーバーレイ！」

2体のモンスターでオーバーレイ・ネットワークを構築！

エクシーズ召喚！ 咆え上がれ、恐牙狼 ダイヤウルフ！」

ダイヤモンドでできているであろう、青白い透き通る体をした狼が姿を現す。

これは厄介かもしれないぞ？ どうする玲？

「モ ज्याを生贄にし、手札のキング・オブ・ビーストを特殊召喚！」

そして恐牙狼 ダイヤウルフの効果を発動！

1ターンに1度、エクシーズ素材を1つ取り除き

自分の場に存在する獣族、獣戦士族、鳥獣族モンスター1体と場のカードを1枚破壊する！

チェーンドッグを墓地へ送り、自分の場の獣戦士族であるアングルとバーサーク・

デッド・ドラゴンを破壊！」

「わ、私のバーサーク・デッド・ドラゴンが！」

「私の場にはキング・オブ・ビーストと恐牙狼 ダイヤウルフの獣族モンスターが2体！

自分の場に獣族モンスターが2体、よってチェーンドッグを墓地より特殊召喚する！

そして生還の宝札の効果でドロー！」

「え？ チェーンドッグは場から離れたら除外されるはずじゃ……」

「エクシーズ素材に使用されたモンスターはモンスターとして扱われない

場から離れた時に発動する効果は、このカードがモンスターとして扱われていないので発動しないの

よって、チェーンドッグは除外されず、墓地へ送られる……」

エクシーズ召喚の気に入らないのはこの点だな。

自己再生効果を持つモンスターが何度でも復活できるといふ点だ。

必要ならば使う時もあるが、基本的にはあまり使いたくない召喚方法だな。

「LV4のチェーンドッグと、グレートリアルビースト 剣闘獣アンダルでオーバーレイ！」

2体のモンスターでオーバーレイ・ネットワークを構築！

エクシーズ召喚！ 咆え上がれ、恐牙狼 ダイヤウルフ！」

「2体目のダイヤウルフ!？」

あーあ、これは玲の負けかな？

あの伏せカード1枚でどうにかなるとはちよつと……

「2体目のダイヤウルフの効果を発動！」

チェーンドッグを墓地へ送り、獣族のキング・オブ・ビーストと玲ちゃんの伏せカー

ドを破壊！」

「くっ！ 罨カード、デーモンの雄叫びを発動！」

ライフを500ポイント支払い、墓地のデーモンと名の付くモンスターを蘇生させる！

墓地のレッド・デーモンズ・ドラゴンを蘇生！

ただし、このモンスターは生贄にできず、エンドフェイズ時に破壊される！」

なるほど、あのカードが有ったからトリック・デーモンを召喚しなかったのか。

玲は次のターン、デーモンの雄叫びでトランス・デーモンを復活させるつもりだったんだらう。

そして効果でトリック・デーモンを捨て、1ターン目のようにデーモンをサーチする。おそらくデーモンの将星をサーチし、1ターン目と同じようにする予定だったのだと予想する。

デーモンの将星は生贄召喚に成功した時、墓地のLV6のデーモンと名の付くモンスターを守備表示で蘇生させる効果がある。

1体目のデーモンの将星を蘇生させ、モンスターを増やしたりしようとしても考えていたのだらうな。

しかし、咲良の連続破壊効果によって動きを止められてしまった……次のターンは厳

しいぞ?」

「獣族モンスターである恐牙狼　ダイヤモンドが2体のみ私の場に存在している

よって、墓地からチェーンドッグを自身の効果で蘇生し、生還の宝札の効果でドロ

!

ロックキャットを召喚し、効果を発動!

このモンスターが召喚に成功した時、自分の墓地に存在するLV1の獣族モンスターを守備表示で1体、特殊召喚できる!

墓地のLV1の獣族モンスター、魔轟神獣チャワを復活し、生還の宝札の効果でドロー!」

おいおい、ここでチャワを出すのか?

それにしても咲良の手札が全然減らないな、生還の宝札を使っているのだから当然だけど。

「獣族であるLV4チェーンドッグ、LV3ロックキャットに、LV1の魔轟神獣チャワをチューニング!

天駆け抜ける雷!　漆黒の大气を貫き、その雷撃にて大地を燃やし尽くせ!

シンクロ召喚!　輝け、ライトニング・トライコーン!

青い鬣に黄金の体、そして真っ赤に輝く3本の角。



更に前足と後ろ足の付け根にも赤く輝き光る、珊瑚礁のような角を持った馬。攻撃力は2800と、僅かにレット・デーモンズ・ドラゴンには届かないな。

「場から離れた為、チェーンドッグは除外される

だけど魔法カード、死者転生を発動!

手札を1枚捨て、墓地のモンスターを1体手札に加える!

手札の魔轟神獣ケルベラルを捨て、墓地からZゼアル・ウエボンWイーグル・クロウ—荒鷲激神爪を手札に加える!

手札から捨てられた魔轟神獣ケルベラルの効果が発動!

このモンスターが手札から捨てられた時、墓地から特殊召喚される!

そして生還の宝札の効果でカードを1枚ドロ—!

これは……終わったかな?

「LV8ライトニング・トライコーンに、LV2魔轟神獣ケルベラルをチューニング!

嫉妬を司る大罪、海の悪魔王は玉座にて世界を見下す!

シンクロ召喚! 魔轟神第三の王、魔轟神レヴュアタン!」

あーあ、またレヴュアタンが出てきた。

咲良のあのデッキ、回らなさそうで妙に回ってるな……よくデッキが動いてくれるものだ。

「自分のライフが相手より2000以下の場合、手札のZゼアル・ウエボンWイーグル・クロウ—荒鷲激神爪を特殊召喚

できる！

手札のZゼアル・ウエボン Wイーグル・クロウ — 荒鷲激神爪を特殊召喚！

更に速攻魔法、スワローズ・ネストを発動！

自分の場に存在する鳥獣族モンスターを生贄にして発動する！

そして生贄にしたモンスターと同じLVの鳥獣族モンスター1体をデッキから特殊

召喚する！

私はZゼアル・ウエボン Wイーグル・クロウ — 荒鷲激神爪を生贄にしてチューナーモンスター、Cockadood

leoooを特殊召喚！

「LV5のチューナー？」

このタイミングでLV5のチューナーだと？

既に通常召喚もしているし、何を狙っているんだ？

「そして自分のライフが相手より2000以下の場合、手札のZゼアル・ウエボン Wイーグル・クロウ — 荒鷲激神爪を特

殊召喚！」

「またそいつ?!」

「LV5のZゼアル・ウエボン Wイーグル・クロウ — 荒鷲激神爪とCockadoodleoooでオーバーレイ！

2体のモンスターでオーバーレイ・ネットワークを構築！

エクシーズ召喚！ 美しく舞い上がれ、零鳥姫リオート・ハルピユイア！」

機械とかクリスタルとか、そんな感じの体をしたどう見ても鳥獣族には見えない鳥獣族モンスター

鳥獣族LV5という、なかなか厳しい縛り召喚条件を持ったモンスターなのだが、普通に召喚したな。

総攻撃力40000が2500まで下がったのだが、それ以上のメリットも有る。

「今度はいつたい……」

「零鳥姫リオート・ハルピユエアの効果発動！」

エクシーズ素材を1つ取り除き、相手モンスター1体の攻撃力を0にする！

私が選ぶモンスターは当然、レッド・デーモンズ・ドラゴン！」

「攻撃力を……0にする？」

玲の残りライフは5700

しかし魔轟神レヴユアタンの攻撃力は3000、恐牙狼　ダイヤウルフは2000、零鳥姫リオート・ハルピユエアは2500

ダイヤウルフは2体存在しているから、総攻撃力は9500だな。

伏せカードは無く、攻撃力0のレッド・デーモンズ・ドラゴンと現在役に立たない万魔殿バンデイモニアム—悪魔の巣窟—

そして手札が1枚であり、それは公開情報であるトリック・デーモン……墓地に発動

や宣言をしていないカードは存在しない。

これは終わったな、咲良の圧勝と言ってもいいぐらいの勝利だ。

「バトル！ 魔轟神レヴュアタンでレッド・デーモンズ・ドラゴンに攻撃！」

レヴュアタンは拳に力を込め、飛び上がって縦向きに回転をしながらレッド・デーモンズ・ドラゴンに踵落としを……おい！

拳に力を込めたのはなんだったんだ!? 何故そこで蹴りを!?

……まあ、どちらにせよレッド・デーモンズ・ドラゴンは破壊され、玲に3000も  
のダメージを与えた。

「レッド・デーモンズ・ドラゴンが……私のお気に入りモンスターが！」

玲は攻撃的なモンスターが好きだからな。

レッド・デーモンズ・ドラゴン／バスターが入っているのも、その効果の凶暴性から  
だろう。

【「デーモン」を選んだ理由は、レッド・デーモンズ・ドラゴンの名前を生かそうとした結  
果かな？

普段はあまり使えないからって張り切ったんだろうが……

「恐牙狼 ダイヤウルフ2体と、零鳥姫リオート・ハルピユイアで直接攻撃！」

「いにやあああああああああ!!!」

ダイヤウルフの突進と、リオート・ハルピユイアの巻き起こした風で玲のライフは0になった。

玲がもう少し悪魔族を中心とした「デーモン」ならばもう少し良い勝負ができたかもしれないのだがな。

だとしてもあのデツキを作ったのは玲だ、負けた言い訳にはならない。

「ふう……勝った!」

「小学生を相手に勝った程度で本気で喜ぶのか、お前は?」

「だって負け続けたんだから仕方無いでしょ?」

大人げない奴だ。

「で、お前はどれだけ闇鍋デツキだったんだ?」

【魔轟神】グラティアルピースト 【剣闘獣】ゼアル・ウエボン 【Z W】 【紋章獣】

これら以外にも何かカテゴリが有るんだろう?」

「やっぱり気付く?」

そこに【極星獣】も入っていたんだけど……最後のターンにドローして使う暇が無かった」

だろっうな、どう見てもタイミングなんて無かった。

となるとこいつ、極神皇ツールまでデツキに入れていたのか?」

ゼアル・ウエボン

いくらなんでも混ぜすぎだろうに……

Z Wと魔轟神にはサポートカードは存在しないが、極星獣は極星を指定するサポートカードが数枚有る。

紋章獣と剣闘獣グラディエイアルビーストには完全に名前を指定したサポートカードが存在している。

それらも入れて、更に種族サポートカードも入れて、よくこれだけデッキを回せたものだ。

「玲ちゃんが普段のデッキじゃなかったから勝てた自覚は有る

除去手段は有るけど、このデッキもかなり力押しだから……攻撃力で負けたら突破できな

攻撃力3000を超えられたら勝ち目は薄いデッキだから、本当は玲ちゃんとは相性がよくない」

「で、それでもそのデッキにした理由は？」

「んー……偶には普段使わない種族のデッキを使おうかと思ったから

私の使うモンスターは基本的に悪魔族モンスターだもの」

玲も悪魔族モンスターを多用する……というか、玲は悪魔族モンスターが主軸だな。

攻撃力が単体でも高く、効果も扱い易いからなんだろうが。

もう少し攻撃力以外にも目を向けさせたい、どうすればいいんだ？

今回の「デーモン」デツキで玲が攻撃力以外を見て、コンボとかをもっと考えてくれればいいんだがな。

さっきの決闘デュエルではその辺りを拙いながらも頑張っていたし、もう少し伸ばせたら伸ばそう。

「お兄ちゃん、負けた……何故か凄く悔しい！」

「作り直した新しいデツキで咲良程度に負けたらそうかもしれないな

レッド・デーモンズ・ドラゴンはお前のお気に入りモンスターだし、悔しくても当然だ」

「……2人共、言葉に刺がない？」

主に私に対しての棘が」

咲良の言葉は無視する。

「後でレッド・デーモンズ・ドラゴン特化型のデツキを作るか？」

普段は使えないが、俺や咲良が相手の時には思う存分使っていいぞ」

「ああ、作る

そして結美お姉ちゃんを次は完膚無きまでに叩き潰す！」

「怖い事言わないで玲ちゃん！」

案外早く立ち直ったな。

前のデツキで負けた時はかなりシヨックで1時間ぐらいふさぎ込んでたのに。新デツキだからシヨックが少なめなのかな？

今回の咲良のデツキはなかなか鬱陶しかったな。

手札さえ有ればいくらでもモンスターが湧いて出てくる。

墓地からも特殊召喚も多いし、サーチやリクルーターも数枚入っていた。

まあ、あのデツキ内には悪魔族である魔轟神が入っていないなかったんだろうけどな。

シンクロモンスターでは入っていても、メインデツキには入れるスペースが無かったんだろうが。

相変わらず蘇生を多用するな、咲良の奴は。

生還の宝札を何回発動したのか、よくもあれだけ何度も蘇生したものだ。

質より量という感じだったが、実際には質もなかなか有ったな。

さすがの玲も、質がそこそこの量が多ければ勝てなかったか。

濃い決闘デュエルだったものの、終わってみれば短かったな。

僅か6ターンで決闘デュエルが終わるとは、玲のデツキが本領を發揮できなくても不思議ではない。

まあ、その短いターンで咲良はデツキを10枚以下まで削ったのだが……



落ち込みながらも新しいデツキで頭を悩ませている玲。

その玲の機嫌を直そうと話しかけている咲良を無視して後の事を考える。

もうすぐ冬休みも終わり、新学期が始まる。

そういえば近いうちにアレが有るんだったな……咲良に押し付けてみるか。

俺は先の事を楽しみにながら、新学期をどう過ごすか考えて冬休みを過ごした。